

一般国道319号善通寺バイパス建設に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査報告

## 第2冊

### 西原遺跡

2007.3

香川県教育委員会

国土交通省四国地方整備局

一般国道319号善通寺バイパス建設に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査報告

## 第2冊

### 西原遺跡

2007.3

香川県教育委員会

国土交通省四国地方整備局

# 序 文

西原遺跡は香川県善通寺市与北町に所在し、一般国道319号善通寺バイパス建設に伴って発掘調査が行われました。

発掘調査は、香川県教育委員会からの委託で、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成13年度に実施し、古代から近世までの灌漑水路群や集落跡を検出しました。なかでも古代・中世の条里型地割の坪界の溝が見つかったことで、当地に条里型地割が及んだ時期を明らかにすることができました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの間、国土交通省四国地方整備局及び関係諸機関、地元関係者各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

香川県埋蔵文化財センター

所 長 渡 部 明 夫

## 例 言

1. 本報告書は、一般国道319号善通寺バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告で、香川県善通寺市与北町に所在する西原遺跡（にしはらいせき）の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が国土交通省四国地方整備局から委託され、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査は、以下のとおり実施した。  
調査期間 平成13年7月1日～平成14年3月31日  
調査担当 増井 泰弘 小林 明弘 中村 文枝
4. 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。  
本書の執筆・編集は同センター文化財専門員山元素子が担当した。
5. 調査に当っては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）  
国土交通省四国地方整備局 善通寺市教育委員会 地元自治会 地元水利組合
6. 本報告書で用いる北は、旧国土座標系第IV系の北であり、標高はT.P.を基準としている。  
また、遺構の略号は以下のとおりである。  
SB：掘立柱建物跡 SE：井戸跡 SD：溝状遺構 SK：土坑 SP：柱穴跡  
SX：性格不明遺構
7. 石器実測図中、スクリーントーンの部分は摩滅痕を、輪郭線の回りの実線は潰れを表す。  
なお、現代の折損は濃く黒で塗りつぶしている。
8. 本報告に当っては、下記のとおり業務を業者に委託した。  
遺物写真撮影……………美巧社
9. 遺構断面図及び土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1998年度版』による。
10. 出土遺物観察表中の土器の残存率は図化のために径を計測した箇所全体の割合で、完形品に対する割合ではない。

# 本文目次

序文	
例言	
第1章 調査に至る経緯と経過	
第2章 立地と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 土層序	10
第2節 遺構・遺物	
(1) 古代以前の遺構・遺物	24
(2) 古代～中世の遺構・遺物	28
(3) 近世～近代の遺構・遺物	41
(4) 時期不明遺構	101
(5) 包含層などの出土遺物	106
第4章 まとめ	
第1節 遺構の変遷	
1 条里型地割施工以前の遺構	110
2 古代～中世（条里型地割施工以後）の遺構	110
3 近世以降の遺構	113

# 挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置 (1) (1/600,000) …………… 1	第37図 Ⅲ区SD02検出状況平・断面図 (1/40) …………… 47～48
第2図 遺跡位置 (2) (1/10,000) …………… 4	第38図 Ⅳ区SD01検出状況平・断面図 (1/40) …… 49
第3図 周辺の遺跡 (1/40,000) …………… 6	第39図 Ⅳ区SD01出土遺物 (1/4・1/2) …………… 50
第4図 調査区割図 (1/2,000) …………… 9	第40図 Ⅳ区SD06検出状況平・断面図 (1/40) …………… 51～52
第5図 Ⅰ区土層断面図 (1/80) …………… 11～12	第41図 Ⅳ区SD06出土遺物 (1) (1/4) …………… 53
第6図 Ⅱ区土層断面図 (1/80) …………… 13～14	第42図 Ⅳ区SD06出土遺物 (2) (1/4) …………… 54
第7図 Ⅲ区土層断面図 (1/80) …………… 15～16	第43図 Ⅳ区SD06出土遺物 (3) (1/5) …………… 55
第8図 Ⅳ区土層断面図 (1/80) …………… 17	第44図 Ⅳ区SD02・03断面図 (1/40)、 SD03出土遺物 (1/4) …………… 56
第9図 Ⅰ区遺構配置図 (1/400) …………… 18	第45図 Ⅳ区SD07～09断面図 (1/40)、 SD09出土遺物 (1/2) …………… 58
第10図 Ⅱ区遺構配置図 (1/400) …………… 19～20	第46図 Ⅳ区SD07遺物出土状況平・断面図 (1/20) …………… 58
第11図 Ⅳ区遺構配置図 (1/400) …………… 21～22	第47図 Ⅳ区SD07出土遺物 (1) (1/4) …………… 59
第12図 Ⅲ区遺構配置図 (1/400) …………… 23	第48図 Ⅳ区SD07出土遺物 (2) (1/4) …………… 60
第13図 Ⅰ区SD07・08断面図 (1/40) …………… 24	第49図 Ⅳ区SD07出土遺物 (3) (1/4・1/2) …… 61
第14図 Ⅱ区SD19～23断面図 (1/40)、 SD19出土遺物 (1/2) …………… 25	第50図 Ⅳ区SD04・05断面図 (1/40)、 SD05出土遺物 (1/4) …………… 62
第15図 Ⅲ区SD05a・b断面図 (1/40) …………… 26	第51図 Ⅳ区SD11・12・14断面図 (1/40) …………… 62
第16図 Ⅳ区SD15～17断面図 (1/40)、 SD15出土遺物 (1/4) …………… 27	第52図 Ⅳ区SD13石検出状況平・断面図 (1/40) …………… 64
第17図 Ⅲ区ピット出土遺物 (1/4) …………… 28	第53図 Ⅰ区SE01平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4) …………… 65
第18図 Ⅰ区SD01～03断面図 (1/40) …………… 29	第54図 Ⅱ区SK03・04平・断面図 (1/40)、 SK04出土遺物 (1/5) …………… 66
第19図 Ⅰ区SD04～06断面図 (1/40)、 SD01～05出土遺物 (1/4) …………… 30	第55図 Ⅱ区SK09・10平・断面図 (1/40)、 SK09出土遺物 (1/4) …………… 67
第20図 Ⅱ区SD01～04断面図 (1/40) …………… 32	第56図 Ⅱ区SK09出土遺物 (1/6) …………… 68
第21図 Ⅱ区SD03・04断面図 (1/40) …………… 33	第57図 Ⅲ区SK01平・断面図 (1/40) …………… 69
第22図 Ⅱ区SD01・03出土遺物 (1/4・1/2) …… 33	第58図 Ⅲ区SK02・03平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4・1/5) …………… 70
第23図 Ⅱ区SD05・06断面図 (1/40)、 SD05出土遺物 (1/4) …………… 34	第59図 Ⅲ区SK04～06・09平・断面図 (1/40)、 SK06出土遺物 (1/4) …………… 71
第24図 Ⅱ区SD08～11断面図 (1/40)、 SD10出土遺物 (1/4・1/2) …………… 35	第60図 Ⅳ区SK04・05平・断面図 (1/40)、 SK05出土遺物 (1/4) …………… 73
第25図 Ⅱ区SD12断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/2) …………… 36	第61図 Ⅳ区SK04出土遺物 (1/4) …………… 74
第26図 Ⅱ区SD13～15断面図 (1/40) …………… 37	第62図 Ⅳ区SK06・07・10～12平・断面図 (1/40)、 SK06・07・10・12出土遺物 (1/4) …………… 75
第27図 Ⅲ区SD01・07断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4・1/2) …………… 38	第63図 Ⅳ区SK17・18平・断面図 (1/40)、 SK17出土遺物 (1/4) …………… 76
第28図 Ⅲ区SD03・04断面図 (1/40)、 SD03出土遺物 (1/4) …………… 39	第64図 Ⅳ区SK19平・断面図 (1/20) …………… 77
第29図 Ⅲ区SD01・SD06～08断面図 (1/40)、 SD06出土遺物 (1/2) …………… 39	第65図 Ⅳ区SK20平・断面図 (1/40) …………… 78
第30図 Ⅱ区SB01平・断面図 (1/60) …………… 41	
第31図 Ⅱ区SB02平・断面図 (1/60) …………… 42	
第32図 Ⅱ区SB03平・断面図 (1/60) …………… 43	
第33図 Ⅲ区SB01平・断面図 (1/60) …………… 44	
第34図 Ⅳ区SB01平・断面図 (1/60) …………… 45	
第35図 Ⅱ区SD16・17断面図 (1/40) …………… 45	
第36図 Ⅲ区SD02出土遺物 (1/4) …………… 46	

第66図	Ⅱ区SX04平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)……………	79	第80図	Ⅳ区SX10出土遺物 (5) (1/4) ……	94
第67図	Ⅳ区SX05平・断面図 (1/40) ……	80	第81図	Ⅳ区SX10出土遺物 (6) (1/4) ……	95
第68図	Ⅳ区SX05出土遺物 (1/4) ……	81	第82図	Ⅳ区SX10出土遺物 (7) (1/4) ……	96
第69図	Ⅳ区SX06検出状況平・断面図 (1/20)……………	82	第83図	Ⅳ区SX10出土遺物 (8) (1/4) ……	97
第70図	Ⅳ区SX06出土遺物 (1) (1/4) ……	83	第84図	Ⅳ区SX10出土遺物 (9) (1/4) ……	98
第71図	Ⅳ区SX06出土遺物 (2) (1/4) ……	84	第85図	Ⅳ区SX10出土遺物 (10) (1/3・1/2) ……	99
第72図	Ⅳ区SX06出土遺物 (3) (1/3) ……	85	第86図	Ⅳ区SX11平・断面図 (1/40) ……	100
第73図	Ⅳ区SX07平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)……………	86	第87図	Ⅳ区SX11出土遺物 (1) (1/4) ……	101
第74図	Ⅳ区SX08検出状況平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)……………	87	第88図	Ⅳ区SX11出土遺物 (2) (1/4) ……	102
第75図	Ⅳ区SX10出土遺物 (1) (1/4) ……	88	第89図	Ⅳ区SX11出土遺物 (3) (1/5) ……	103
第76図	Ⅳ区SX10検出状況平・断面図 (1/40)……………	89~90	第90図	Ⅰ区SK01~07平・断面図 (1/40) ……	104
第77図	Ⅳ区SX10出土遺物 (2) (1/4) ……	91	第91図	Ⅱ区SK01・02平・断面図 (1/40) ……	105
第78図	Ⅳ区SX10出土遺物 (3) (1/4) ……	92	第92図	Ⅳ区SK01~03平・断面図 (1/40) ……	105
第79図	Ⅳ区SX10出土遺物 (4) (1/4) ……	93	第93図	Ⅰ~Ⅲ区石器出土位置図 (1/400) ……	107
			第94図	Ⅰ~Ⅲ区その他出土遺物 (1/2・1/4) ……	108
			第95図	Ⅳ区予備調査トレンチ出土遺物 (1/4) ……	109
			第96図	遺構変遷図 (1/1,200) ……	111~112

## 表 目 次

第1表	調査の体制……………	2	第3表	古代~中世の溝状遺構と 坪界線の対照表……………	110
第2表	整理作業の工程……………	2			

## 付 図

西原遺跡遺構図 (1/200)

## 図 版 目 次

図版1	西原遺跡遠景 (北東から象頭山を望む) 西原遺跡全景 (南から)		図版5	Ⅲ区 SD05a e-e' 土層断面 南から Ⅲ区 SD05a・05 b f-f' 土層断面 北から Ⅳ区 SD15 a-a' 土層断面 南東から Ⅰ区 SD01 c-c' 土層断面 南から Ⅰ区 SD01 o-o' 土層断面 南から Ⅰ区 SD02・01 n-n' 土層断面 北から Ⅰ区 SD02 k-k' 土層断面 南から Ⅰ区 SD03 遺物出土状況 (14) 南から
図版2	Ⅰc区 全景 南から Ⅱa区 全景 南から Ⅱd区 全景 右が南 Ⅲa・b区 全景 北から		図版6	Ⅰ区 SD03 h-h' 土層断面 南から Ⅰ区 SD04 b-b' 土層断面 西から Ⅰ区 SD04 遺物出土状況 東から Ⅰ区 SD05 南壁部分土層断面 北から Ⅱ区 SD01 a-a' 土層断面 南から Ⅱ区 SD01 p-p' 土層断面 北から Ⅱ区 SD03 b-b' 土層断面 南から Ⅱ区 SD03 遺物出土状況 北から
図版3	Ⅲd区 全景 北から Ⅳa区 南半全景 北から Ⅳb区 北半全景 西から Ⅳb区 南半全景 西から		図版7	Ⅱ区 SD03 j-j' 土層断面 北から Ⅱ区 SD06 c-c' 土層断面 南から
図版4	Ⅰa区 全景 北から Ⅰc区 南壁土層断面 北から Ⅱb・c区 全景 右が南 Ⅳa区 北半全景 北から Ⅰ区 SD07 e-e' 土層断面 西から Ⅱ区 SD19 d-d' 土層断面 南から Ⅱ区 SD19 遺物出土状況 北から Ⅱ区 SD20 c-c' 土層断面 南から			

	II区 SD04 s-s' 土層断面 北から	IV区 SX10 石検出状況 南から
	II区 SD05 e-e' 土層断面 南から	IV区 SX10 石検出状況 南から
	II区 SD09 c-c' 土層断面 西から	IV区 SX11 東壁部分土層断面 西から
	II区 SD10 b-b' 土層断面 東から	I区 SK03 土層断面 北から
	II区 SD12a 北壁部分土層断面 南から	図版14 2 (左) 5 (右) II区 SD19 (表)
	II区 SD12b 北壁部分土層断面 南から	2 (左) 5 (右) II区 SD19 (裏)
図版8	II区 SD13b c-c' 土層断面 西から	15 I区 SD04
	III区 SD01a・01b a-a' 土層断面 南から	26 II区 SD01・03
	III区 SD01 j-j' 土層断面 南から	27 II区 SD03
	III区 SD03 c-c' 土層断面 南から	28 II区 SD05
	III区 SD07 f-f' 土層断面 北から	31 (左) 32 (右) II区 SD12a (表)
	II区 SB01・02 完掘状況 北から	31 (左) 32 (右) II区 SD12a (裏)
	II区 SB03 完掘状況 東から	図版15 33 II区 SD12 (表)
	II区 SB03-SP12 土層断面 東から	33 II区 SD12 (裏)
図版9	III d区 SB01 完掘状況全景 北から	58 IV区 SD01
	IV区 SB01 完掘状況 西から	73 IV区 SD06・07合流部
	III区 SD02 D-D' 土層断面 南から	74 IV区 SD06
	III区 SD02 石検出状況 (右が北)	81 IV区 SD06
	III区 SD02 石検出状況 西から	86 IV区 SD06
	III区 SD01 C-C' 土層断面 南から	94 IV区 SD06
	IV区 SD02・03 a-a' 土層断面 南から	図版16 97 IV区 SD06①
	IV区 SD04 b-b' 土層断面 南から	97 IV区 SD06②
図版10	IV区 SD06 西から	95 IV区 SD06
	IV区 SD06 北部石検出状況 東から	104 IV区 SD07
	IV区 SD06 A-A' 土層断面 南から	118 IV区 SD07
	IV区 SD07・09 b-b' 土層断面 南から	121 IV区 SD07
	IV区 SD11 a-a' 土層断面 南から	140 IV区 SD07
	IV区 SD13 全景 南から	153 IV区 SD07
	IV区 SD13 石検出状況 (右が東)	図版17 154 IV区 SD07
	IV区 SD13 A-A' 土層断面 西から	165 II区 SK04
図版11	IV区 SD14 a-a' 土層断面 南から	173 III区 SK03
	I区 SE01 検出状況	175 IV区 SK05
	I区 SE01 土層断面 東から	176 IV区 SK04
	II区 SK04 西壁部分土層断面 東から	177 II区 SK06
	II区 SK09 遺物出土状況 南から	179 IV区 SK10・SK12
	II区 SK09・10 東壁部分土層断面 西から	180 IV区 SK10
	III区 SK06 遺物出土状況 南から	図版18 194 IV区 SX05
	IV区 SK04・05 検出状況 北から	207 IV区 SX06
図版12	IV区 SK04 遺物出土状況 西から	215 IV区 SX07
	IV区 SK05 遺物出土状況 東から	218 IV区 SX10
	IV区 SK19 西壁部分土層断面 東から	232 IV区 SX10
	II区 SX04 全景 南から	234 IV区 SX10
	II区 SX04 石検出状況 北から	242 IV区 SX10
	II区 SX04 石検出状況 北から	243 IV区 SX10
	IV区 SX06 石検出状況 北から	図版19 244 IV区 SX10
	IV区 SX06 石検出状況 東から	247 IV区 SX10
図版13	IV区 SX06 完掘状況 東から	249 IV区 SX10
	IV区 SX08 石検出状況 西から	250 IV区 SX10
	IV区 SX08 西壁部分土層断面 東から	253 IV区 SX10
	IV区 SX10 石・土器検出状況 東から	254 IV区 SX10

	257	IV区	SX10		61	IV区	SD01
	258	IV区	SX10		77	IV区	SD06
图版20	269	IV区	SX10		80	IV区	SD06
	273	IV区	SX10		126	IV区	SD07
	275	IV区	SX10		128	IV区	SD07
	279	IV区	SX10		130	IV区	SD07
	280	IV区	SX11	图版23	133	IV区	SD07
	281	IV区	SX11		136	IV区	SD07
	282	IV区	SX11		137	IV区	SD07
	287	IV区	SX11		141	IV区	SD07
图版21	288	IV区	SX11		178	IV区	SK07
	320	IV区	SK12		181	IV区	SK12
	291 (左上)	292 (左下)	296 (右) II区 包含層(表)		199	IV区	SX06
	291 (左上)	292 (左下)	296 (右) II区 包含層(裏)	图版24	200	IV区	SX06
	303 (左)	295 (中)	304 (右) III区 包含層(表)	204	IV区	SX06	
	303 (左)	295 (中)	304 (右) III区 包含層(裏)	235	IV区	SX10	
	306	III区	包含層(表)	236	IV区	SX10	
	306	III区	包含層(裏)	238	IV区	SX10	
图版22	56	IV区	SD01		239	IV区	SX10
	57	IV区	SD01		241	IV区	SX10
					278	IV区	SX10
					283	IV区	SX11

# 第1章 調査に至る経緯と経過

一般国道319号は坂出市を起点とし、善通寺市、琴平町を経由して四国中央市にいたる延長約63kmの幹線道路である。善通寺バイパスは、現国道で発生している慢性的な渋滞と、幅員が狭いため自転車や歩行者の安全性が損なわれている状況を解消するために、善通寺市原田町から善通寺市大麻町までの延長7.5kmについて計画され、原田町～生野町区間の2.6kmについては平成4年に供用が開始された。<sup>(1)</sup>

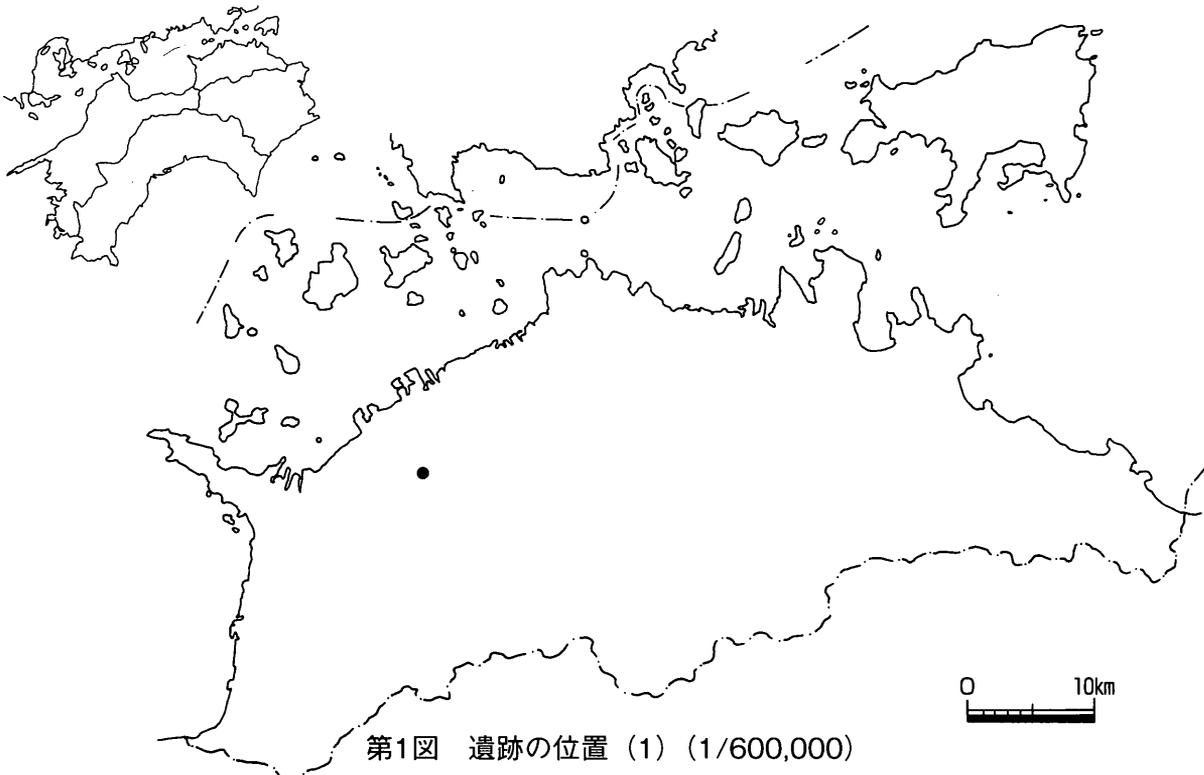
生野町から大麻町までの2.1km区間については、埋蔵文化財の包蔵の状況を確認するために、平成12年度に西原地区について予備調査が実施された。その結果、調査対象地の南半分は金倉川の氾濫原が広がって遺跡は確認されず、北半分で中世の条里型地割に関係する溝状遺構が数条検出されたことから、集落跡の所在が確認された。<sup>(2)</sup>

この結果を受け、平成13年度に、香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターとの間で平成13年4月1日付『埋蔵文化財調査契約』が締結され、発掘調査が実施された。調査期間は平成13年7月1日から平成14年3月31日である。当初の計画では、本調査を平成14年1月31日で終了させ、平成12年度の予備調査時に未退去家屋があった部分について2・3月に予備調査を行う予定であったが、家屋撤去が早く進んだことから、国土交通省四国地方整備局香川工事事務所からの要請を受けて、本調査途中の10月に予備調査を併行して実施した。その結果、遺跡が確認された範囲1,420㎡が追加されて、調査面積は7,234㎡となった。

整理作業は平成16年12月～平成17年3月に1班体制で行った。整理作業の経過については「第2表 整理作業工程表」による。

(1) 国土交通省四国地方整備局「第5回四国地方整備局事業評価監視委員会資料 一般国道319号 善通寺バイパスについて」

(2) 香川県教育委員会ほか「国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成12年度」



発掘調査				整理作業			
香川県教育委員会							
平成12年度				平成13年度			
総括	課長	長	小原 克己	総括	課長	長	北原 和利
	副主幹	補佐	小国 史郎		副主幹	補佐	小国 史郎
			廣瀬 常雄				中村 禎伸
			中村 禎伸				須崎 陽子
			三宅 陽子				亀田 幸一
			亀田 幸一				大山 真充
			西岡 達哉				西岡 達哉
			森 格也				古野 徳久
			宮崎 哲治				宮崎 哲治
総務	係長	長	中村 禎伸	総務	係長	長	北原 和利
	主査	補佐	三宅 陽子		主査	補佐	小国 史郎
	主任	主事	亀田 幸一		主任	主事	中村 禎伸
	文化財専門員	文化財専門員	西岡 達哉		文化財専門員	文化財専門員	須崎 陽子
	文化財専門員	文化財専門員	森 格也		文化財専門員	文化財専門員	亀田 幸一
	文化財専門員	文化財専門員	宮崎 哲治		文化財専門員	文化財専門員	大山 真充
埋蔵文化財	係長	長	中村 禎伸	埋蔵文化財	係長	長	北原 和利
	主査	補佐	三宅 陽子		主査	補佐	小国 史郎
	主任	主事	亀田 幸一		主任	主事	中村 禎伸
	文化財専門員	文化財専門員	西岡 達哉		文化財専門員	文化財専門員	須崎 陽子
	文化財専門員	文化財専門員	森 格也		文化財専門員	文化財専門員	亀田 幸一
	文化財専門員	文化財専門員	宮崎 哲治		文化財専門員	文化財専門員	大山 真充
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	総括	所長	菅原 良弘 (~10.31)	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	総括	所長	小原 克己
			小原 克己 (11.1~)				川原 裕章
			川原 裕章				河野 浩征
			六車 正憲				大西 誠治
			大西 誠治				多田 敏弘
			新 一郎				山本 和代
			山本 和代				高木 康晴
			高木 康晴				梅木 正信
			長尾 重盛				藤好 史郎
			藤好 史郎				増井 泰弘
			信里 芳紀				小林 明弘
			松岡 晶				中村 文枝
			秋山 亮				
整理作業員	朝田加奈子	磯崎 福子	猪木原美恵子	岡崎江伊子	長谷川郁子	三谷 和子	

第1表 調査の体制

区分	工程	12	1	2	3
職員	整理指導				
	原稿執筆				
遺物	接合・復元				
	実測・拓本				
	レイアウト				
	トレース				
	観察表				
	写真撮影				
遺構	写真レイアウト				
	レイアウト				
	トレース				
その他	編集				
	台帳類の作成				
	遺物収納				

第2表 整理作業の工程

## 第2章 立地と環境

### 第1節. 地理的環境

西原遺跡は善通寺市与北町に所在し、丸亀平野の西部、金倉川の中流域の西岸に立地する。丸亀平野は弘田川、金倉川や土器川によってもたらされた扇状地堆積物により形成された県下最大級の平野で、条里型地割といわれる方格地割がよく残る。

西原遺跡は西側には金倉川の氾濫原が、東側には旧河道の氾濫原があるために地割の乱れが認められるが、西原遺跡はその中間に位置し、条里型地割が比較的よく残る。遺跡は旧那珂郡の西端付近に位置し、五条十七里の一部に比定される<sup>1)</sup>。

### 第2節. 歴史的環境

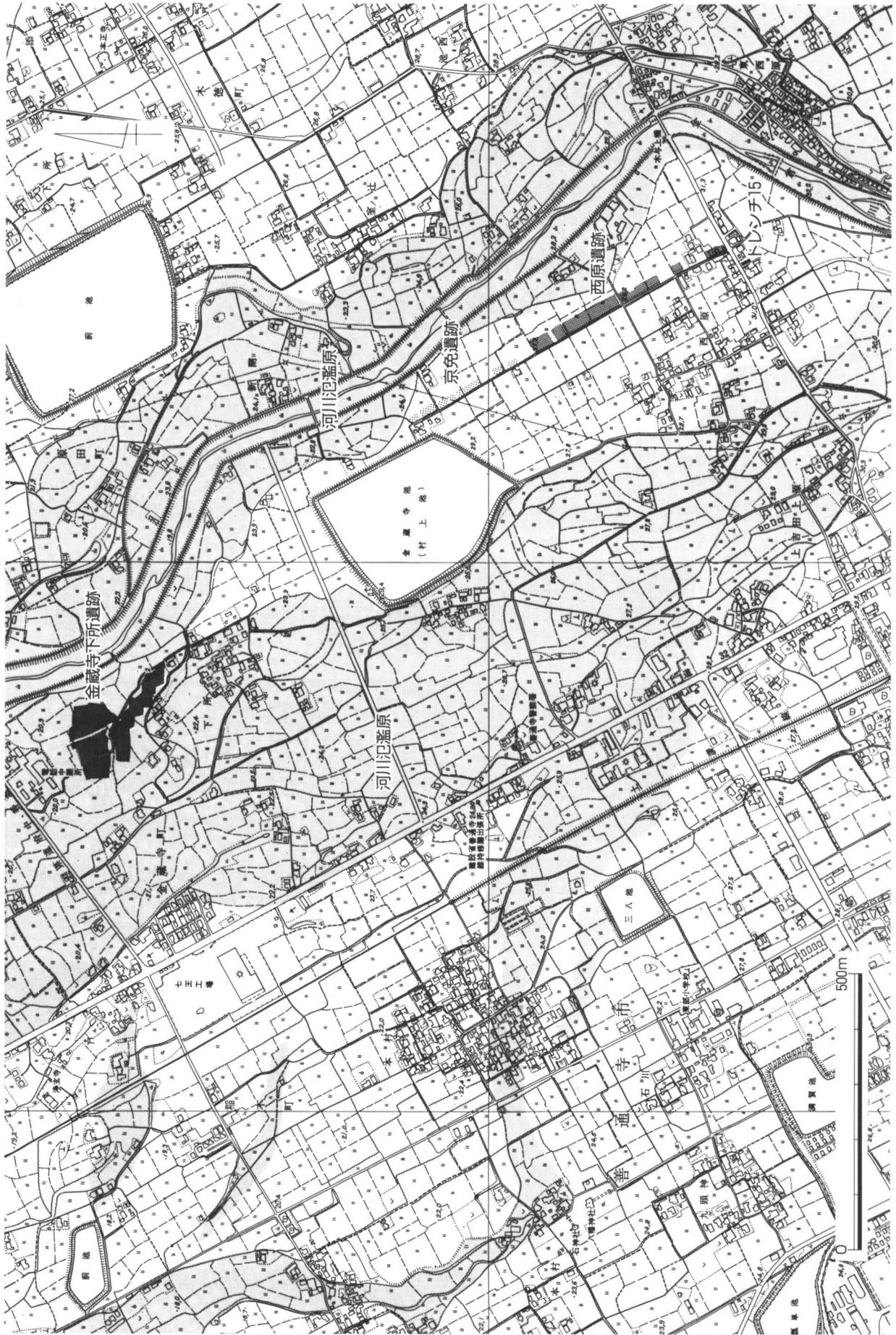
旧石器時代の遺跡は、三条黒島遺跡で角錐状石器や接合資料を含む140点の石器からなる石器ブロックが検出された<sup>2)</sup>。金倉川流域では、東岸の龍川五条遺跡でチャート製の角錐状石器が出土しており<sup>3)</sup>、西岸では金蔵寺下所遺跡<sup>4)</sup>、矢ノ塚遺跡<sup>5)</sup>でサヌカイト製ナイフ形石器が出土している。

縄文時代においては、金倉川流域では縄文時代後期以降の河川堆積層から多量の遺物が出土する。永井遺跡では後期中葉～晩期前半にかけての多量の土器・石器・植物遺体が出土し、ドングリ等の食用植物を主食とした当時の生活の様子が明らかになった<sup>6)</sup>。しかし、平野内の遺跡の多くは埋没河川の堆積層であり、遺構を把握できなかった遺跡も多いと思われる。

弥生時代前期の遺跡は龍川五条遺跡、稲木遺跡、五条遺跡、中の池遺跡等、縄文時代晩期から続く遺跡が多い。五条遺跡<sup>7)</sup>や龍川五条遺跡<sup>8)</sup>、中の池遺跡<sup>9)</sup>では環濠に囲まれた大規模な集落が想定される。龍川五条遺跡からはこの時期の円形・方形周溝墓や木棺墓が検出されており<sup>10)</sup>、新しい墓制を採用する様子が窺える。

中期になるとこれまでの集落が廃絶し、新たに旧練兵場遺跡<sup>11)</sup>、彼ノ宗遺跡<sup>12)</sup>、仲村廃寺<sup>13)</sup>や矢ノ塚遺跡<sup>14)</sup>等で集落が形成される。中期後半には月信遺跡<sup>15)</sup>、北原遺跡<sup>16)</sup>、飯野山山麓遺跡<sup>17)</sup>などの高地性集落が出現するようになる。青銅祭器は大麻山北麓の瓦谷遺跡で中細型銅剣・中細型銅矛・中広型銅剣・平型銅剣の一括埋納が知られる<sup>18)</sup>。銅鐸については、我拝師山北麓の我拝師山C遺跡で出土した外縁付紐式流水文銅鐸は大阪府茨木市東奈良遺跡で鑄型が出土しており<sup>19)</sup>、大阪府豊中市桜塚銅鐸と同範関係にあることがわかっている。我拝師山南麓のシンネバエ遺跡では扁平紐式銅鐸が出土している<sup>20)</sup>。

後期になると遺跡の立地は、丘陵上から平野へ移るようになり、遺跡数は急速に増加する。旧練兵場遺跡ではこの時期の竪穴住居跡が多数確認されており、拠点的な大集落であったことがわかる<sup>21)</sup>。周辺の微高地上では九頭神遺跡<sup>22)</sup>、稲木遺跡<sup>23)</sup>などの集落も見られ、旧練兵場遺跡、稲木遺跡では鉄器の保有も認められる。墓制については、周溝墓（稲木遺跡）、人面の線刻を持つ箱式石棺墓や小児用甕棺墓（仙遊遺跡<sup>24)</sup>）が検出されており、多種多様な墓制が見られる。また、我拝師山A・B遺跡、陣山遺跡で平型銅剣の一括埋納が知られる<sup>25)</sup>。



第2図 遺跡の位置 (2) (1/10,000)

古墳時代前～中期の集落の実態はあまり明らかにはなっていないが、善通寺西遺跡で旧河道からこの時期の土師器が木製品とともに多数出土している<sup>26)</sup>。後期の集落は金倉川、弘田川流域で顕著に見られる。旧練兵場遺跡では竈付堅穴住居跡が多数確認され<sup>27)</sup>、稲木遺跡でも同様の集落が営まれたことが明らかになっている<sup>28)</sup>。

善通寺市内では多数の前方後円墳が築造されている。前期には大麻山の中腹に野田院古墳が築造されている。野田院古墳は前方部が盛り土、後円部が積石によるという特異な形態を示す。大麻山東麓には大麻山経塚古墳、大麻山椀貸塚古墳等の積石塚古墳が築造されている<sup>29)</sup>。平野部に近接する低丘陵地では4世紀後半に鷲ノ山産凝灰岩を用いた石棺のある磨臼山古墳が築造されている<sup>30)</sup>。

中期には多度津町に盛土山古墳、善通寺市西部に青龍古墳等の大型墳が築造されている。後期の古墳としては、県内最古の横穴式石室をもつ王墓山古墳が挙げられる。小口積みの古式の横穴式石室には石屋形が作り出されており、金銅製の馬具や冠帽を始めとする多様な副葬品が出土した<sup>31)</sup>。宮ヶ尾古墳では玄室奥壁に線刻画が描かれている<sup>32)</sup>。その他、大麻山東麓には小規模な群集墳が築かれている。

7世紀代に入ると仲村廃寺、善通寺等古代寺院が造られている。これらの寺院は法隆寺式の忍冬唐草文をもつ軒平瓦が出土することで知られている<sup>33)</sup>。その他、川原寺式軒丸瓦が出土する田村廃寺<sup>34)</sup>、藤原宮式軒丸瓦が出土する宝幢寺跡等<sup>35)</sup>、畿内系の瓦が出土する古代寺院が多く知られている。

集落遺跡としては、金蔵寺下所遺跡で7世紀末～8世紀初頭の、正方位をもつ掘立柱建物跡群と、条里型地割の方位をもつ掘立柱建物跡群が出現し、前者から後者への変化が指摘されている<sup>36)</sup>。善通寺市街地にある生野本町遺跡では7世紀末～8世紀初頭の、また、稲木北遺跡では8世紀前半代の大型の掘立柱建物跡により構成される集落跡があり、官衙または有力豪族の居宅跡とされる<sup>37)</sup> <sup>38)</sup>。

註)

- 1) 四国新聞社「香川県史 1 通史編 原始・古代」1988
- 2) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二十七冊 三条黒島遺跡 川西北七条 I 遺跡」1997
- 3) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二十九冊 龍川五条遺跡 II 飯野東分山崎南遺跡」1998
- 4) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第十冊 金蔵寺下所遺跡」1994
- 5) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三冊 矢ノ塚遺跡」1987
- 6) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第九冊 永井遺跡」1990
- 7) 香川県教育委員会ほか「平成五年度香川県土木部道路整備事業に伴う発掘調査報告集 五条遺跡 八丁地遺跡 仲善寺遺跡」1994
- 8) 3) に同じ
- 9) 丸亀市教育委員会「中の池遺跡発掘調査概要 香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査」1982
- 10) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第九冊 永井遺跡」1990



- |            |              |            |            |             |
|------------|--------------|------------|------------|-------------|
| 1 西原遺跡     | 10 三条黒島遺跡    | 19 中村遺跡    | 28 旧練兵場遺跡  | 37 丸山古墳     |
| 2 田村廃寺跡    | 11 三条番ノ原遺跡   | 20 乾遺跡     | 29 甲山遺跡    | 38 北向八幡神社古墳 |
| 3 中ノ池遺跡    | 12 龍川四条遺跡    | 21 丸山古墳    | 30 善通寺跡    | 39 王墓山古墳    |
| 4 平池南遺跡    | 13 龍川五条遺跡    | 22 宝幢寺跡    | 31 生野本町遺跡  | 40 菊塚古墳     |
| 5 川西北鍛冶屋遺跡 | 14 五条遺跡      | 23 京免遺跡    | 32 榊梨城跡    | 41 北原古墳     |
| 6 郡家田代遺跡   | 15 金蔵寺下所遺跡   | 24 下吉田八幡遺跡 | 33 生野鑿子塚古墳 |             |
| 7 郡家大林上遺跡  | 16 稻木遺跡(B地区) | 25 九頭神遺跡   | 34 磨臼山古墳   |             |
| 8 郡家一里屋遺跡  | 17 稻木遺跡(A地区) | 26 石川遺跡    | 35 鶴ヶ峰古墳群  |             |
| 9 郡家原遺跡    | 18 永井遺跡      | 27 仲村廃寺跡   | 36 鶴ヶ峰4号墳  |             |

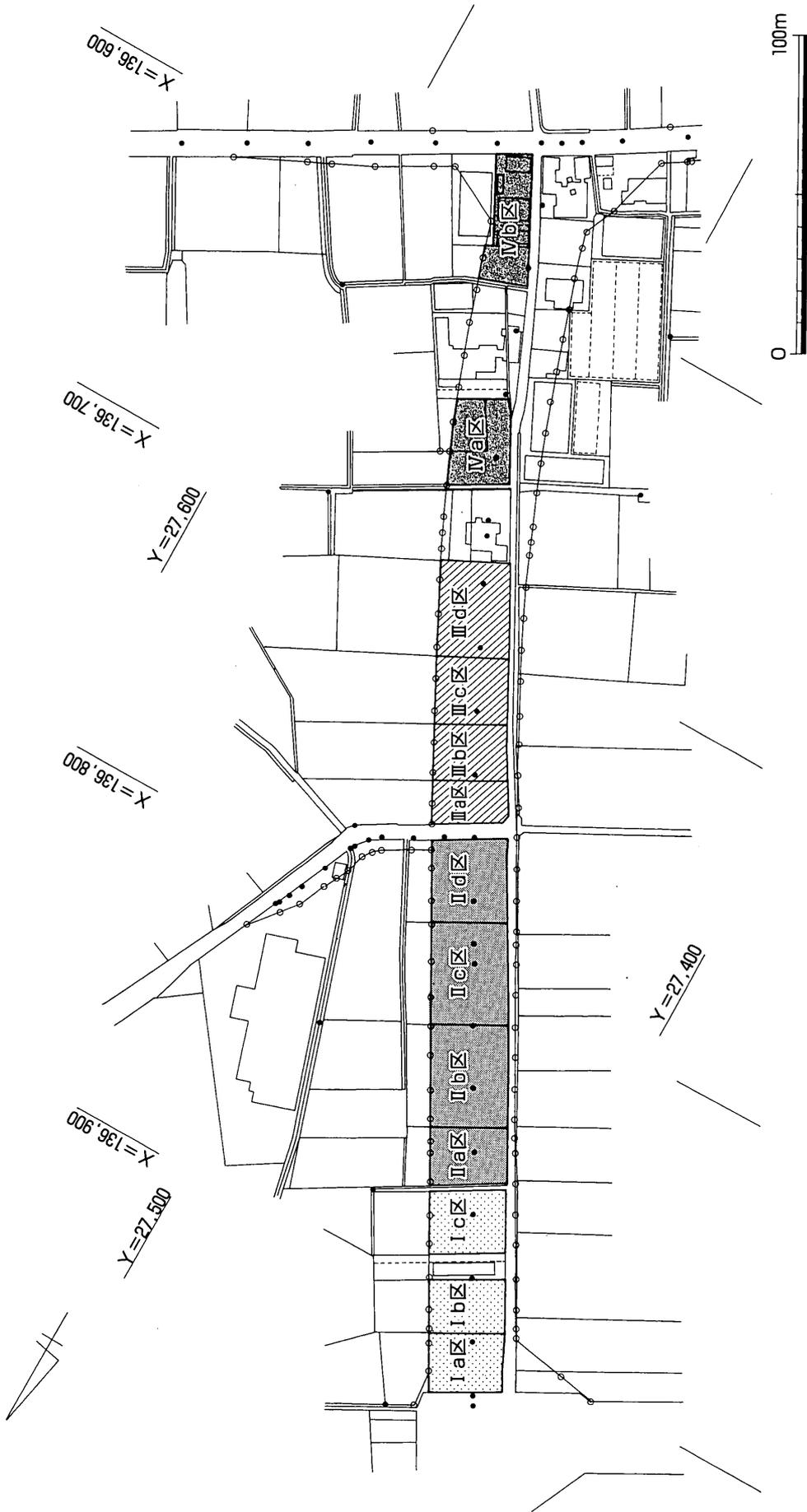
第3図 周辺の遺跡 (1/40,000)

- 11) 香川県教育委員会「旧練兵場遺跡 平成5年度国立善通寺病院内発掘調査報告」1994  
 香川県教育委員会「旧練兵場遺跡 2 平成6年度四国農業試験場内発掘調査報告」1995  
 香川県教育委員会「旧練兵場遺跡 3 平成7年度国立善通寺病院内発掘調査報告」1996  
 香川県教育委員会「旧練兵場遺跡 4 平成8年度四国農業試験場内発掘調査報告」1996  
 (財)香川県埋蔵文化財調査センター「旧練兵場遺跡 国立善通寺病院看護学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 第1冊」1997  
 (財)香川県埋蔵文化財調査センター「旧練兵場遺跡 国立善通寺病院看護学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 第2冊」1998  
 (財)香川県埋蔵文化財調査センター「埋蔵文化財発掘調査概報 平成14年度 県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成14年度」2003
- 12) 善通寺市教育委員会「彼ノ宗遺跡～弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～」1985
- 13) 善通寺市教育委員会「仲村廃寺発掘調査報告 旧練兵場遺跡内」1984  
 善通寺市教育委員会「仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財発掘調査報告書～」1989
- 14) 5) に同じ
- 15) 月信遺跡発掘調査団「月信遺跡 兼営畑地帯総合整備事業善通寺西部地区 碑殿農道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1991
- 16) 香川県教育委員会「北原3号墳 北原遺跡」1995
- 17) 1) に同じ
- 18) 5) に同じ
- 19) 1) に同じ
- 20) 1) に同じ
- 21) 1) に同じ
- 22) 九頭神遺跡発掘調査団 善通寺市教育委員会「九頭神遺跡発掘調査報告書」1988
- 23) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第六冊 稲木遺跡」1987
- 24) 善通寺市教育委員会「釧遊遺跡発掘調査報告書 旧練兵場遺跡仙遊地区」1986
- 25) 1) に同じ
- 26) 11) に同じ
- 27) 23) に同じ
- 28) 香川県教育委員会ほか「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第六冊 稲木遺跡」1987
- 29) 1) に同じ
- 30) 1) に同じ
- 31) 善通寺市教育委員会「王墓山古墳調査概報」1983  
 善通寺市教育委員会「史跡有岡古墳群(王墓山古墳)保存整備事業報告書」1992
- 32) 善通寺市教育委員会「史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)調査報告～史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業に伴う発掘調査報告書」1993
- 33) 34) 35) 高松市歴史資料館「讃岐の古瓦展 第11回特別展」1996
- 36) 4) に同じ  
 森下英治「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」『財団法人香川県埋蔵文化財センター研究紀要V』財団法人香川県

埋蔵文化財調査センター 1997

37) 香川県教育委員会「生野本町発掘調査報告書」1993

38) 香川県埋蔵文化財センター「香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度」2006



第4図 調査区割図 (1/2,000)

## 第3章 調査の成果

### 第1節 土層序

#### (1) I区土層 (第5・9図)

I a区北壁、I b・c区南壁及びI区全体の東壁で断面図を作成した。わずかに南から北へ傾斜するが、ほとんど平坦な地形である。遺構検出面の標高は27.5m～27.9m、I区の南北方向の延長は約68mである。基本層序は1. 耕作土 2. 床土(にぶい黄色混細砂シルト) 3. ベース(明黄褐色シルトと褐灰色シルト、灰色粗砂に粘質土と多量の礫を含む、黄灰色粗砂質土(礫含む)等)である。遺構面は地表面から概ね20～30cmの深さで検出した。遺構はすべて明黄褐色シルトと褐灰色シルトの上面で検出した。

#### (2) II区土層 (第6・10図)

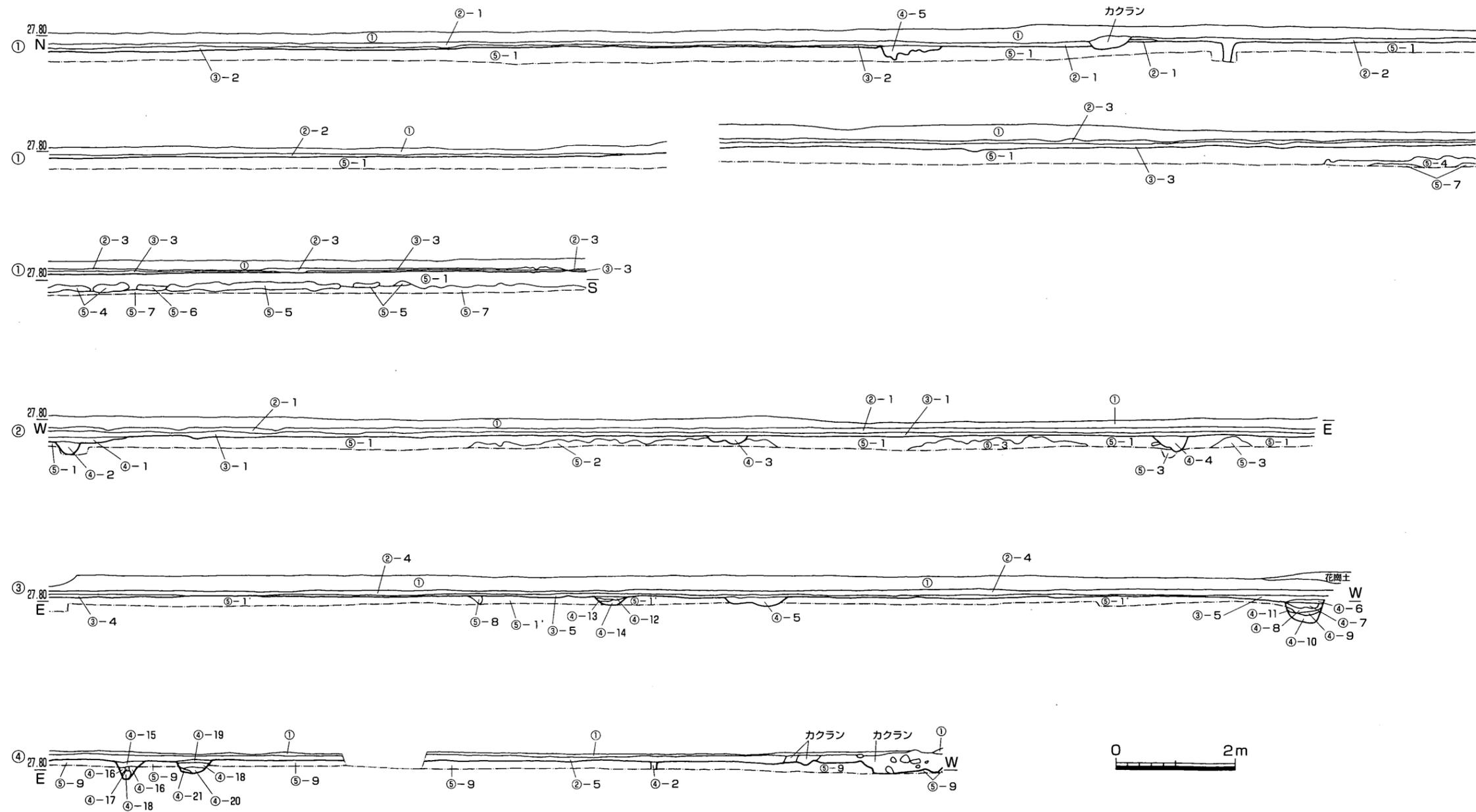
II b区北壁、II d区南壁及びII区全体の東壁で断面図を作成した。わずかに南から北へ傾斜し、東西方向はほぼ平坦である。遺構検出面の標高は28.1m～28.9m、II区の南北方向の延長は約110mである。基本層序は1. 耕作土 2. 床土(明黄褐色シルト、にぶい黄色シルト等) 3. ベース(明黄褐色粘質土、黄灰色砂礫土、明黄褐色シルト混粘質土等)である。遺構面は地表面から約10～40cmの深さで検出された。遺構面の高い南側ほど耕作土・床土が厚い。

#### (3) III区土層 (第7・11図)

III a区北壁、III d区北・南壁及びIII区全体の東壁で断面図を作成した。わずかに南から北へ傾斜する。遺構検出面の標高は28.7～29.5m、III区の総延長は約80mである。基本層序は1. 耕作土 2. 床土(明黄褐色シルト、黄褐色細砂混粘質土等) 3. ベース(黄灰色シルト、褐色細砂混粘質土、暗オリーブ褐色粗砂混粘質土、黄褐色粘質土等)である。遺構面は地表面から約10～40cmの深さで検出された。III a～c区ではベースがやや不安定な様相を示す。

#### (4) IV区土層 (第8・12図)

IV a区南壁、IV b区北壁、IV a区南半東壁、IV b区南半東壁で断面図を作成した。遺構検出面の標高は29.7m～29.9m、総延長は約100mである。基本層序は1. 耕作土 2. 床土(暗灰黄色シルト、オリーブ褐色細砂混シルト等) 3. ベース(褐色シルト混粘質土、黒褐色粘質土等)である。地表面から遺構面までの深さは約20～40cmである。



I区

- ① 耕作土
- ②-1 にぶい黄色混細砂シルト(2.5Y6/4)
- ②-2 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- ②-3 浅黄色シルト(2.5Y7/4)
- ②-4 明黄褐色シルト(2.5Y6/8)
- ②-5 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)
- ③-1 にぶい黄色シルト(2.5Y6/2)
- ③-2 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)
- ③-3 明黄褐色シルト(2.5Y6/6)
- ③-4 明黄褐色シルト(2.5Y7/6)
- ③-5 黄褐色混シルト粘質土(10YR5/8)
- ④-1 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
- ④-2 黄灰色粘質土(2.5Y5/1)
- ④-3 黄灰色粘質土(2.5Y5/1) Mn少し含
- ④-4 黒褐色混細砂粘質土(10YR2/2)
- ④-5 黒褐色混細砂粘質土(10YR3/2)

- ④-6 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y5/1)
- ④-7 黄褐色混細砂粘質土(2.5Y5/4)
- ④-8 明黄褐色混細砂粘質土(2.5Y6/8) Mn含 + 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y5/1) Mn含
- ④-9 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y5/2)
- ④-10 灰黄褐色混細砂粘質土(10YR5/2)
- ④-11 ベースブロック
- ④-12 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- ④-13 黒褐色粘質土(2.5Y3/2)
- ④-14 黄褐色シルト(2.5Y5/4)
- ④-15 褐灰色シルト(10YR4/1) + ⑤-9
- ④-16 黄灰色シルト(2.5Y5/1) + ⑤-9
- ④-17 黄灰色シルト(2.5Y4/1) + ⑤-9
- ④-18 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y4/1)

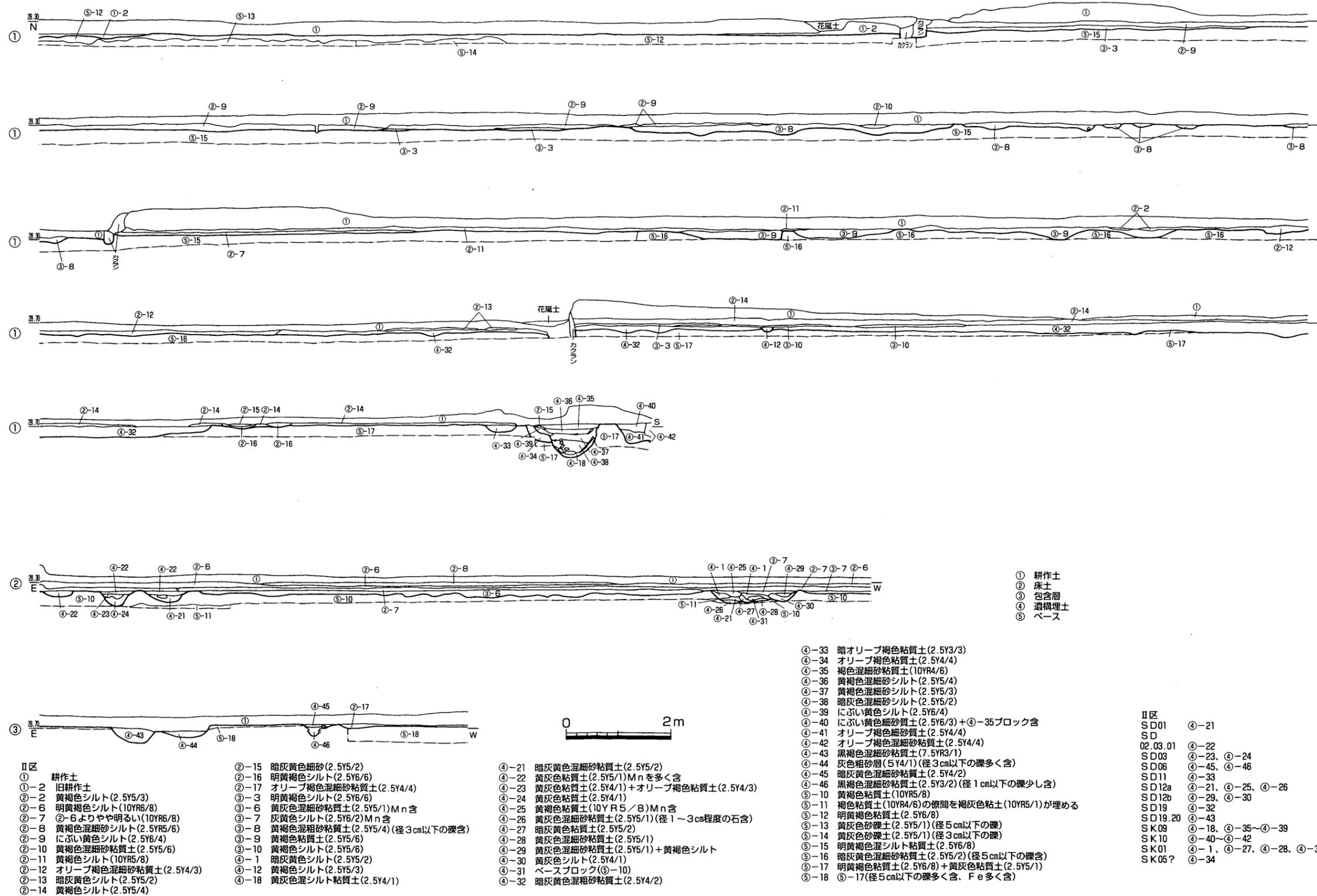
- ④-19 ⑤-9 + ②-5
- ④-20 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1)
- ④-21 暗灰黄色混細砂粘質土(2.5Y5/2)
- ⑤-1 明黄褐色シルト(10YR6/8) + 褐灰色シルト(10YR6/1)
- ⑤-1' ⑤-1 よりも粘土質強し
- ⑤-2 灰色粗砂・粘質土(5Y4/1)(径1~3cmの多量の礫含)
- ⑤-3 黄灰色粗砂質土(2.5Y4/1)(径1~10cmの多量の礫含)
- ⑤-4 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)(径1cm以下の礫多く含)
- ⑤-5 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)(径3cm以下の礫多く含)
- ⑤-6 明黄褐色混細砂粘質土(2.5Y6/8)
- ⑤-7 褐色混細砂粘質土(10YR4/6)
- ⑤-8 黄灰色粘質土(2.5Y4/6)
- ⑤-9 明黄褐色混シルト粘質土(10YR6/8)

- ① 耕作土
- ② 床土
- ③ 包含層
- ④ 遺構埋土
- ⑤ ベース

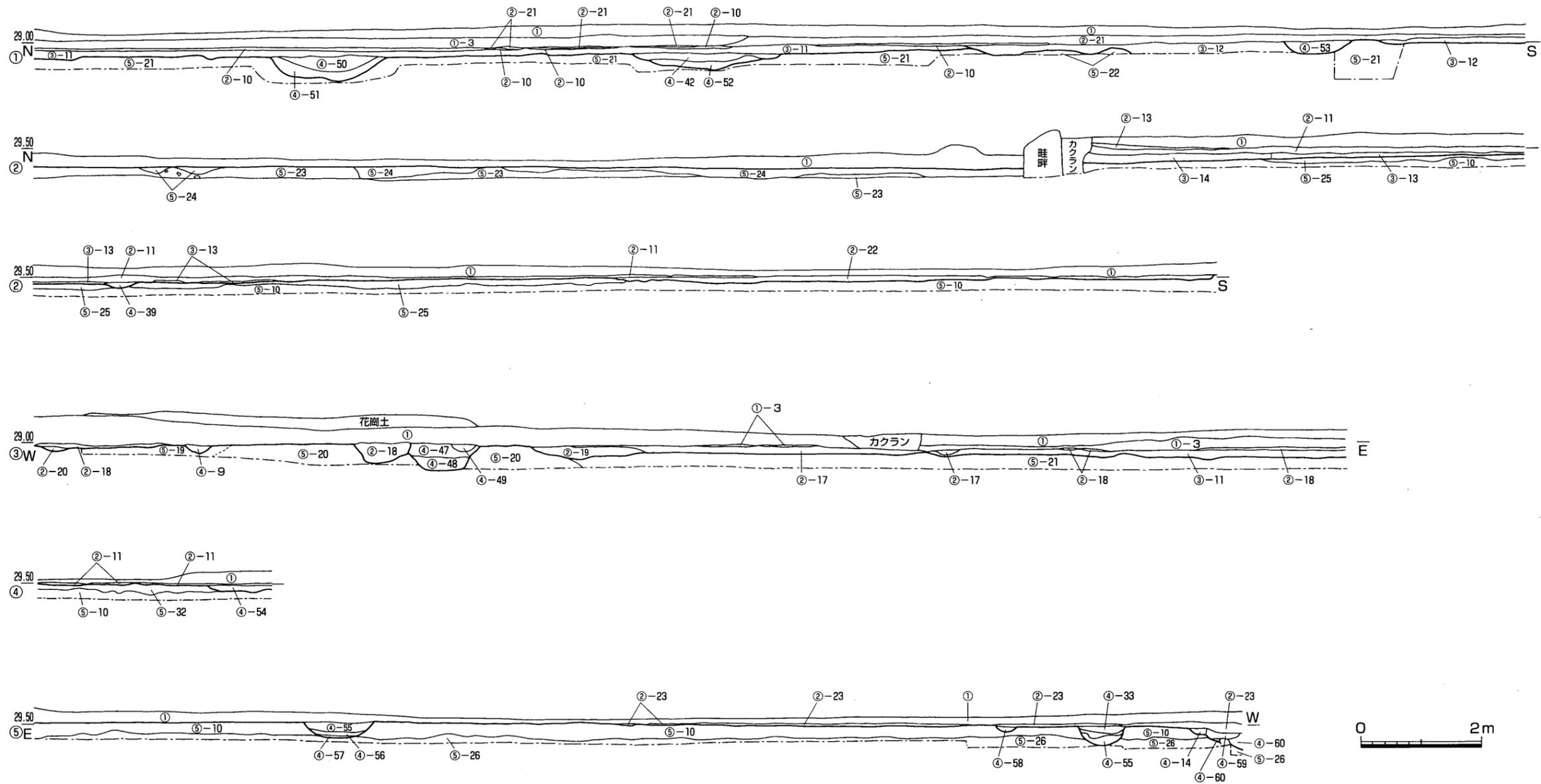
I区

- SD01 ④-1, ④-2, ④-6~④-11
- SD05 ④-3, ④-12~④-21
- SK01 ④-5
- SK05 ④-4
- SK06 ④-5

第5図 I区土層断面図(1/80)



第6図 II区土層断面図(1/80)



- Ⅲ区
- ① 耕作土
  - ①-3 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/2)
  - ②-10 黄褐色混細砂粘質土(2.5Y5/6)
  - ②-11 黄褐色シルト(10YR5/8)
  - ②-13 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
  - ②-17 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/4)
  - ②-18 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/6)
  - ②-19 ②-18(礫含)
  - ②-20 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/3)
  - ②-21 明黄褐色シルト(2.5Y7/6)
  - ②-22 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
  - ②-23 黄褐色シルト(2.5YR5/3)
  - ②-24 褐色シルト(10YR4/6)
  - ③-11 暗オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y3/3)
  - ③-12 ③-11(少量の礫含)
  - ③-13 オリーブ褐色シルト(2.5Y4/6)
  - ③-14 ③-13より明るい

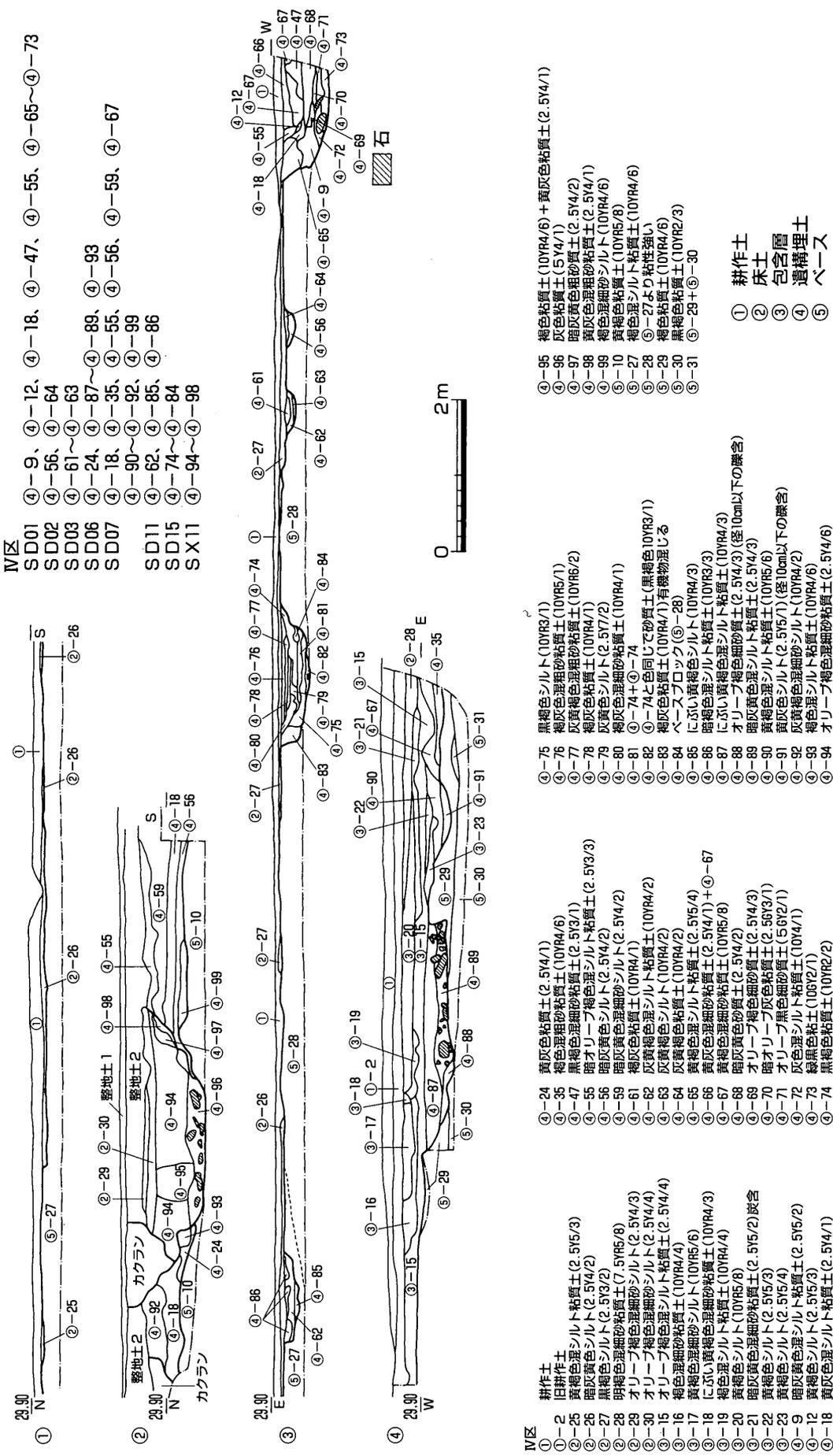
- ④-9 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y5/2)
- ④-14 黄褐色シルト(2.5Y5/4)
- ④-33 暗オリーブ褐色粘質土(2.5Y3/3)
- ④-39 にがい黄色シルト(2.5Y6/4)
- ④-42 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/4)
- ④-47 黒褐色混細砂粘質土(2.5Y3/1)
- ④-48 黒色粘質土(10YR2/1)
- ④-49 暗褐色混細砂粘質土(10YR3/3)
- ④-50 暗褐色粘質土(10YR3/2)
- ④-51 黒褐色粘質土(10YR3/2)
- ④-52 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/3)(径5cm程度の礫含)
- ④-53 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/3)(礫含)
- ④-54 黄灰色シルト(2.5Y5/1)M n少し含
- ④-55 暗オリーブ褐色混シルト粘質土(2.5Y3/3)
- ④-56 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)
- ④-57 黄灰色細砂粘質土(2.5Y4/1)
- ④-58 灰オリーブ色シルト(5Y5/2)
- ④-59 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y4/2)

- ④-60 オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)
- ⑤-10 黄褐色粘質土(10YR5/8)
- ⑤-19 暗オリーブ褐色混粗砂粘質土(2.5Y3/3)(礫含)
- ⑤-20 暗オリーブ褐色混粗砂粘質土(2.5Y3/3)(径5cm以下の礫含)
- ⑤-21 褐色混細砂粘質土(10YR4/6)
- ⑤-22 灰オリーブ褐色混粗砂粘質土(5Y4/2)(径10cm以下の礫多量に含)
- ⑤-23 暗オリーブ褐色混粗砂粘質土(2.5Y3/3)(径10cm以下の礫多量に含)
- ⑤-24 暗オリーブ褐色混粗砂粘質土(2.5Y3/3)
- ⑤-25 黄灰色シルト(2.5Y5/1)M n少し含
- ⑤-26 極暗褐色粘質土(7.5YR2/3)+黄褐色粘質土(10YR5/8)
- ⑤-32 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)

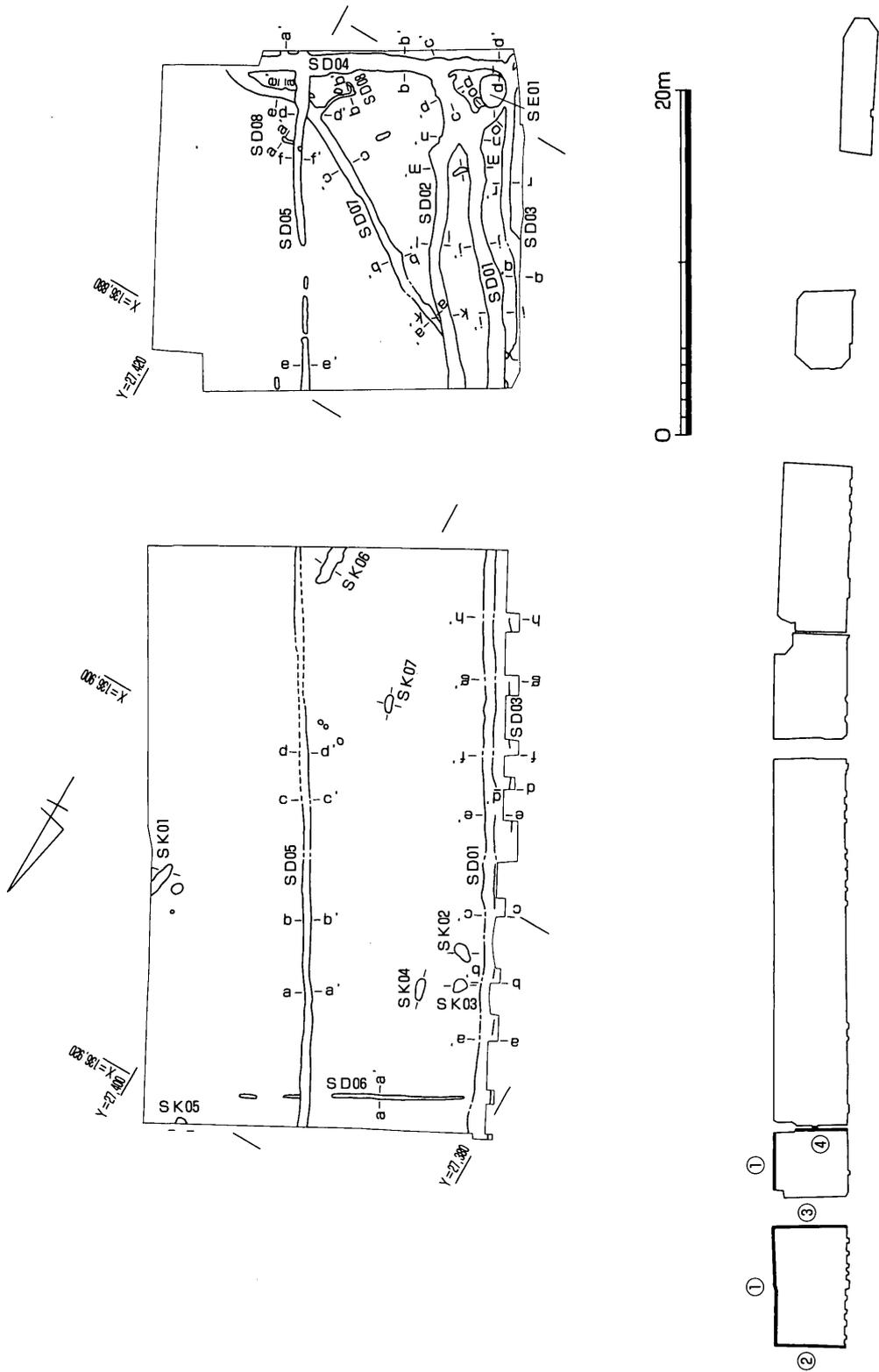
- ① 耕作土
- ② 床土
- ③ 包含層
- ④ 遺構埋土
- ⑤ ベース

- Ⅲ区
- SD01 ④-33, ④-55, ④-56
  - SD01a ④-9
  - SD02 ④-14, ④-59, ④-60
  - SD03 ④-55~④-57
  - SD04? ④-58
  - SD05a ④-47~④-49
  - SD05b ④-50, ④-51
  - SD08 ④-39
  - SK01 ④-53
  - SK07 ④-54

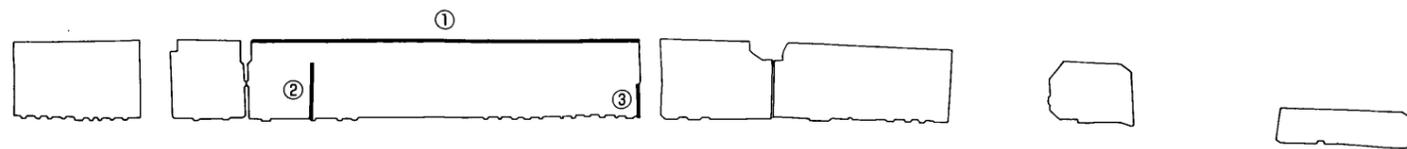
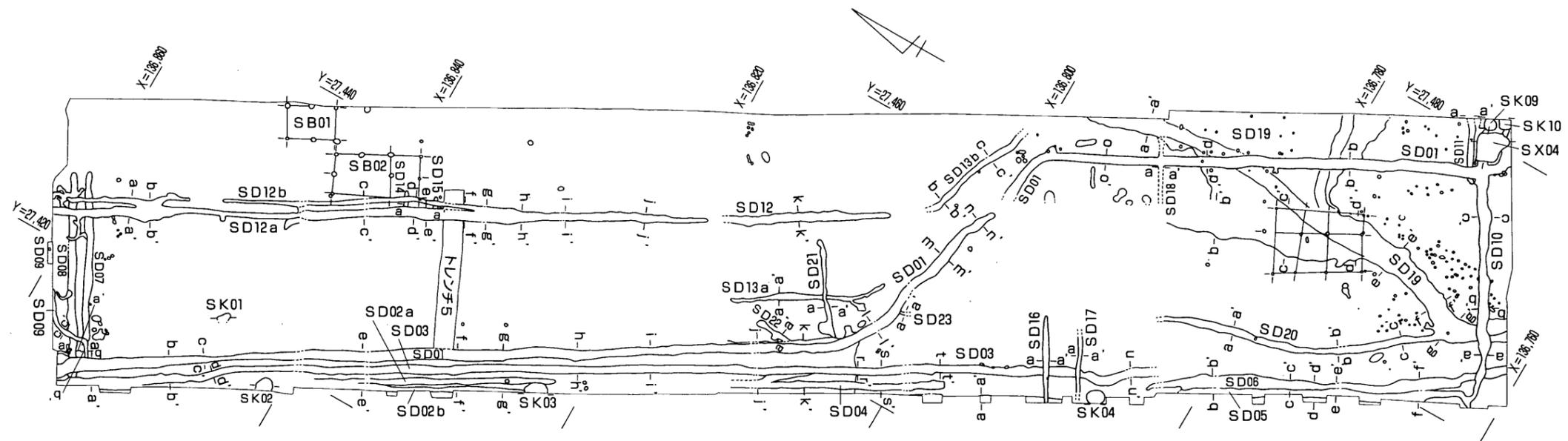
第7図 Ⅲ区土層断面図(1/80)



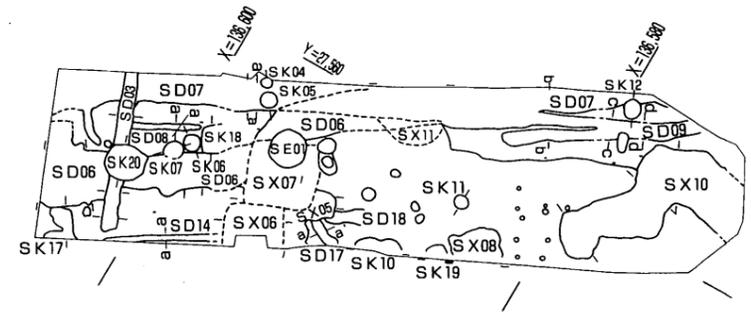
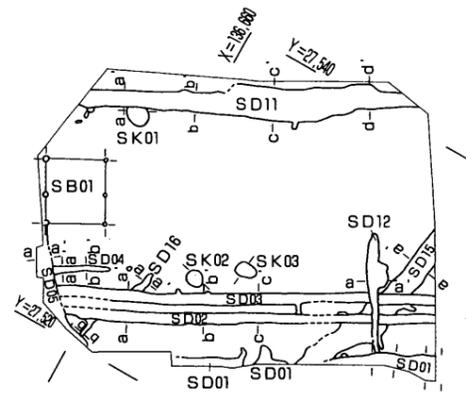
第8図 IV区土層断面図 (1/80)



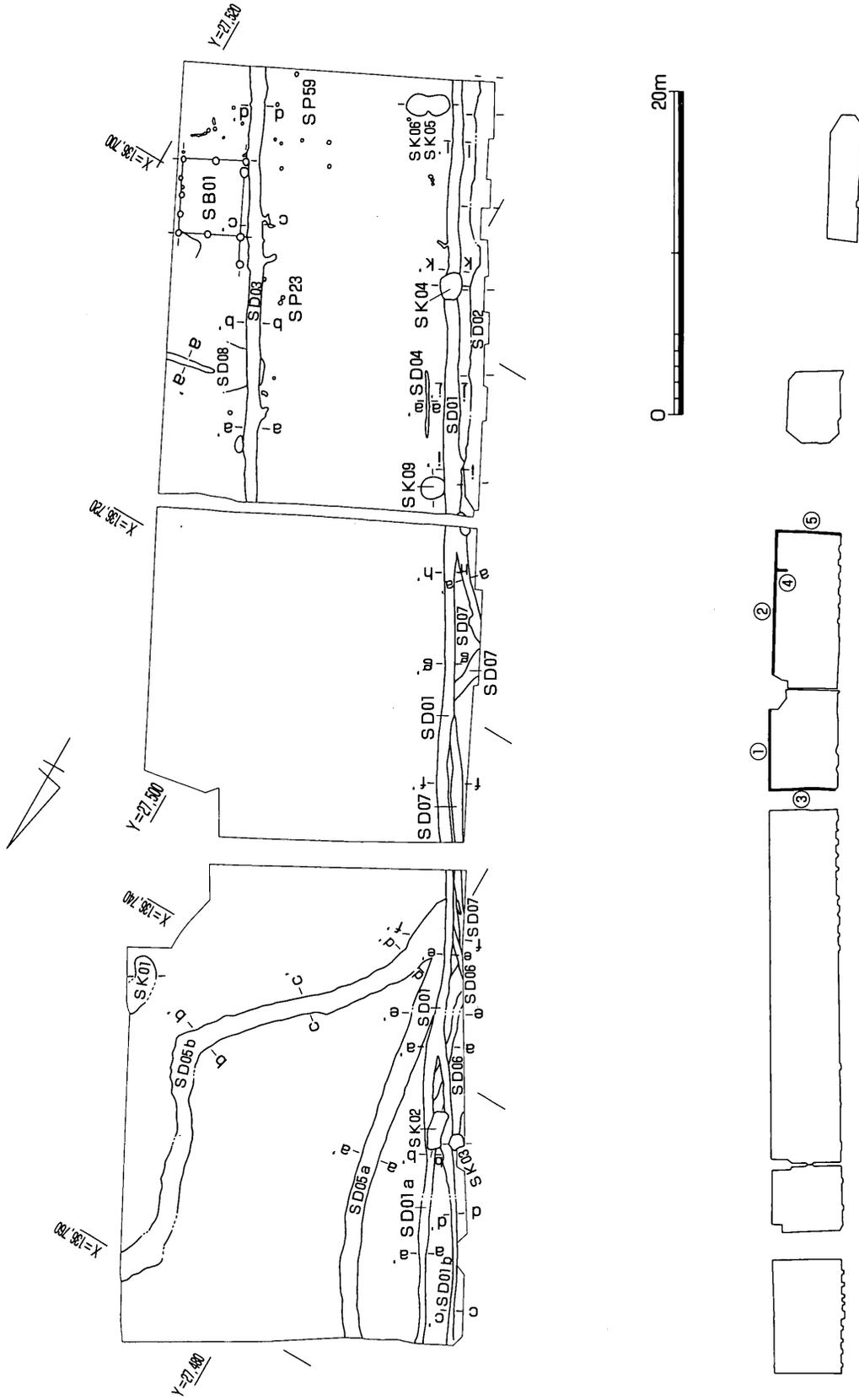
第9图 I区遺構配置図(1/400)



第10図 II区遺構配置図(1/400)



第11図 IV区遺構配置図(1/400)



第12图 Ⅲ区遺構配置図 (1/400)

## 第2節 遺構・遺物

### (1) 古代以前の遺構・遺物

検出された遺構はすべて溝状遺構である。出土遺物に乏しく、正確な時期比定が困難であるが、条里型地割と方位が異なる、自然地形に制約された溝状遺構を古代以前のものとした。これらの溝状遺構は条里型地割と同方向の溝状遺構に壊される場合も多く、古い時代の溝状遺構である証拠にもなる。

#### I区SD07 (第13図)

Ic区を南東から北西へ流れる溝状遺構である。条里型地割に規制されず、旧河道のラインに斜交する。長さ20.3m、幅40~68cm、深さ10~18cm、埋土は暗灰黄色混細砂粘質土、オリブ褐色細砂混粘質土等、断面形状は浅い皿状である。遺構の重複関係からSD02より古く、SD05との前後関係は不明瞭であるが、溝状遺構の方向性からSD07が古いと思われる。埋土中からは土師器小片が出土しただけである。

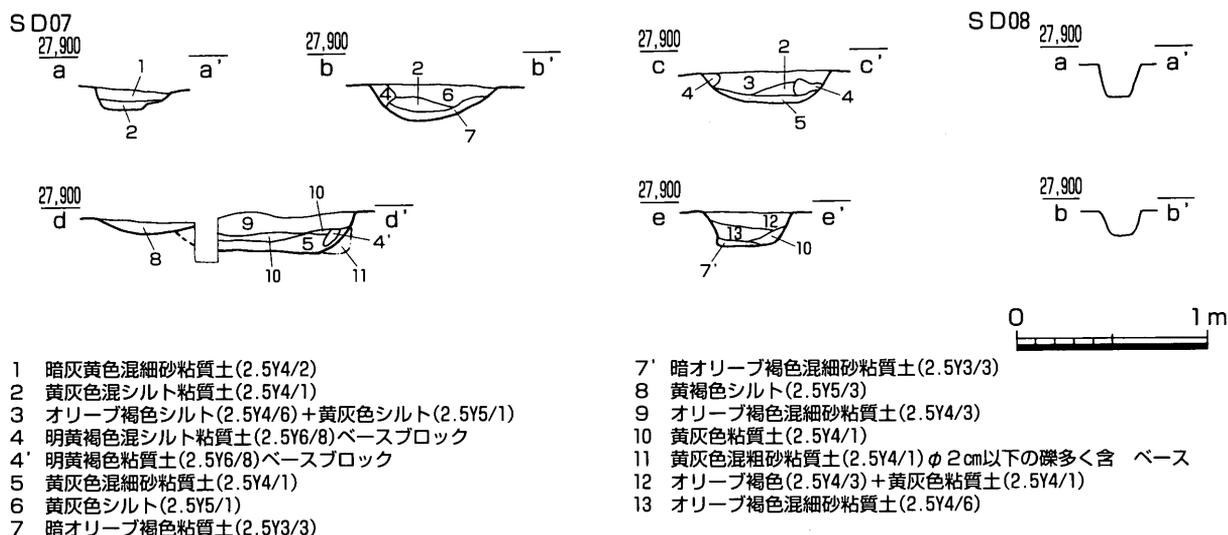
#### I区SD08 (第13図)

Ic区南東部で検出された溝状遺構である。SD07にほぼ直交して検出された。長さ3.5mで、SD05とSD07の間では検出されていない。幅15~20cm、深さ9~16cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは遺物は出土しなかった。遺構の時期はSD07と同じ頃と考えられる。

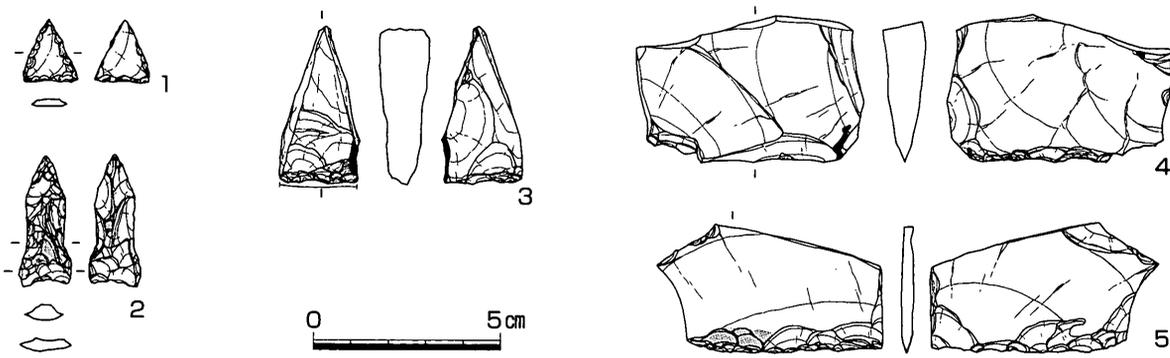
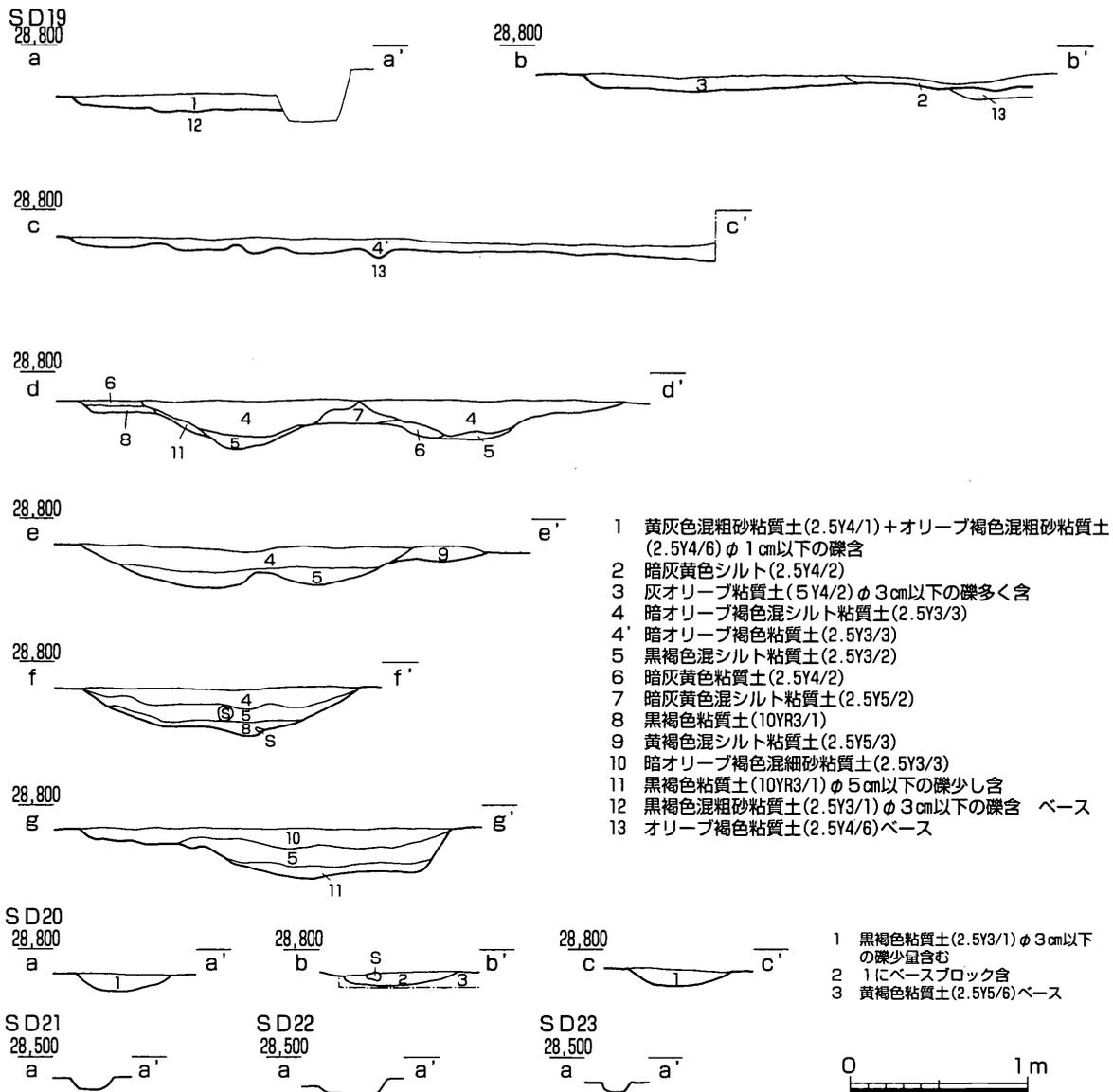
#### II区SD19 (第14図)

II d区南端から、条里型地割より45° 東へ傾いた方向へ流れる溝状遺構である。北から南へ傾斜する。溝状遺構の長さ32.5m、幅142~272cm、深さ23~27cm、埋土は黄灰色混粗砂粘質土、暗灰黄色シルト、暗オリブ褐色混シルト粘質土等で、断面形状は二股または浅い皿状、ボウル状である。遺構の重複関係から、SD10より古く、SD20とは同時に埋没する。溝状遺構の北東部は二股となり、その上面を広く溝状遺構の埋土が覆い、湿地状になっていた様子が窺える。埋土中からはサヌカイト製石器が出土しただけであるが、溝状遺構の方位から条里型地割施工以前の時期の溝状遺構である。この溝状遺構はIII区SD05 aへ連続する。

1~5はすべてサヌカイト製の石器である。1・2は石鏃である。1は平基式で、加工は縁



第13図 I区SD07・08断面図 (1/40)



第14図 II区SD19~23断面図(1/40)、SD19出土遺物(1/2)

辺部だけである。2は凹基式で、側縁部分が中ほどでわずかに抉れる。3の楔形石器は下部に敲打痕がある。4・5のスクレイパーは下部にわずかに刃部が作り出されている。

II区SD20(第14図)

II区d区で検出された溝状遺構である。条里型地割の南北の方向に合致しているが、わずかに

東へ向く。長さ26m、幅52~64cm、深さ7~10cm、埋土は黒褐色粘質土、断面形状は浅い皿状である。Ⅱ区南端付近でSD19と合流し、Ⅲ区SD05aへ連続すると考えられる。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期は条里型地割施工以前のものと考えられる。

### Ⅱ区SD21 (第14図)

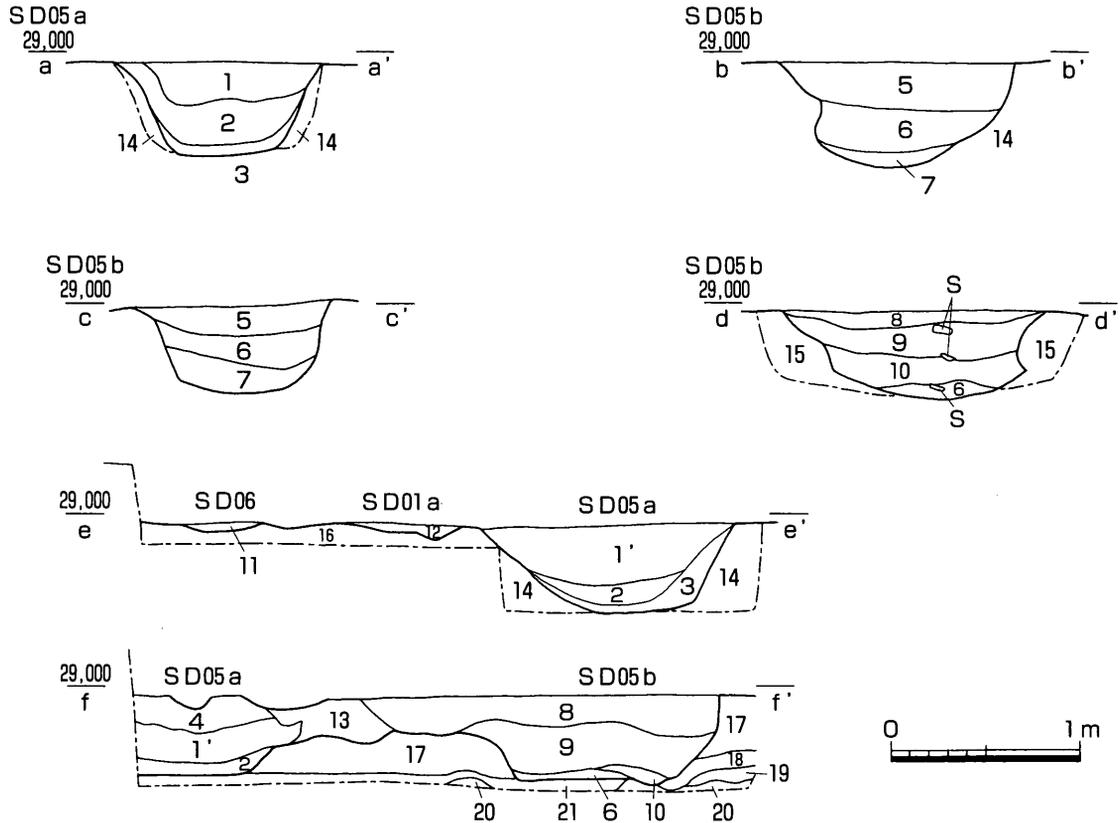
Ⅱc区で検出された東西方向の溝状遺構である。長さ7.5m、幅24~40cm、深さ4~7cmである。埋土中からの遺物はなく、遺構の時期は不明であるが、Ⅱ区SD01との重複関係から、これより古いことがわかる。

### Ⅱ区SD22 (第14図)

Ⅱc区北部で検出された、南西から北東への方向性を示す溝状遺構である。長さ2.8m、幅36cm、深さ3~8cmである。埋土中からの遺物はないが、Ⅱ区SD01との重複関係や方向性から、条里型地割施工以前のものと考えられる。

### Ⅱ区SD23 (第14図)

Ⅱc区北部で検出された南西から北東への方向性を示す溝状遺構である。長さ1.3m、幅15cm、深さ5cmである。



- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1 黒褐色混細砂粘質土(10YR2/2) φ 5cm以下の礫含  | 11 灰黄色粘質土(10YR4/2)                           |
| 1' 黒褐色混細砂粘質土(10YR2/2)            | 12 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/2)                      |
| 2 黒色粘質土(10YR2/1)                 | 13 暗褐色粘質土(10YR3/4)+褐灰色粘質土(10YR4/1)           |
| 3 黒褐色混細砂粘質土(10YR3/1)             | 14 黒褐色混粗砂粘質土(10YR3/1)礫、粗砂多量に含 ベース            |
| 4 暗オリーブ褐色混細砂粘質土(10YR3/3)         | 15 黄灰色粗砂質土(2.5Y4/1)礫多量に含                     |
| 5 黒褐色混細砂粘質土(10YR3/1) φ 10cm以下の礫含 | 16 褐色混シルト粘質土(10YR4/6)+褐灰色混シルト粘質土(10YR4/1)ベース |
| 6 黒色混細砂粘質土(10YR2/1)礫含            | 17 黄灰色粗砂質土(2.5Y4/1)礫多量に含                     |
| 7 黒色粘質土(10YR1.7/1)               | 18 黒褐色粗砂質土(2.5Y3/1)                          |
| 8 黒褐色混細砂粘質土(10YR3/2)             | 19 黒褐色細砂質土(2.5Y3/2)                          |
| 9 暗褐色混シルト粘質土(10YR3/3)            | 20 褐色混シルト粘質土(10YR4/6)ベース                     |
| 10 黒褐色粘質土(10YR3/1)               | 21 暗褐色細砂質土(10YR3/3)                          |

第15図 Ⅲ区SD05a・b断面図 (1/40)

埋土中からの遺物がないため、遺構の時期は不明であるが、SD22と概ね同時期と考えられる。

### Ⅲ区SD05a・b (第15図)

Ⅲa区で検出された溝状遺構である。Ⅲa区南西隅から調査区内へ入り、北東へ2.5m向った後にSD01とほぼ平行に流れるSD05aと、北東へ向うSD05bの二股に分かれる。流路方向は南から北方向である。

SD05aは長さ29m、幅112~125cm、深さ49~54cm、断面形状は逆台形で、埋土は黒褐色混細砂粘質土、黒色粘質土等である。二股に分かれた後、Ⅲa区の中央部でⅢ区SD01の約4.3m東側の位置でほぼ平行に流れ、Ⅱ区SD19・20へ続くと考えられる。埋土中からは遺物は出土しなかった。

SD05bは二股に分かれた後、北東方向へ17.5m流れ、条里型地割の北方向へ屈曲し、12.8m北側で再び北東方向へ屈曲して調査区外へ延びる。条里型地割と同じ方向を示す部分はⅢ区SD01の約16.3m東側に当たる。長さ25.2m、幅100~140cm、深さ45~55cm、断面形状は逆台形であるが、屈曲部では内側で抉れている。埋土はSD05aと概ね同じである。埋土中からは出土遺物はなかった。

### Ⅳ区SD15 (第16図)

Ⅳa区で検出された溝状遺構である、南東方向から北西方向へ流れる。長さ9.4m、幅118cm、深さ24cm、浅い皿状を呈し、埋土は黒褐色粘質土、黒褐色シルトである。溝状遺構の重複関係から、Ⅳ区SD02・03・12より古い。埋土中からは著しく摩滅した弥生土器底部が出土した。

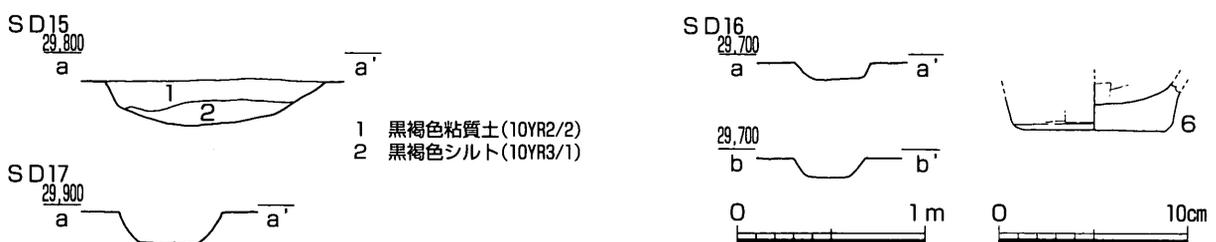
6は弥生土器の甕底部である。平底のしっかりした形態で、古い様相を示す。摩滅が著しい。

### Ⅳ区SD16 (第16図)

Ⅳa区で検出された溝状遺構である。南東方向から北西方向へ流れる。長さ5.3m、幅40cm、深さ10cmである。溝状遺構の方向はSD15とほぼ同じで、Ⅳ区SD02・03・05の下部で検出された。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期はSD15と同じと考えられる。

### Ⅳ区SD17 (第16図)

Ⅳb区中央西端部分で検出された、南西から北東方向への方向性を示す溝状遺構である。南西側は調査区外へ延び、北東側はⅣ区SX05のために消失する。長さ1.5m、幅52cm、深さ14cmである。埋土中からの出土遺物はないが、溝状遺構の方向性や重複関係から古代以前の溝状遺構と考えられる。



第16図 Ⅳ区SD15~17断面図 (1/40)、SD15出土遺物 (1/4)

## IV区SD18

IV b区中央西端部分で検出された、南西から北東方向への方向性を示す溝状遺構である。南西側は調査区外へ延び、北東側はIV区SX05のために消失する。幅77cmを測る。埋土中からの出土遺物はないが、溝状遺構の方向性や重複関係から古代以前の溝状遺構と考えられる。

### (2) 古代～中世の遺構・遺物

検出された遺構の大部分は溝状遺構である。条里型地割と同方向の溝状遺構で、近世まで下らないものをこの時期の溝状遺構とした。調査対象地の西側に南北方向の坪界線が、I—II区間に三十二坪と二十九坪、II—III区間に二十九坪と二十坪、IV区の北側に二十坪と十七坪の坪界線がそれぞれ想定される。出土遺物は乏しいが、北側を中心に6世紀代～9世紀代の須恵器が出土していることから、この頃までさかのぼる可能性も考えられる。同じ溝状遺構と考えられるものでも、北側では古代の須恵器しか出土しない溝状遺構が、南側の区画では中世の遺物が出土することから、機能した時期に区画ごとに時期差があるとも考えられる。古代の須恵器が混入か否かは明らかではない。

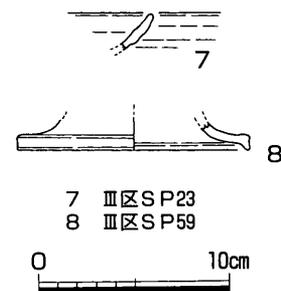
その他、柱穴跡がI区～IV区に亘って検出されている。埋土や出土遺物からこの時期のものと考えられるものもあるが、掘立柱建物跡を復元するには至らなかった。

I区は五条七里三十二坪に位置する。I区西側は三十坪との、南側は二十九坪との坪界線が想定される。

II区は五条七里二十九坪に位置する。西側は二十九坪と三十坪の、南側では二十九坪と二十坪の坪界線が想定される。

III区は五条七里二十坪に位置する。西側は二十坪と十九坪の坪界線が想定される。南側には十七坪が想定されるが、III区南端から坪界線までは約25mの距離がある。

IV区は五条七里十七坪に位置する。IV区の西側は七里と八里の坪界線が、IV区の北側では七里と二十里の坪界線が、IV区南側では七里と八里の坪界線が想定される。



第17図 III区ピット出土遺物(1/4)

#### ①柱穴跡(第17図)

出土遺物のあるIII d区SP23とSP59を掲載した。

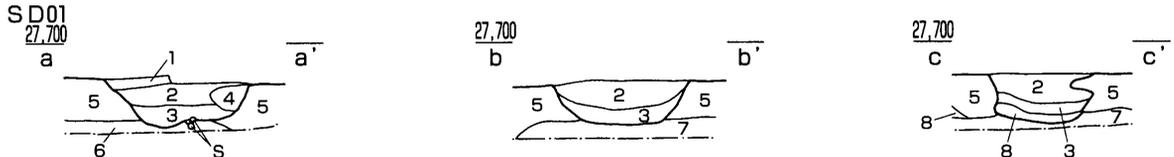
III d区SP23は円形で直径28cm、深さ20cm、埋土は暗灰黄色混シルト粘質土である。7は土師質土器杯小片である。13世紀代と考えられる。

III d区SP59は円形で直径30cm、深さ31cm、埋土は暗灰黄色シルトである。8は須恵器高杯の小片である。7世紀代頃と考えられる。

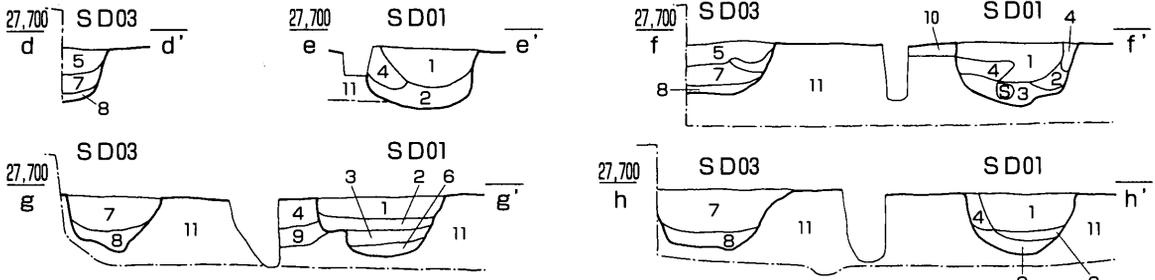
#### ②溝状遺構

##### I区SD01(第18・19図)

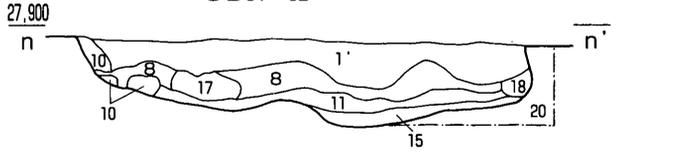
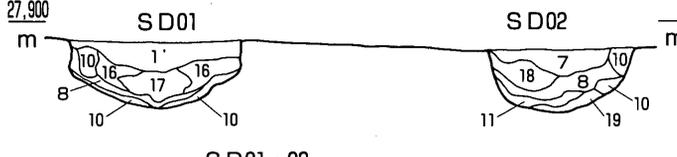
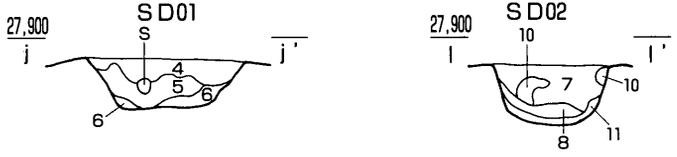
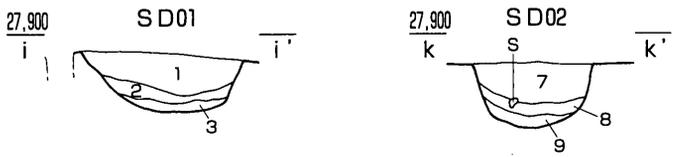
三十二坪と三十一坪の境界付近で検出された南北方向の溝状遺構である。二十九坪まで延長し、II区SD01へ続くと考えられる。I区で長さ63.1m、幅56～108cm、深さ22～40cm、断面形状は逆台形、埋土は暗灰黄色細砂混シルト、暗灰黄色混シルト粘質土、明黄褐色細砂混粘質土等で、南から北へ傾斜している。I b区とI c区の境界でSD02と分岐するが、I区南端付近



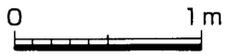
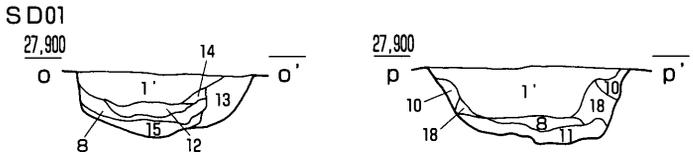
- 1 にぶい黄色(2.5Y6/2)+2
- 2 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
- 3 黄灰色粘質土(2.5Y5/1)
- 4 2+5
- 5 明黄褐色シルト(10YR6/8)+褐灰色シルト(10YR6/1)ベース
- 6 灰色混細砂粘質土(5Y5/1)φ10cm以下の礫多く含
- 7 灰色混細砂粘質土(5Y5/1)φ3cm以下の礫多く含
- 8 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y5/1)



- 1 明黄褐色混細砂粘質土(2.5Y6/8)Mn含+黄灰色混細砂粘質土(2.5Y5/2)Mn含
- 2 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y5/2)
- 3 灰黄褐色混細砂粘質土(10YR5/2)
- 4 1+ベースブロック(明黄褐色(10YR6/8))
- 5 黄褐色シルト(10YR5/8)+黄灰色粘質土(2.5Y6/1)
- 6 3+φ2cm程度の礫含
- 7 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y5/2)Mn含
- 8 黄褐色混細砂粘質土(2.5Y5/3)
- 9 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- 10 1よりやや暗い(溝又は暗渠の埋め戻しか?)
- 11 ベース 明黄褐色混細砂粘質土(10YR6/8)



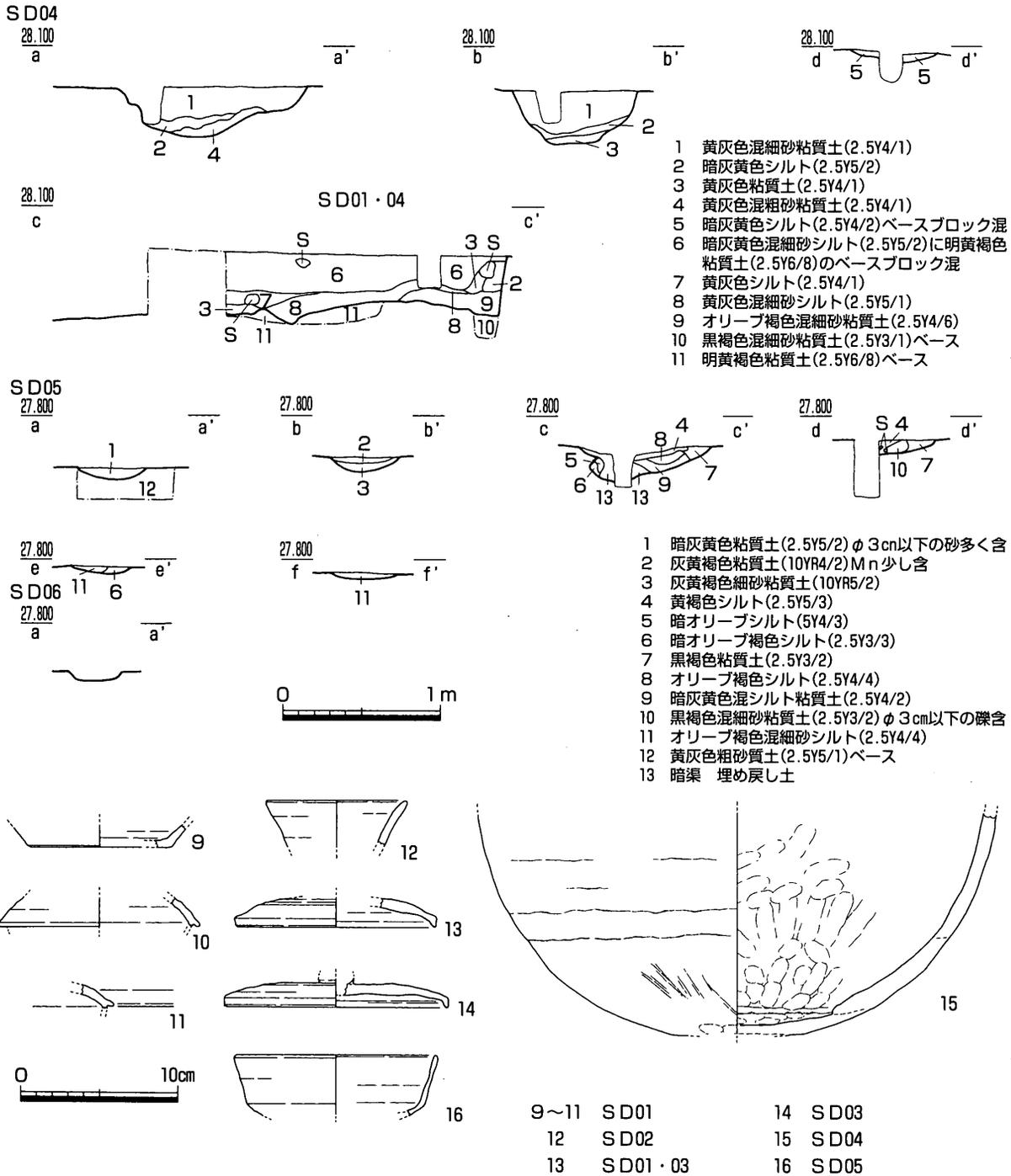
- 1 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y5/2)に明黄褐色粘質土(2.5Y6/8)のベースブロック混φ3cm以下の礫含
- 1' 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y5/2)に明黄褐色粘質土(2.5Y6/8)のベースブロック混
- 2 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1)+φ3cm以下の礫含
- 3 オリーブ黒色(5Y3/2)+φ3cm以下の礫含
- 4 黄灰色混粗砂粘質土(2.5Y4/1)+黄褐色混粗砂粘質土(10YR5/8)φ20cmの礫含
- 5 黒褐色混細砂粘質土(2.5Y3/1)
- 6 オリーブ黒色粗砂(5Y3/2)φ15cm以下の礫含
- 7 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y5/2)+明黄褐色粘質土(2.5Y6/8)ベースブロック
- 8 黄灰色シルト(2.5Y4/1)
- 9 黄灰色混粗砂シルト(2.5Y4/1)
- 10 ベースブロック
- 11 黄灰色混粗砂シルト(2.5Y5/1)
- 12 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- 13 明黄褐色混シルト粘質土(2.5Y6/8)
- 14 12+13
- 15 黄灰色細砂粘質土(2.5Y4/1)φ5cm以下の礫少し含
- 16 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y5/1)
- 17 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
- 18 黄灰色混細砂シルト(2.5Y5/1)
- 19 褐色混粗砂粘質土(10YR4/6)φ5cm以下の礫少し含
- 20 明黄褐色粘質土(2.5Y6/8)ベース



- 1 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1)
- 2 黄灰色細砂粘質土(2.5Y5/1)
- 3 褐灰色混細砂粘質土(10YR4/1)φ5cm以下の礫多く含
- 4 黄灰色混粗砂粘質土(2.5Y4/1)φ2cm以下の礫多く含 ベース

第18図 I区SD01~03断面図 (1/40)

で再びSD01と合流する。両者は最終的には同時期に埋没したようである。I区南端部でSD04と合流する。土層からはSD04が先に埋没したようであるが、SD01（北側部分）はSD04より南へは延びず、同時期に機能していたと考えられる。西側約1mの位置でほぼ平行してSD03が検出されており、I区南西付近で合流する。土層観察による前後関係は不明で、埋土の類似性から同時期に機能していたと考えられる。埋土上層部分にはベースブロックを含んでおり、最終的には人為的に埋め戻されたようである。埋土中からは須恵器杯・蓋小片、土師器小片が出土した。



第19図 I区SD04~06断面図(1/40)、SD01~05出土遺物(1/4)

9～11は須恵器である。9は杯の底部小片である。9世紀代である。10・11は杯蓋小片である。口縁端部に返りが付く。7世紀代である。

遺構の時期は9世紀代と考えられる。

#### I区SD02（第18・19図）

I b区とI c区の境界付近でSD01と分岐する溝状遺構である。I区南西隅部分で再びSD01と合流する。長さ15.8m、幅60～70cm、深さ32～35cm、埋土は暗灰黄色細砂混シルト+明黄褐色粘質土、黄灰色シルト等で、断面形状は逆台形である。SD01との最長間隔は2.2mである。埋土中からは須恵器壺片、土師器片が出土した。

12は須恵器平瓶の口縁部である。7世紀代である。

遺構の時期はSD01と同時併存すると考えられることからSD01と同じ9世紀代から始まると考えられる。

#### I区SD03（第18・19図）

三十二坪と三十一坪の境界付近で検出された南北方向の溝状遺構である。二十九坪まで延長し、II区SD03と連続すると考えられる。SD01の約1m西側を流れ、南から10.8mの位置で、SD01が西へやや屈曲するのに合わせて西へ屈曲する。I c区の北端付近で途切れるようであるが、I b区では検出されている。長さ45.3m、幅52～72cm、深さ26～32cm、埋土は暗灰黄色細砂混シルト、黄灰色細砂混粘質土等、断面形状は半円形～逆台形で、南から北へ傾斜している。I区南西隅付近でSD01・04と接しており、前後関係は不明確であるが、埋土や出土遺物の類似性から概ね同時並存であったと考えられる。埋土中からは須恵器が出土した。

13・14は須恵器蓋で、13はSD01出土品との接合資料である。ともに頂部をヘラ削りし、ゴマ状降灰や自然釉が掛かる。8～9世紀代である。

遺構の時期は、出土遺物とSD01との関連から9世紀代から始まると考えられる。

#### I区SD04（第19図）

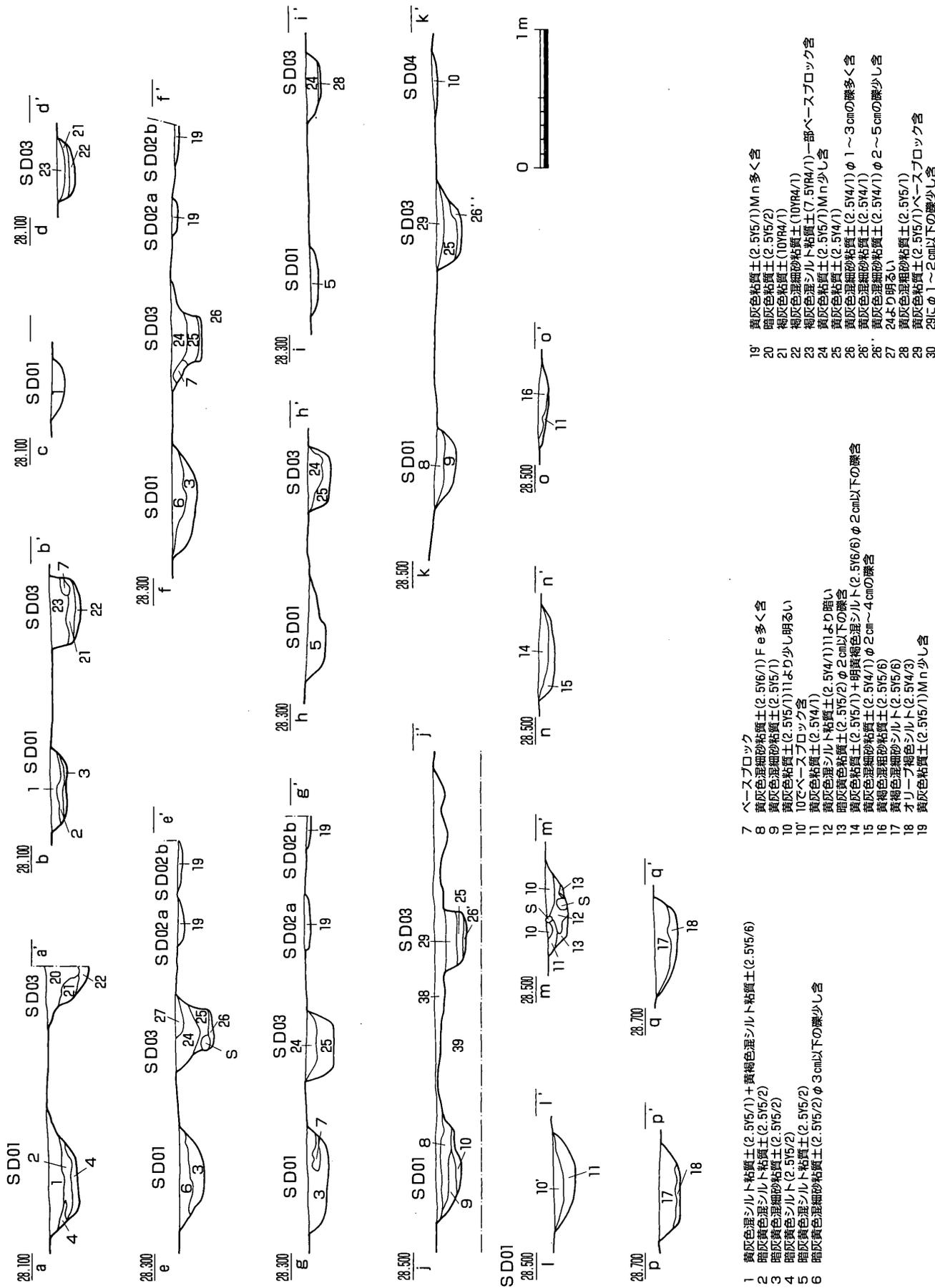
三十二坪と二十九坪の境界で検出された東西方向の溝状遺構である。長さは16m、幅80～120cm、深さは概ね32～36cm、埋土は黄灰色細砂混粘質土、暗灰黄色シルト等、断面形状は半円形～逆台形で、東から西へ傾斜する。I区南西隅でSD03と合流するよう見えるが、SD01・02の北側とSD04が合流する部分から南側では、SD04は深さ5cmと極端に浅く、埋土もベースブロックを含んで人為的に埋め戻された状況が見られることから、SD04のこの部分はほとんど機能していなかったと考えられる。SD05と直交するが、遺構の前後関係は確認できず、同時並存であった可能性が高い。埋土中からは土師器甕片等が出土した。

15は土師器甕で、底部は丸底で、円盤充填をした痕跡が残る。

遺構の時期はSD01～03・05と同じ9世紀代から始まると思われる。

#### I区SD05（第19図）

SD01の約10.5m東側で検出された溝状遺構である。SD04と坪界付近で直交した後、II区SD12となる可能性が高い。長さ63.1m、幅38～42cm、深さ4～15cm、埋土は暗灰黄色粘質土、灰黄褐色粘質土等、断面形状は浅い皿状である。SD04との前後関係は不明であるが、同時期に機能していたと考えられる。SD04の南側ではSD05の東側約60cmの位置で溝状遺構が分岐しており、II区SD12bへ続く。SD07・08とは前後関係は不明確であるが、溝状遺構の方向



- |   |  |   |
|---|--|---|
| <p>1 黄灰色湿シルト粘質土(2.5V5/1)+黄褐色湿シルト粘質土(2.5V5/6)</p> <p>2 暗灰黄色湿シルト粘質土(2.5V5/2)</p> <p>3 暗灰黄色湿細砂粘質土(2.5V5/2)</p> <p>4 暗灰黄色シルト(2.5V5/2)</p> <p>5 暗灰黄色湿シルト粘質土(2.5V5/2)</p> <p>6 暗灰黄色湿細砂粘質土(2.5V5/2)φ3cm以下の礫少し含</p> | <p>7 ベースブロック</p> <p>8 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V6/1)Fe多く含</p> <p>9 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V5/1)</p> <p>10 黄灰色粘質土(2.5V5/1)より少し明るい</p> <p>10' 10でベースブロック含</p> <p>11 黄灰色粘質土(2.5V4/1)</p> <p>12 黄灰色湿シルト粘質土(2.5V4/1)より暗い</p> <p>13 暗灰黄色粘質土(2.5V5/2)φ2cm以下の礫含</p> <p>14 黄灰色粘質土(2.5V5/1)+明黄褐色湿シルト(2.5V6/6)φ2cm以下の礫含</p> <p>15 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V4/1)φ2cm~4cmの礫含</p> <p>16 黄褐色湿細砂粘質土(2.5V5/6)</p> <p>17 黄褐色湿シルト(2.5V4/3)</p> <p>18 オリーブ褐色シルト(2.5V4/3)</p> <p>19 黄灰色粘質土(2.5V5/1)Mn少し含</p> | <p>19' 黄灰色粘質土(2.5V5/1)Mn多く含</p> <p>20 暗灰黄色粘質土(2.5V5/2)</p> <p>21 褐灰色粘質土(10V94/1)</p> <p>22 褐灰色湿細砂粘質土(10V94/1)</p> <p>23 褐灰色湿シルト粘質土(7.5V94/1)一部ベースブロック含</p> <p>24 黄灰色粘質土(2.5V5/1)Mn少し含</p> <p>25 黄灰色粘質土(2.5V4/1)</p> <p>26 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V4/1)φ1~3cmの礫多く含</p> <p>27 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V4/1)</p> <p>28 黄灰色湿細砂粘質土(2.5V4/1)φ2~5cmの礫少し含</p> <p>29 黄灰色粘質土(2.5V5/1)ベースブロック含</p> <p>30 29にφ1~2cm以下の礫少し含</p> |
|---|--|---|

第20図 II区SD01~04断面図 (1/40)

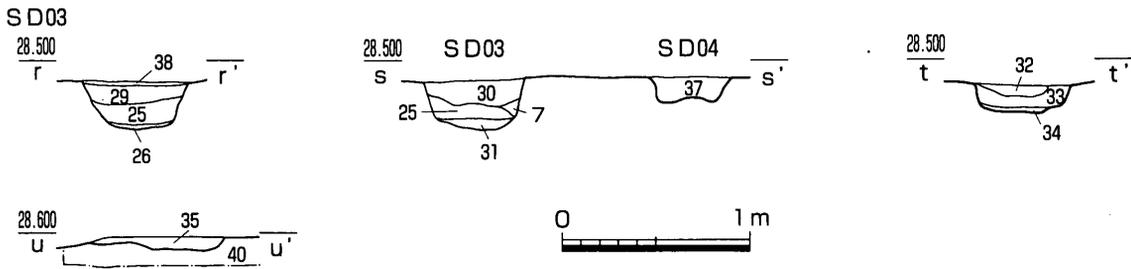
性から、SD05が新しいと考えられる。埋土中からは須恵器杯片、土師器小片が出土した。

16は須恵器杯小片である。8世紀頃である。

遺構の時期は8～9世紀代に始まり、I区SD01～04と同時期に機能していたと考えられる。

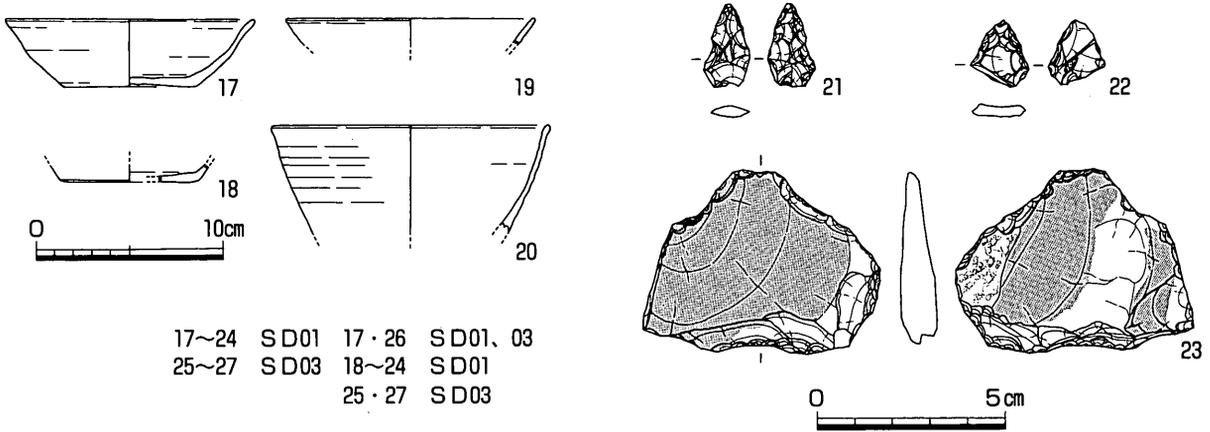
I区SD06 (第19図)

I区北端付近、坪界の溝状遺構であるSD04から約60m北側で検出された溝状遺構である。SD05から西側では断続的に検出されただけである。長さは13.6m、幅15～30cm、深さ5～7cm、断面形状は浅い皿状である。埋土中からは須恵器小片が出土した。いわゆる鋤溝の可能性もある。

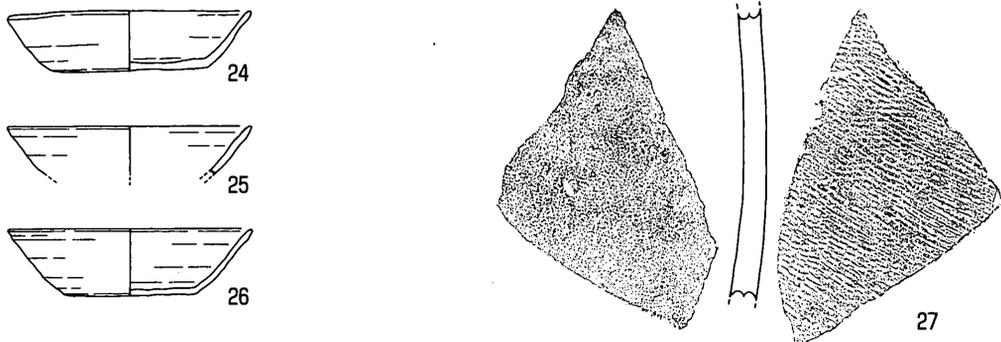


- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 31 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)φ5cm以下の礫多く含   | 36 黄灰色粘質土(2.5Y5/1)             |
| 32 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)φ3cm以下の礫少し含   | 37 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y5/1)Mn少し含     |
| 33 32より暗い                       | 38 黄灰色シルト(2.5Y6/1)Fe多く含 SX01埋土 |
| 34 黒褐色混粗砂粘質土(2.5Y3/1)           | 39 黄褐色粘質土(10YR5/8)ベース          |
| 35 黄灰色混砂粘質土(2.5Y4/1)φ3cm以下の礫多く含 | 40 黒褐色砂礫層(2.5Y3/1)φ10cm以下      |

第21図 II区SD03・04断面図 (1/40)



- |            |               |
|------------|---------------|
| 17~24 SD01 | 17・26 SD01、03 |
| 25~27 SD03 | 18~24 SD01    |
|            | 25・27 SD03    |



第22図 II区SD01・03出土遺物 (1/4・1/2)

II区SD01 (第20・21図)

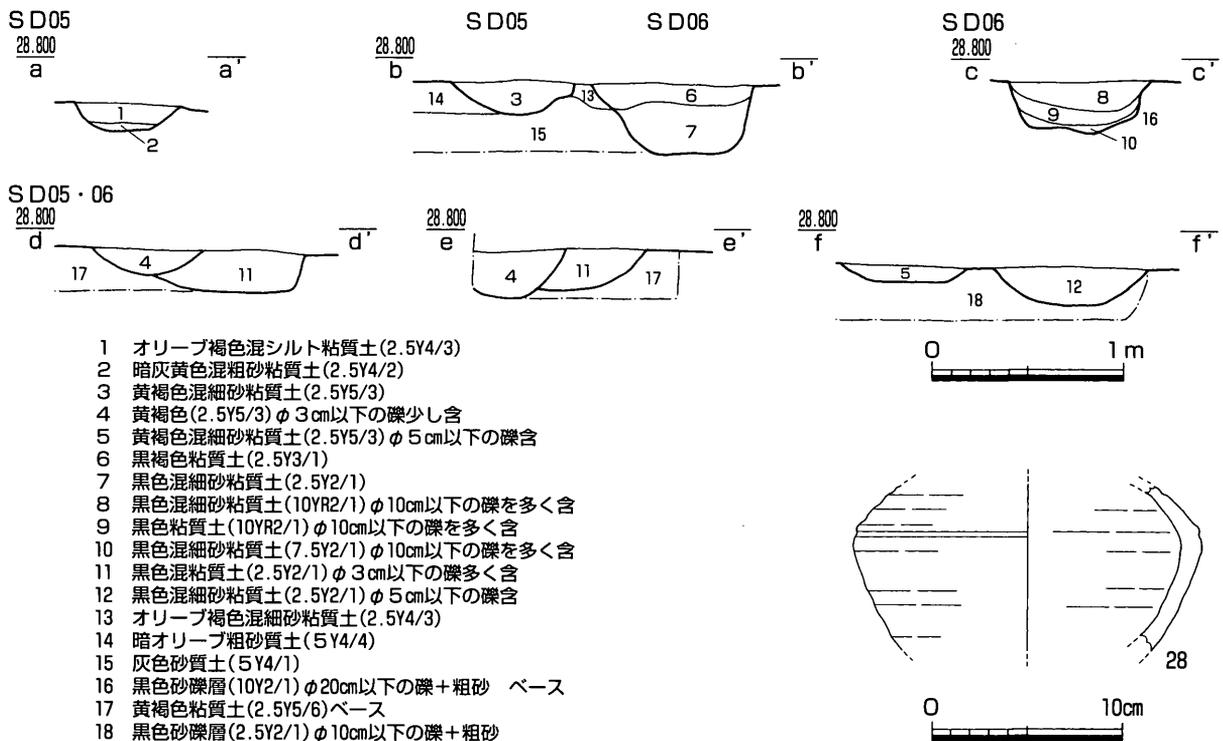
二十九坪と三十坪の境界で検出された溝状遺構である。II区だけで総延長115mが検出された。この溝状遺構はI区SD01へ続くと考えられる。三十二坪との境界付近でわずかに屈曲し、その坪界線から60～75m南側の位置で約45°の角度で南東―北西方向へ屈曲し、もとのSD01の位置から約15m東側で再び条里型地割と同じ方向に向きを変え、二十坪との坪界線付近でSD10と交差後、さらに東へ屈曲するようである。SD01が北西方向へ向きを変える位置から北側ではSD03と0.5～1.1mの間隔でほぼ平行して流れる。幅44～92cm、深さ6～22cm、埋土は黄灰色シルト混粘質土、暗灰黄色細砂混粘質土等、断面形状は逆台形～浅い皿型で、南から北へ傾斜する。埋土中からは黒色土器片、土師器杯片、須恵器杯等が出土した。遺構の重複関係からSD08・09・11・19より新しいことがわかる。

17・18は土師器杯である。17はSD03の出土遺物との接合資料である。底部は回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。口縁端部は外反させている。18は底部小片である。19・20は須恵器杯で、19は口縁部小片である。20はやや長めの体部で、口縁端部がわずかに外反する。体部には轆轤目を顕著に残す。21～23はすべてサヌカイト製の石器である。21の石鏃は下部は欠損しているが、凹基式と思われる。22は石鏃の未製品と考えられる。縁辺部の加工の痕跡が見られる。下部は欠損している。23は上部をわずかに把手状に加工し、下部はわずかに刃部が作られている。石匙の未製品と考えられる。

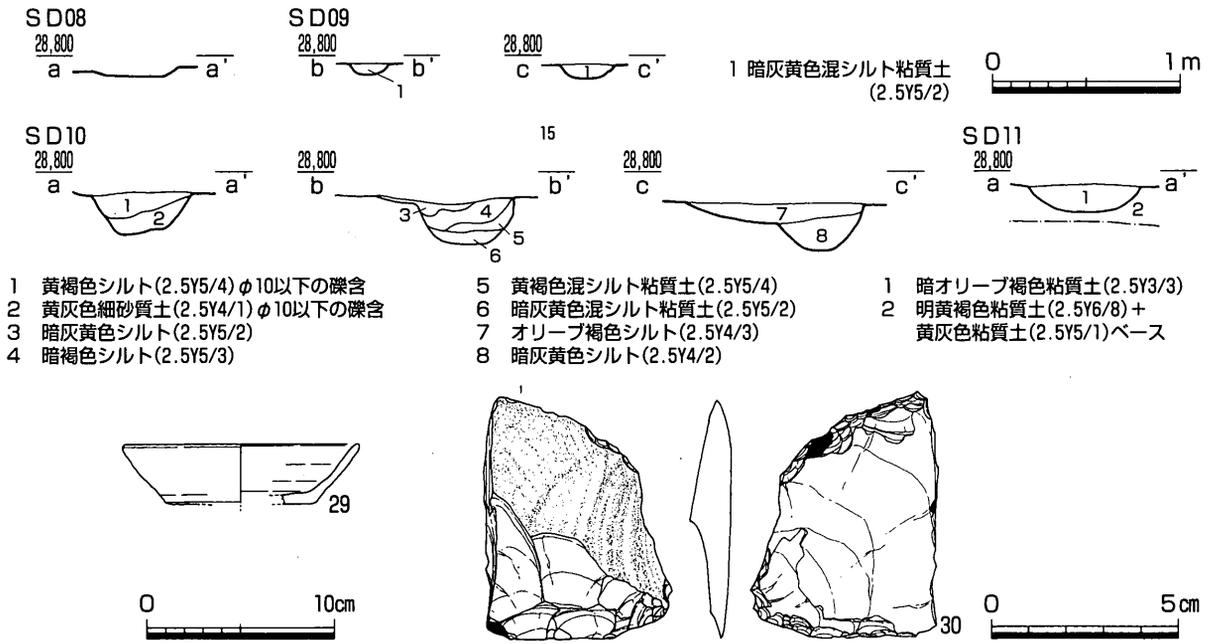
遺構の時期は、出土遺物から9世紀後半頃に始まると考えられる。

II区SD02 (第20図)

SD01の約1.5m西側、SD03の0.5m西側で検出された溝状遺構である。II区北端付近で出現し、北から3.1mの位置で二股に分かれる。長さは18.3m、幅は28～44cm、深さ4cm程度、埋



第23図 II区SD05・06断面図(1/40)、SD05出土遺物(1/4)



第24図 II区SD08～11断面図(1/40)、SD10出土遺物(1/4・1/2)

土は黄灰色粘質土、断面形状は浅い皿状である。SD04と同一の溝状遺構である可能性もある。埋土中からは出土遺物はなく、詳細な時期は不明だが、II区SD01・03等とはそれほど隔たらないと考えられる。

#### II区SD03(第20～22図)

SD01の東側0.5～1.1mの位置で検出された溝状遺構である。SD01との間隔は北側ほど狭い。長さ82.5m、幅44～80cm、深さ6～32cm、埋土は黄灰色粘質土、褐灰色混シルト粘質土等で、断面形状は逆台形である。II c区南端で消失する。SD16・17の下部で検出された。埋土中からは須恵器杯・甕片が出土した。

24～27は須恵器である。24～26は杯で、24は口縁端部に重ね焼き痕を残す。26はSD01の出土遺物との接合資料である。27は甕体部片で、外面に平行叩き痕、内面には青海波文の当て具痕が残るが、内面の当て具痕の痕跡は薄い。

遺構の時期は出土遺物から9世紀代に始まると考えられ、SD01との接合資料があることから、これと同時期に機能していたと考えられる。

#### II区SD04(第20・21図)

II c区で検出された溝状遺構である。SD03の0.5m西側を流れる。長さ16mで、II c区中央部で消失する。幅44～64cm、深さ3～11cm、埋土は黄灰色粘質土、黄灰色細砂混粘質土、断面形状は浅い皿状～逆台形である。位置関係と規模、埋土の類似性からSD02と連続する可能性がある。埋土中からは遺物は出土しなかった。

遺構の時期はSD02と同じ頃と考えられる。

#### II区SD05(第23図)

II c区～II d区で検出された溝状遺構である。二十九坪と三十坪の境界に位置し、溝状遺構の西肩はほとんどの箇所調査区外へ延びる。総延長40.3m、幅54～64cm、深さ9～24cm、埋土はオリーブ褐色混シルト粘質土、暗灰黄色混粗砂粘質土等、断面形状は皿状である。

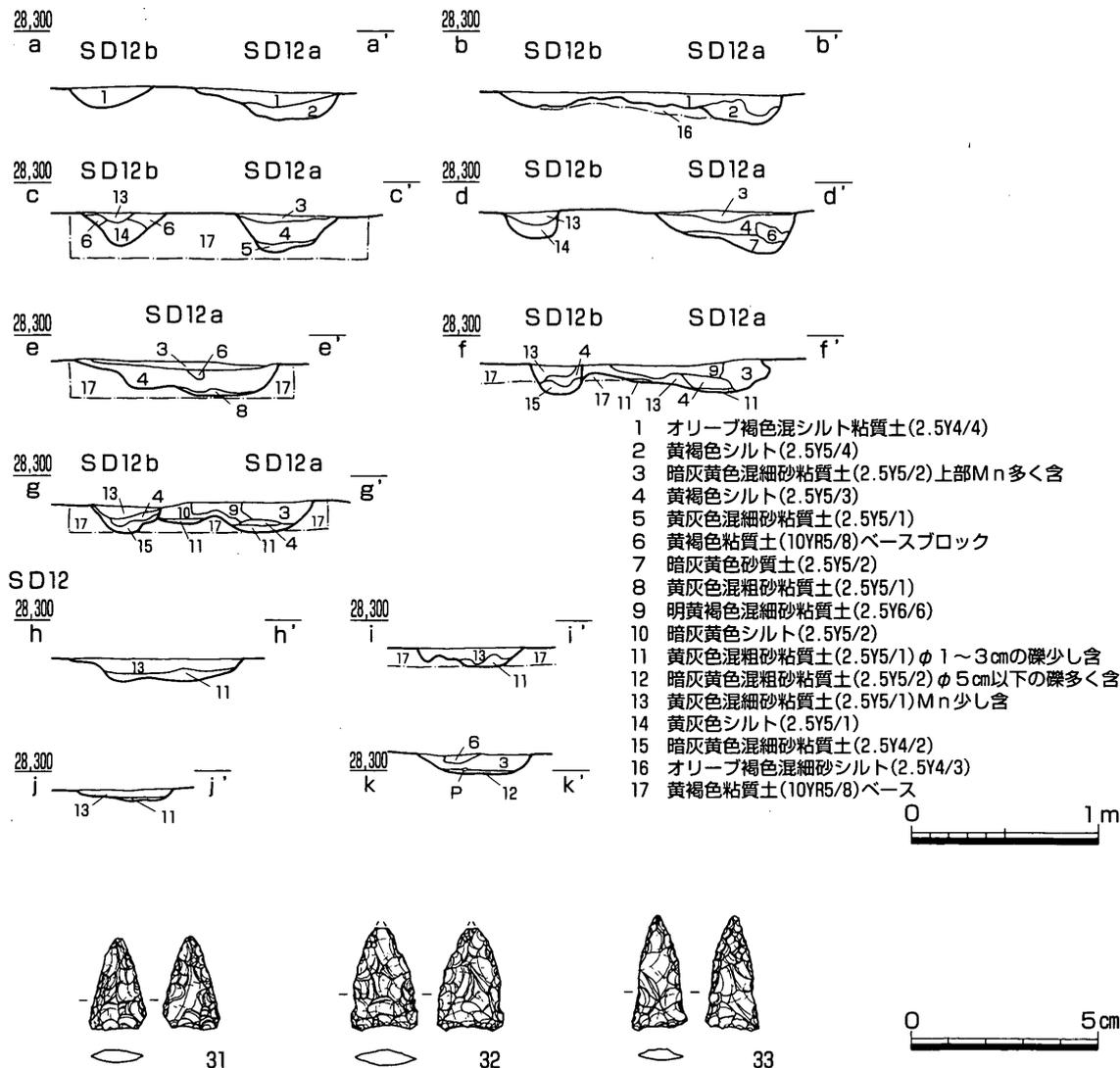
SD03の1.5m西側に位置し、Ⅱ区南端部分、二十九坪と二十坪の境界付近でSD10と合流し、さらに西へ流れる。Ⅱd区では遺構の重複関係から、SD06より新しいことがわかる。埋土中からは須恵器壺片が出土した。SD01・06・10に前後関係が認められないことから、同時並存と考えられる。

28は須恵器壺体部で、体部最大径の部分に沈線を一条巡らせ、体部下半はヘラ削りされている。7世紀代の長頸壺になるものと考えられる。

遺構の時期は、SD01・06・10と同時並存であることから、9世紀頃と考えられる。遺物は混入品と考えられる。

### Ⅱ区SD06 (第23図)

主にⅡd区で検出された溝状遺構である。二十九坪と三十坪の境界付近で検出された。SD05よりわずかに東側に位置し、Ⅱ区SD05によって西肩を壊され、Ⅱ区南端付近ではⅡ区SD10によって一部壊されている。総延長27.1m、幅74~84cm、深さ20~36cm、埋土は黒褐色粘質土、黒色混細砂粘質土、断面形状は逆台形である。埋土中からは遺物は出土しなかった。



第25図 Ⅱ区SD12断面図 (1/40)、出土遺物 (1/2)

遺構の時期は、溝状遺構の重複関係から9世紀以前と考えられる。

## II区SD07

II区北端付近、二十九坪と三十二坪の境界付近で検出された溝状遺構である。SD08との間隔は約0.6m、長さ12.6m、幅48～63cm、深さは1cm程度、断面形状は浅い皿型で、ほとんどが削平され残っていなかった。遺構の重複関係から、SD01・03・09・12より古いと考えられる。埋土中からは遺物は出土しなかった。

遺構の時期はSD08と同じである可能性が高い。

## II区SD08 (第24図)

II区北端付近、二十九坪と三十二坪の境界付近、SD07の0.6m北側で検出された溝状遺構である。長さ15.7m、幅45～65cm、深さ2cm程度、断面形状は浅い皿状である。遺構の重複関係から、SD01・03・09・12より古いと考えられる。埋土中からは遺物は出土しなかった。

SD07と同時に機能していたと思われ、遺構の時期はII区SD07と同じと考えられる。

## II区SD09 (第24図)

II区北端部分で検出された溝状遺構である。二十九坪と三十二坪の境付近、SD08より1.2m北で検出され、調査区西壁から3.4m付近で屈曲してSD07を壊している。幅20～28cm、深さ8cm、埋土は黄褐色シルト、断面形状は浅い皿状である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は明らかではないが、SD01より下部で検出されていることから、9世紀代よりは下らないと考えられる。

## II区SD10 (第24図)

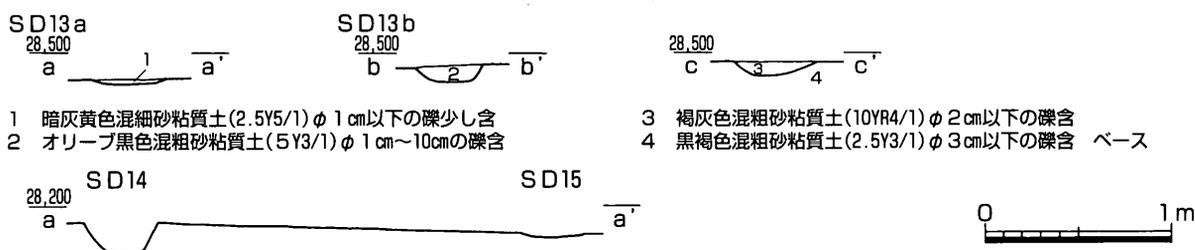
II区南端付近、二十九坪と二十坪の境界付近で検出された溝状遺構である。長さは20.6m、幅51～96cm、深さ22～24cm、埋土は黄褐色シルト、黄灰色細砂質土等で、断面形状は逆台形である。水の流は溝状遺構の底のレベルから、西から東であったことがわかる。II区南西端では、SD05と合流して西へ伸び、東側ではSD01と交差する。遺構の重複関係からSD06・19・20より新しいことがわかる。埋土中からは土師質土器杯、サヌカイト等が出土した。

29は土師質土器杯である。30はサヌカイト製のスクレイパーで、上・下部が加工されて、刃部を作り出されている。片面に自然面を残す。

29は13世紀代へ下る遺物であり、これと同時期と考えられるII区SD05・01・03、I区SD01～05は13世紀代までは継続する可能性が大きいと考えられる。

## II区SD11 (第24図)

II区南端付近、二十九坪と三十坪の境界付近で検出された溝状遺構である。長さは4.5mで、調査区の東部の一部で検出できただけである。幅は60cm、深さ14cm、埋土は暗オリーブ褐色



第26図 II区SD13～15断面図 (1/40)

粘質土、断面形状は浅い皿型である。SD10の0.3m北側で検出され、SD01より下部で検出された。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期はSD06と同じと考えられる。

### II区SD12 (第25図)

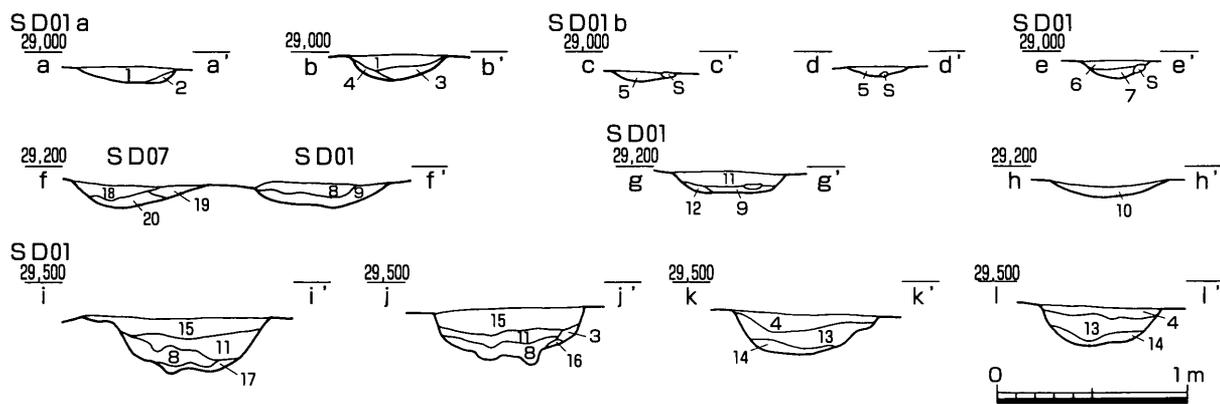
II a区からII c区中央部にかけて検出された溝状遺構である。SD01の約10m東側を流れ、SD05へ連続する可能性が高い。総延長63.1m、幅50~152cm、深さ2~20cm、埋土はオリブ褐色混シルト粘質土、黄褐色シルト等で、断面形状は二股、または浅い皿状である。II a区~II b区中央部にかけては二股状を呈し、それより南では1条となり、II c区で消失する。埋土中からはサヌカイト製石鏃が出土したが、時期を示す遺物は出土しなかった。

遺構の時期はI区SD05と同じと考えられる。

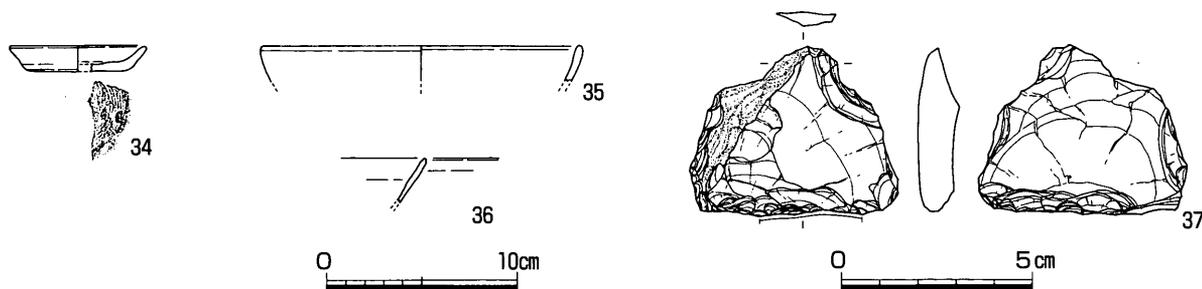
31~33はサヌカイト製の石鏃である。いずれも凹基式と考えられるが、挟りは小さい。

### II区SD13 (第26図)

II c区北半部で検出された溝状遺構である。SD01の1.4~3.1m東側で、SD01の屈曲部とほぼ平行して検出された。長さは20.5m、幅36~42cm、深さ2~9cm、埋土は暗灰黄色混細砂粘



- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y5/2)           | 15 オリブ褐色混シルト粘質土(2.5Y4/3) |
| 2 暗褐色混シルト粘質土(10YR3/4)            | 16 褐色粘質土(10YR4/6)        |
| 3 オリブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/3)           | 17 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)       |
| 4 暗オリブ褐色粘質土(2.5Y3/3)             | 18 オリブ褐色シルト(2.5Y4/3)     |
| 5 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1)             | 19 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/2)  |
| 6 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/2)           | 20 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)       |
| 7 暗褐色混シルト粘質土(10YR3/3)            |                          |
| 8 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y4/2)           |                          |
| 9 オリブ褐色シルト(2.5Y4/3)              |                          |
| 10 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1) φ10cm以下の礫含 |                          |
| 11 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)              |                          |
| 12 暗灰黄色砂礫層(2.5Y4/2) φ20cm以下 ベース  |                          |
| 14 暗オリブ褐色混シルト粘質土(2.5Y3/3)        |                          |



第27図 III区SD01・07断面図(1/40)、出土遺物(1/4・1/2)

質土、オリブ黒色混粗砂粘質土等である。水の流れは、溝状遺構の底のレベルから南東から北西方向であったと考えられる。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は埋土の類似性から、SD06・11と同時期と考えられる。

### Ⅱ区SD14（第26図）

Ⅱb区北寄りで見出された溝状遺構である。SD15の0.9m北側で、SD12の下部で見出された。長さ1.3m、幅38cm、深さ16cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期はSD15と同じで、SD12より古いことがわかる。

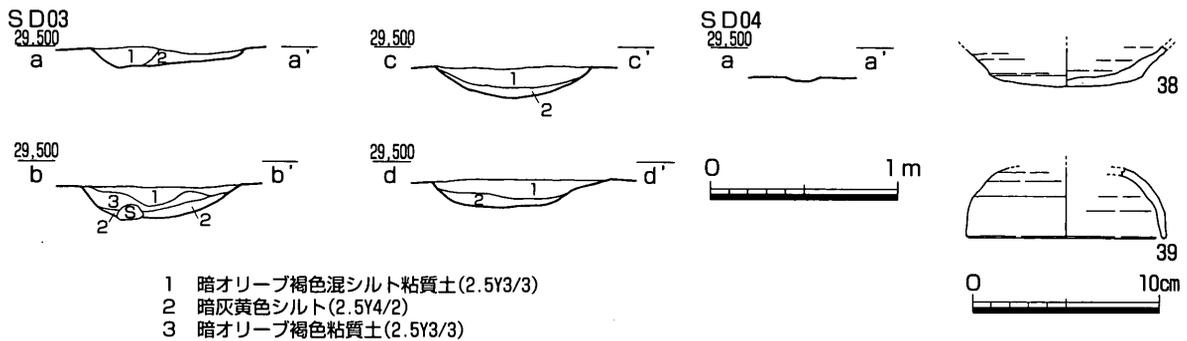
### Ⅱ区SD15（第26図）

Ⅱb区北寄りで見出された溝状遺構である。SD14の0.9m南側で、SD12の下部で見出された。長さ0.9m、幅30cm、深さは1～2cm程度で、断面形状は浅い皿型である。埋土中からは遺物は出土しなかった。

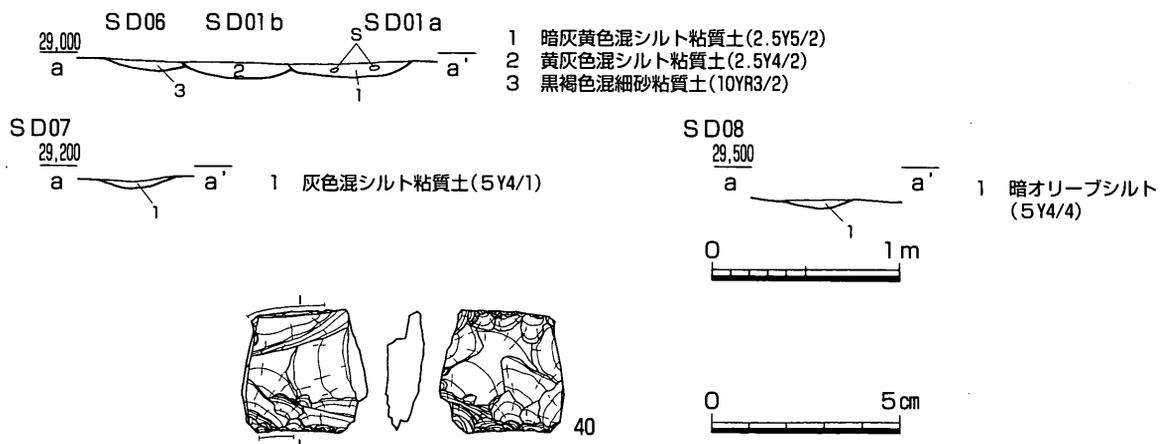
遺構の時期はSD14と同じで、SD12より古いことがわかる。

### Ⅲ区SD01（第27・29図）

Ⅲa区～Ⅲc区で見出された溝状遺構である。二十坪と十九坪の坪界線と考えられる。北端から概ね18.5mで二股に分かれる。長さはⅢ区南端から二股に分かれるまでが60.5m、総延長が79m、幅36～96cm、深さ5～30cm、断面形状は南側では逆台形で、北側ほど浅い皿型になる。埋土は暗灰黄色混シルト粘質土、暗オリブ褐色粘質土、オリブ褐色混シルト粘質土等



第28図 Ⅲ区SD03・04断面図（1/40）、SD03出土遺物（1/4）



第29図 Ⅲ区SD01・SD06～08断面図（1/40）、SD06出土遺物（1/2）

である。遺構の重複関係から、SD05～07より新しいことがわかる。埋土中からは土師質土器杯、小皿等が出土した。

遺構の時期は13世紀頃と考えられる。

34～36は土師質土器である。34は小皿で、底部は回転糸切りによる。35・36は杯小片である。37はサヌカイト製の石匙未製品と考えられる。把手部分が作り出されており、下部には敲打痕がある。

### Ⅲ区SD03（第28図）

Ⅲc区で検出された溝状遺構である。SD01の約12.1m東側で検出された。Ⅲb区より北側では検出されていない。長さ27m、幅80～90cm、深さ10～18cm、断面形状は浅い皿状で、埋土は暗オリーブ褐色シルト混粘質土、暗灰黄色シルト等である。SD08の上面で検出され、SB01の下部で検出された。埋土中からは須恵器杯身・杯蓋が出土したが、溝状遺構の方向性からSD03は条里型地割施工後の溝状遺構であり、遺物は周囲からの混入の可能性が高いと考えられる。SD03は埋土や規模の類似性からSD01と同時並存であったと考えられる。

38・39は須恵器である。38の杯身の底部には回転ヘラ削りが施されている。39は杯蓋である。いずれも6世紀代末頃と考えられる。

### Ⅲ区SD04（第28図）

Ⅲc区で検出された溝状遺構である。SD01の東側約1.0mの位置で検出された。延長4.3m、幅18cm、深さ2cm、断面形状は浅い皿状である。埋土中からの出土遺物はなかった。詳細な遺構の時期は不明であるが、溝状遺構の方向性からSD01と概ね同時期と考えられる。

### Ⅲ区SD06（第29図）

Ⅲa区南西隅で検出された溝状遺構である。Ⅲa区南西隅でSD01の下部で検出し、北西方向から北方向へ向きを変え、SD01a付近で途切れる。遺構の重複関係から、SD01より古く、SD05より新しいことがわかる。長さは7m、幅45cm、深さ5cm、断面形状は浅い皿状、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からはサヌカイト片が出土した。

40はサヌカイト製の楔形石器で、上下部に敲打痕を残す。

### Ⅲ区SD07（第27・29図）

Ⅲa区南西隅からⅢb区にかけて検出された溝状遺構である。Ⅲb区南端付近から北西方向に6.3m流れた後、調査区外で北方向へ屈曲して2m検出され、さらにSD01の下部で再度北西方向へ屈曲して10.5m検出された後、調査区外へ延びる。長さ18.8m、幅42cm、深さ4cm、断面形状は浅い皿状、埋土は灰色混シルト粘質土等である。遺構の重複関係から、SD05より新しく、SD01より古いことがわかる。埋土中からは出土遺物はなかった。

### Ⅲ区SD08（第29図）

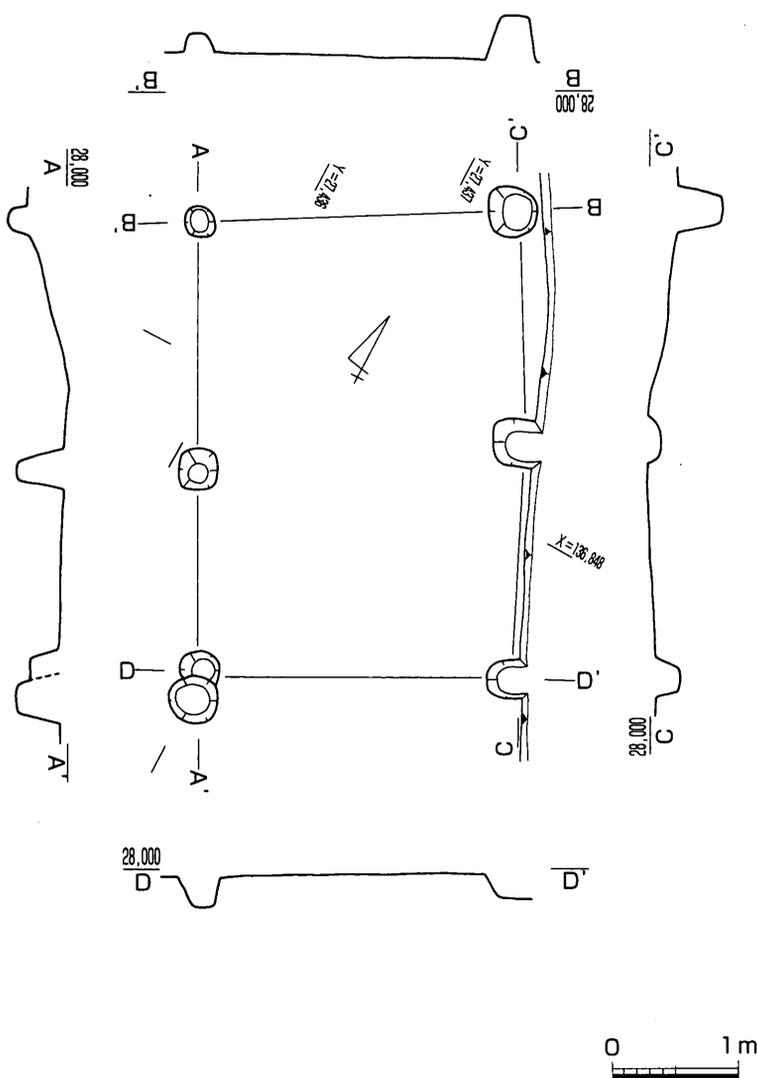
Ⅲd区で検出された東西方向の溝状遺構である。長さ6.3m、幅35cm、深さ4cm、断面形状は浅い皿状、埋土は暗オリーブシルトである。遺構の重複関係から、SD03より古いことがわかる。埋土中からは出土遺物はなかった。

(3) 近世～近代の遺構・遺物

① 掘立柱建物

Ⅱ区SB01 (第30図)

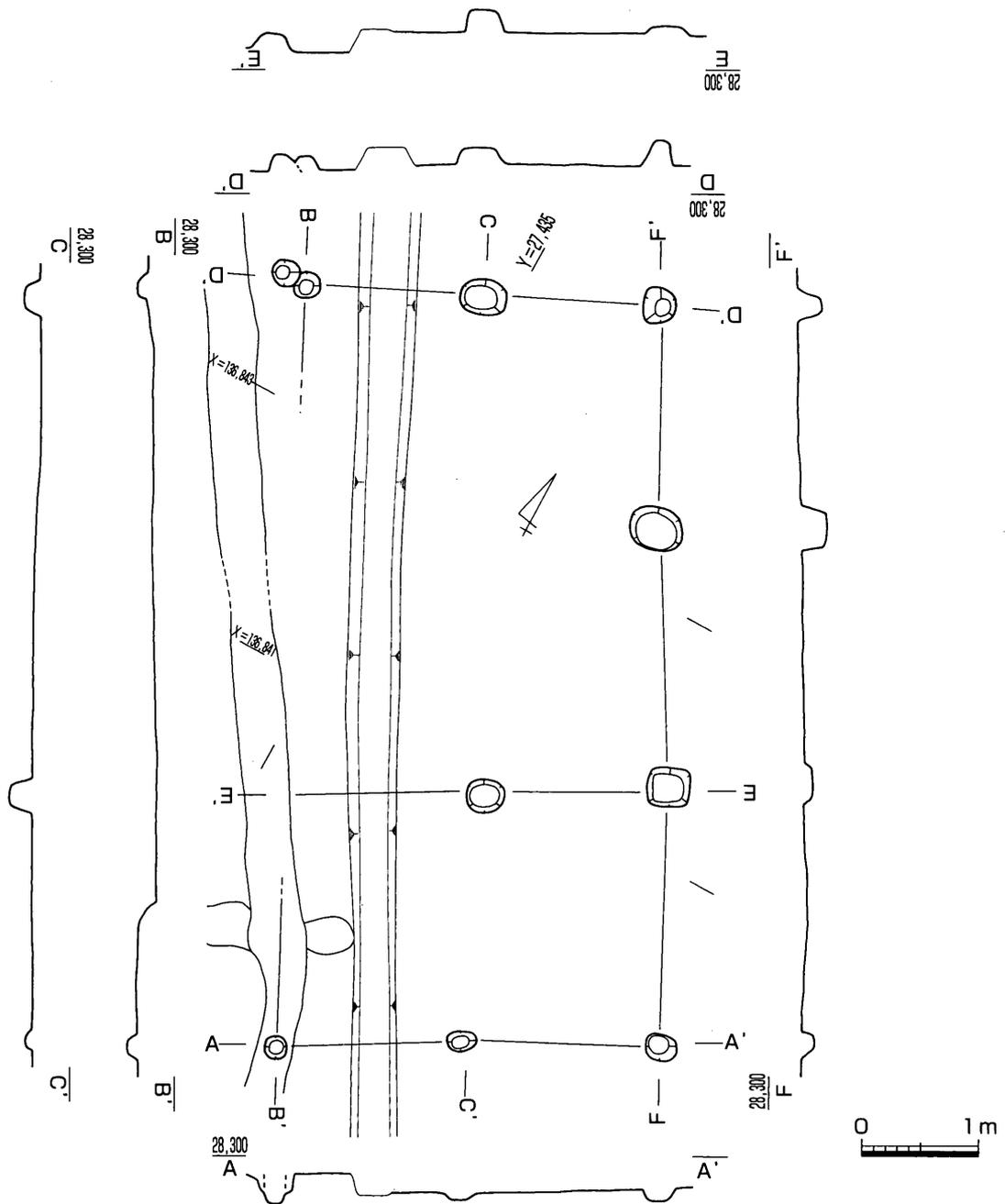
Ⅱa区とⅡb区に跨って検出された。ほぼ条里型地割の方向に沿う。桁行2間(3.6m)、梁間1間(2.5m)の南北棟で、面積は9.0㎡である。柱間は桁行が1.6~2.0m、柱穴跡は隅丸方形に近く、一辺27~39cm、深さ9.0~37.5cm、埋土は灰黄色混シルト粘質土、灰色混シルト粘質土、黄灰色シルトである。南東側の柱穴跡列はⅡ区SB02の北側の柱穴跡列と柱筋をほぼ揃える。柱穴跡の埋土中からは出土遺物はなかったが、Ⅱ区SB02と同じ時期と考えられる。



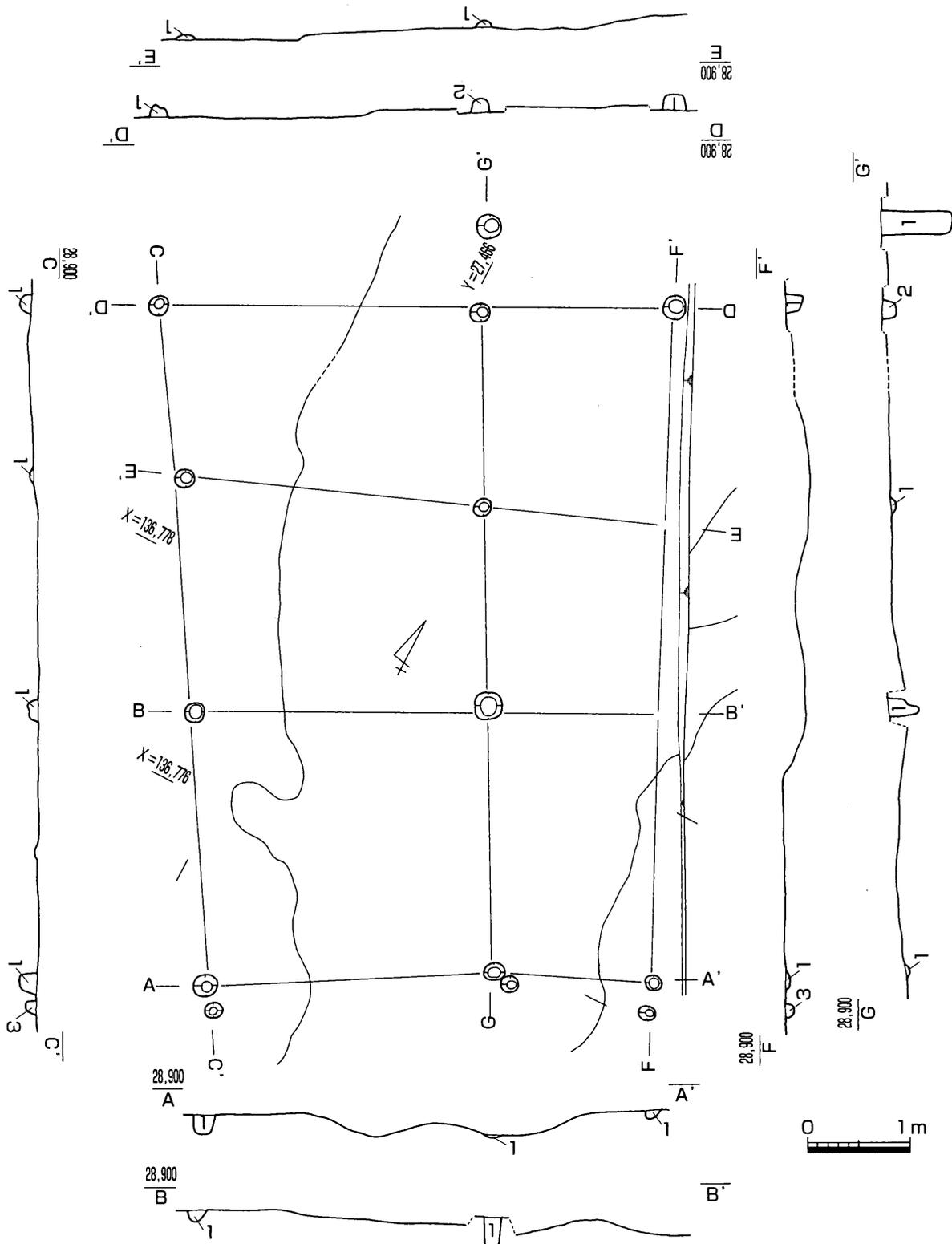
第30図 Ⅱ区SB01平・断面図 (1/60)

II区SB02 (第31図)

II b区で検出された。ほぼ条里型地割の方向に沿う。桁行3間 (6.4~6.5m)、梁間2間 (3.1~3.3m) で、面積は20.2㎡である。南東側梁間列から2間目に柱穴がある。南西側桁行の柱穴列のうち、中央部2穴は検出できなかった。SD12と重複するため、消失または見落とした可能性も考えられる。柱間は桁行が1.9~2.3m、梁間が1.5~1.7m、柱穴跡は円形または隅丸方形で、南側の柱穴跡列は直径21~24cm、その他は直径または一辺30~45cm、深さ6~21cm、埋土は灰黄色混シルト粘質土、褐灰色混細砂粘質土、褐灰色粘質土である。南側の柱穴列は規模がやや小さく、庇の可能性も考えられる。柱穴の埋土中からは出土遺物はなかったが、II区SB01との関係からこれと同じ時期と考えられる。



第31図 II区SB02平・断面図 (1/60)



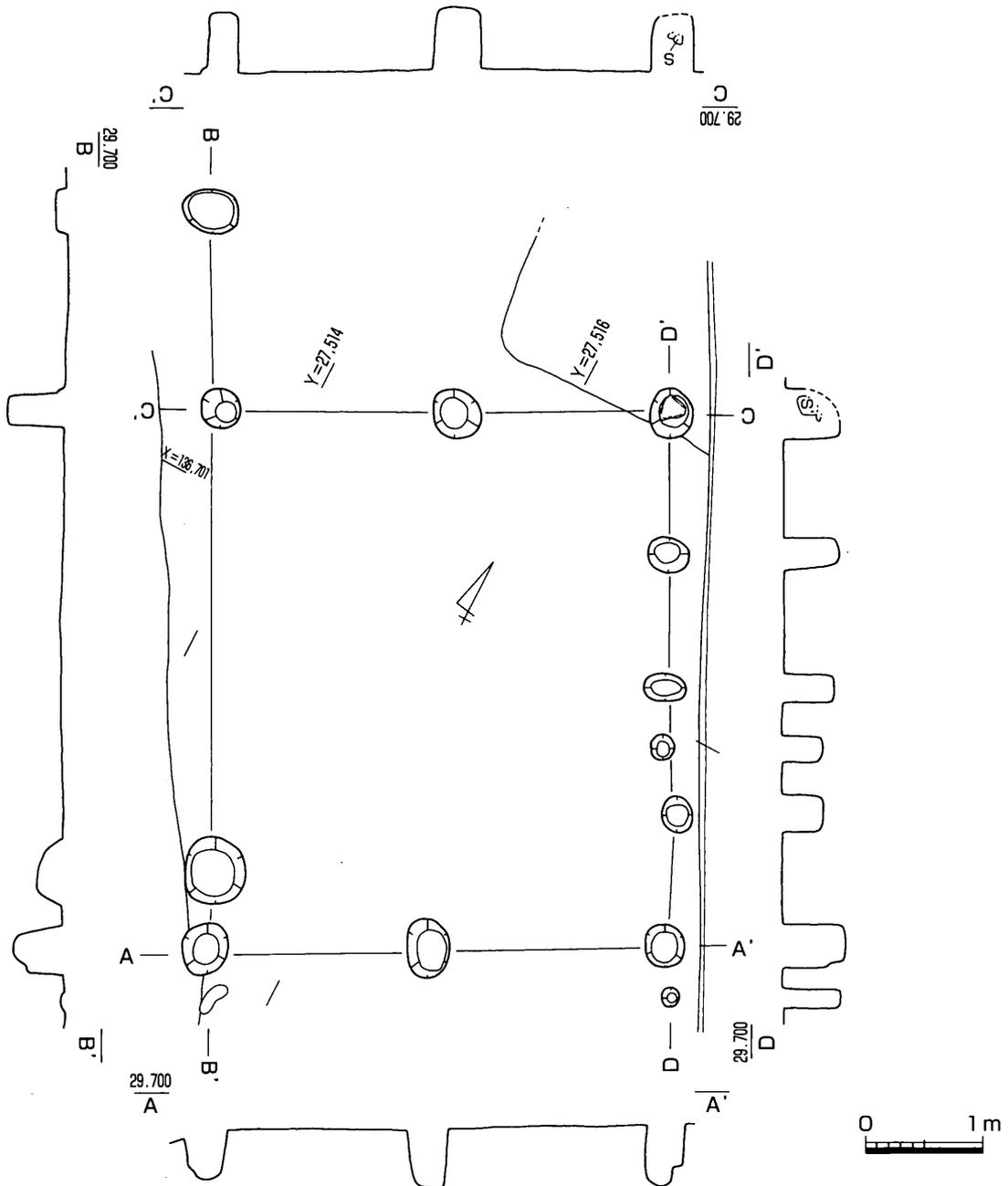
- 1 暗灰黄色混細砂粘質土(2.5Y4/2)
- 2 1に炭化物含
- 3 黒褐色混細砂粘質土(2.5Y3/2)

第32図 II区SB03平・断面図 (1/60)

Ⅱ区SB03（第32図）

Ⅱd区で検出された。ほぼ条里型地割の方向に沿う。桁行3間（6.5～6.7m）、梁間2間（4.4～5.0m）の総柱建物跡で、面積は約31.0㎡である。東側の柱穴跡列のうち2穴を欠くが、SD19との重複部分なので、見落とした可能性が高い。柱間は桁行が1.7～2.7m、梁間は西側が2.8～3.1m、東側が1.6～1.9mで、西側の柱間の方が広い。柱穴は円形で、直径が14～27cm、深さが6～30cm、埋土は暗灰黄色混細砂粘質土である。規模が小さく平面形の歪みが大きいいため、簡易な小屋であったと思われる。

Ⅲ区SB01（第33図）

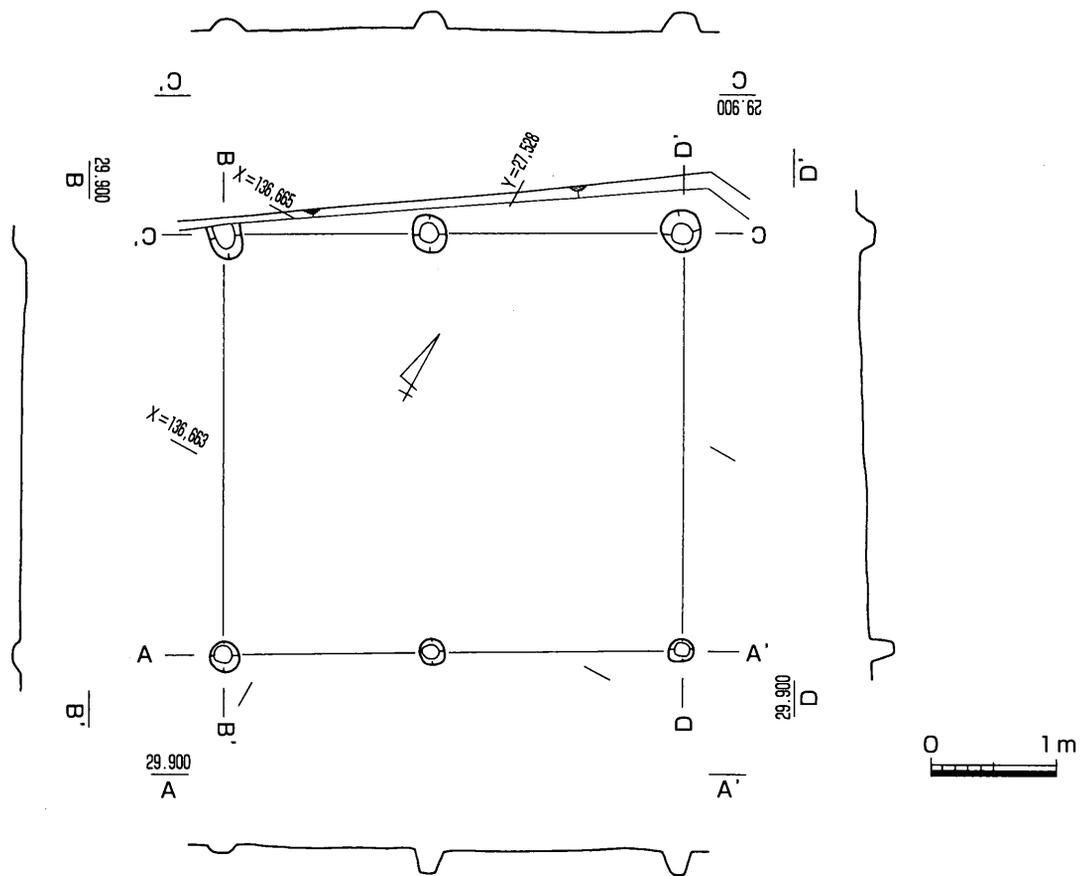


第33図 Ⅲ区SB01平・断面図（1/60）

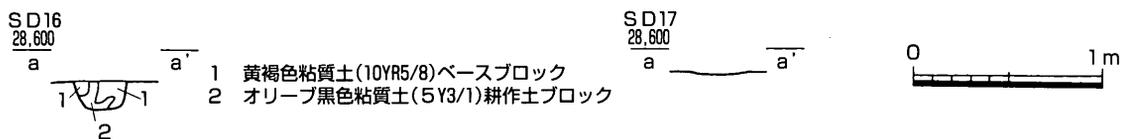
Ⅲd区で検出された。ほぼ条里型地割の方向に沿う。桁行4間(4.7m)、梁間2間(3.9m)と考えられ、面積は18.3㎡である。東側の柱列は柱穴跡が6穴検出され、西側の柱列は3穴が検出されただけであった。東側の柱列は比較的柱間間隔の揃う5穴を掘立柱建物跡に伴うものとした。柱間は東側の桁行で1.1~1.2m、梁間は1.9~2.0mである。柱穴跡は円形で直径32~50cm、深さは35~54cm、埋土は灰オリーブ色シルト、黄褐色シルトである。南西隅の柱穴跡はSD03の上面から切り込んでおり、遺構の時期はそれ以降である。

Ⅳ区SB01 (第34図)

Ⅳa区で検出された。ほぼ条里型地割の方向に沿う。桁行2間(3.7m)、梁間1間(3.3m)で、面積は12.2㎡である。柱間は桁行で南西側が1.7m、北東側が2.0m、柱穴は円形で、直径21~32cm、深さ9~20cm、埋土は褐色混細砂シルトとオリーブ黒色混細砂シルトである。北側の柱穴跡列はⅣ区SD05上面から掘り込まれており、遺構の時期はこれ以降である。



第34図 Ⅳ区SB01平・断面図 (1/60)



第35図 Ⅱ区SD16・17断面図 (1/40)

## ②溝状遺構

### Ⅱ区SD16・17 (第35図)

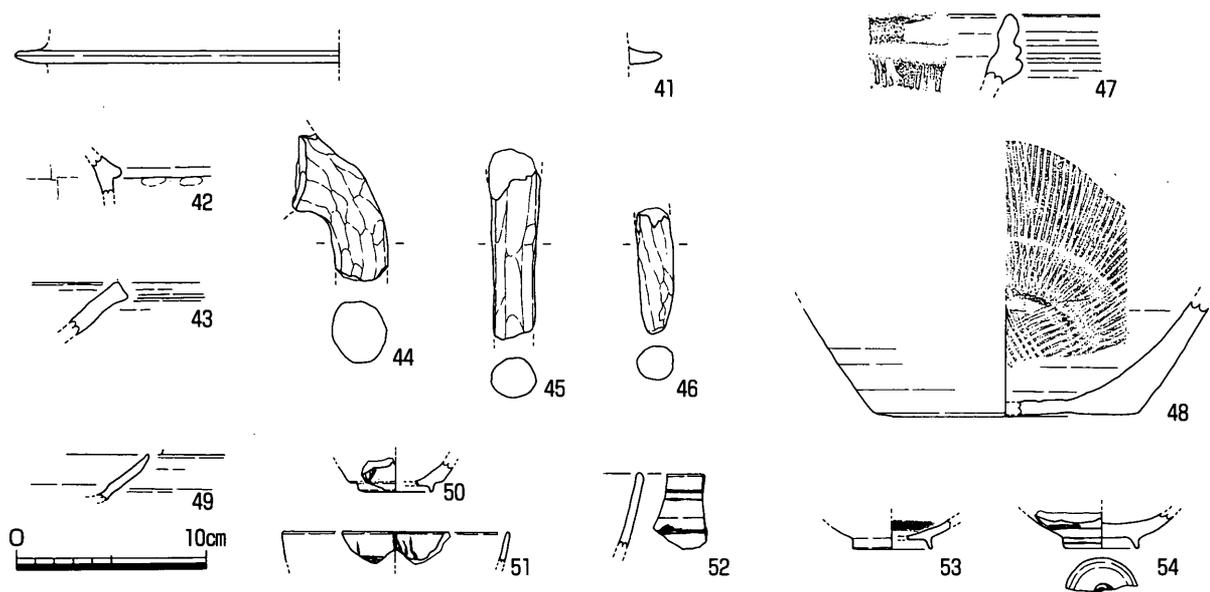
Ⅱc区西南部で検出された溝状遺構である。条里型地割に沿う東西方向の溝状遺構で、約2mの間隔がある。SD16は長さ6.5m、幅28cm、深さ15cm、断面形状は逆台形、埋土にはベースブロックや耕作土ブロックが含まれ、底部では礫が検出された。SD17は長さ4.5m、幅30cm、深さは1cm程度で、底部からは礫が検出された。ともにSD03の上面で検出された。埋土中からは出土遺物はなかったが、SD16の埋土と、ともに遺構の底部から礫が検出されたことから、近世以降の暗渠排水施設と考えられる。

### Ⅲ区SD02 (第36・37図)

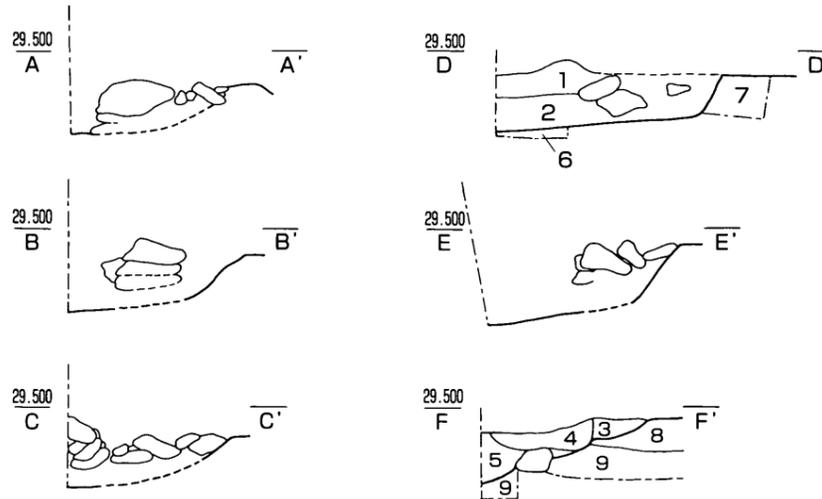
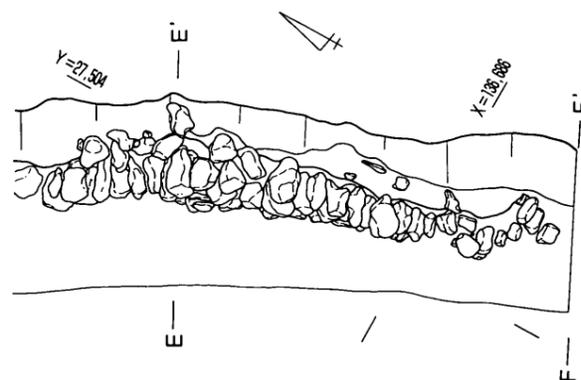
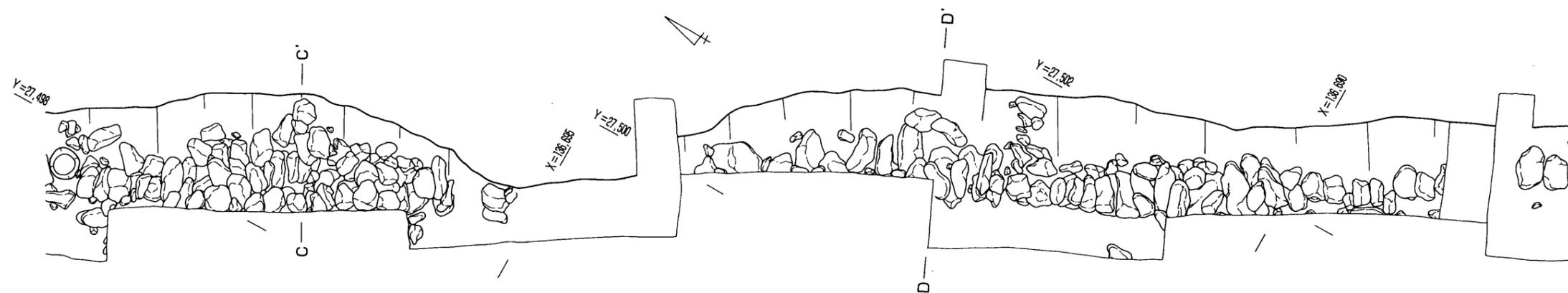
Ⅲc区で検出された溝状遺構である。Ⅲc区北端部分で西側へ屈曲し、調査区外へ延びる。二十坪と十九坪の坪界線と考えられる。SD01より0.85m西側で検出された。長さ26.5m、幅120cm以上、深さ30cm、断面形状は逆台形、埋土は暗灰黄色混シルト粘質土、黄灰色粘質土、オリブ黒色粘質土等である。溝状遺構の法面は川原石を積み上げて護岸していた。埋土中からは土師質土器足釜、摺鉢、陶磁器類が出土した。

41～46は土師質土器である。41は羽釜鐔部片、42は足釜体部である。43は焙烙口縁部で、外面には炭化物が付着する。19世紀末頃まで下ると思われる。44～46は足釜脚部である。47～52は陶器である。47・48は備前焼摺鉢で、48は体部を回転ナデで仕上げ、10条1単位の卸目を施す。18世紀前半のものである。49は肥前系皿で、護岸の裏込め石から出土した。わずかに屈曲部が残る。17世紀前半のものである。50は京・信楽焼系陶器の小杉碗底部で、底部外面は露胎、体部文様はこげ茶色に発色する。18世紀末～19世紀初頭のものである。51は刷毛目碗である。裏込め石から出土した。口縁部小片で、口径は不確かである。18世紀前半のものである。52は陶胎染付碗で、18世紀第3四半期のものである。53・54は磁器碗である。53は内面の釉は緑色に発色する。54は体部が故意に打ち欠かれて円盤状にされたものである。

出土遺物は17世紀前半頃から19世紀末頃までのものがあるが、43だけが時期は特に新しく、



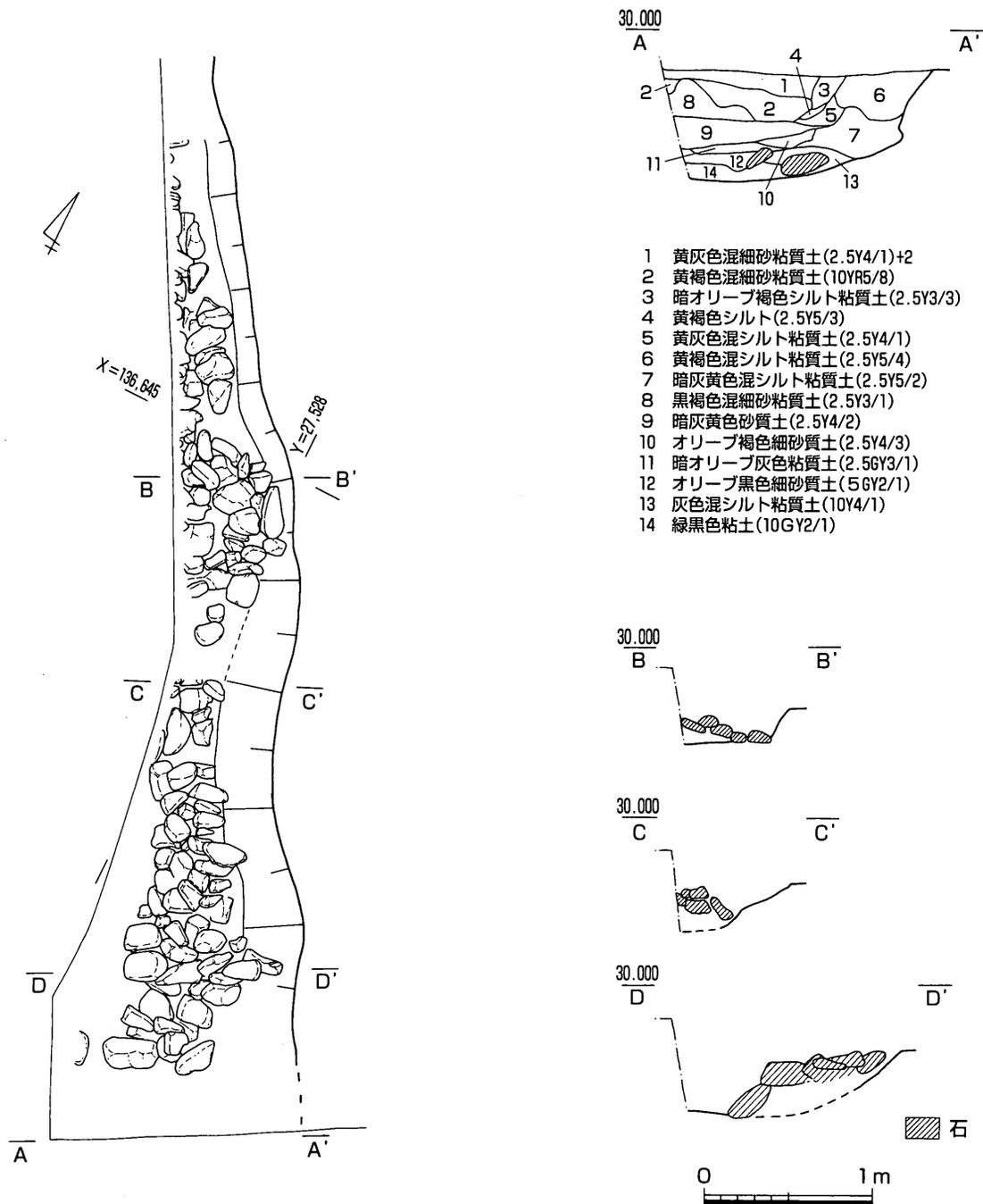
第36図 Ⅲ区SD02出土遺物 (1/4)



- 1 暗灰黄色混シルト粘質土(2.5Y5/2)
- 2 黄灰色粘質土(2.5Y4/4)
- 3 黄褐色シルト(2.5Y5/4)
- 4 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y4/2)
- 5 オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)
- 6 2+明褐色粘土(7.5YR5/8) Fe 含
- 7 黄灰色粘質土(2.5Y4/4)  
+黄褐色粘質土(10YR5/8)
- 8 黄褐色粘質土(10YR5/8)ベース
- 9 極暗褐色粘質土(7.5YR2/3)  
+黄褐色粘質土(10YR5/8)



第37図 Ⅲ区SD02検出状況平・断面図(1/40)

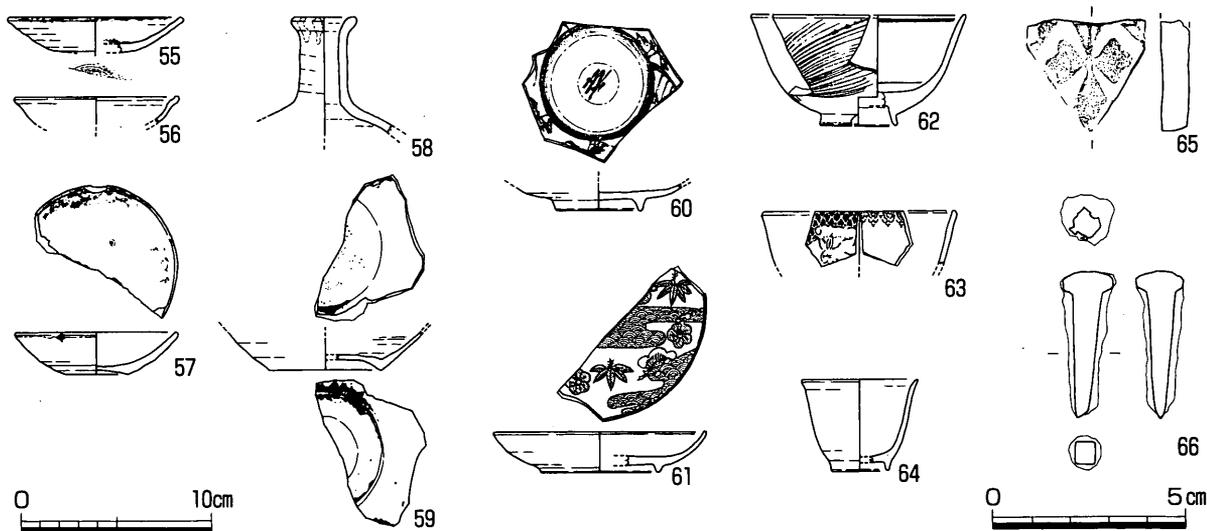


第38図 IV区SD01検出状況平・断面図 (1/40)

他の遺物は17~18世紀代を示すことから、遺構の時期は概ね17・18世紀と考えられる。なお、裏込め石内から17世紀前半頃の遺物が出土していることから、溝状遺構の開削はその頃である。

#### IV区SD01 (第38・39図)

IVa区西端付近で検出された溝状遺構である。十七坪と十八坪の坪界線と考えられる。溝状遺構の西肩は調査区外へ延びる。長さ15mであるが、南から約7mと10.5m付近で消失する。幅1.3m以上、深さ20~62cm、断面形状は逆台形、埋土は黄灰色混細砂粘質土、暗灰黄色混シルト粘質土等である。溝状遺構の南半部では川原石を積んで護岸した跡が検出された。Ⅲ区



第39図 IV区SD01出土遺物 (1/4・1/2)

SD02、IV区SD06と同一遺構の可能性が高い。埋土中からは陶磁器類が出土した。

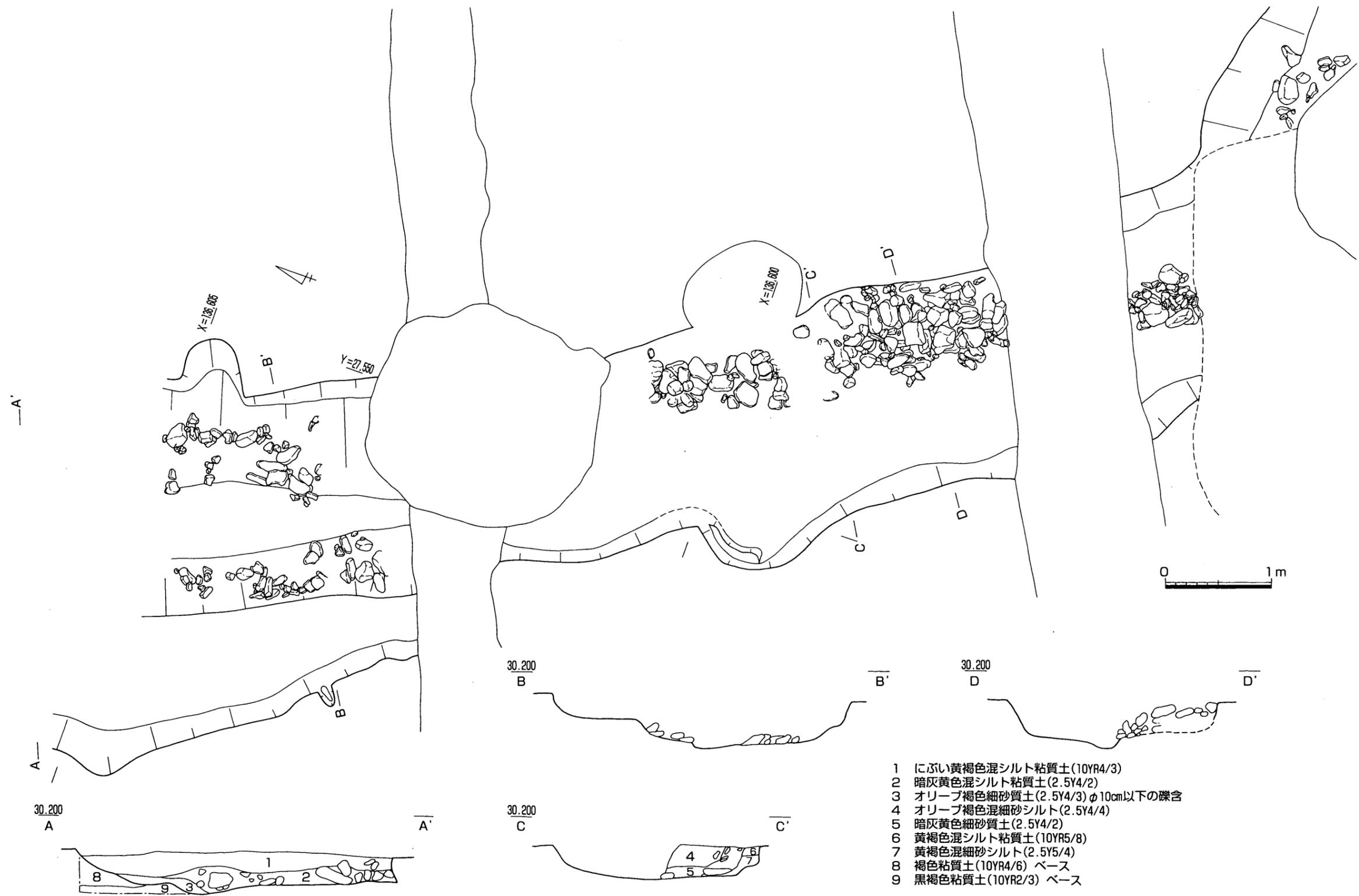
55～59は陶器である。55・57は灯明皿で、55は釉を掛けず、口縁端部に煤が付着する。底部は糸切りによる。57は口縁端部外面に煤が1ヶ所付着し、内面には釉の貫入部分全体に煤が入り込む。見込み部分には足付きハマの目痕が1ヶ所に残る。18世紀後半～19世紀前半の京・信楽系陶器である。56は皿である。58は壺口縁部で、外面は鉄釉が掛かる。大谷焼である。59は陶器底部で、内面は施釉、外面は無釉である。底部外面には一部に墨が付ける。60～64は磁器である。60・61は皿である。60には蛇の目釉剥ぎが見られる。18世紀前半頃のものである。61は口縁端部を鉄釉により茶色に着色し、内面は銅版転写により緑色で文様を付ける。明治時代以降のものである。62・63は碗である。63は型紙刷りで、明治時代以降のものである。64は小杯で、口縁端部が外反する。18世紀前半頃のものである。65は棟込瓦である。66は鉄釘である。

出土遺物の時期は18世紀代～明治時代頃であることから、遺構の存続時期も同じ頃と考えられる。

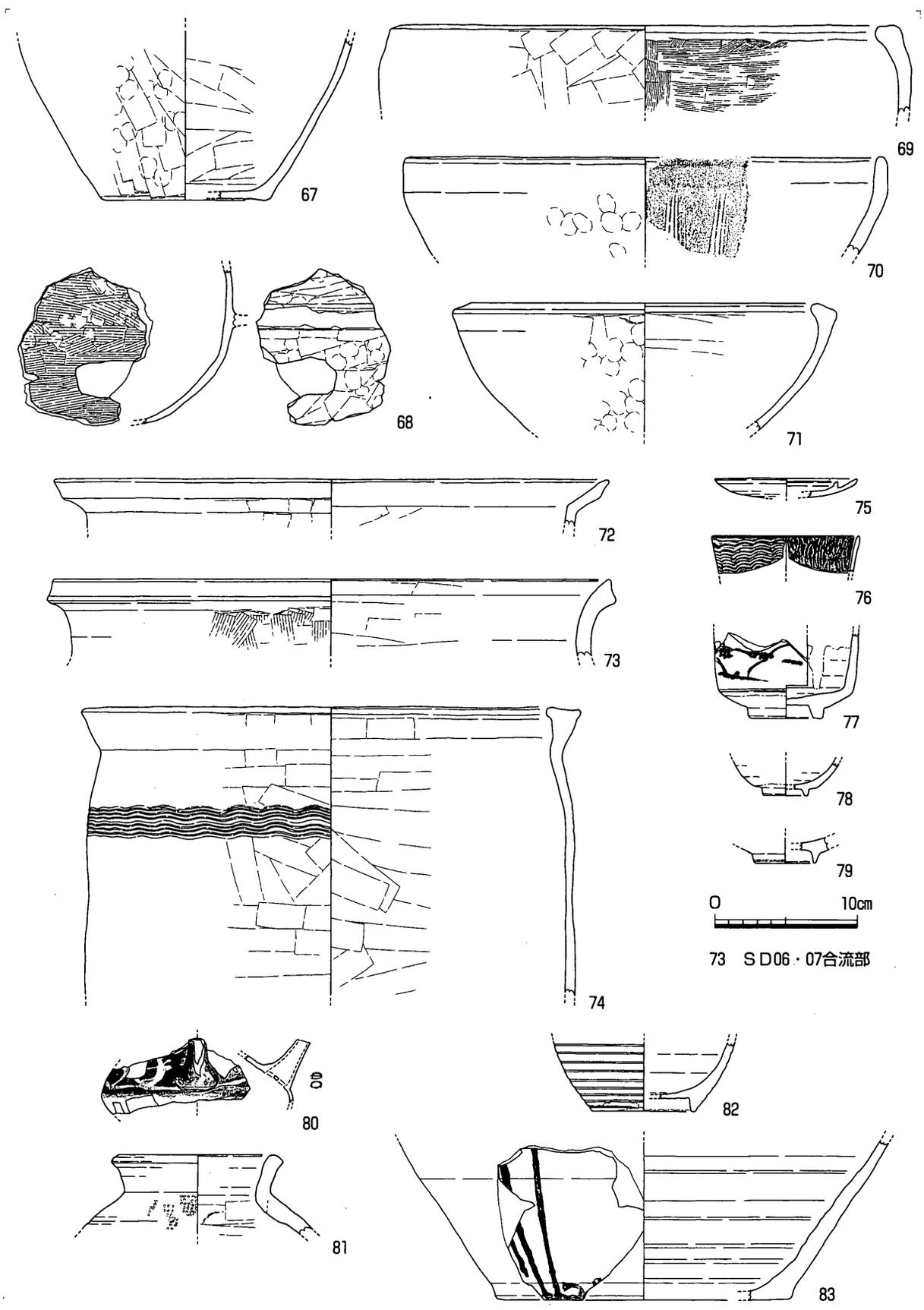
#### IV区SD06 (第40～43図)

IVb区で検出された溝状遺構である。十七坪と十八坪の坪界線に相当する。IVb区東端中央付近から北西方向へ向き、3.8mの位置で西へクランクし、さらに北へ延びる。長さ17m、幅184～284cm、深さ30～46cm、断面形状はボウル状または逆台形、埋土はオリーブ褐色混シルト粘質土、暗灰黄色細砂質土、にぶい黄褐色混シルト粘質土等である。川原石が部分的に積まれた状態で検出されたことから、護岸施設があったと考えられる。埋土中からは陶磁器が出土した。検出状況からSD13・SX07より古く、東壁の土層断面から、SD07より新しいことがわかる。この溝状遺構は、川原石の検出状況と方向性から、IV区SD01、III区SD02と同一の溝状遺構と考えられる。

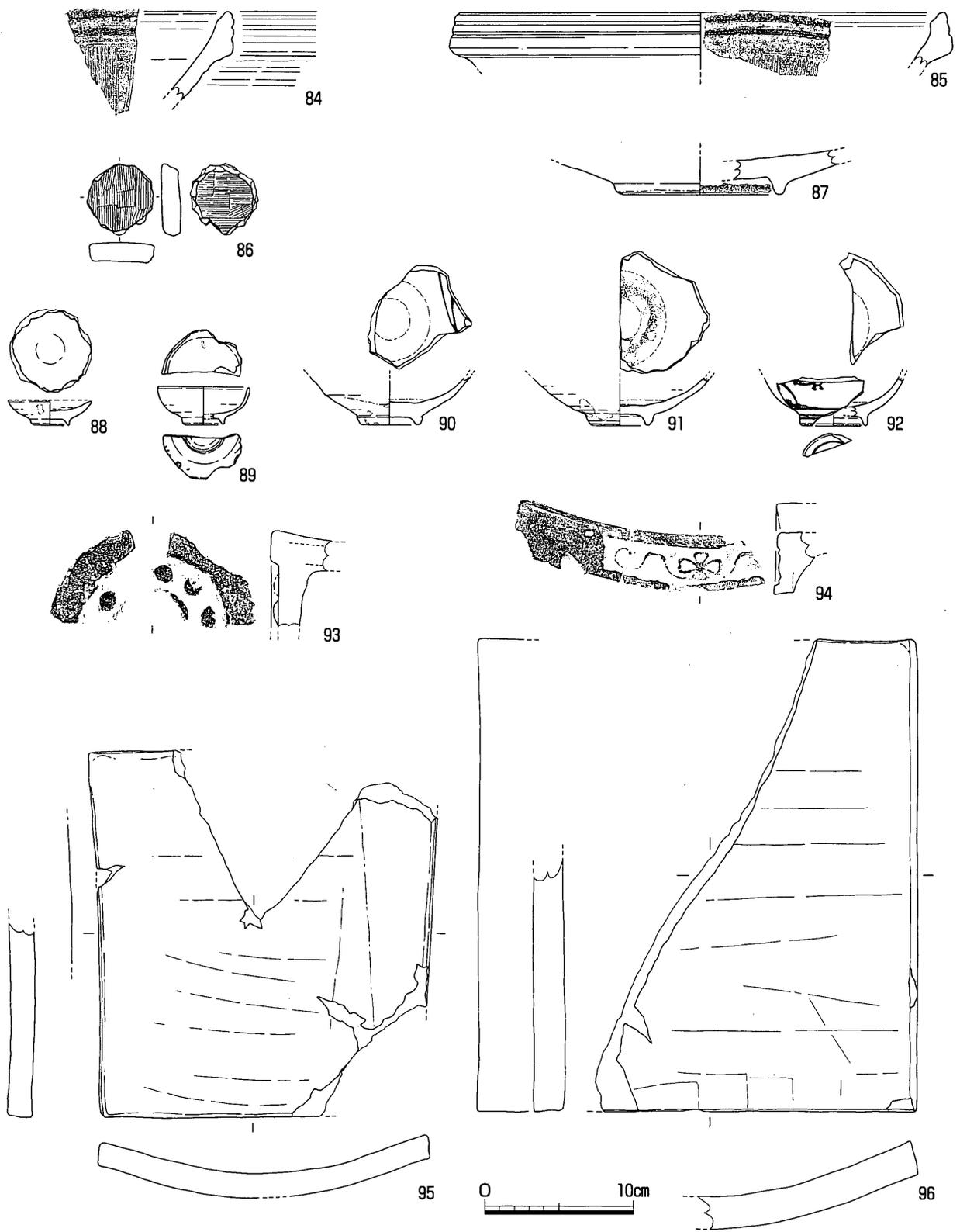
67は弥生土器甕底部で、しっかりした平底をもつ。混入品である。68～74は土師質土器である。68は羽釜で、鏝部分は剥離する。内面は刷毛、外面の鏝より下部は指押さえ痕が顕著に残る。69・71は把手付鍋で、概ね17世紀初頭～中頃のものである。70は摺鉢で、5条1単位の卸



第40図 IV区SD06検出状況平・断面図(1/40)

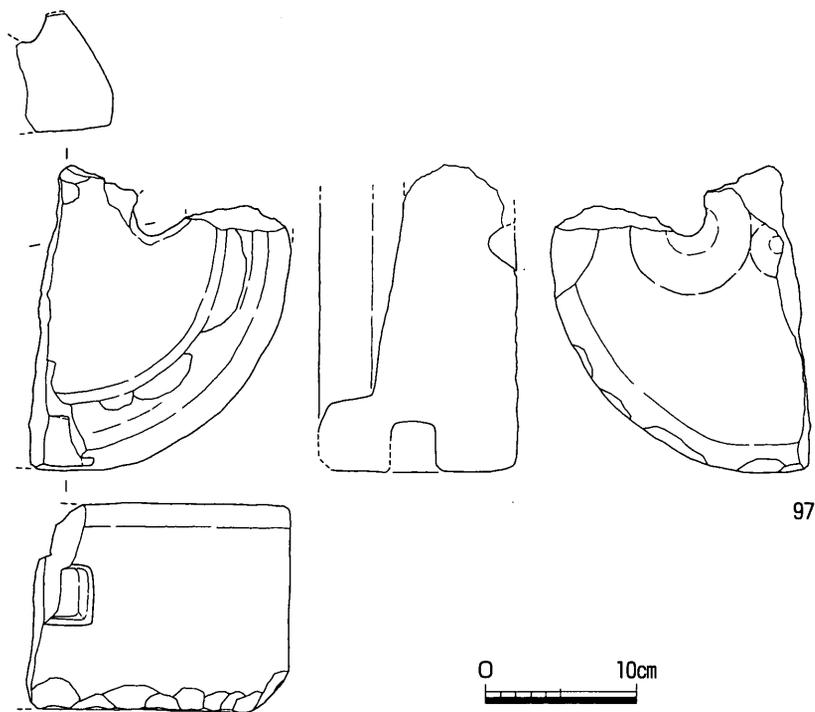


第41图 IV区SD06出土遺物 (1) (1/4)



第42图 IV区SD06出土遺物 (2) (1/4)

目を施す。17世紀中頃のものである。72は甕小片で、9世紀代のものである。73・74は甕である。73の外面形態は亀山焼の甕と類似するが、焼成は土師質である。焼成不良品と考えられる。74の体部には4条1単位の波状文が2単位残る。18世紀後半のものである。75～86は陶器である。75は備前焼灯明皿で、体部の大半はヘラ削りする。18世紀前半のものである。76は刷毛目碗で、18世紀後半のものである。77は陶胎染付の鉢で、施釉は内外面とも底部までは及ばない。78は京焼風陶器の小杉碗で、底部外面は無釉である。18世紀後半のものである。79は碗で、釉は白濁し、発色が悪い。80は土瓶で、京・信楽焼系である。イッチン描きの技法で外面に文様を施す。81は備前焼壺で、体部には格子叩き痕が残る。82は壺底部で、外面には茶色の鉄釉を施した後、黒色の釉を流し掛ける。底部外面にはハナレ砂の痕跡が認められる。83は甕底部で、内面には轆轤目が顕著に残り、外面には鉄釉が施され、その上からさらに濃い鉄釉が流し掛けされる。84・85は備前焼摺鉢で、85には口縁端部下端部に重ね焼きの溶着痕が見られる。卸目は8条1単位である。18世紀前半頃のものである。86は備前焼体部片で、円形に打ち欠いており、破片を転用して円盤土製品としたものであろう。87～92は磁器である。87は皿で、高台内側にはハナレ砂が付着する。全体に磨滅が著しい。88は紅皿で、口縁端部はすべて打ち欠いており、転用品の可能性もあるかもしれない。89は小杯である。90～92は碗で、いずれも内面には蛇の目釉剥ぎがあり、90・91は外面の施釉は高台の上部までに留まる。91は釉剥部分と高台部内面にハナレ砂が付着する。92は外面に梅と思われる文様を描く。93～96は瓦である。93は軒丸瓦で、左回りの巴文がある。珠文は12個程度である。瓦当部にはハナレ砂が使用されている。94は軒平瓦で、均整唐草文で中心飾りにやや長めの唐草が両側に1本ずつ延びる。鏝部分には接合粘土を多く足す。95・96は平瓦である。95は凹面に丸瓦を乗せたためと思われる色調の変化が見られる。96は95に比べて大型である。97は石白の上白片である。上部に



第43図 IV区SD06出土遺物 (3) (1/5)

は穀物を入れる孔が、側縁には把手を挿入する孔が、下部には軸受けの孔がある。角礫凝灰岩製である

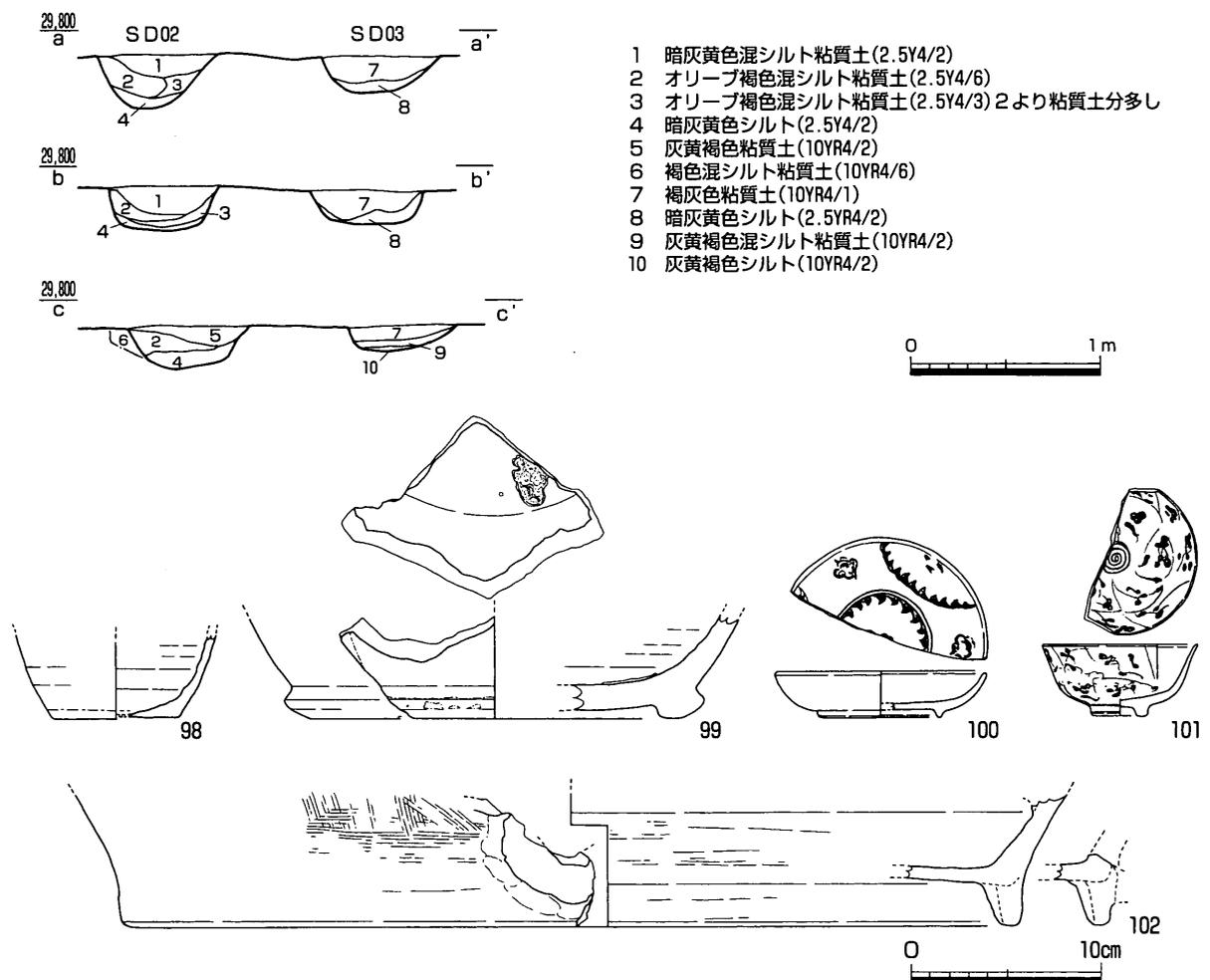
出土遺物は弥生土器を除けば、17~18世紀代のものがあるが、遺構の時期の中心は出土遺物の多い18世紀前半頃と考えられる。

IV区SD02 (第44図)

IVa区で検出された溝状遺構である。SD01の1.8m東側、SD03の0.5m西側で検出された。長さ20.8m、幅56~62cm、深さ22~28cm、断面形状は逆台形~ボウル状、埋土は暗灰黄色混シルト粘質土、オリーブ褐色混シルト粘質土等である。遺構の重複関係から、SD05・12より古く、SD15・16より新しいことがわかる。埋土中からは出土遺物はなかったが、陶磁器類が出土したSD03との関係が深いと考えられることから、遺構の時期は近世以降であろう。

IV区SD03 (第44図)

IVa区で検出された溝状遺構である。SD01の2.9m東側、SD02の0.5m東側に位置する。長さ21.2m、幅55~62cm、深さ14~18cm、断面形状は逆台形、埋土は褐灰色粘質土、暗灰黄色シルトである。遺構の重複関係から、SD05・12より古く、SD15・16より新しいことがわかる。SD02と対になって畦道を作っていたと考えられる。埋土中からは陶磁器類が出土した。



第44図 IV区SD02・03断面図 (1/40)、SD03出土遺物 (1/4)

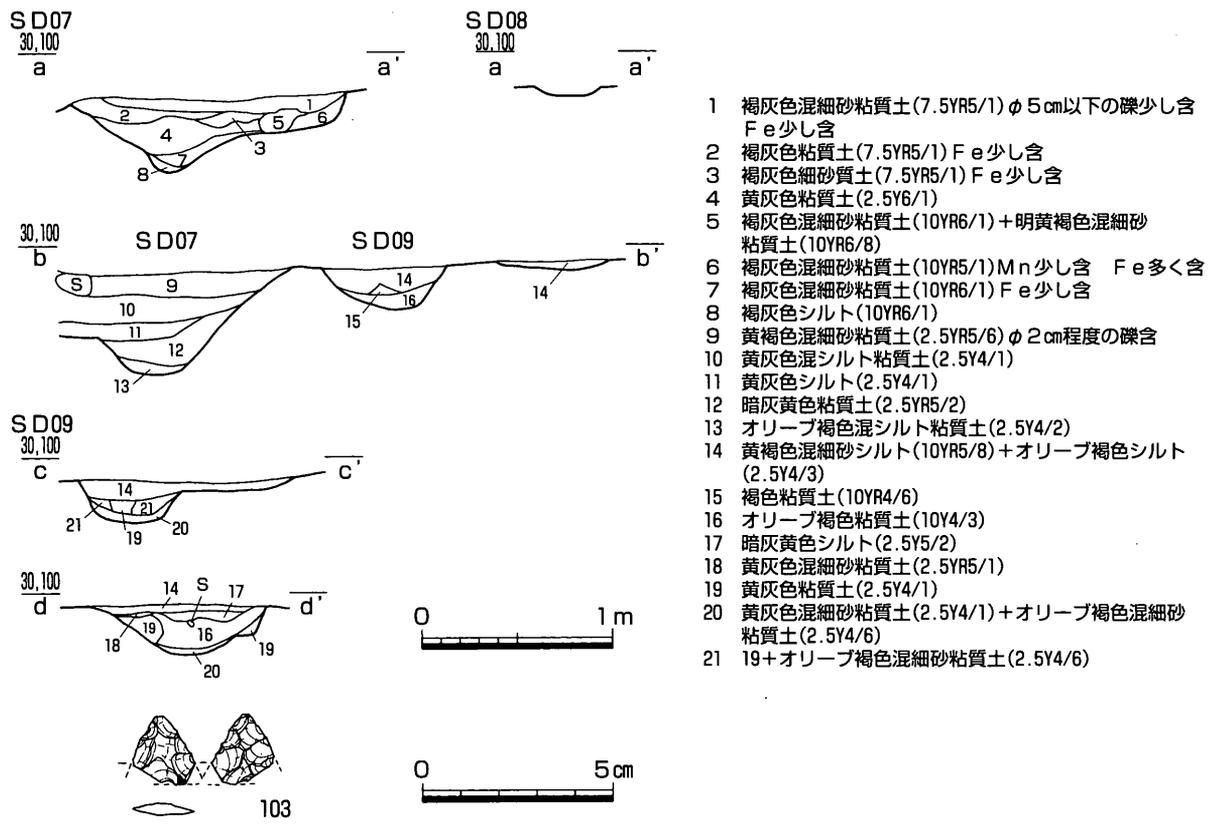
98・99は陶器である。98は壺で、暗褐色系の胎土で鉄釉を体部外面には施す。99は軟質陶器の壺底部で、内面1ヶ所に胎土目積を残す。外面には鉄釉が掛けられ、その上からさらに濃い鉄釉を流し掛けする。100・101は磁器である。100は皿で、Ⅱ区SX04との接合資料である。101は小碗で、内外面ともに草花文を散らす。102は土師質土器の風呂釜である。底径47.5cmの大甕を最初に作り、その後底部と体部の境目全体に粘土を貼り付け脚状にする。水抜き用の孔が1ヶ所に残る。

遺構の時期は19世紀以降と考えられる。

#### Ⅳ区SD07（第45～49図）

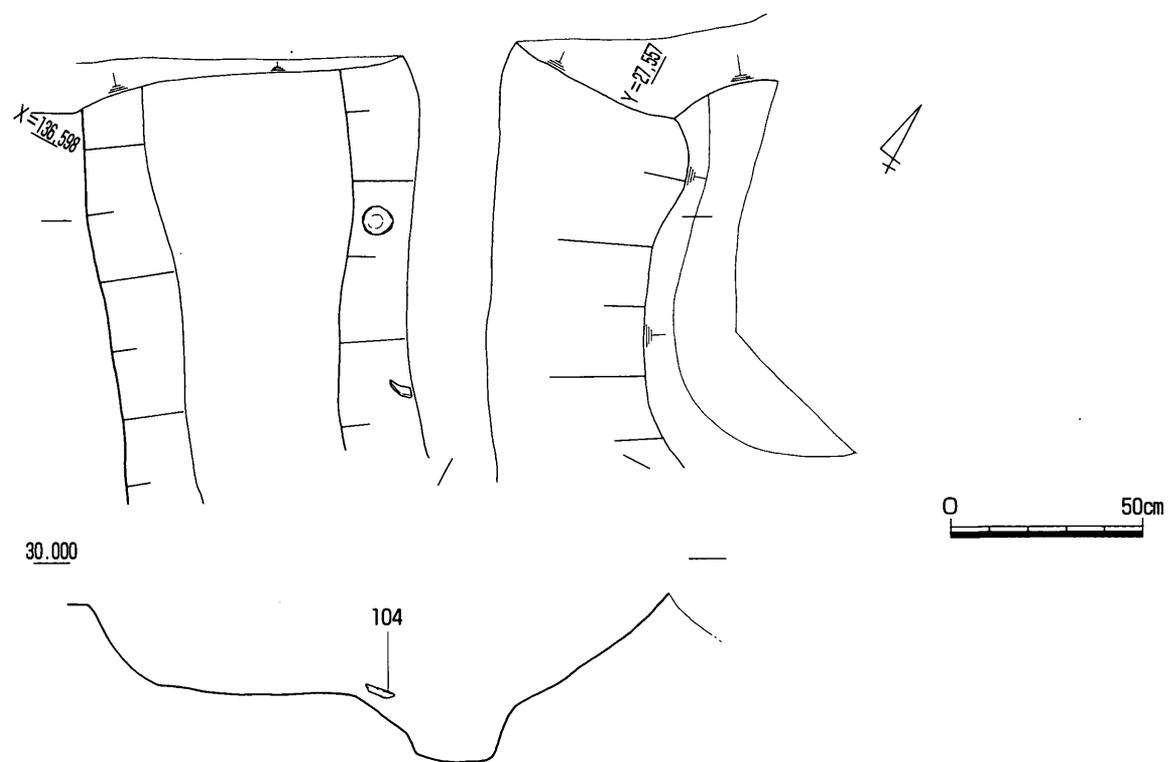
Ⅳb区東端で検出された溝状遺構である。十七坪と十八坪の坪界線に相当する。延長30.9m、幅120～144cm、深さ38～52cm、断面はV字形、埋土は褐灰色混細砂粘質土、褐灰色粘質土、黄褐色混細砂粘質土等である。遺構の重複関係から、SD06・13より古い。埋土中からは陶磁器類が出土した。

104～124は土師質土器である。104は小皿で、底部は回転ヘラ切りによる。105～108は足釜である。いずれも鏝部は退化するが、105は鏝部が著しく退化した形態である。109は鏝と把手があり、足釜から把手付鍋へ移り変わる様子がわかる。110は足釜脚部片である。111は摺鉢で、5条1単位の卸目がある。112～114は土鍋で、14～16世紀代頃と考えられる。115・116は焙烙で、口縁端部外面に煤が付着し、体部外面に指押さえの痕跡を明瞭に残す。18世紀代のものである。117～120は鍋で、118は把手付である。118・119は17世紀初頭、117は18世紀前半のものである。121・122は茶釜で、121は把手が残る。123・124は七厘で、124は体部に空気流入用の窓が残る。125～140は陶器である。125は備前焼灯明皿で、口縁端部に煤が付着する。126～128は肥前系陶器皿で、口縁端部を上方へわずかに屈曲させ、内面から体部外面上半にかけて灰釉を掛ける。見込みには胎土目積が残る。126は底部外面高台部分に糸切り痕が残る。128は体部半ば付近で屈曲する器形である。130～137は碗である。130は肥前系で、口縁端部を波状にする。内面から体部外面にかけて漬け掛けにより灰釉を薄く掛けた後、口縁端部のみさらに灰釉を掛ける。131は鉄釉を施し、高台部には糸切り痕を残す。133は京・信楽焼系丸碗で、文様は上絵付けによる。134～136は刷毛目碗である。137は外面に三角形と四角形の非常に細かい刺突文を施し、内面には鉄釉を施す。瀬戸・美濃産で、18世紀後半のものである。皿類は概ね17世紀前半、刷毛目碗は18世紀前半頃のものである。138は土瓶で、注ぎ口がわずかに残る。139は壺底部である。140は備前焼壺で、体部に櫛描き沈線文を施す。底部には六角形の刻印がある。18世紀後半である。141は青磁碗底部で、馬の絵柄を片彫りする。142～152は磁器である。142は皿、143～150は碗である。143は外面二重網目文、内面一重網目文を施す。144～146・148は外面に草木の文様を描く。147・148は見込み蛇の目釉剥ぎを施す。149・150は青磁染付で、149は見込みにコンニャク印判、底部外面に渦福を施す。151は小杯、152は盃である。151は見込み部分にコンニャク印判を施す。153・154は円盤状土製品である。153は土師質で、外面に煤が付着している。154は備前焼である。155はふいご羽口である。156は軒丸瓦で、左回りの巴文がある。珠文は12個程度である。157は丸瓦である。凸面はヘラミガキを施し、凹面には布目痕のほかに刺子状の痕跡がある。158は平瓦で、狭端面と広端面の差がほとんどない。159はサヌカイト製の石鏝で、下半部は欠損している。



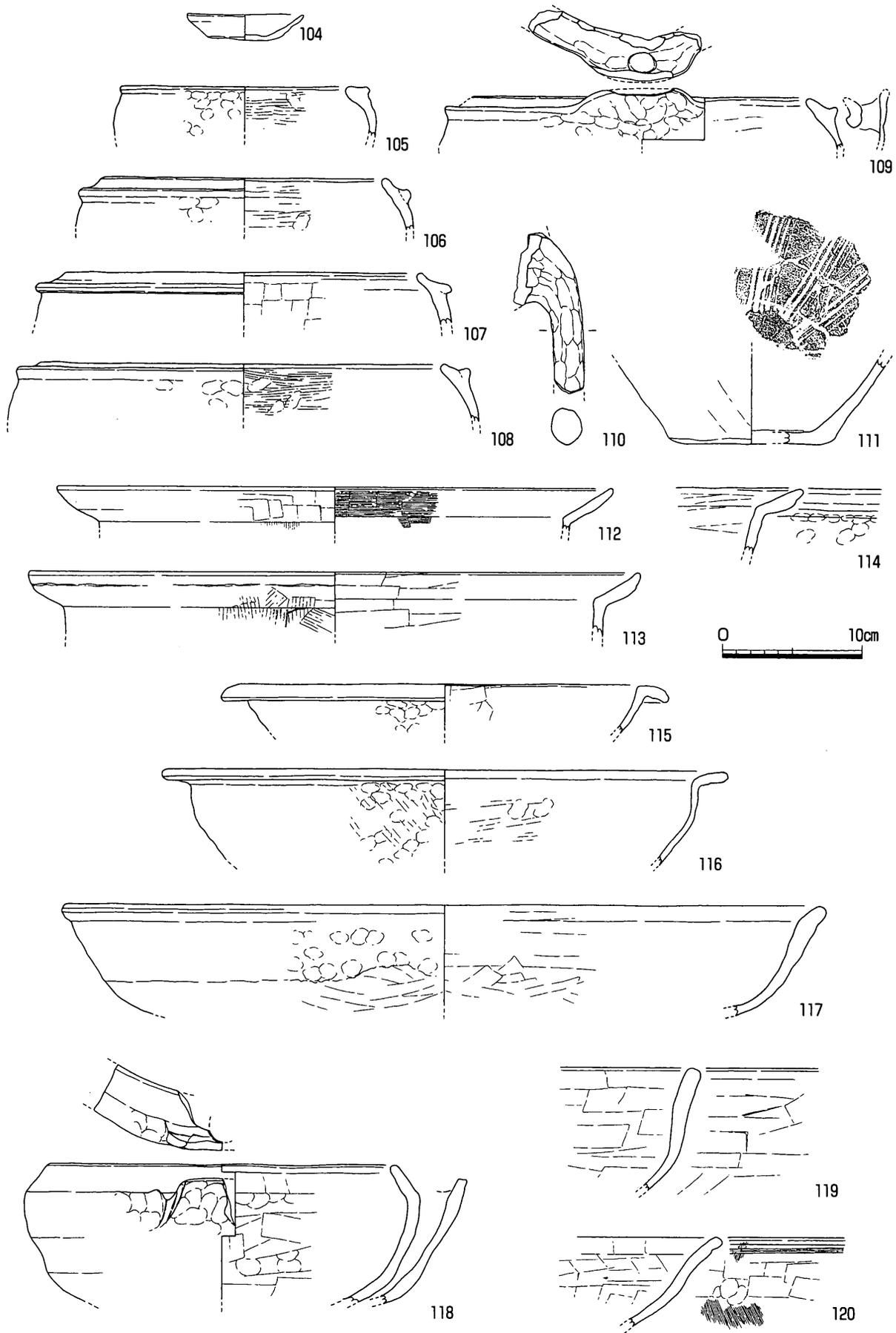
- 1 褐灰色混細砂粘質土(7.5YR5/1) φ 5cm以下の礫少し含 Fe少し含
- 2 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) Fe少し含
- 3 褐灰色細砂質土(7.5YR5/1) Fe少し含
- 4 黄灰色粘質土(2.5Y6/1)
- 5 褐灰色混細砂粘質土(10YR6/1)+明黄褐色混細砂粘質土(10YR6/8)
- 6 褐灰色混細砂粘質土(10YR5/1) Mn少し含 Fe多く含
- 7 褐灰色混細砂粘質土(10YR6/1) Fe少し含
- 8 褐灰色シルト(10YR6/1)
- 9 黄褐色混細砂粘質土(2.5YR5/6) φ 2cm程度の礫含
- 10 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y4/1)
- 11 黄灰色シルト(2.5Y4/1)
- 12 暗灰黄色粘質土(2.5YR5/2)
- 13 オリーブ褐色混シルト粘質土(2.5Y4/2)
- 14 黄褐色混細砂シルト(10YR5/8)+オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3)
- 15 褐色粘質土(10YR4/6)
- 16 オリーブ褐色粘質土(10Y4/3)
- 17 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
- 18 黄灰色混細砂粘質土(2.5YR5/1)
- 19 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)
- 20 黄灰色混細砂粘質土(2.5Y4/1)+オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/6)
- 21 19+オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/6)

第45図 IV区SD07~09断面図(1/40)、SD09出土遺物 (1/2)

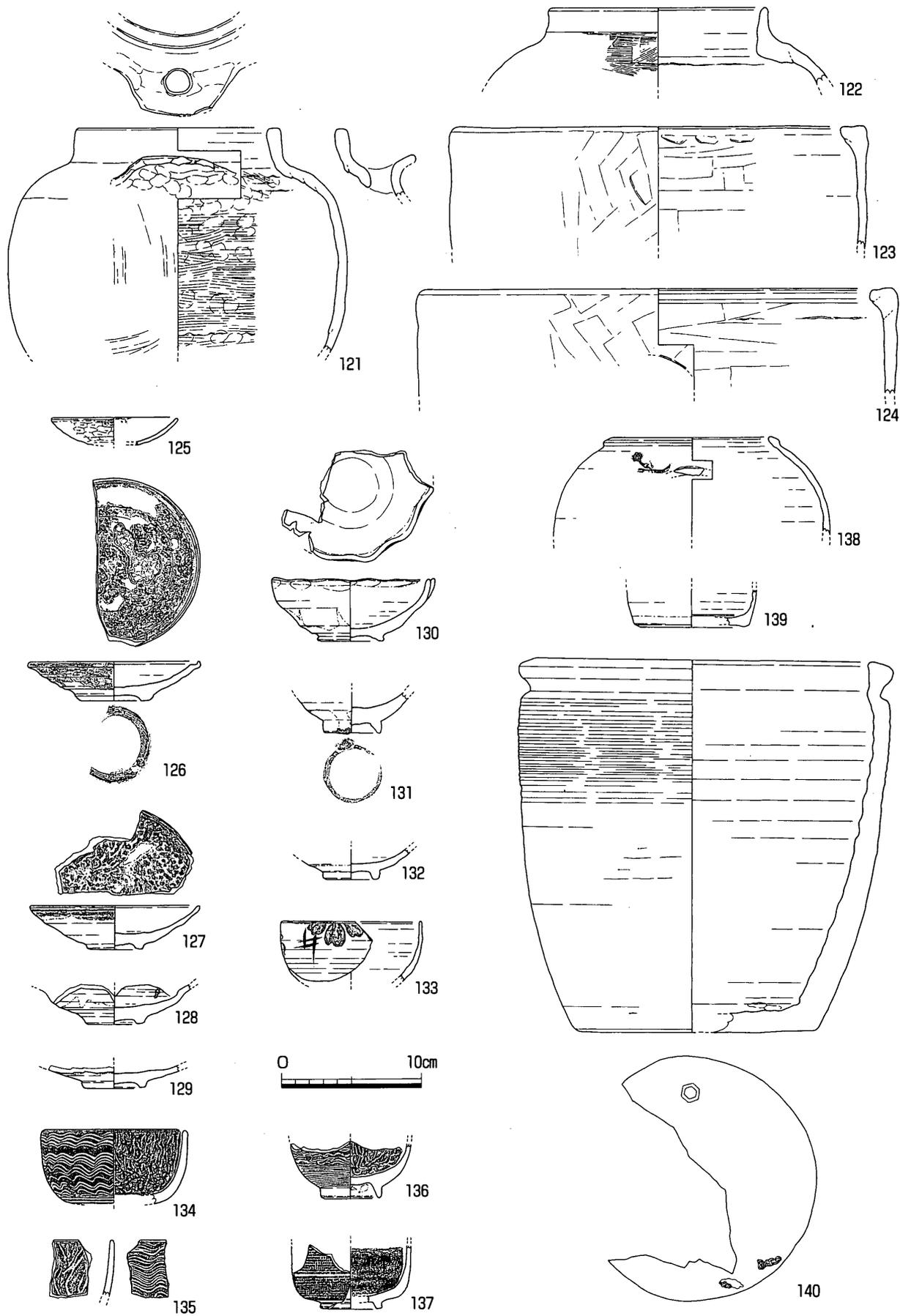


第46図 IV区SD07遺物出土状況平・断面図 (1/20)

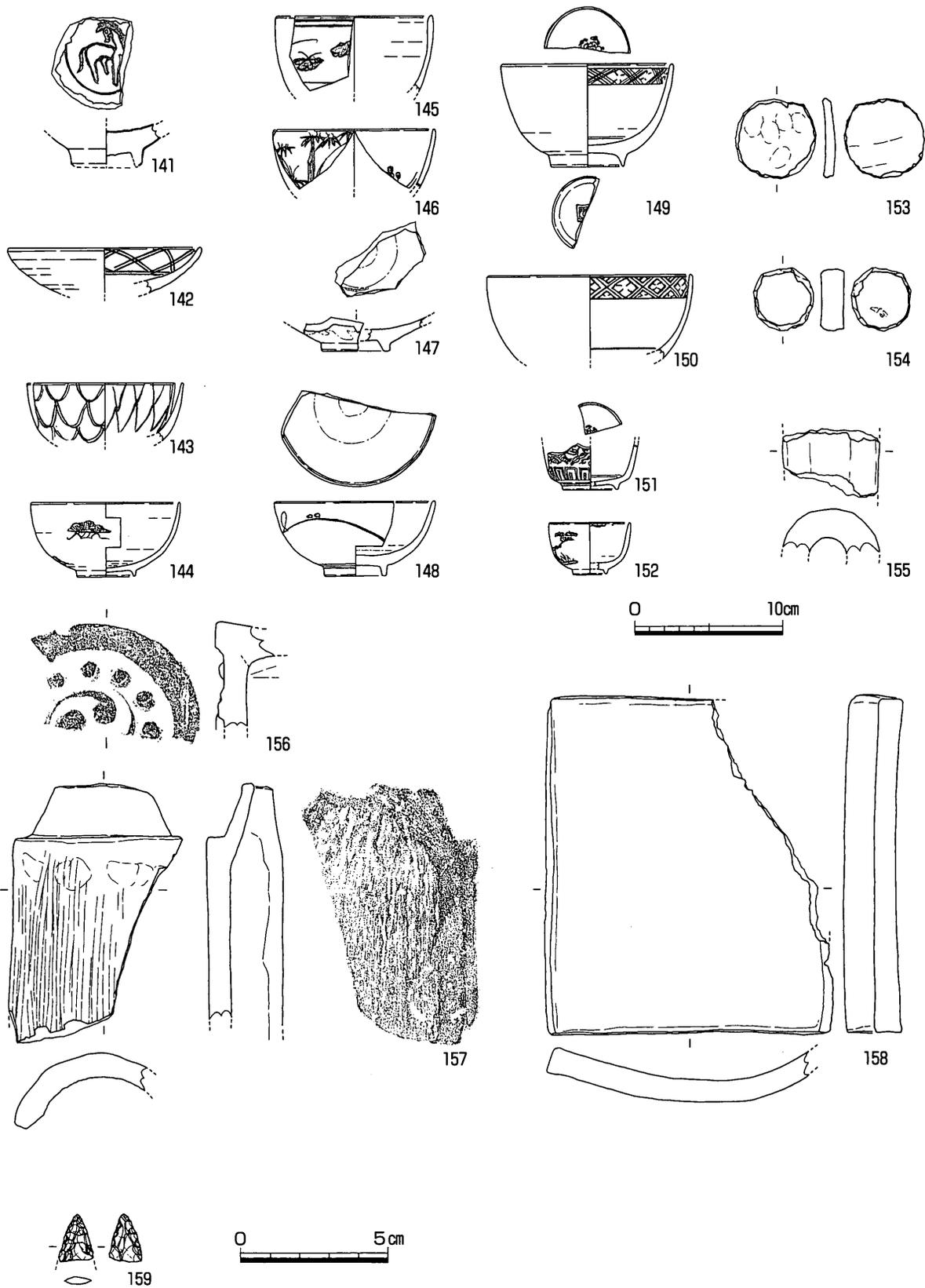
出土遺物は14世紀代~18世紀代まで含んでおり、溝状遺構の存続期間を示すと考えられる。溝状遺構は14世紀代に開削され、18世紀代まで存続したと考えられる。



第47图 IV区SD07出土遺物 (1) (1/4)



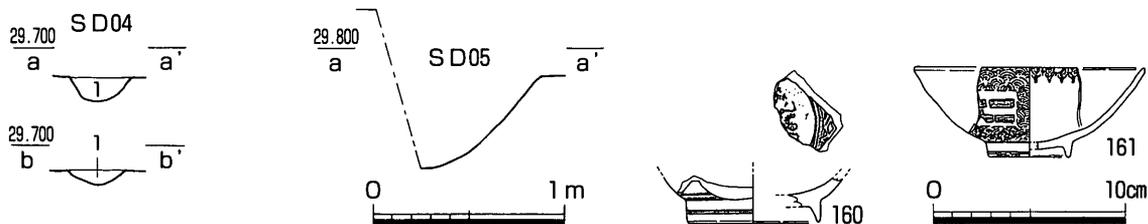
第48图 IV区SD07出土遺物 (2) (1/4)



第49図 IV区SD07出土遺物 (3) (1/4・1/2)

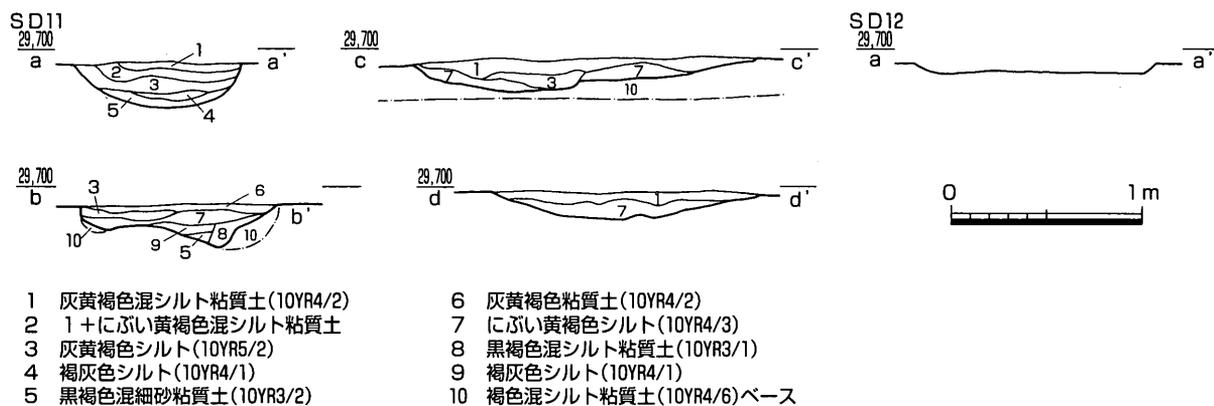
IV区SD04 (第50図)

IVa区で検出された溝状遺構である。SD03の0.7m東側で検出された。長さ3.2m、幅30~

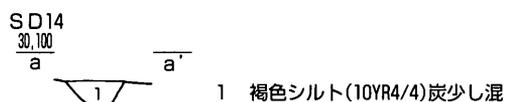


1 黄褐色混シルト粘質土(2.5Y5/4)

第50図 IV区SD04・05断面図 (1/40)、SD05出土遺物 (1/4)



- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色混シルト粘質土(10YR4/2) | 6 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)       |
| 2 1+にぶい黄褐色混シルト粘質土      | 7 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)     |
| 3 灰黄褐色シルト(10YR5/2)     | 8 黒褐色混シルト粘質土(10YR3/1)    |
| 4 褐灰色シルト(10YR4/1)      | 9 褐灰色シルト(10YR4/1)        |
| 5 黒褐色混細砂粘質土(10YR3/2)   | 10 褐色混シルト粘質土(10YR4/6)ベース |



1 褐色シルト(10YR4/4)炭少し混

第51図 IV区SD11・12・14断面図 (1/40)

32cm、深さ7~12cm、断面形状はボウル状、埋土は黄褐色混シルト粘質土である。SD05との前後関係は確認できず、同時並存の可能性はある。埋土中からは出土遺物はなかったが、SD05との関係から遺構の時期は近世~近代と考えられる。

#### IV区SD05 (第50図)

IVa区北端で検出された溝状遺構である。二十坪と十七坪との坪界線と考えられる。IVa区中央北端付近から出現し、わずかに南西方向へ湾曲し、調査区外へ延びる。長さ9.6m、幅72cm以上、深さは50cm程度で、遺構の重複関係から、SD02・03・16より新しいことがわかる。溝状遺構は川原石により護岸されていた。埋土中からは陶磁器が出土した。SD05はSD01と出土遺物の内容や川原石で護岸する状況が類似しており、調査区外で交差または合流すると思われる。遺構の時期は近世~近代と考えられる。

160・161は磁器碗である。ともに型紙刷りにより文様を付ける。明治時代以降のものである。

#### IV区SD08 (第45図)

IVb区で検出された溝状遺構である。長さ3.8m、幅34cm、深さ5cm、断面形状は浅い皿状である。SD06の東側1.3m、SD07の西側1.2mに位置する。遺構の重複関係からSD13より古いことがわかる。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の詳細な時期は不明である。

#### IV区SD09 (第45図)

IVb区南部で検出された溝状遺構である。SD07の西側約0.15~1.10mの位置で検出された。

南から約5mの位置で二股に分かれ、西側の筋は約10.5mで、東側の筋は約12.8mの位置で消失した。幅0.92～1.50m、深さ21～26cm、埋土は黄褐色混細砂シルト、オリーブ褐色粘質土等で、断面形状は緩い円形である。遺構の検出状況から、SD07より古いことがわかる。埋土中からはサヌカイト製の石鏝が出土した。

103は石鏝で、下端部は欠損するが、凹基式と考えられる。

#### Ⅳ区SD11（第51図）

Ⅳa区で検出された溝状遺構である。長さ18.3m、幅88～176cm、深さ14～24cm、断面形状は浅い皿状またはボウル状、埋土は灰黄褐色混シルト粘質土、にぶい黄褐色混シルト粘質土等である。SD01の東側13.4m、SD03からは9.9mの位置である。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期はSD02・03と同じ時期と考えられる。

#### Ⅳ区SD12（第51図）

Ⅳa区で検出された東西方向の溝状遺構である。長さ6.7m、幅40～124cm、深さ6cm、断面形状は浅い皿状である。SD02・03・15より新しく、SD01より古いことがわかる。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の重複関係から、時期は近世以降である。

#### Ⅳ区SD13（第52図）

Ⅳb区で検出された東西方向の溝状遺構である。長さ8.9m、幅76cm程度、深さ30cm程度、断面形状は逆台形、埋土は褐色混シルト粘質土、暗褐色混細砂粘質土等である。遺構の重複関係から、SD06・07・08より新しく、Ⅳ区SK20より古いことがわかる。溝状遺構の南側に、川原石を積み重ねた護岸施設を検出された。埋土中から出土遺物はなかったが、遺構の重複関係から、時期は近世以降である。

#### Ⅳ区SD14（第51図）

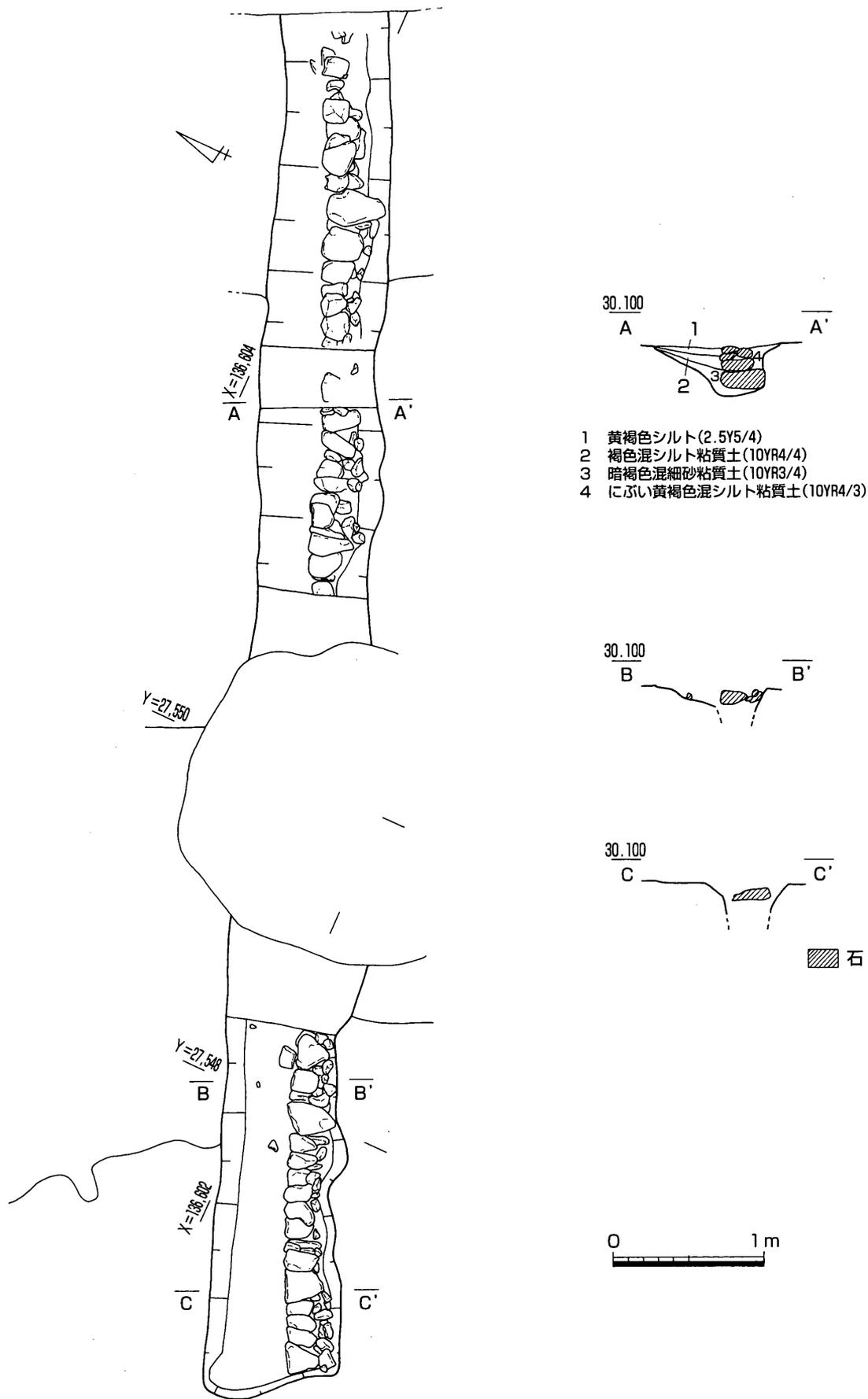
Ⅳb区で検出された溝状遺構である。長さ6.0m、幅34cm、深さ14cm、断面形状はV字形、埋土は褐色シルトで炭を少し含む。溝状遺構の北端部はSD13の延長部に当り、その部分でのみ礫が検出されているので、SD13と関連がある可能性もある。遺構の時期は不明確であるが、SD13との関連から近世以降と考えられる。

### ③井戸跡

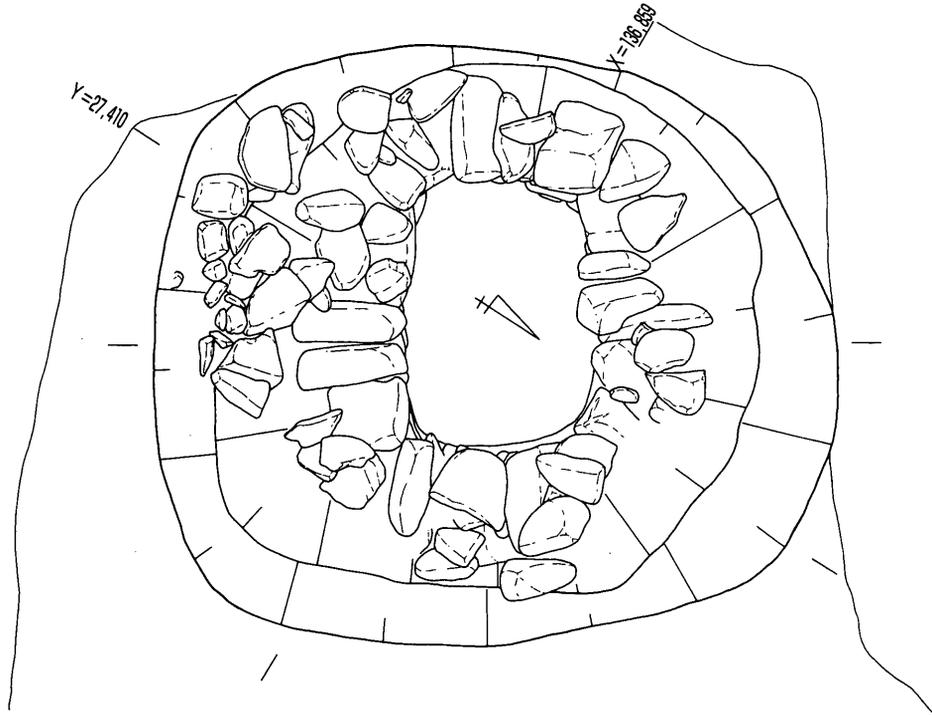
#### Ⅰ区SE01（第53図）

Ⅰ区南東隅で検出された井戸である。三十二坪の南東隅に相当する。掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.80m、短軸1.55m、深さは石組みの下部までで1.66mである。石組みの裏込めの埋土はオリーブ褐色混細砂粘質土にベースが混じる埋土である。石組みは検出面から80～90cm下がった位置から6段程度を検出された。使われている石は長辺20～30cm程度の川原石である。小口積みで積まれ、内法は長軸0.70m、短軸0.45mである。南東側の石組みは若干崩れている。石組の最下部からは、長方形の木組みが検出され、その木組みから長さ約2mの杭を打ち込んで、石組みの土台としていた。杭を打ち込んだ部分付近のベースは黄灰色混粗砂粘質土（礫を多く含む）に変わっており、湧水層に達していたと考えられる。埋土中からは二重網目文の磁器碗や東海産の陶器碗（腰鍔碗）が出土した。

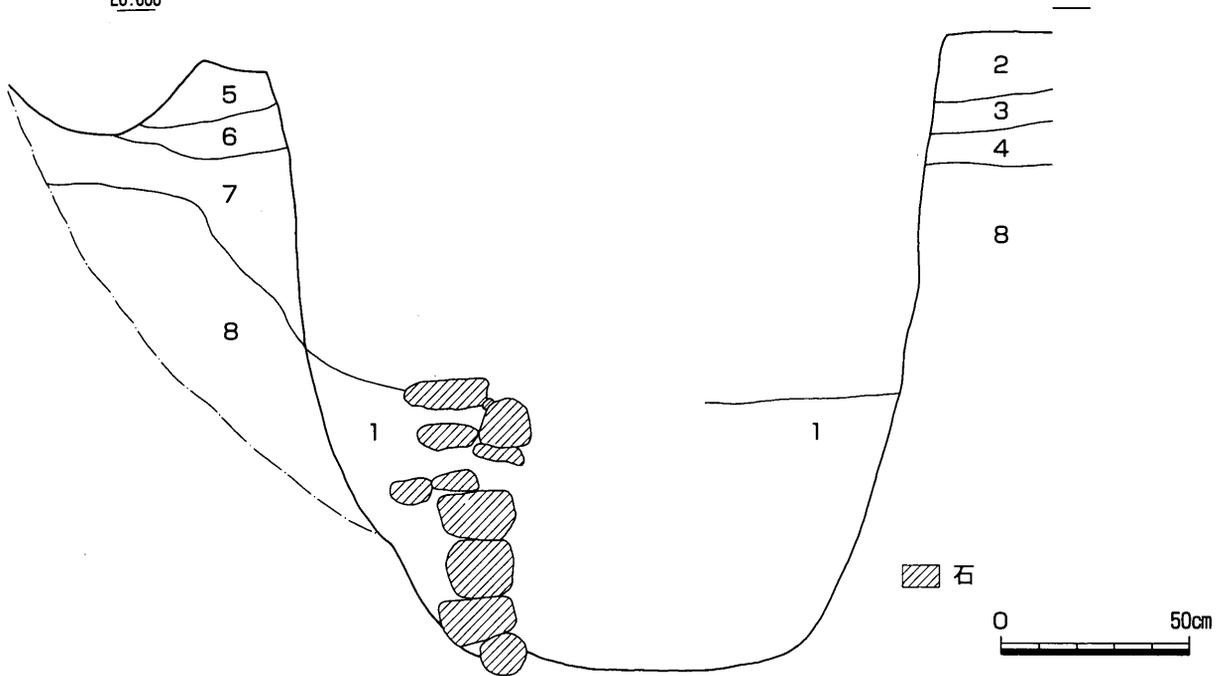
162～164は磁器である。162は皿、163・164は碗である。163は外面に二重網目文を施す。遺構の時期は18世紀前半と考えられる。



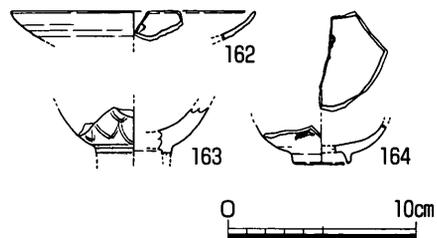
第52図 IV区SD13石検出状況平・断面図 (1/40)



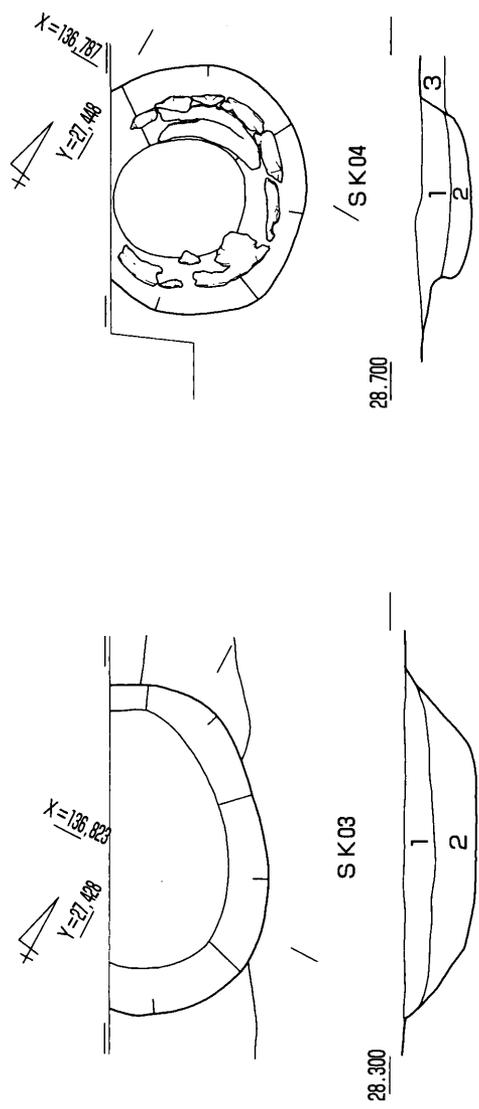
28.600



- 1 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/3)+ベース
- 2 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
- 3 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- 4 オリーブ褐色混粗砂粘質土(2.5Y4/3)礫少し含
- 5 黄褐色混シルト粘質土(10YR5/8)
- 6 黄灰色混粗砂粘質土(2.5Y4/1)
- 7 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)
- 8 黄褐色粘質土(10YR5/8)+灰色粘質土(5Y5/1)ベース

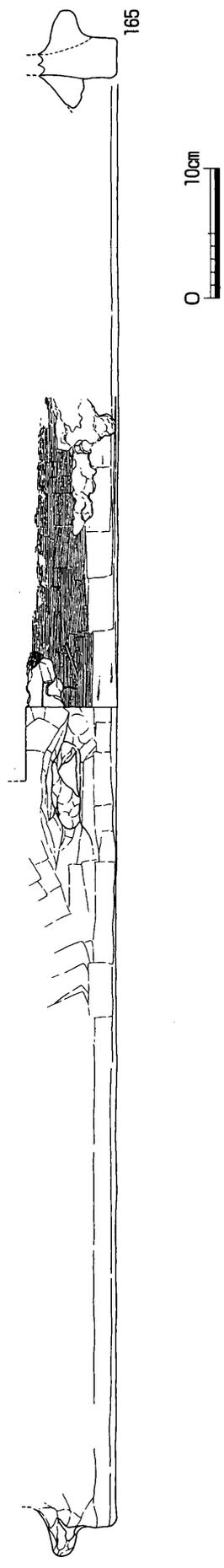


第53図 I区SE01平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)



- 1 灰黄色湿細砂粘質土(2.5Y6/2)φ5cm以下の礫多く含
- 2 灰黄色湿細砂粘質土(2.5Y6/2)

- 1 黄褐色シルト(2.5Y5/4)+耕作土ブロック含
- 2 褐灰黄色湿細砂粘質土(2.5Y4/2)
- 3 褐灰色湿細砂粘質土(10YR4/1)



第54図 II区SK03・04平・断面図(1/40)、SK04出土遺物(1/5)

④土坑

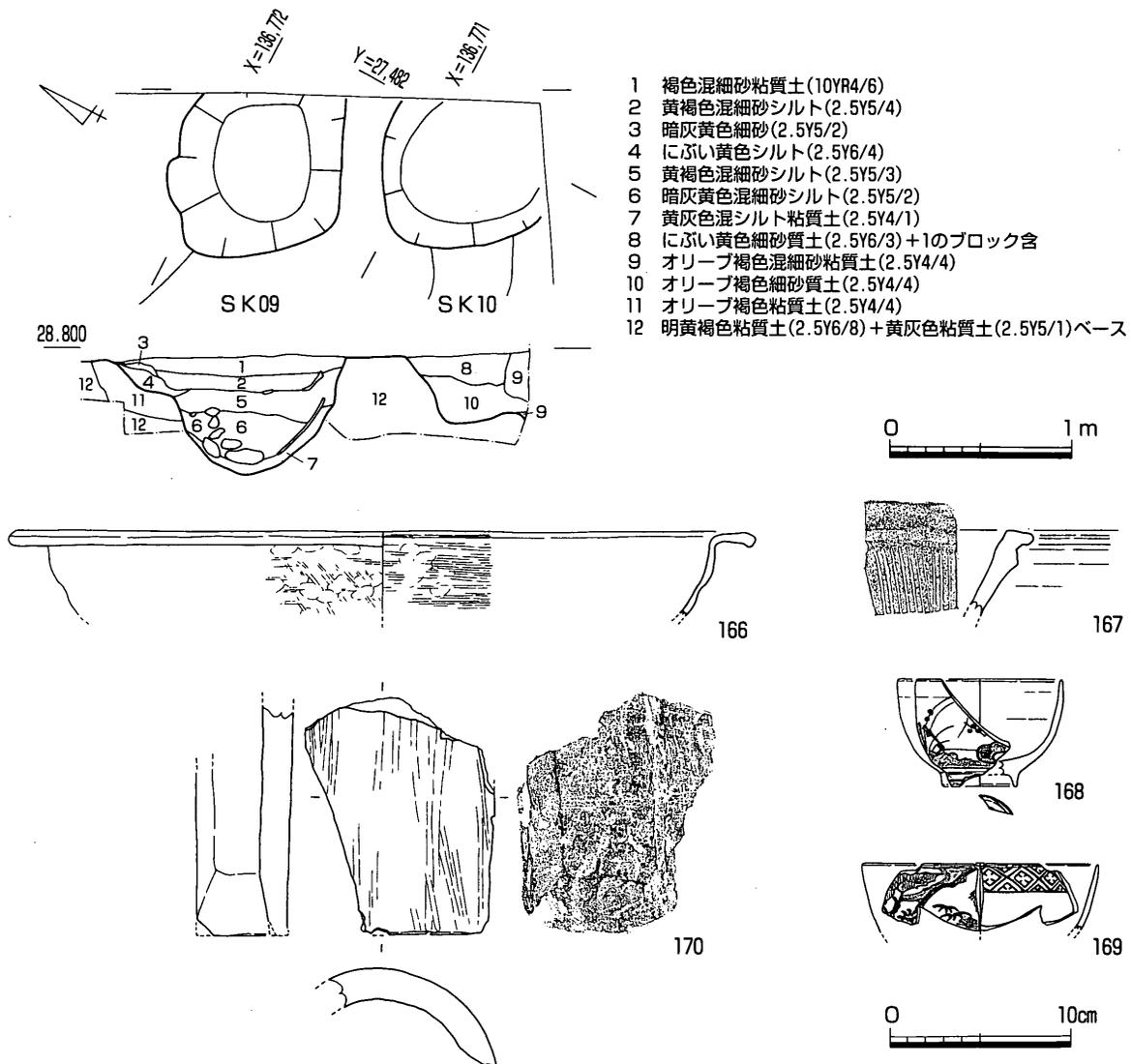
Ⅱ区SK03 (第54図)

Ⅱb区西端部中央付近で検出された土坑である。西半部は調査区外へ延びる。SD02の上面で検出された。概ね円形と考えられ、直径168cm、深さ36cm、断面形状は逆台形、埋土は灰黄色混細砂粘質土で、上半部には直径5cm以下の礫を含む。埋土中からは遺物は出土しなかったが、SD02の上面で検出されたことから中世以降で、検出状況から近世以降と考えられる。

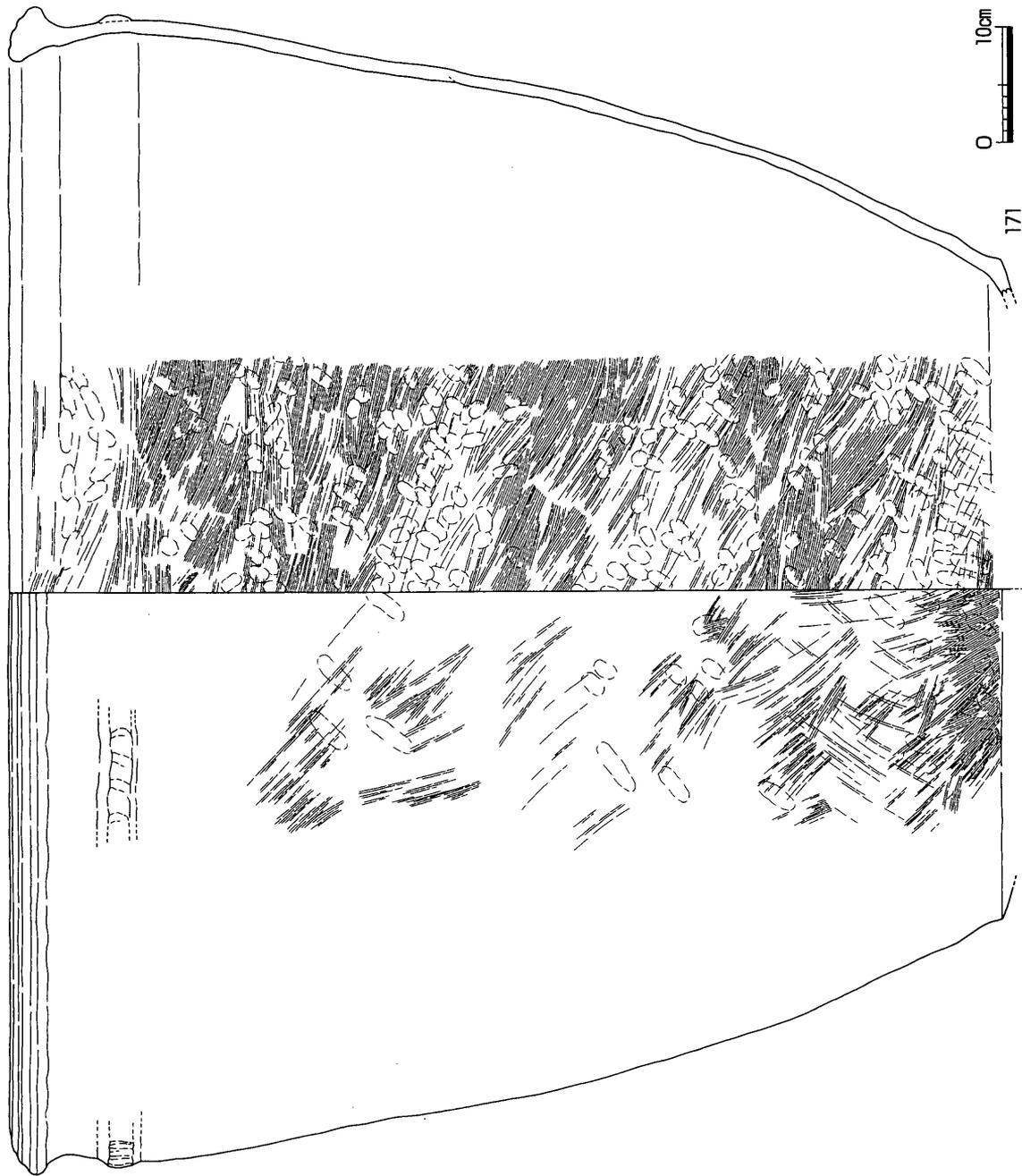
Ⅱ区SK04 (第54図)

Ⅱc区南西隅で検出された土坑である。西側は調査区外へ延びる。概ね円形と考えられ、直径130cm程度、深さ26cm、断面形状は逆台形で、南側が少し抉れている。埋土は上層が黄褐色シルト(床土)に耕作土ブロックが入ったもの、下層は暗灰黄色混細砂粘質土で、上半部は周囲の土が落ち込んで埋まった様子が見られる。土坑の底部には肥溜と考えられる大型の土師質土器甕底部が残されていた。遺構の時期は近世以降と考えられる。

165は土師質土器甕である。高さ6cm程度が残されていた。底径はやや不確かである。把手



第55図 Ⅱ区SK09・10平・断面図 (1/40)、SK09出土遺物 (1/4)



第56图 II区SK09出土遗物 (1/6)

を外面に4ヶ所取り付け、内面には下から約6cmのところから漆喰で底を作った痕跡が残される。

## Ⅱ区SK09 (第55・56図)

Ⅱd区南東隅で検出された土坑である。東肩はわずかに調査区外へ延びる。SD10の上面で検出された。隅丸方形を呈し、長軸1m程度、短軸0.88m、深さ64cm、断面形状は緩い逆台形、埋土は暗灰黄色・黄褐色混細砂シルト、褐色混細砂粘質土等である。土坑内には大型の土師質土器甕が設置され、内部には川原石が投棄されていた。その他、埋土中からは土師質土器焙烙、陶磁器、瓦片が出土した。肥溜等に利用されたものが廃棄されたもので、その際に川原石や陶磁器類が投棄されたものであろう。

166は土師質土器焙烙である。外面には指押さえ痕を顕著に残し、内型成型であったことを示す。167は陶器播鉢で、7条1単位の卸目を施す。168・169は磁器碗で、外面には草花文を施す。168は底部外面には染付がわずかに残されるが、内容は不明である。170は丸瓦で、凹面にはコビキB痕、凸面にはヘラミガキ状の痕跡を残す。171は土師質土器甕で、7割程度復元できた。底部破片はなく、もともと底が割られた状態であったと考えられる。口縁端部は広い面を持ち、3条の沈線を施す。体部上部には押圧突帯を貼り付ける。

遺構の時期は概ね18世紀後半～19世紀初頭頃と考えられる。

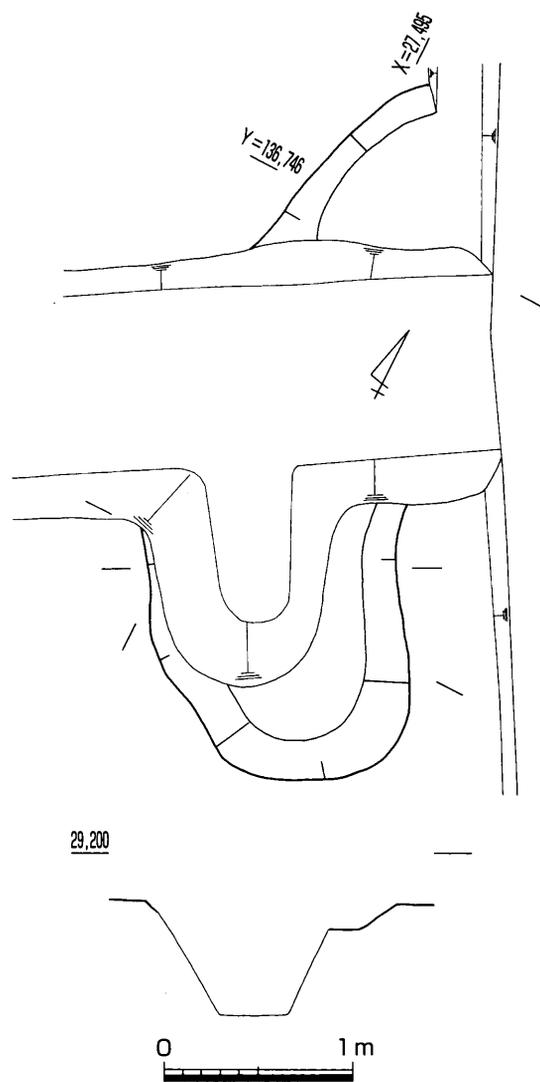
## Ⅱ区SK10 (第55図)

Ⅱd区南東隅で検出された土坑である。南側と東側は調査区外へ延びる。SD10の上面で検出された。

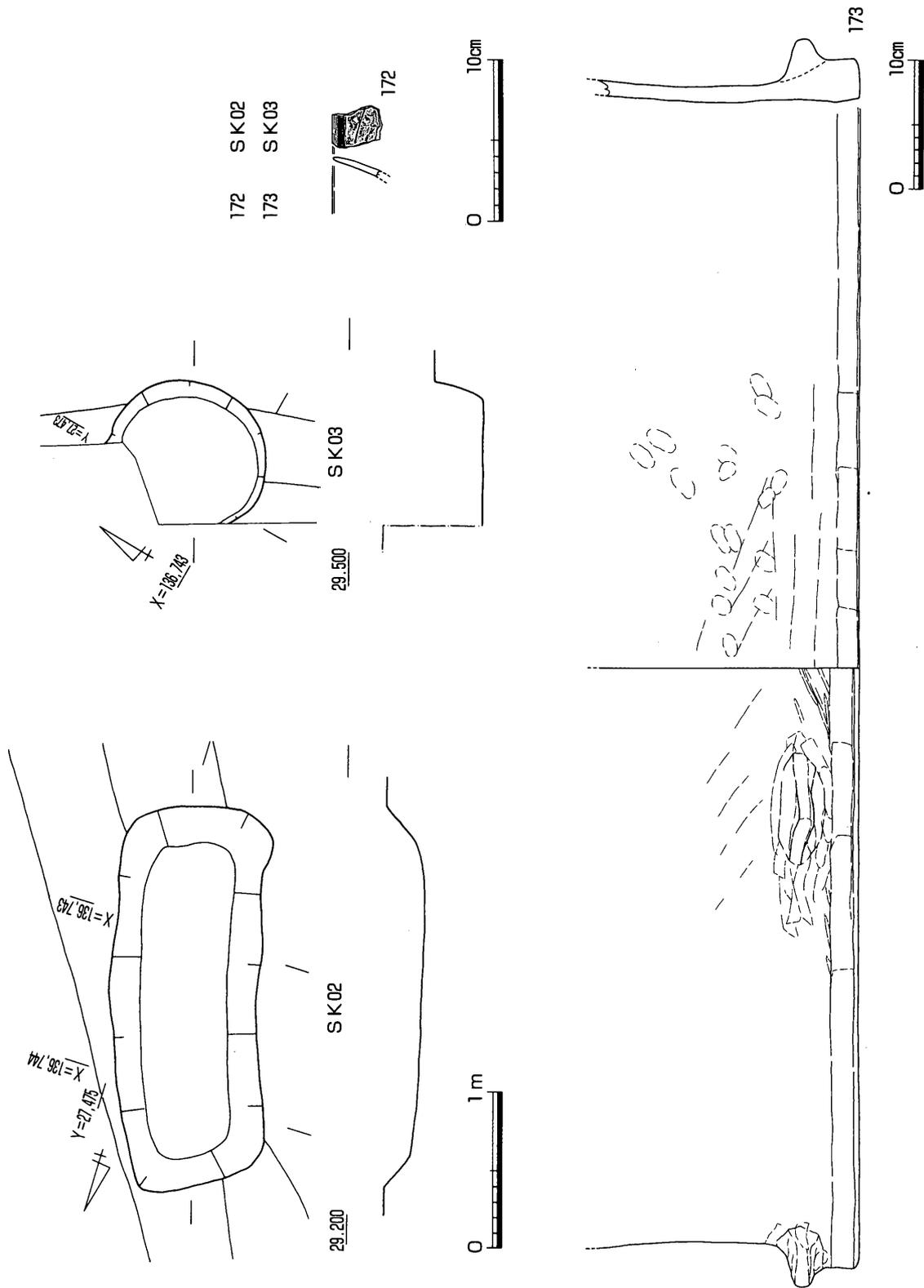
全体の規模・形状は明らかではないが、深さは38cm程度、埋土はにぶい黄色細砂質土とオリーブ褐色細砂質土、断面形状は逆台形と考えられる。埋土中からは出土遺物はなかったが、SD10との関係から、遺構の時期は近世以降と考えられる。

## Ⅲ区SK01 (第57図)

Ⅲa区南東端付近で検出された土坑である。東側は調査区外へ延び、全体の規模・形状は明らかではない。南側にやや湾曲する楕円状の遺構で、長さが3.8m以上、幅1.34m、深さ13cm程度、埋土は暗灰黄色混シルト粘質土で礫を含む。埋土中からは貝等が出土した。近世以降の廃棄土坑と思われる。



第57図 Ⅲ区SK01平・断面図 (1/40)



第58图 Ⅲ区SK02·03平·断面图 (1/40)、出土遗物 (1/4·1/5)

Ⅲ区SK02（第58図）

Ⅲa・b区西部中央付近で検出された。SD01上面で検出された。隅丸長方形で、長軸2.40m、短軸0.94m、深さは24cm、断面形状は浅い皿状である。埋土中からは陶磁器類が出土した。

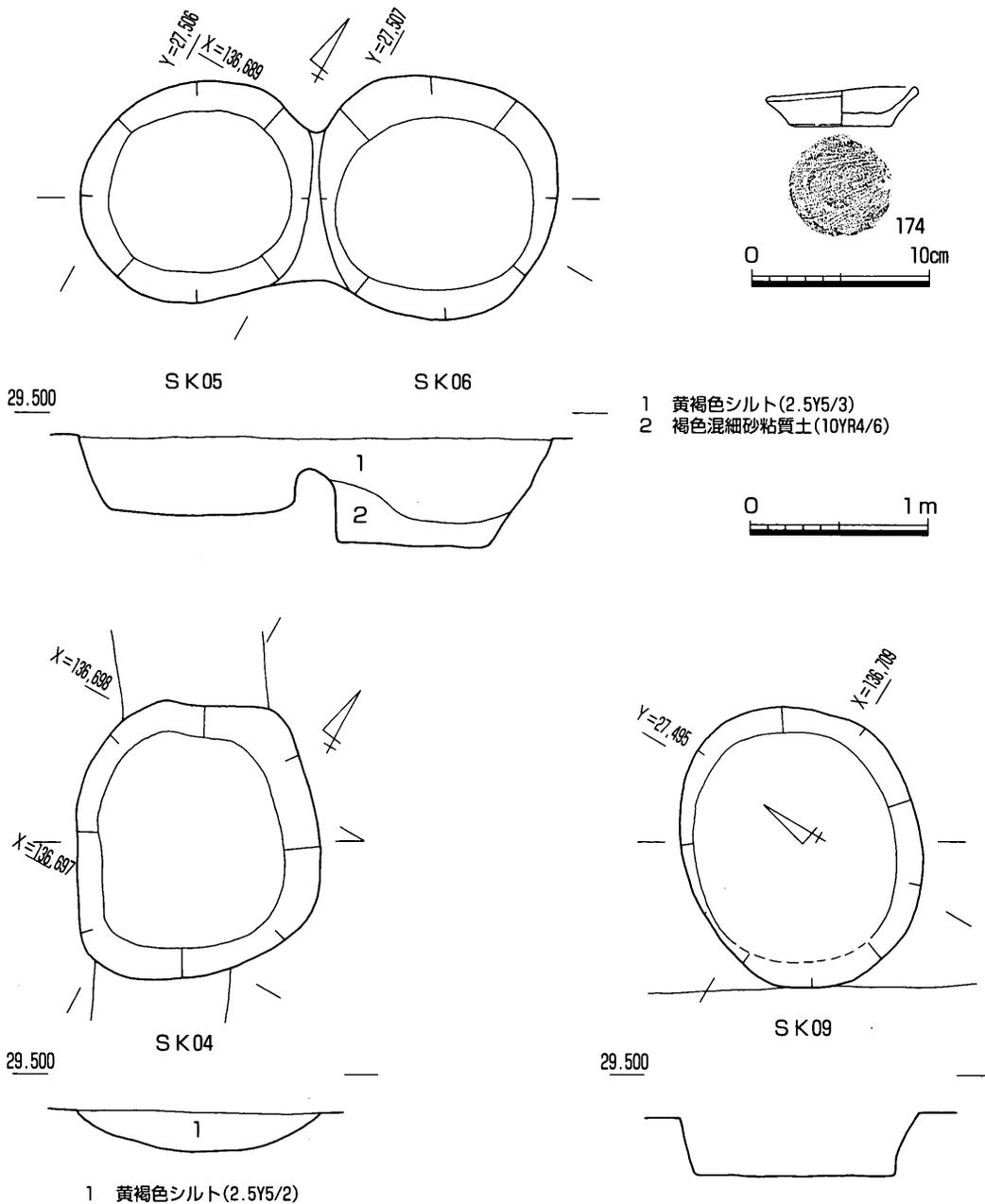
172は陶胎染付碗である。

遺構の時期は18世紀前半頃と考えられる。

Ⅲ区SK03（第58図）

Ⅲa・b区西端部中央付近で検出された。SD01上面で検出された。西側は調査区外へ延びる。ほぼ円形と考えられ、直径約100cm、深さ32cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは土師質土器片、瓦片が出土した。遺構の時期は近世以降である。

173は土師質土器井戸枠である。底部は作られてない。外面の4ヶ所に把手が付くが、均等



第59図 Ⅲ区SK04～06・09平・断面図（1/40）、SK06出土遺物（1/4）

にはなっていない。

### Ⅲ区SK04（第59図）

Ⅲd区西部中央付近で検出された。SD01の上面で検出された。隅丸方形を呈し、長辺1.52m、短辺1.39m、深さ21cm、断面形状は浅い皿状で、埋土は黄褐色シルトである。埋土中からは出土遺物はなかったが、埋土がSK05・06とほぼ共通することから、遺構の時期はSK05・06と同じと考えられる。

### Ⅲ区SK05（第59図）

Ⅲd区南端付近でSK06と連なって検出された。ほぼ円形で、直径1.20～1.34m、深さ43cm、断面形状は逆台形、埋土はSK06の上層と同一の黄褐色シルト層である。埋土中からは出土遺物はなかったが、埋土を共有するSK06から17世紀中頃の土師質土器小皿が出土していることから、17世紀中頃と考えられる。

### Ⅲ区SK06（第59図）

Ⅲd区南端付近でSK05と連なって検出された。ほぼ円形で、直径1.34m、深さ60cm、断面形状は逆台形、埋土は下層が褐色混細砂粘質土、上層は黄褐色シルトで、この土層はSK05土層と同一である。埋土中からは土師質土器小皿が出土した。遺構の時期は17世紀中頃と考えられる。

174は土師質土器小皿である。やや歪みがあり、口縁端部の1ヶ所に煤が付着する。底部は静止糸切りによる。灯明皿として使用された、17世紀中頃のものである。

### Ⅲ区SK09（第59図）

Ⅲd区西北隅で検出された。楕円形で、長径1.57m、短径1.32m、深さは34cmで、断面形状は逆台形である。埋土中からは土師器、須恵器の小片が出土しただけであった。遺構の時期は明確ではないが、SK04～06と同時期と考えられる。

### Ⅳ区SK04（第60・61図）

Ⅳb区中央東端付近で検出された土坑である。SK05に隣接し、西側の一部は調査区外へ延びる。ほぼ円形で、直径0.60m、深さ16cm、断面形状は逆台形を示す。土坑内には風呂釜の底部が埋められていた。

176は土師質土器風呂釜底部である。下部に水抜き用の孔が1ヶ所に残る。底部は同心円状に割れていることから、底部を成形する際に同心円状に粘土を足して底を作ったことがわかる。

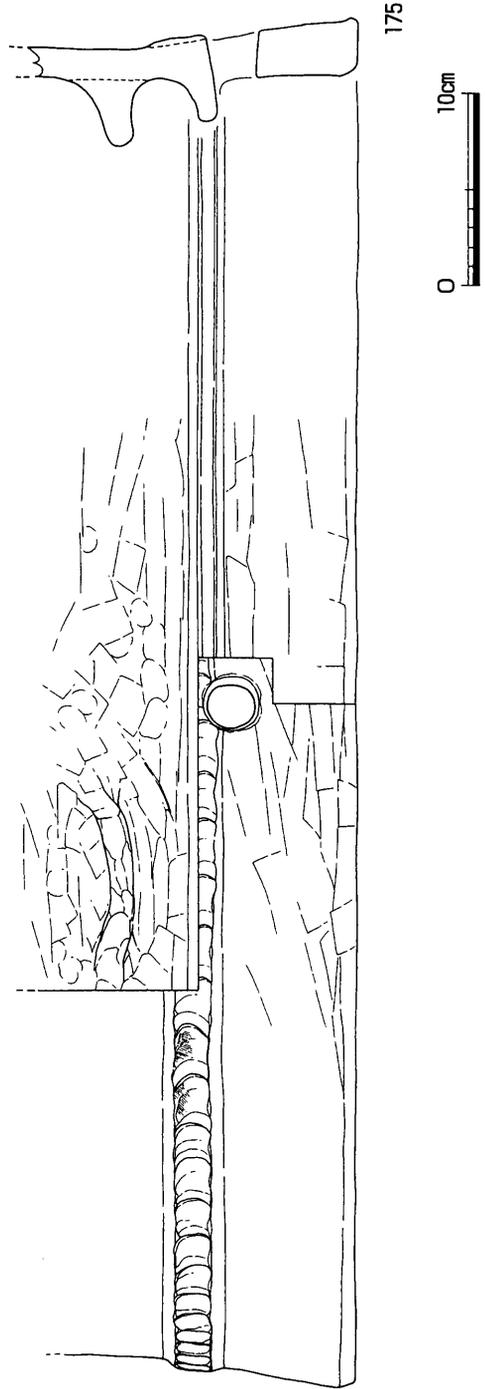
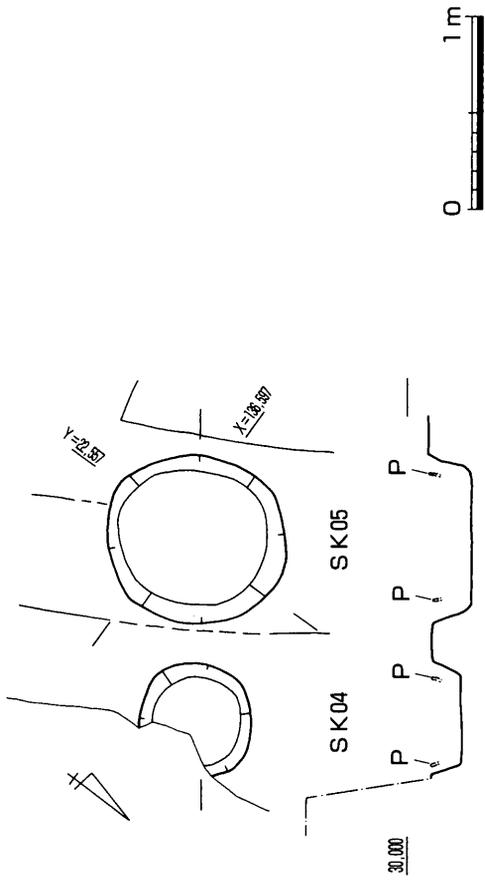
### Ⅳ区SK05（第60図）

Ⅳb区中央東端付近、Ⅳ区SK04の西側に隣接して検出された土坑である。ほぼ円形で、直径0.98m、深さ22cm、断面形状は逆台形である。遺構の重複関係からSD07より新しいことがわかる。土坑内には円形の板が敷かれ、その上部には風呂釜の底部が埋められていた。

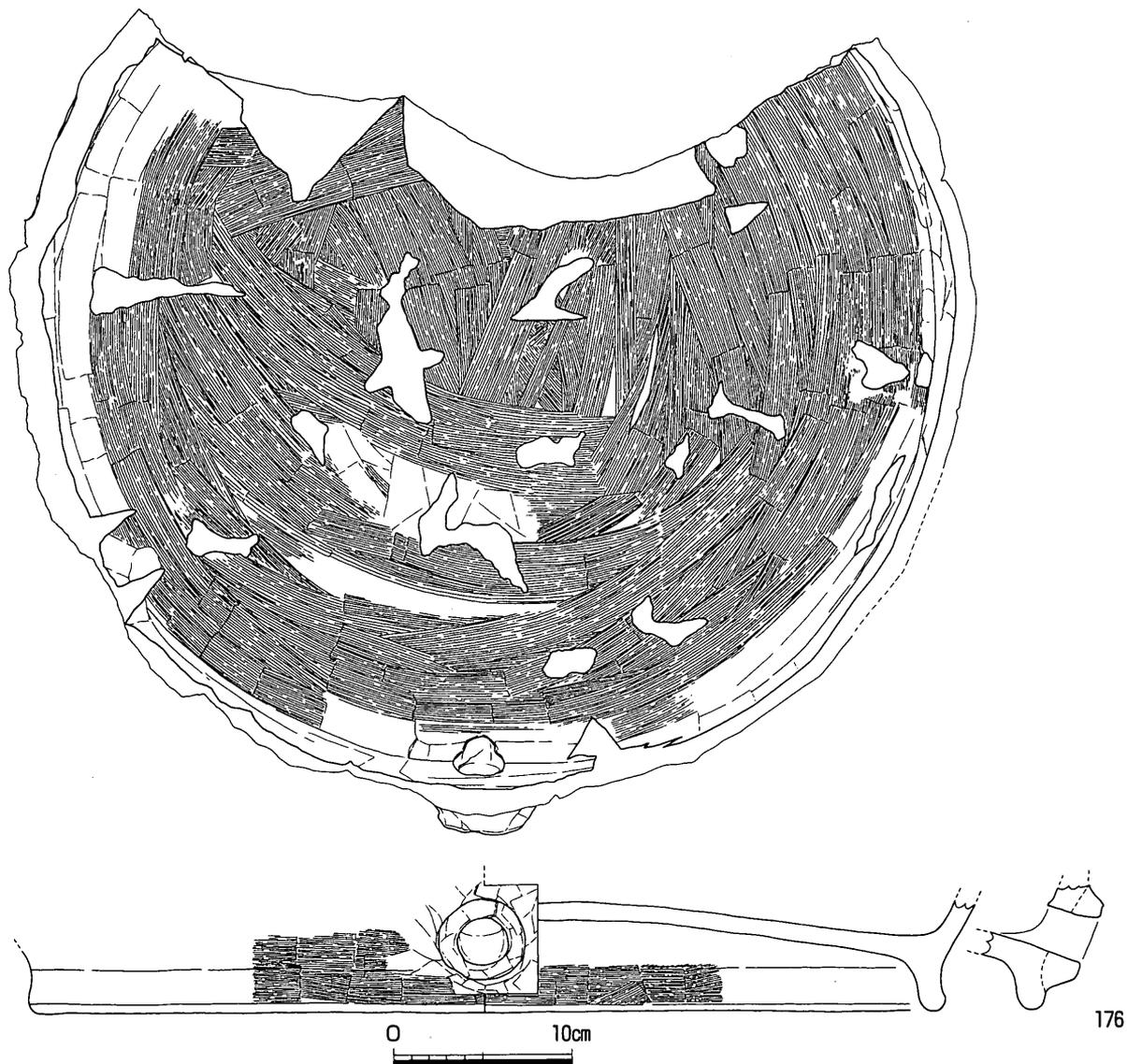
175は土師質土器風呂釜である。底部内面に突帯があり、その上部には均等に3ヶ所に突起をもち、突帯の下部に水抜き用の孔が1つある。突帯の外面には薄い押圧による貼付突帯がある。

### Ⅳ区SK06（第62図）

Ⅳb区北部で検出された土坑である。SK07の南側に接する。楕円形を呈し、長軸1.11m、短軸0.93m、深さ22cm、断面形状は逆台形である。土坑の東端部付近で直径15cm、深さ10cm程度のピット状の落ち込みを検出された。埋土中からは陶器壺片、瓦片が出土した。



第60图 IV区SK04·05平·断面图 (1/40)、SK05出土遗物 (1/4)



第61図 IV区SK04出土遺物 (1/4)

177は陶器行平鍋である。内面の底部から体部にかけて施釉されている。外面体部下半には煤が付着する。

遺構の時期は18世紀後半頃と考えられる。

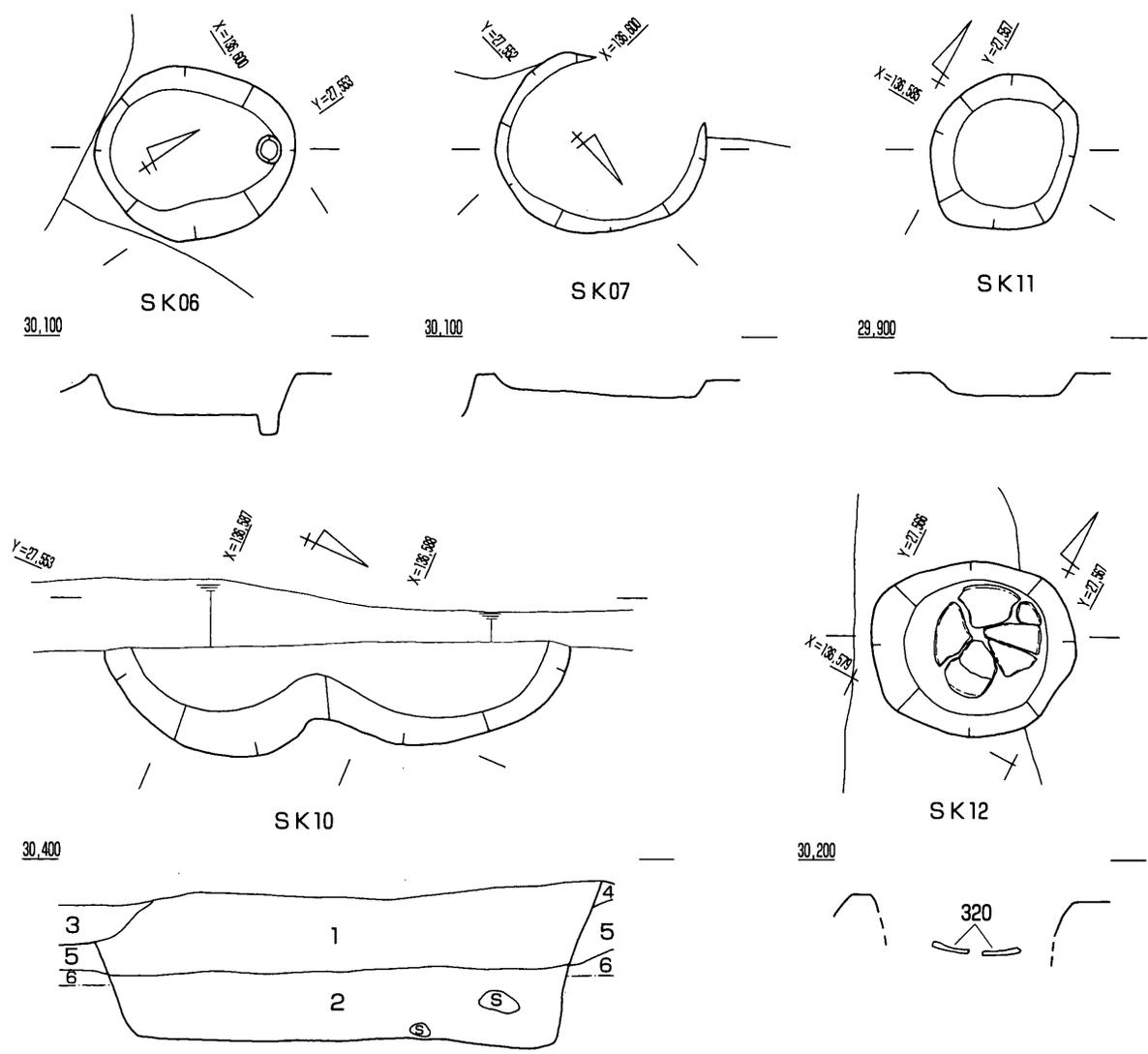
#### IV区SK07 (第62図)

IVb区北部で検出された土坑である。SD06に接しているが、前後関係は不明確である。概ね円形を呈すると思われ、直径0.98~1.12m、深さ8cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは陶器片、瓦片が出土した。遺構の時期は近世以降である。

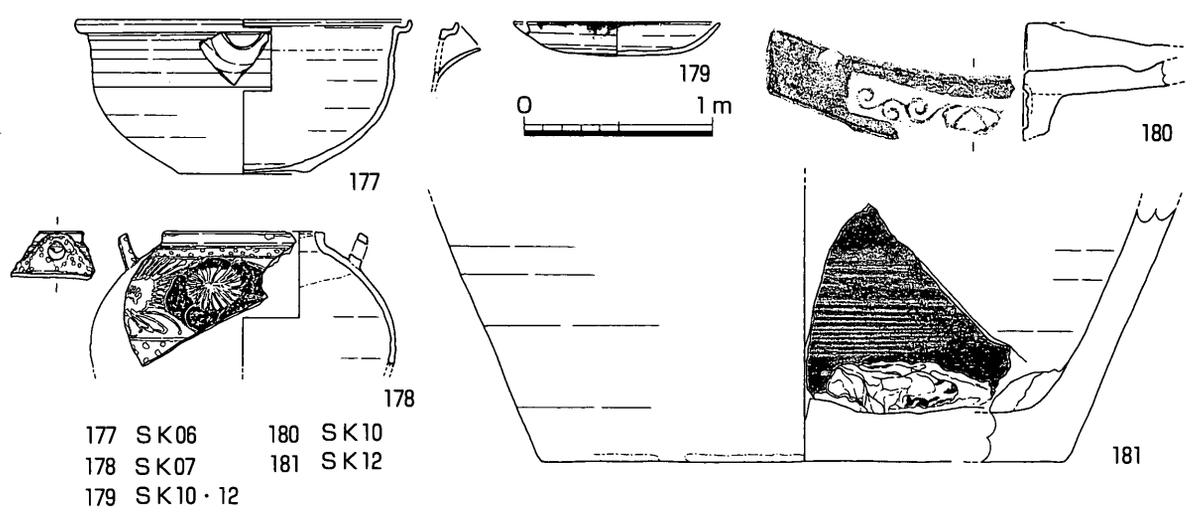
178は陶器土瓶である。内面体部下半部より下部は無釉で、外面はイッチン描きの技法による。

#### IV区SK10 (第62図)

IVb区南部西端で検出された土坑である。円形の土坑を2基連結させたようなひょうたん型の形状になると思われるが、西半部は調査区外へ延びる。土層断面から、長軸2.8m、短軸はくびれ部分が0.4m以上、円形の部分が0.6m以上、深さは77cm程度、断面形状は逆台形、埋土



- 1 オリーブ褐色混シルト粘質土(2.5Y4/4)
- 2 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y4/1)+褐色シルト(10YR4/6)
- 3 褐灰色混シルト粘質土(10YR4/1)
- 4 オリーブ褐色混細砂シルト(2.5Y4/3)整地土
- 5 褐色混細砂シルト(10YR4/6)
- 6 黄褐色混細砂粘質土(10YR5/8)砂多く含 ベース



- 177 SK06
- 178 SK07
- 179 SK10・12
- 180 SK10
- 181 SK12

第62図 IV区SK06・07・10~12平・断面図 (1/40)、SK06・07・10・12出土遺物 (1/4)

は上層がオリーブ褐色混シルト粘質土、下層が黄灰色混シルト粘質土+褐色シルトである。埋土中からは灯明皿、軒平瓦が出土した。SK12の出土遺物とは接合関係にある。

179は備前焼灯明皿で、SK12との接合資料である。口縁端部には炭化物が付着する。18世紀後半～19世紀初頭のものである。180は軒平瓦である。均整唐草文で、三転する唐草を配する。瓦当顎部に接合痕跡が見える。

遺構の時期は18世紀後半～19世紀初頭である。

#### IV区SK11 (第62図)

IVb区中央やや西よりで検出された土坑である。概ね円形で、直径0.78m、深さ12cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは出土遺物はなかった。

#### IV区SK12 (第62図)

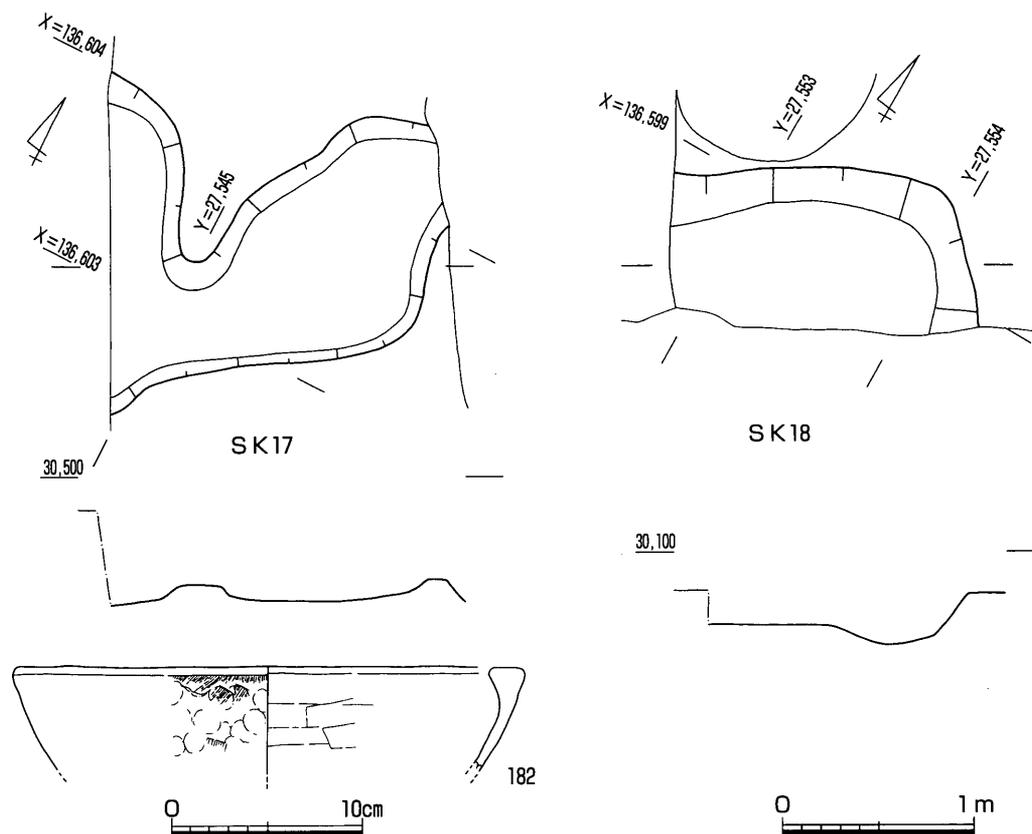
IVb区南東隅付近で検出された土坑である。SD07の上面で検出された。楕円形で、長径1.13m、短径0.94m、深さ30cm以上、断面形状は皿型である。埋土中からは陶器片、丸瓦片が出土した。土坑の底部から大型の土師質土器甕の底部部分のみが出土した。底部には糞尿痕があることから、肥溜用の埋甕施設であったと考えられる。遺構の時期は近世以降である。

181は陶器甕底部である。内面は刷毛で白泥を塗る。底部内面には粘土塊が付着していた。

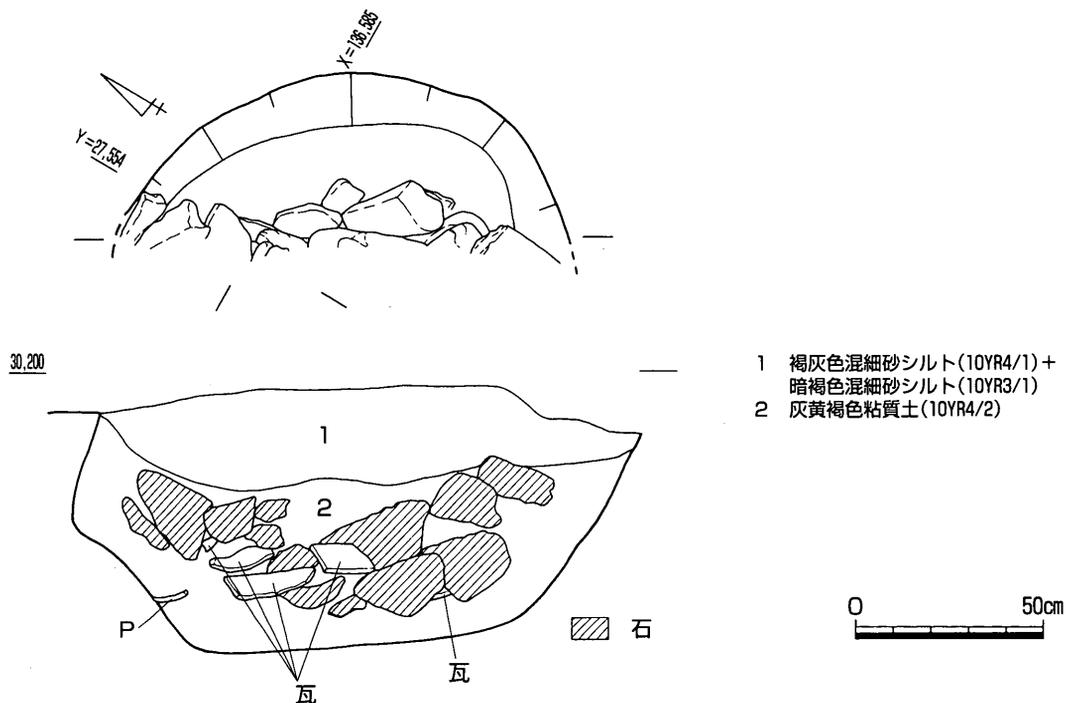
320は図版21で写真のみ掲載した。土師質土器甕底部分で、底部には糞尿痕がみられた。

#### IV区SK17 (第63図)

IVb区北西隅で検出された遺構である。西側は調査区外へ延び、東側はSD06により消失する。不整形を呈し、長軸1.8m以上、幅1.06m、深さ11cm、断面形状は浅い皿状を呈する。落



第63図IV区SK17・18平・断面図 (1/40)、SK17出土遺物 (1/4)



第64図 IV区SK19平・断面図 (1/20)

ち込み状の遺構と思われる。埋土中からは土師質土器が出土した。遺構の時期は、出土遺物から近世初頭頃と考えられる。

182は土師質土器鉢である。

#### IV区SK18 (第63図)

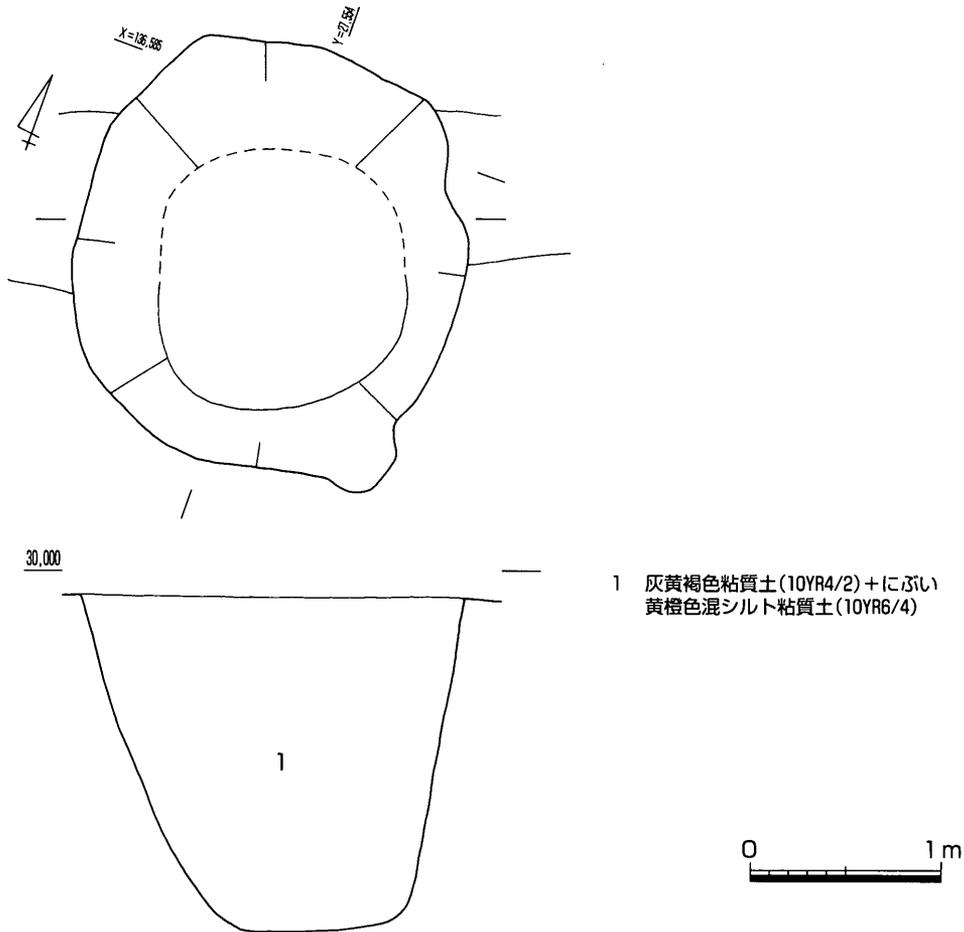
IVb区中央やや北寄り、SD06の下部で検出された。遺構の南側は攪乱により消失し、西側はSD06により消失する。隅丸方形を呈し、一辺1.6m以上と考えられるが、規模・形状とも明らかではない。断面形状は、2基の土坑がつながったような、東側が深い段掘り状を呈し、深さは浅いほうが18cm、深いほうが26cmである。埋土中からは瓦片が出土した。遺構の時期は近世以降である。

#### IV区SK19 (第64図)

IVb区南半西端で検出された。円形と考えられるが、大半は調査区外へ延び、全体の規模・形状は明らかではない。概ね直径1.2m程度、深さ67cm以上、断面形状は逆台形、埋土は褐灰色混細砂シルトと暗褐色混細砂シルト、灰黄褐色粘質土である。土坑内からは10~50cm大の川原石が出土した。検出範囲は狭いが、積み重ねられたものではなく、乱雑な状態が見られ、投棄されたものと考えられる。近接する石積み遺構のうち、不要になった川原石を廃棄した可能性がある。遺構の時期は近世以降と考えられる。

#### IV区SK20 (第65図)

IVb区北部中央付近で検出された。ほぼ円形で直径2.2m、深さ170cm、断面形状は逆台形で、埋土は灰黄褐色粘質土とにぶい黄橙色混シルト粘質土が混ざった土である。埋土中からは遺物は出土しなかった。遺構の重複関係からSD13より新しく、近世以降である。埋土の堆積状況から掘削後すぐに埋め戻されたと考えられる。



第65図 IV区SK20平・断面図 (1/40)

⑤性格不明遺構

II区SX04 (第66図)

II d区南東隅で検出された。隅丸方形で、南東部で膨らんだような形状を呈し、その部分では直径15cm程度の礫が検出された。長軸2.3m、短軸1.6m、南東部の膨らんだ部分は2.3m、断面形状は、土坑の北東側が深い二段掘り状を呈し、深さは深い部分が52cm、浅い部分が24cmである。遺構の重複関係から、SD10より新しい。

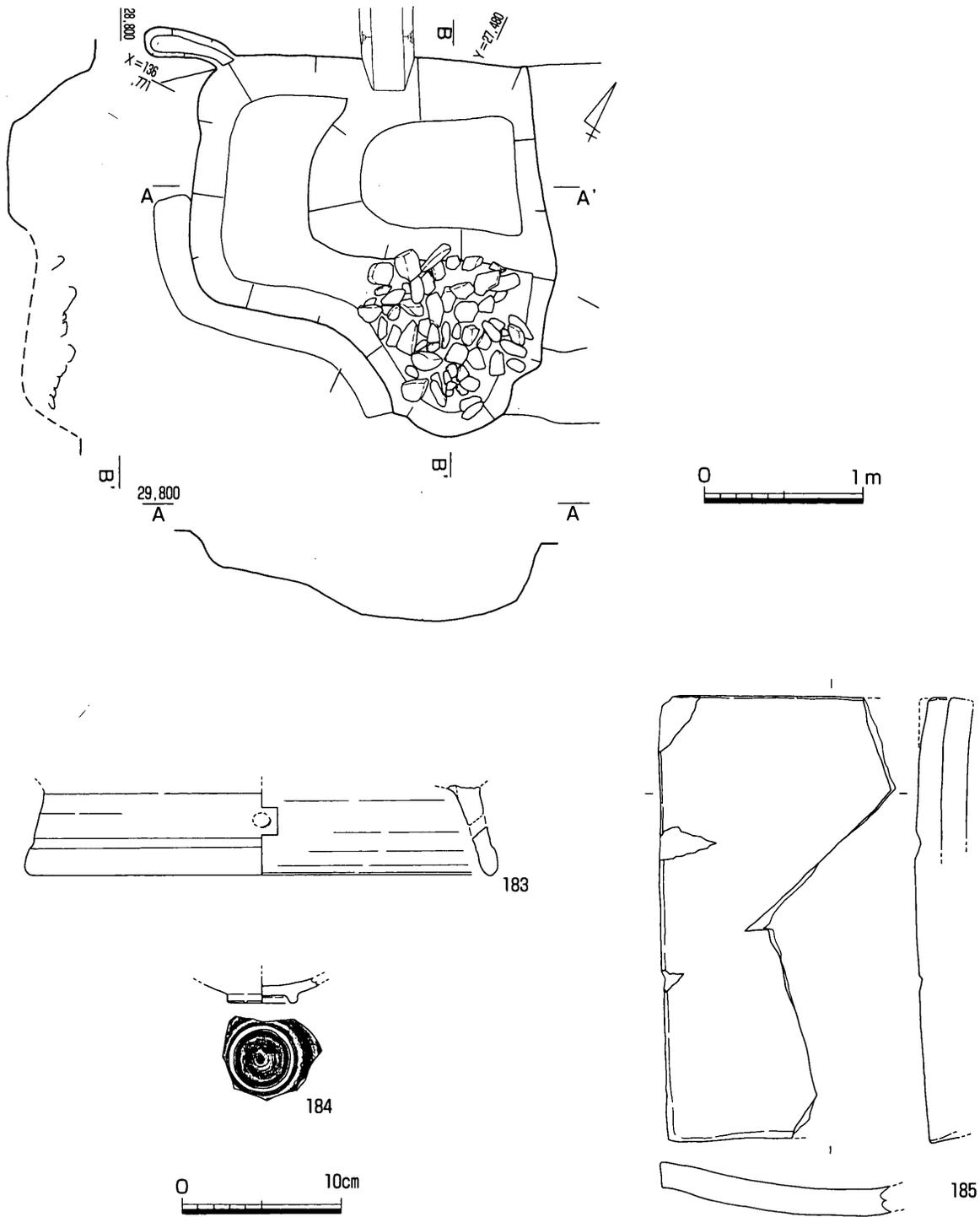
183は土師質土器五徳の脚部で、穿孔が1ヶ所に残る。上部は接合面で、接着しやすいように3条の溝状の刻み目が入れている。184は陶器碗で、瀬戸美濃産の腰鏝碗である。18世紀後半～19世紀初頭のものである。185は平瓦である。

遺構の年代は18世紀後半～19世紀初頭と考えられる。

IV区SX05 (第67・68図)

IVb区中央西端部付近で検出された不定形の遺構である。集石遺構であるSX06・07と重複し、遺構の検出状況から、SX06・07より新しい。西側は調査区外へ延び、北側の遺構の肩は不明瞭である。深さは10～30cmであり、断面形状は緩い皿状である。遺構の性格は不明である。

186は土師質土器甕で、外面には横向きのハの字の刻み目がある突帯をもつ。187～189は陶器である。187は底部で、内面は施釉、外面は無釉である。土瓶または行平の底と考えられる。188は円盤状土製品で、陶器体部片を円形に打ち欠いて作り出されたものである。189は播鉢底



第66図 II区SX04平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

部である。外面にはヘラ削り痕が残り、底部内面にはウールマーク状の卸目があるが、摩滅が著しい。18世紀代の明石産のものである。190・191は磁器碗である。190は内面口縁端部は、草花文を描く。191は磁器皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎが残り、高台には砂粒が付着する。18世紀前半頃のものである。192・193は丸瓦である。面取りは193では下端部から側縁部への順序で、192では上部は玉縁部分と丸瓦部分を連続して行う。凹面にはコビキB痕が残り、凸面は縦方向の板ナデであるが光沢をもつ。192では凹面に棒状工具のタタキ痕が見られる。194は棟込瓦である。裏面には瓦の差込部分が剥離した痕跡が残り、接合部分は密着しやすい

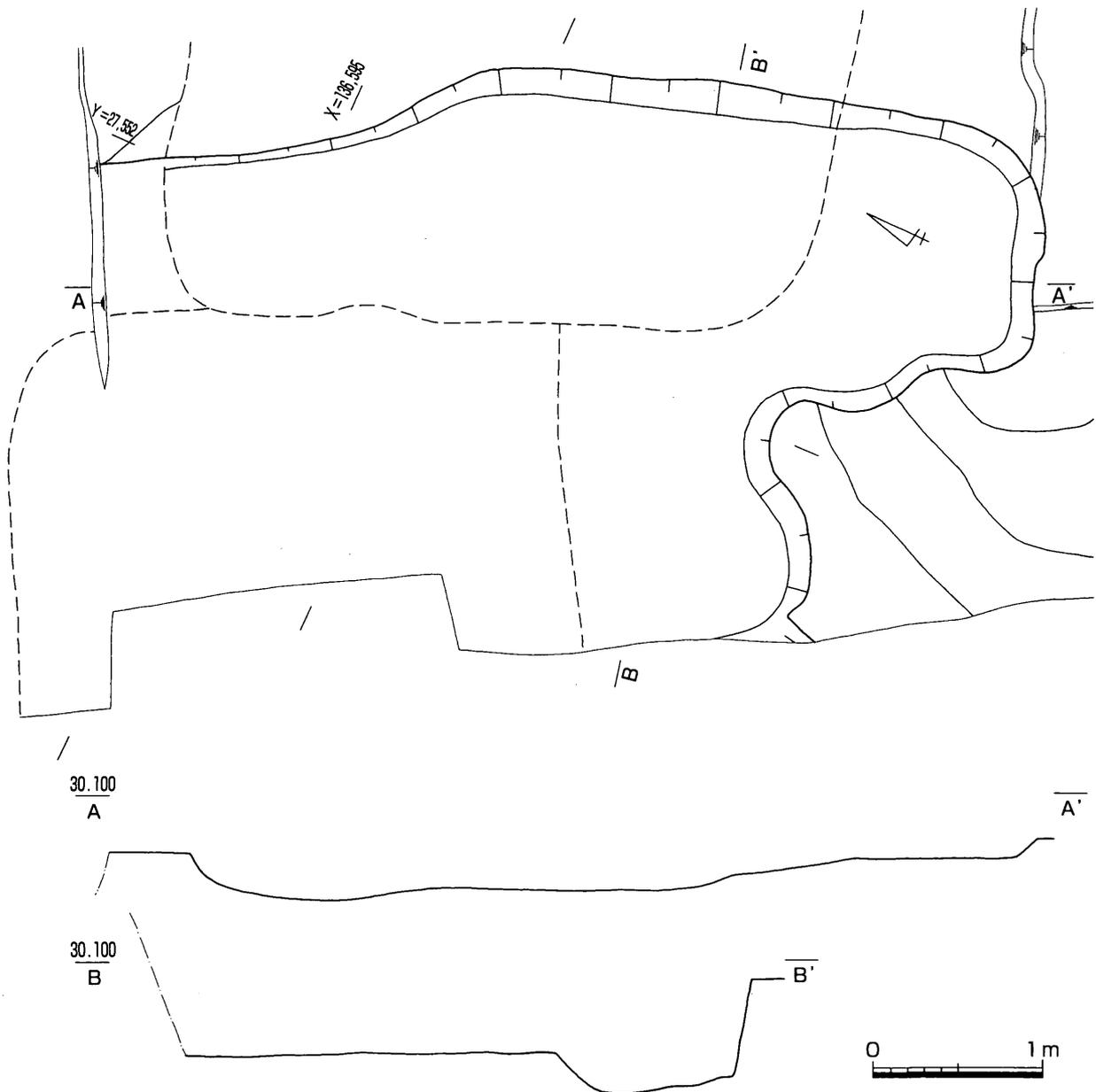
ように刻みが施されていた。195は京伏間瓦である。平瓦の端部に板状の粘土を足して合わせられるようにされている。中央より偏った位置に釘孔が1ヶ所残存する。

遺構の年代は18世紀代である。

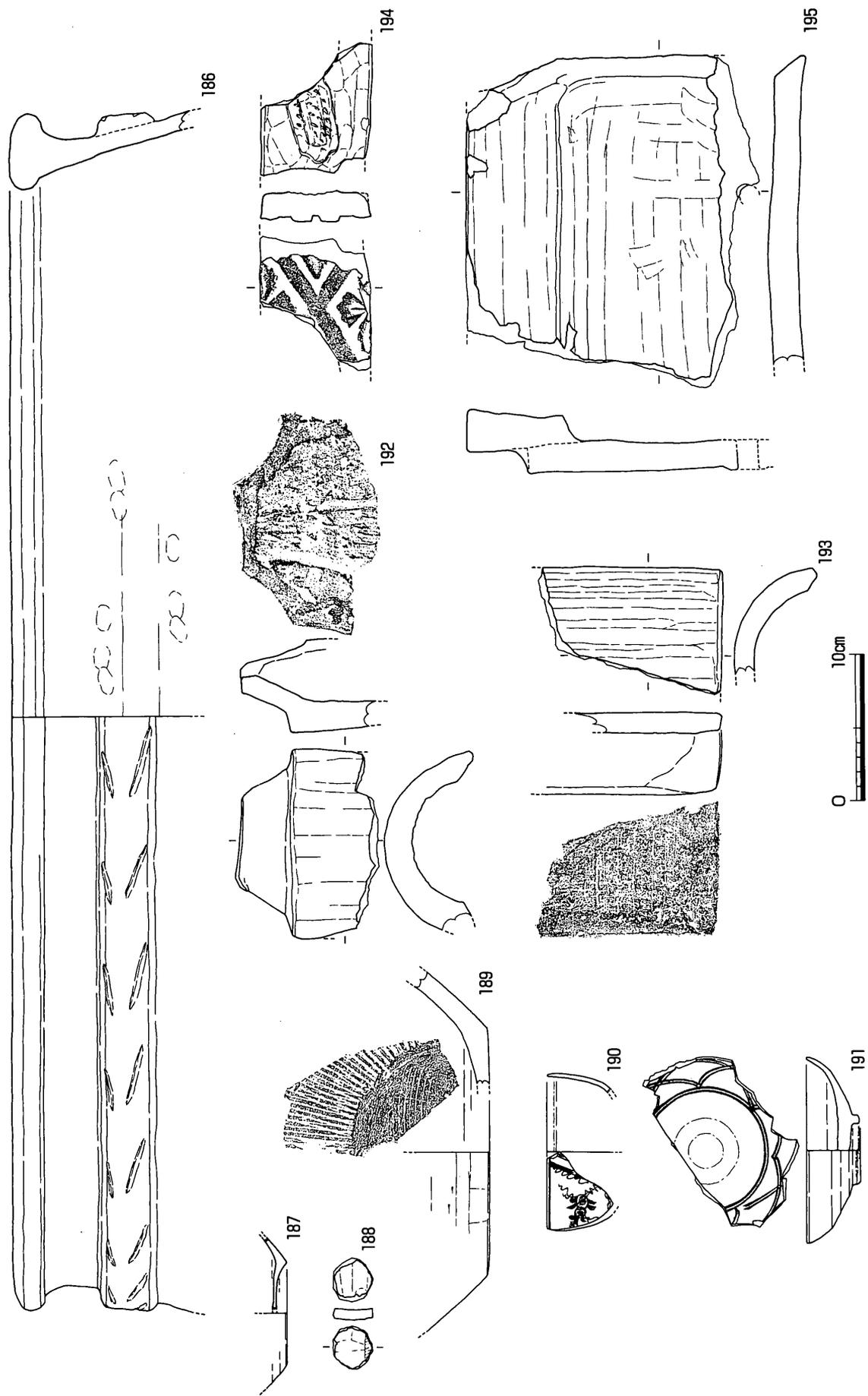
IV区SX06 (第69~72図)

IV b区中央部西端付近で検出された集石遺構である。SX05を掘り下げた後に検出された。西側は調査区外へ延びる。概ね隅丸方形を呈すると考えられる。集石の範囲は一辺2.6m程度で、礫の上面は遺構面から23cm程度高い。遺構内には20~30cm程度の川原石が敷かれ、その間を小さめの川原石で埋められる。中央付近から南側で7本の杭と、礫のない直径25cmの円形部分が1ヶ所見られた。礫の間から陶磁器類の破片が出土した。遺構の性格は不明である。

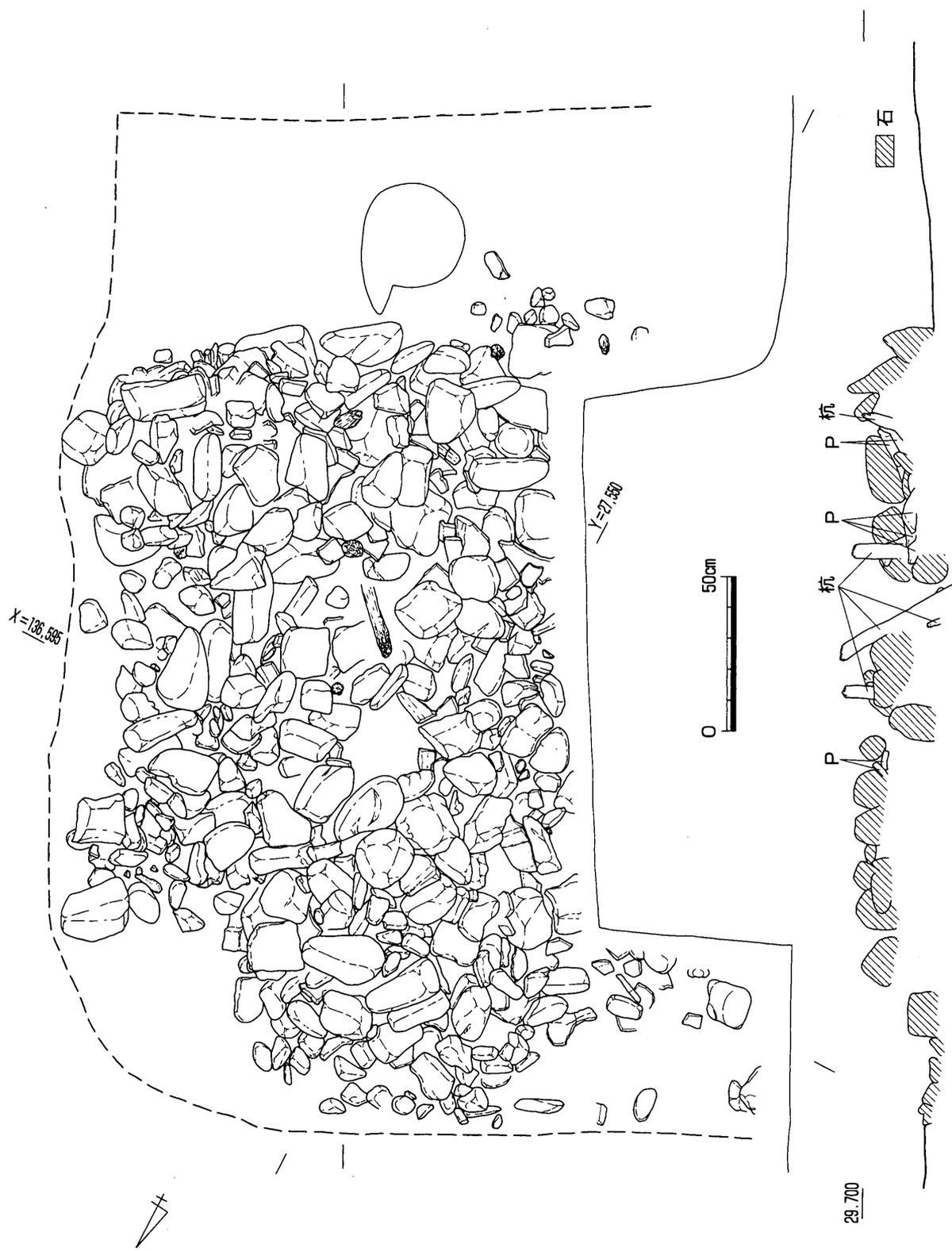
196は瓦質土器の浅鉢である。外面は丁寧に磨く。脚が1ヶ所残る。197~201は陶器である。197は碗で、高台部は露胎である。外面はイッチン描きの技法による。18世紀後半の京・信楽



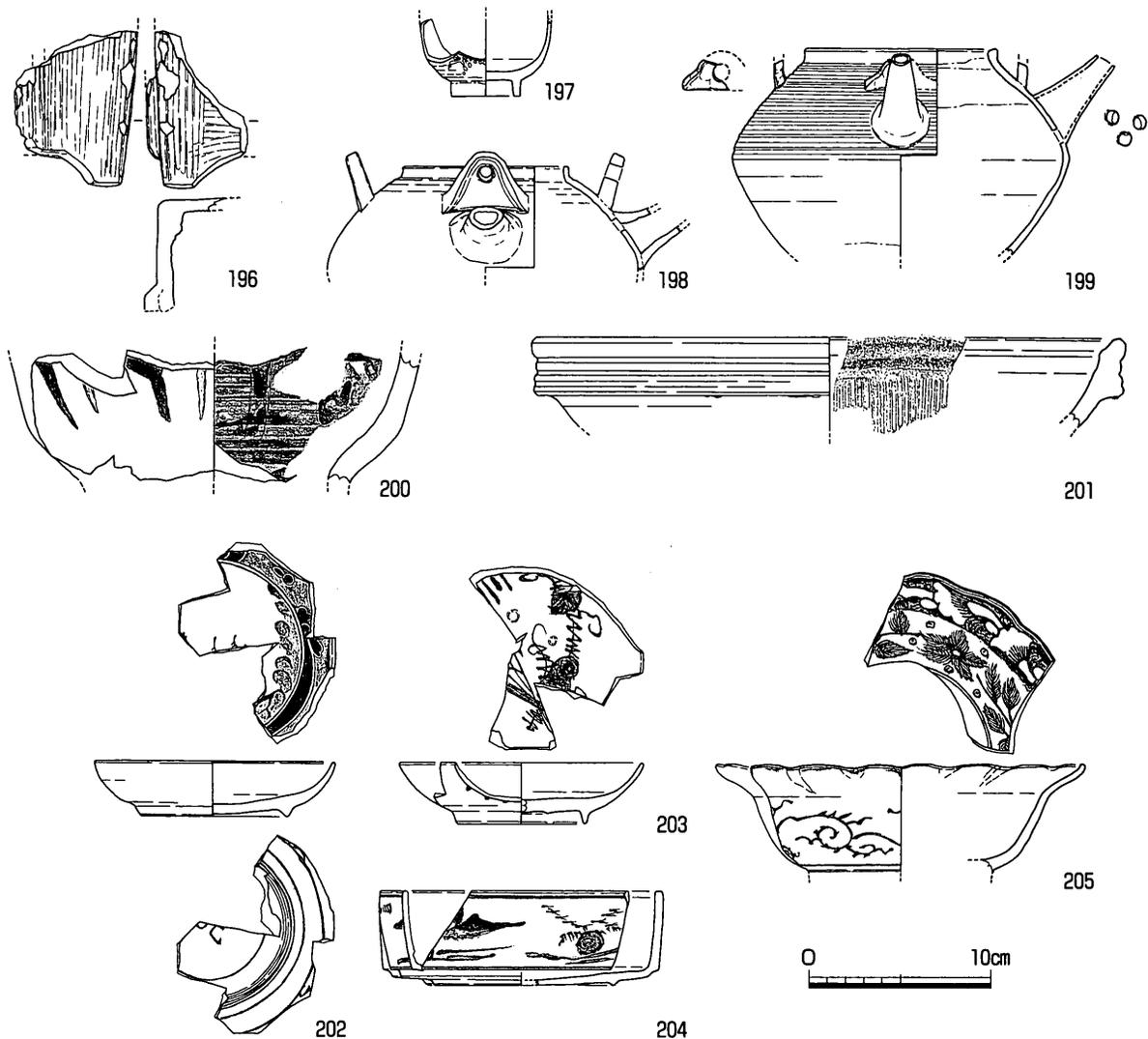
第67図 IV区SX05平・断面図 (1/40)



第68图 N区SX05出土遺物 (1/4)

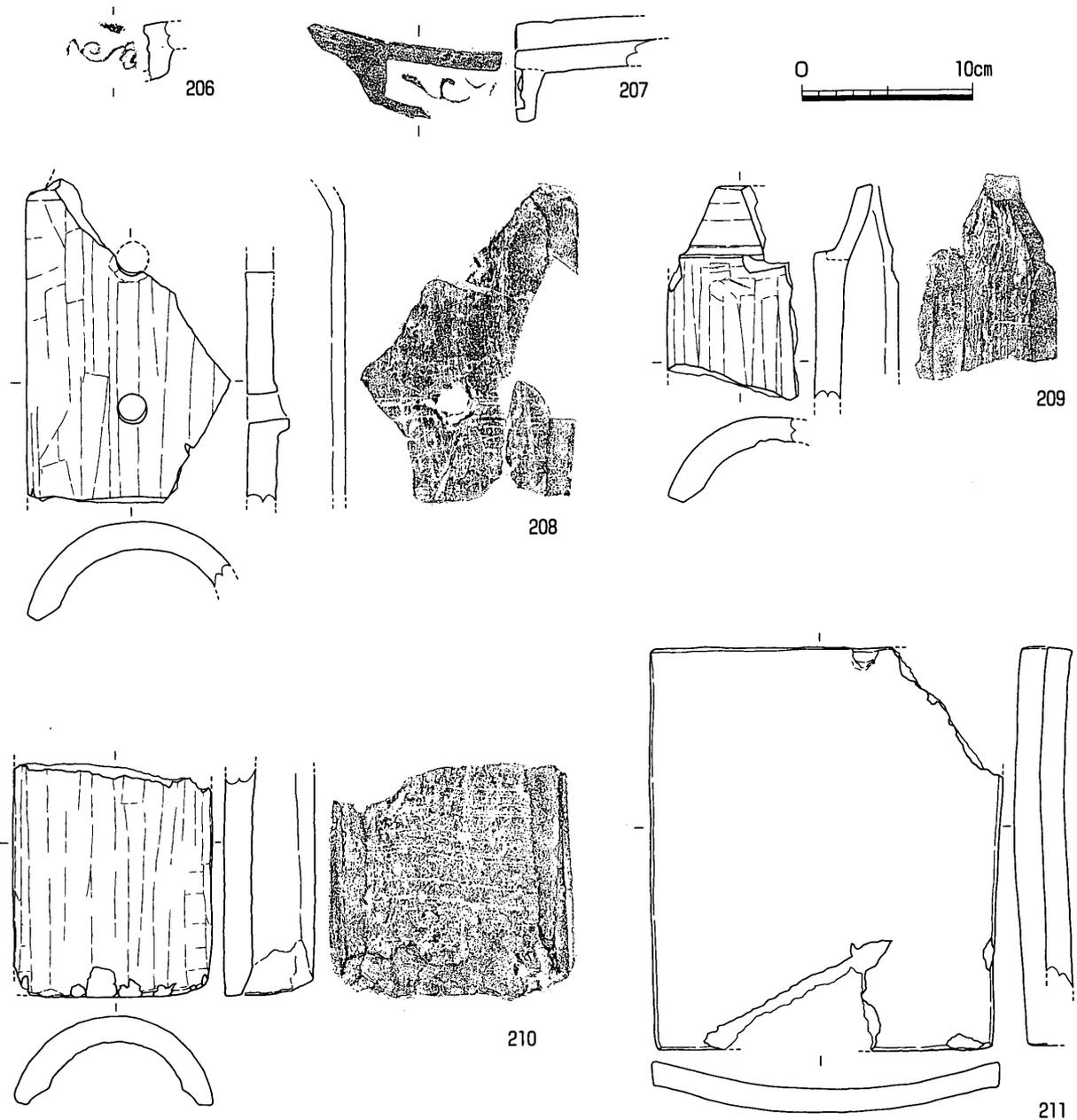


第69图 IV区SX06検出状況平・断面図 (1/20)



第70図 IV区SX06出土遺物 (1) (1/4)

焼系である。198・199は土瓶である。198は赤褐色の釉で、外面には煤が付着する。199は口縁端部と内面体部下半が無釉で、体部上半外面には多条の沈線を施す。東かがわ市所在の谷遺跡で発掘調査された窯跡からきわめて良く似た土瓶が出土している（四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五十二冊 谷遺跡 2003.10 報文番号1038）。200は瀬戸美濃産の壺の下部と考えられる。内面は鉄釉を、外面は青色の釉を流し掛けする。201は備前焼播鉢である。口縁端部外面に重ね焼き痕を残す。18世紀前半のものである。202～205は磁器である。202・203は皿で、202は内面に染付、外面には唐草文を描く。203は内面に草花文を施し、ハリ支え痕を2ヶ所に残す。底部外面は凹型蛇の目高台である。204は鉢である。205は多角形の鉢で、内面は草花文、外面には風唐草文を施す。206・207は軒平瓦である。206は小片で、瓦当面のみ残る。207は均整唐草文で、三転する唐草文を配する。208～210は丸瓦である。いずれも凹面には布目痕とコビキB痕を、凸面には縦方向の板ナデ痕を残す。208は2ヶ所に釘孔を残す。211は平瓦である。212は硯で、SX08の出土品との接合資料である。磨る部分は中央付近が窪んでいてかなり使用した状況が窺える。213・214は砂岩製の砥石である。213は方柱状の石器の三面を砥石として使用し、中央付近は使用による磨滅のため窪んでいる。半分程度は折損する。214も同



第71図 IV区SX06出土遺物 (2) (1/4)

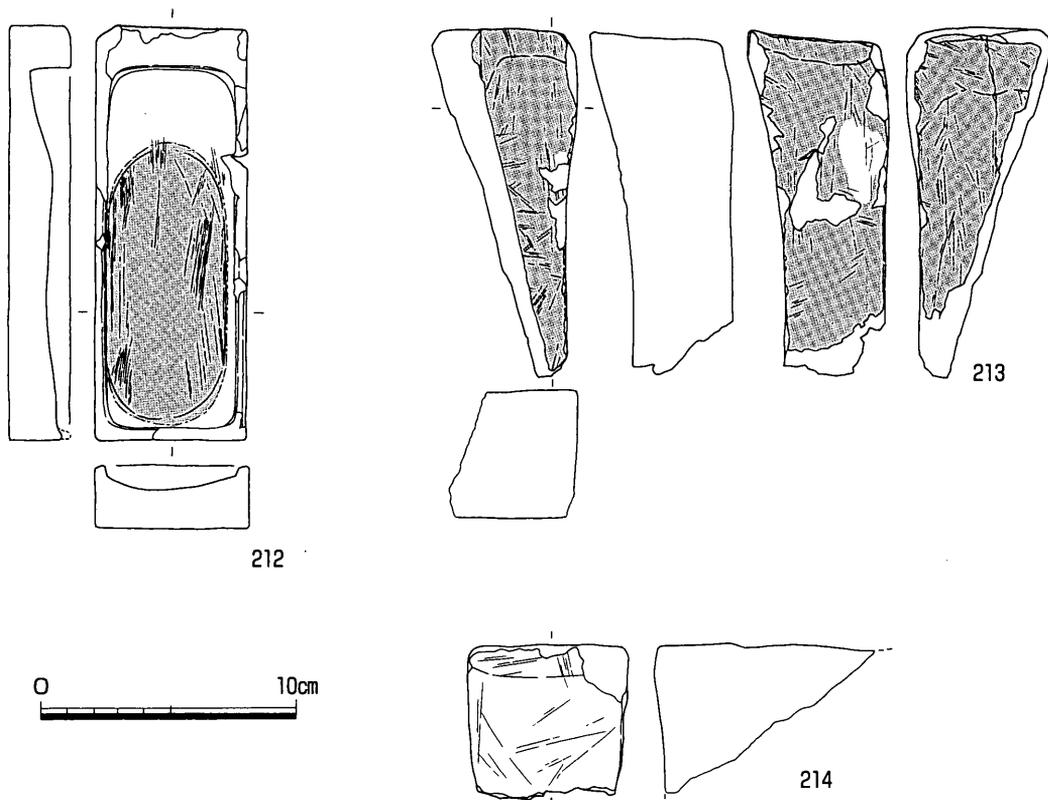
様の形状と考えられるが、大部分が折損している。

遺構の時期はおおむね18世紀代と考えられる。

IV区SX07 (第73図)

IV b区北半中央付近で検出した。隅丸方形を呈し、一辺3.7~3.9m、深さ52cmである。埋土は概ね褐色混細砂シルト、断面形状は逆台形である。遺構の重複関係から、SX05より古く、SD06より新しいと考えられる。遺構の底には小さめの礫が散乱していたが、SX06のように敷き詰めた様子は見られなかった。遺構の性格は不明である。

215は陶器播鉢で、内面には9条1単位の卸目を施し、外面はヘラ削りする。18世紀後半頃の堺産のものである。



第72図 IV区SX06出土遺物 (3) (1/3)

IV区SX08 (第74図)

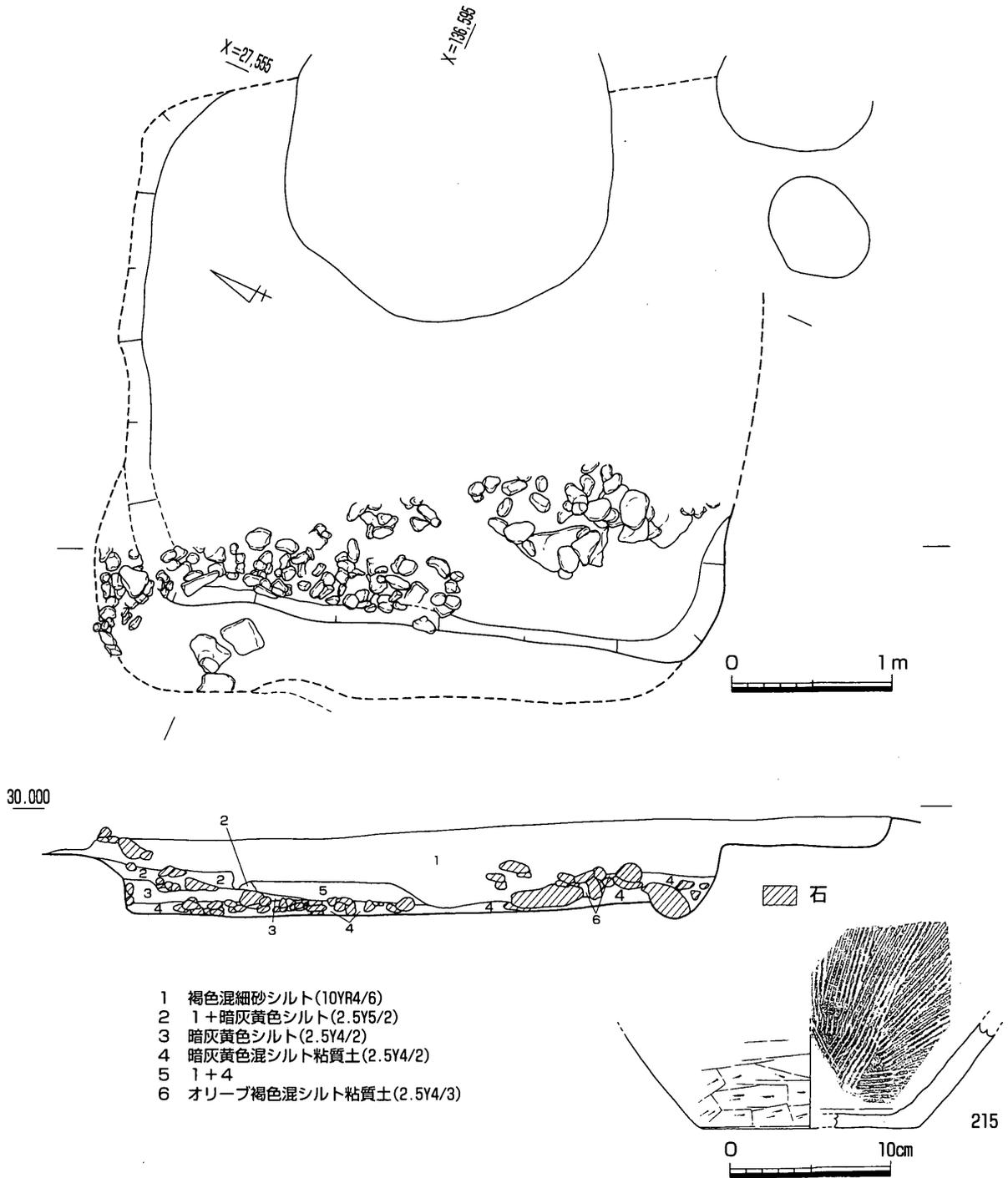
IVb区南半西端付近で検出された。隅丸方形または隅丸長方形と考えられるが、遺構は西側の調査区外へ延びるため、全体の規模・形状は明らかではない。一辺2.7m程度、深さ96cm以上、断面形状は緩い逆台形、埋土は上層が褐色混細砂粘質土・黄褐色混細砂シルト等、下層は緑黒色細砂質土、暗青灰色シルト、青黒色砂礫である。土坑内からは方形または長方形の石組みが検出された。

石組みは一辺2.3mで、20~30cm程度の川原石を重ね、南側では5~10cm大の小礫を控えてして石の裏側へ入れる。石組みは1~2段分検出された。遺構の埋土により、下部は酸素が少ない状態で、絶えず水分を含んでいたと考えられることから、井戸か湧水地の可能性がある。遺構の時期は近世以降である。

216は丸瓦で、凹面にはコビキB痕が、凸面にはヘラミガキ状の調整が残る。

IV区SX10 (第75~85図)

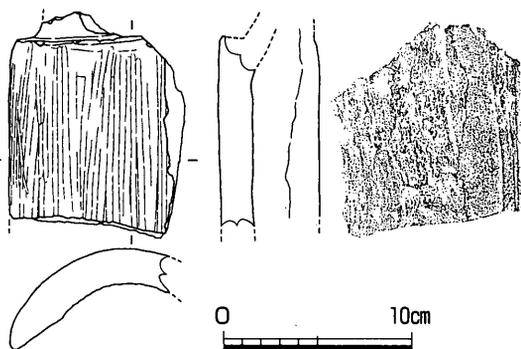
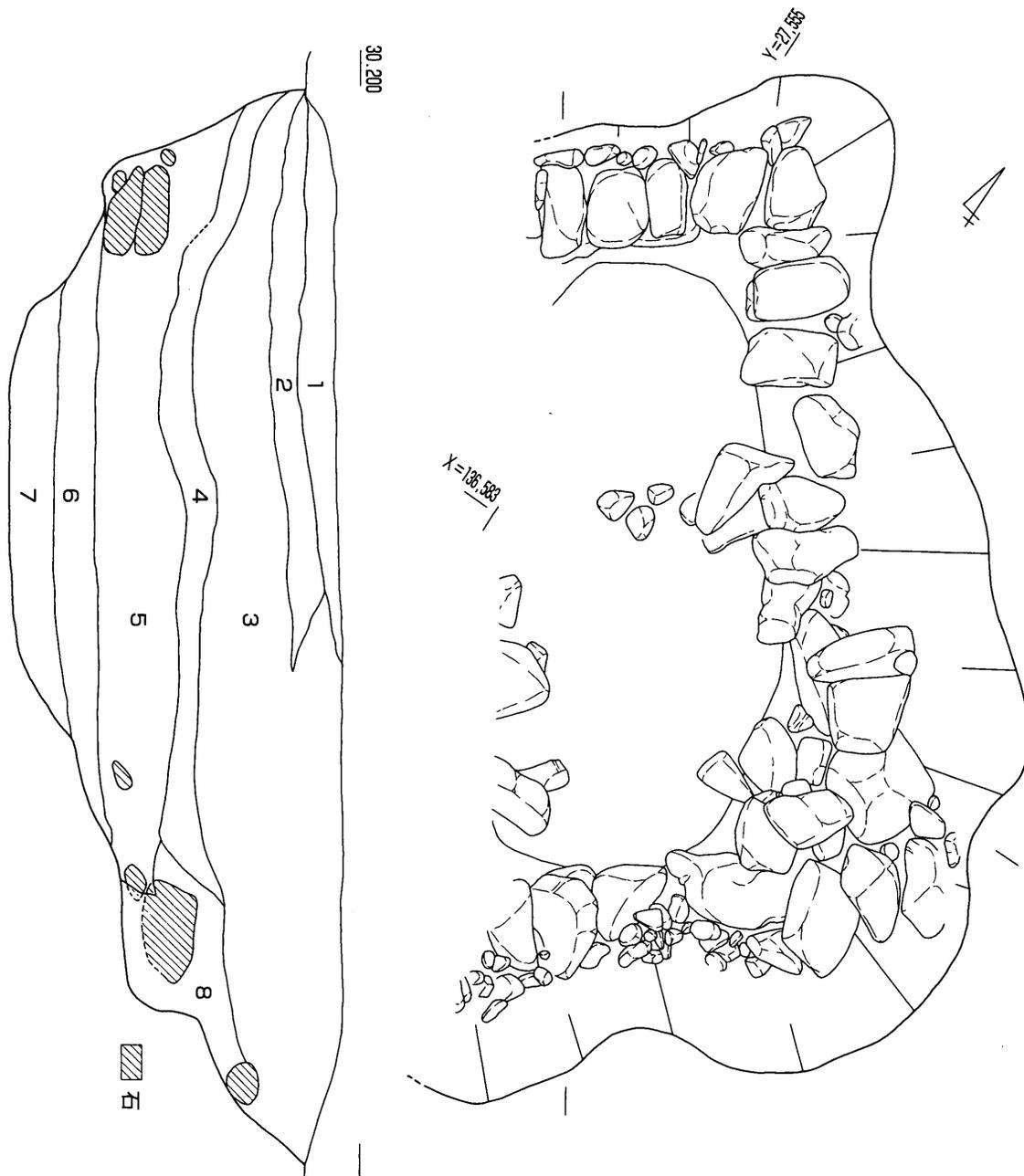
IV区南西部で検出された不定形の遺構である。幅2.3~2.9m、深さ50cmの鍵型に屈曲する溝状遺構で、南側は調査区外へ延びる。南東側の屈曲部付近で大甕が埋められた土坑が検出された。溝状遺構の部分は概ね2段掘り状を呈し、東側の肩は遺構の北端付近から大甕を埋めた土坑付近まで川原石で1列に石組みを作っている。この石組みは、写真によれば大甕を埋めた遺構の南側の西肩でも検出されており、南側調査区外まで続くと考えられる。遺構の北端部分では長軸2.9m、短軸2.0m、深さ22cm程度の浅い落ち込み状を呈し、遺構の石組みに使用したものと同様の川原石が散在していた。大甕が埋められていた土坑は長軸1.9m、短軸1.6m、深さは溝状遺構の底から36cmであった。また、北側の屈曲部付近では備前焼の壺が立てられた状



第73図 IV区SX07平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

態で出土した。最も深い、大甕を埋めた土坑で湧水が見られることから、湧水施設か導水施設であったと考えられる。

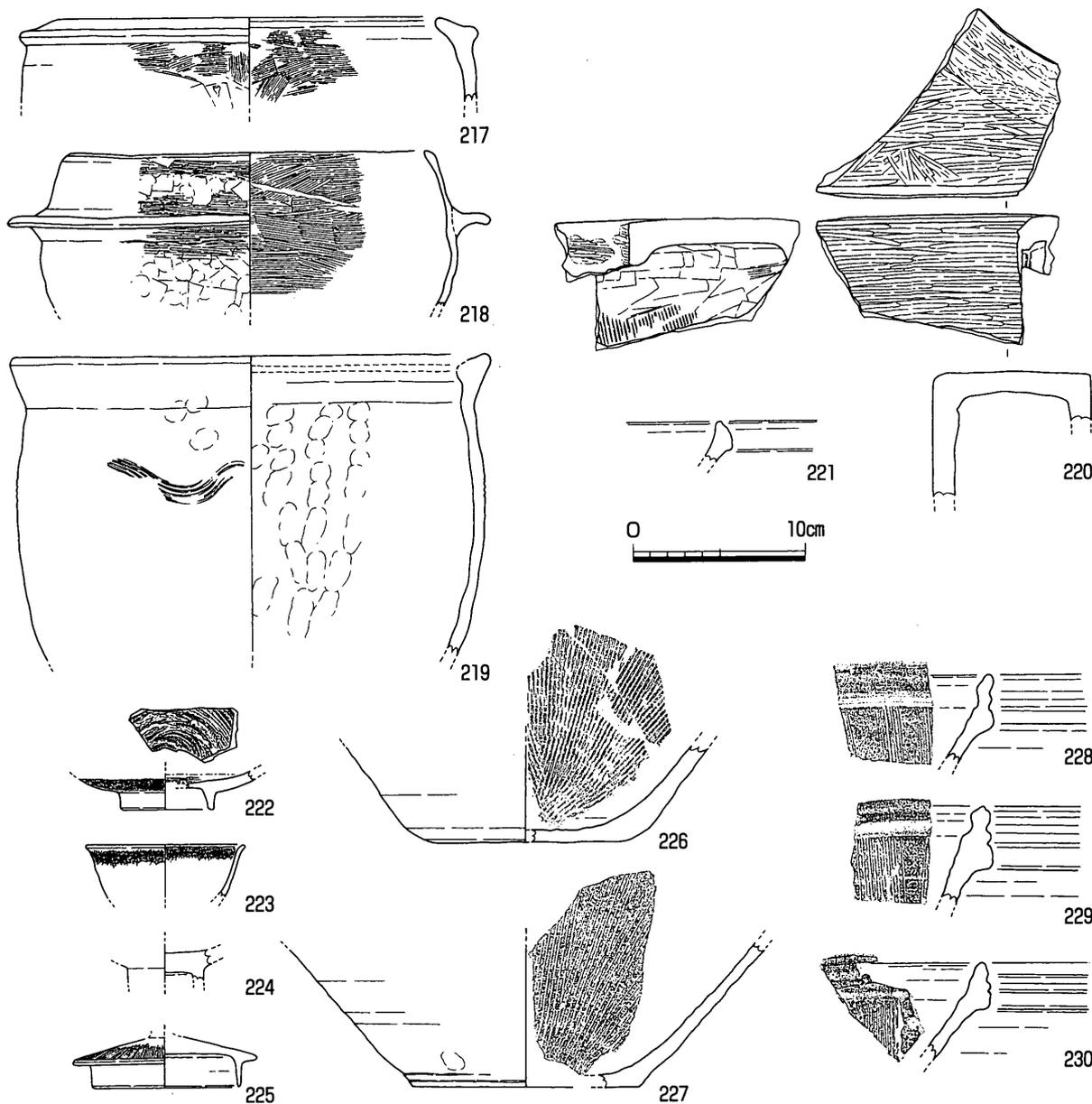
217・219は土師質土器である。217は把手付鍋で、内外面とも板ナデに近い浅い刷毛で調整する。17世紀中頃のものである。219は甕で、体部には4条1単位の波状文を施す。218は瓦質土器羽釜である。外面体部下半には指押さえ痕が顕著に残る。220は瓦質土器竈小片である。火口・焚き口を2ヶ所にもつもので、火口が1ヶ所部分的に残る。221は東播系の須恵器捏鉢である。222～235は陶器である。222は刷毛目皿で、内面には蛇の目釉剥ぎと、重ね焼き痕が認められる。釉剥ぎの部分にも白泥による刷毛が施される。18世紀後半のものである。223は



216

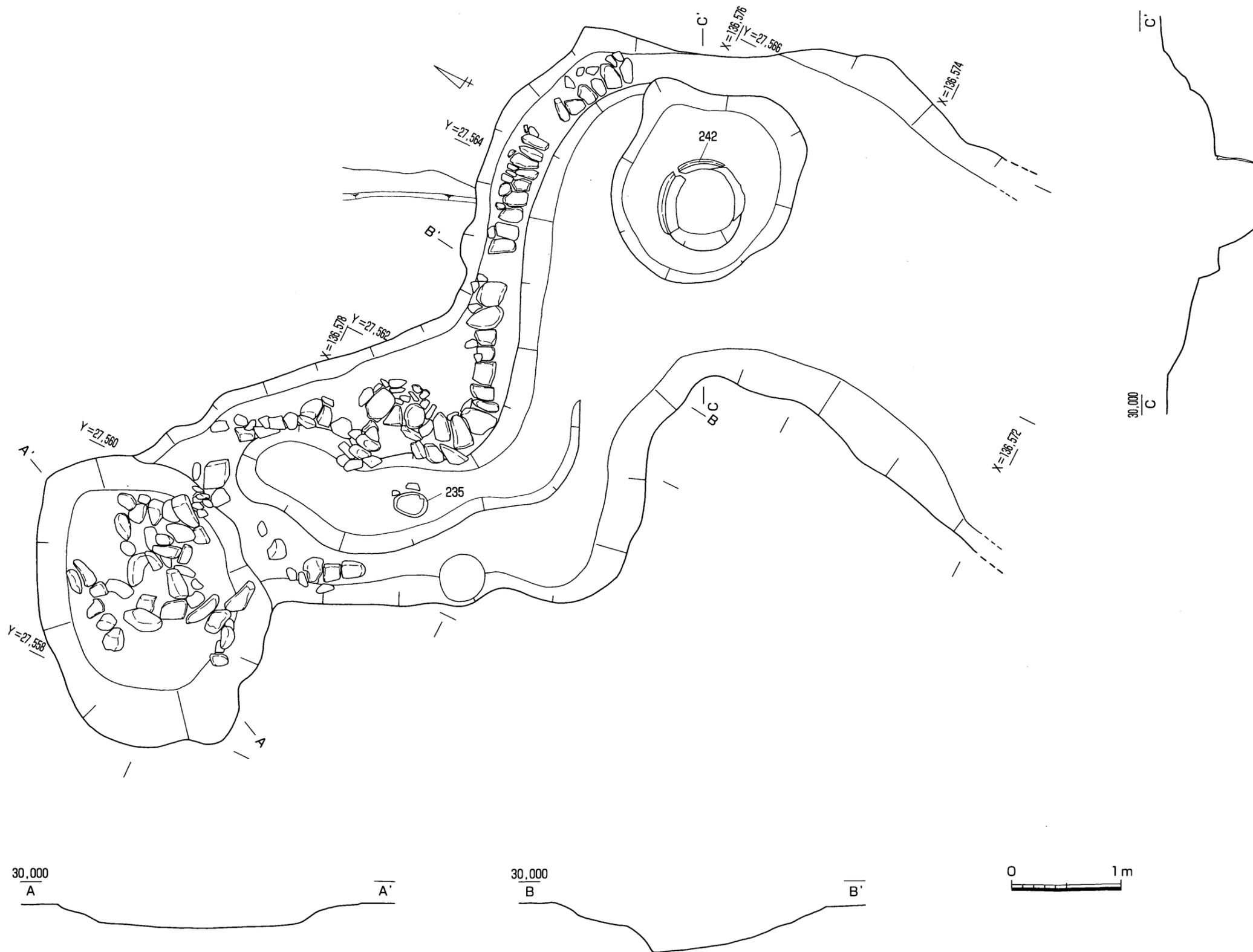
- 1 暗オリーブ褐色混細砂シルト(2.5Y3/3)
- 2 褐色混細砂シルト(10YR4/6)
- 3 褐色混細砂粘質土(10YR4/6)+黄褐色混細砂シルト(2.5Y5/4)
- 4 褐色混シルト粘質土(10YR4/6)
- 5 緑黑色細砂質土(10GY2/1)
- 6 暗青灰色シルト(10BG4/1)
- 7 青黑色砂礫(10BG2/1)
- 8 4+5

第74図 IV区SX08検出状況平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)

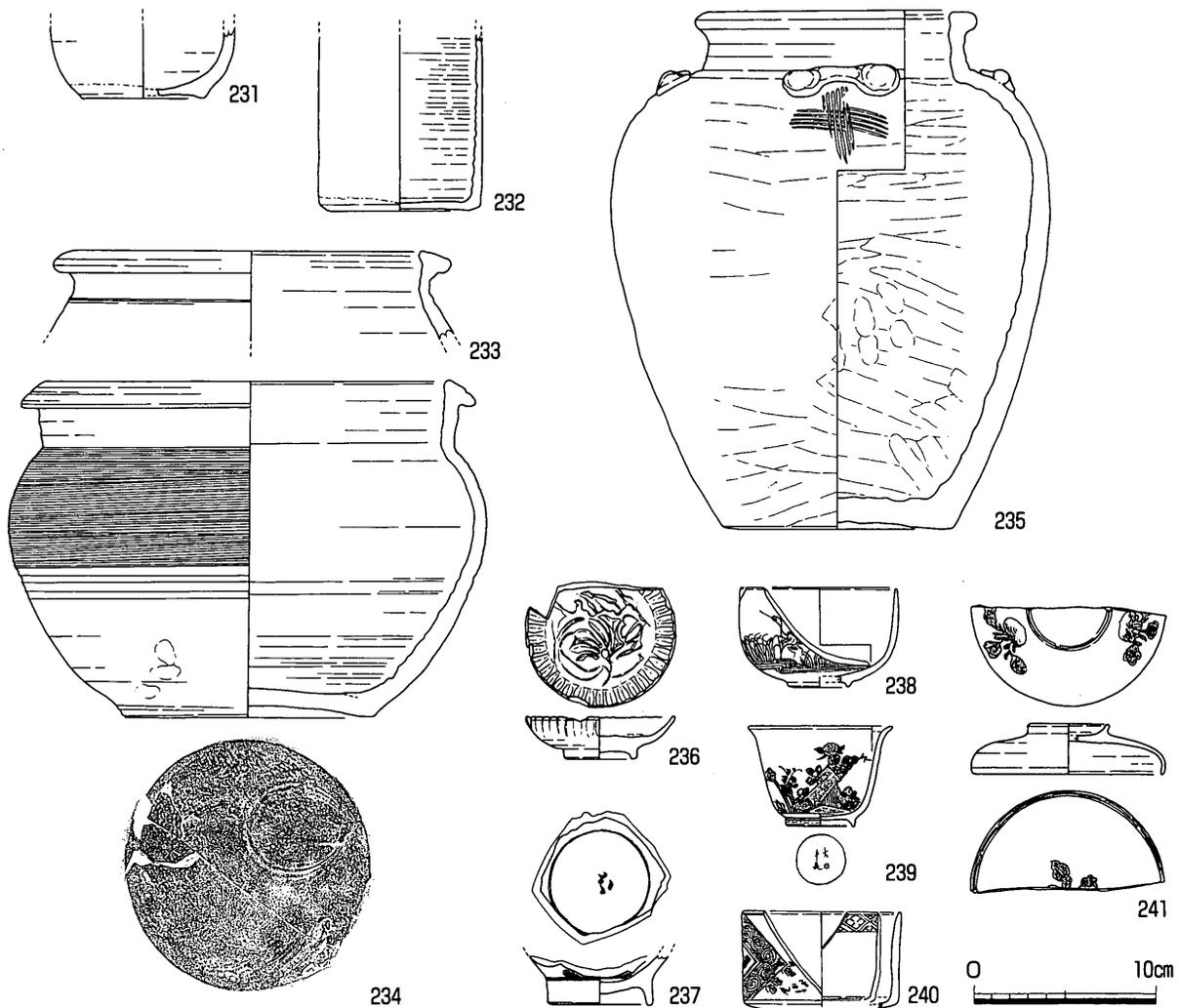


第75図 IV区SX10出土遺物 (1) (1/4)

端反碗で、口縁端部内外面には緑色で彩る。19世紀中頃の京・信楽焼系である。224は肥前系陶器の呉器手である。体部と高台部を打ち欠き円盤状にする。18世紀前半のものである。225は蓋である。226～230は備前焼の播鉢で、体部は回転ナデで仕上げる。229には口縁端部に重ね焼きの痕跡が残る。231・232は壺底部で、232は底部に重ね焼きの際の胎土目が残る。233・234は甕である。233・234は口縁端部を拡張し、直立気味の頸部の下部に体部が付く。内外面に鉄釉を掛ける。234は体部に櫛描沈線文を施し、底部外面には回転糸切り痕を残す。235は備前焼の壺で、肩部に把手を4ヶ所に付け、把手の下部にはヘラ描きによる文様を施す。236～241は磁器である。236は白磁で、体部は波状にし、見込みには花文を片彫りする。237は広東碗で、体部は打ち欠き円盤状にする。高台端部には重ね焼きの際のハナレ砂の痕跡がある。238は半球碗で、外面には鶴と草の文様を描く。239は端反碗で、体部には草花文を描き、底部外面には「大明年製」の銘がある。240は外面に色絵を施す。241は蓋である。外面には蕪の絵

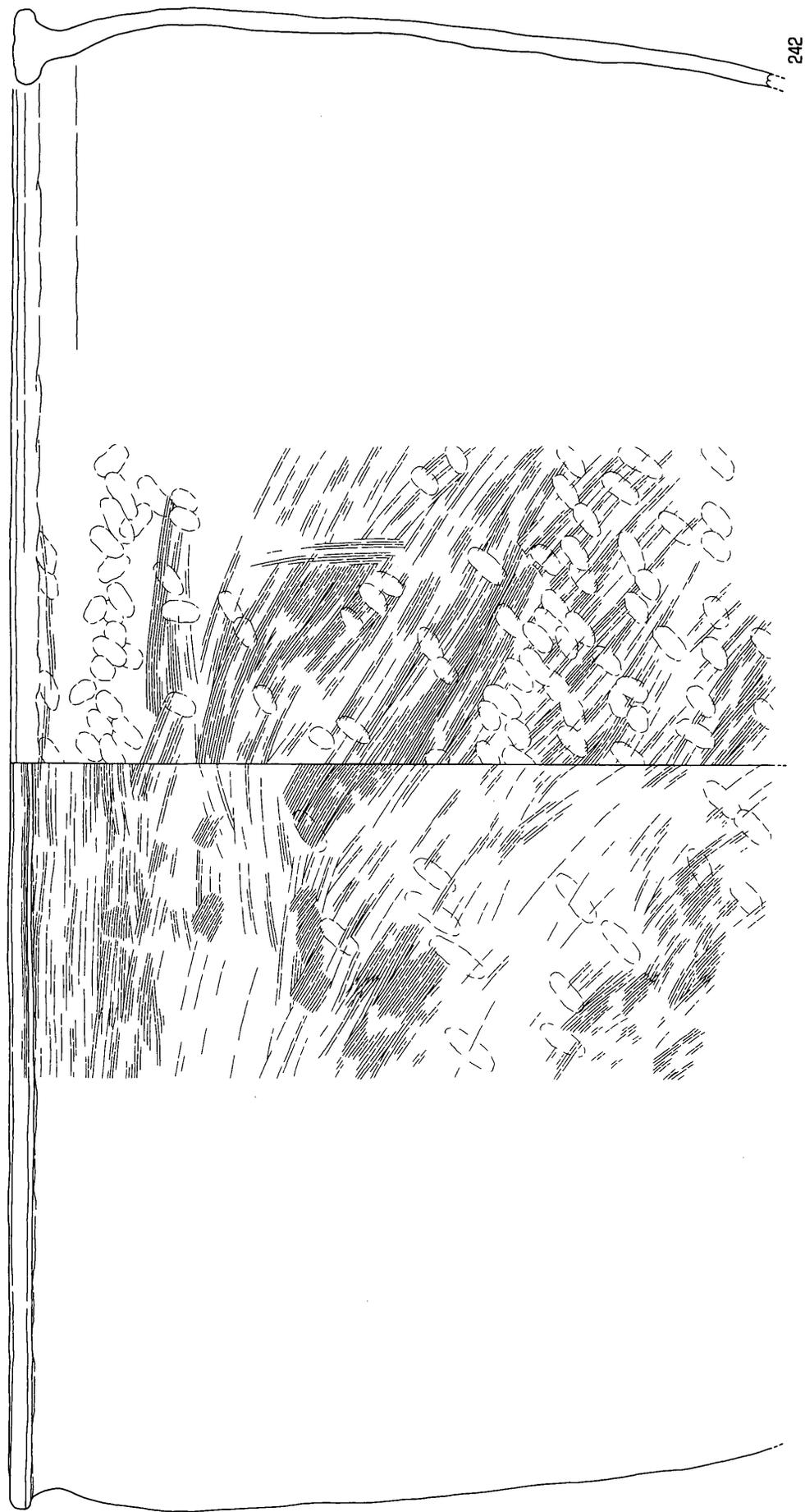


第76図 IV区SX10検出状況平・断面図(1/40)

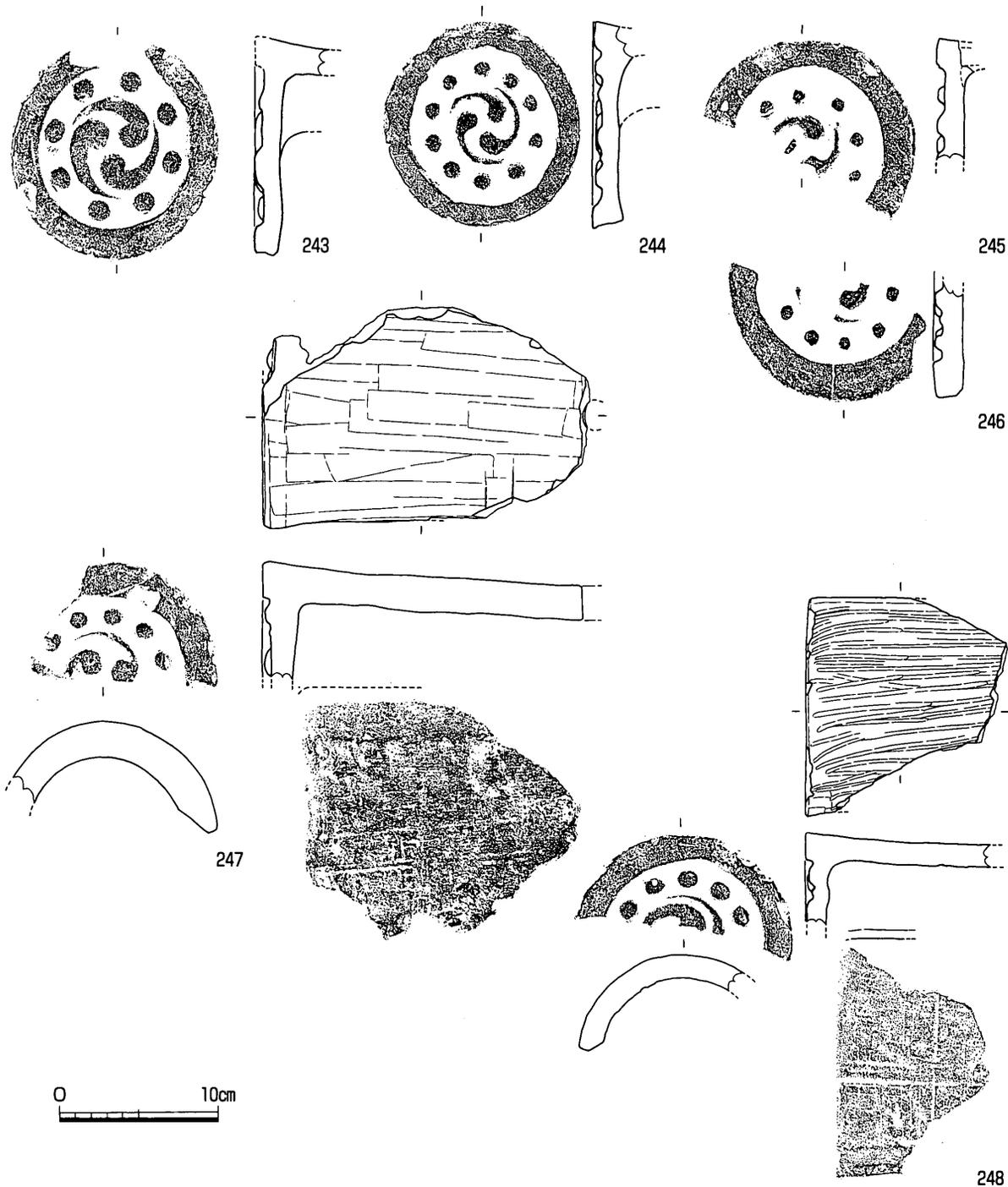


第77図 IV区SX10出土遺物 (2) (1/4)

が描かれ、内面見込み部分にも燕が描かれていると考えられる。時期は概ね18世紀後半～19世紀初頭のものである。242は土師質土器甕で、口縁端部を内外面へ拡張する。243～249は軒丸瓦で、いずれも左回りの巴文がある。瓦当径は12.5～14.5cm、珠文は8～11個である。瓦当裏面の整形はナデで、最後に下半部を円弧に沿ってなでつける。丸瓦部分はすべてコビキBによる切り離しで、凸面は板・ヘラ等でなでつけ、光沢を出す。その他の調整は認められない。248は丸瓦がやや薄手である。249は瓦当外縁部分に草木の圧痕が残され、丸瓦部分には釘孔が2ヶ所に残る。250～254は軒平瓦である。平瓦と瓦当との接合方法は、いずれも平瓦の下部に粘土が足されている。250は中心飾りに七葉文を配し、二転する唐草を配する。254は中心飾りに四葉文を配し、三転する唐草を配する。253も中心飾りに四葉文を配すると思われる。253は文様構成が94と類似し、同文の可能性はある。また、253は251・252とも唐草文の形が類似しており、同文の可能性はある。軒平瓦はいずれも瓦当上角は面取りしない。255～265は丸瓦である。全長は21.4～23.2cm、凹面にはコビキBによる切り離し痕がある。255・257・260・265には内叩き痕が残る。259には釘孔が2ヶ所認められ、瓦当が付くものと考えられる。265「半」の刻印がある。266～270は平瓦で、長さ22.7～24.9cm、幅21.2～24.0cmである。271～273は鳥衾である。凸面と筒部分をていねいに磨き、釘孔を2ヶ所に開ける。274は棧瓦である。275～



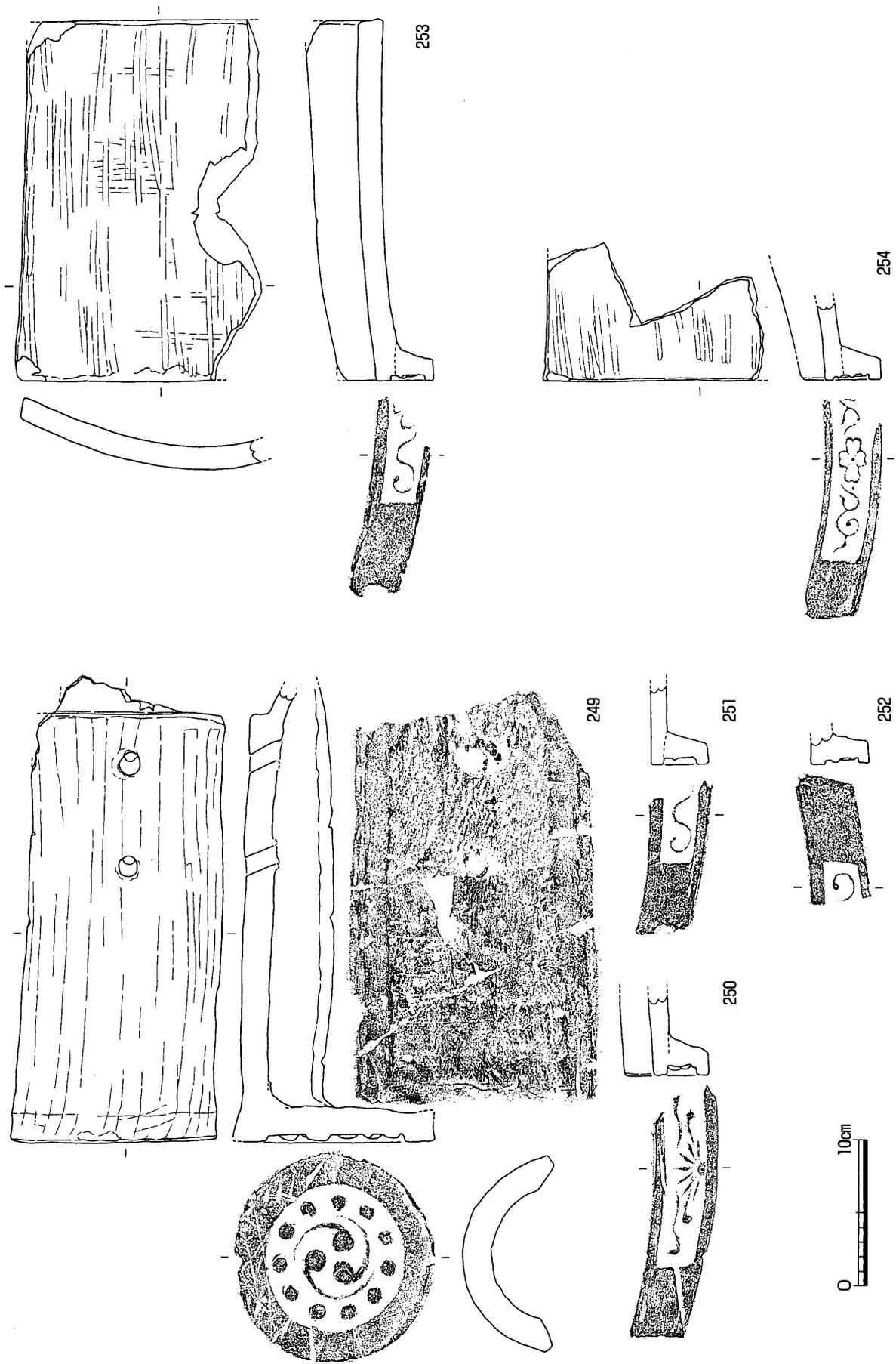
第78図 IV区SX10出土遺物(3)(1/4)



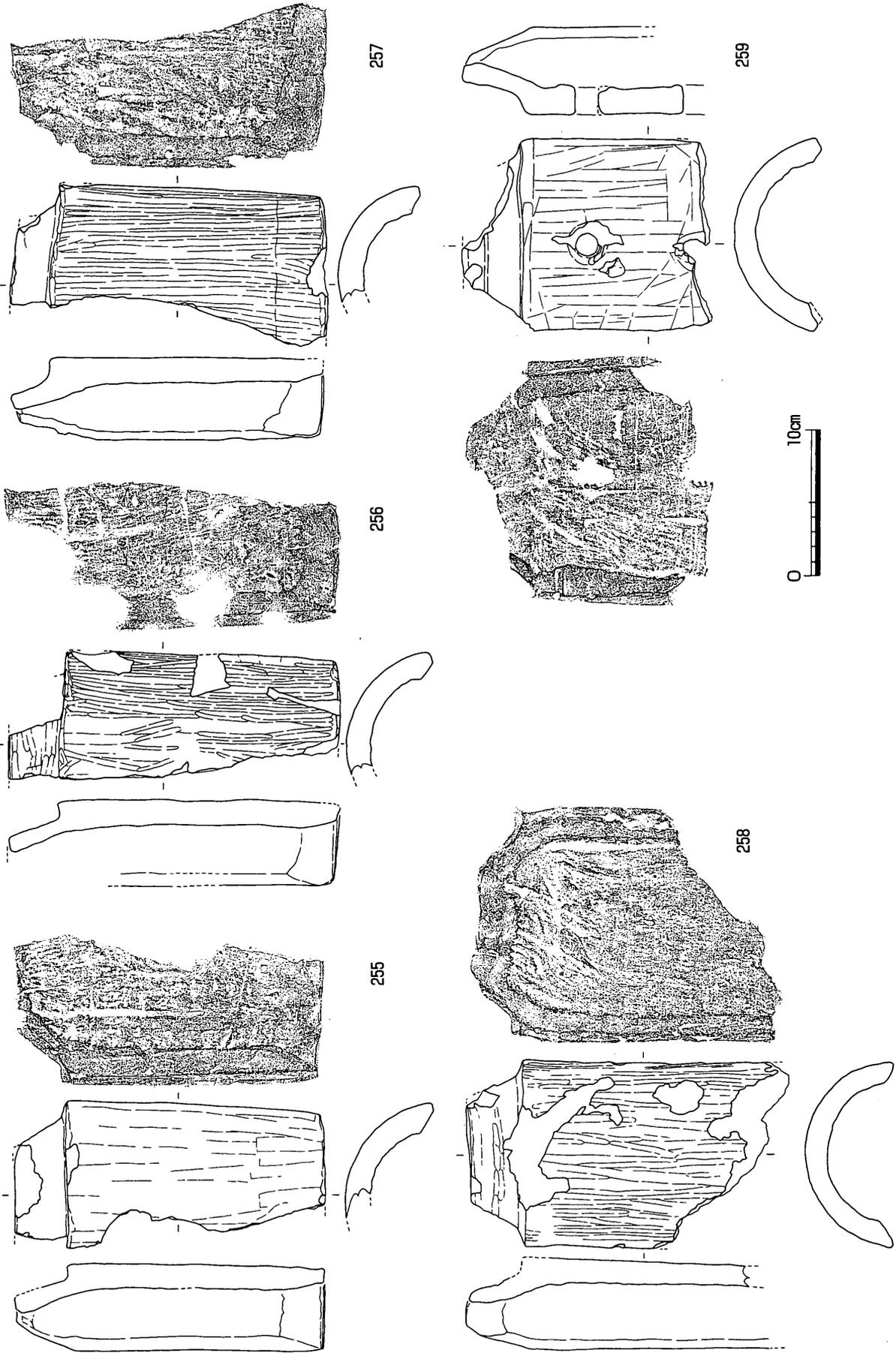
第79図 IV区SX10出土遺物 (4) (1/4)

277は砂岩製砥石である。方柱状の石材で、四面が使用されているが、特に長辺の中央部分が著しく窪んでいる。いずれも折損する。275・276には上面に工具痕跡が、277には敲打状の窪みがある。278は銅金具である。両端付近に孔がある。表面には細い掘り込みによる文様が描かれる。摩滅から、文様構成は不明瞭であるが、花文を中心に、両側に二転する唐草文を描き、背後に細かい円形の模様を隙間なく描く。表具につく金具と考えられる。

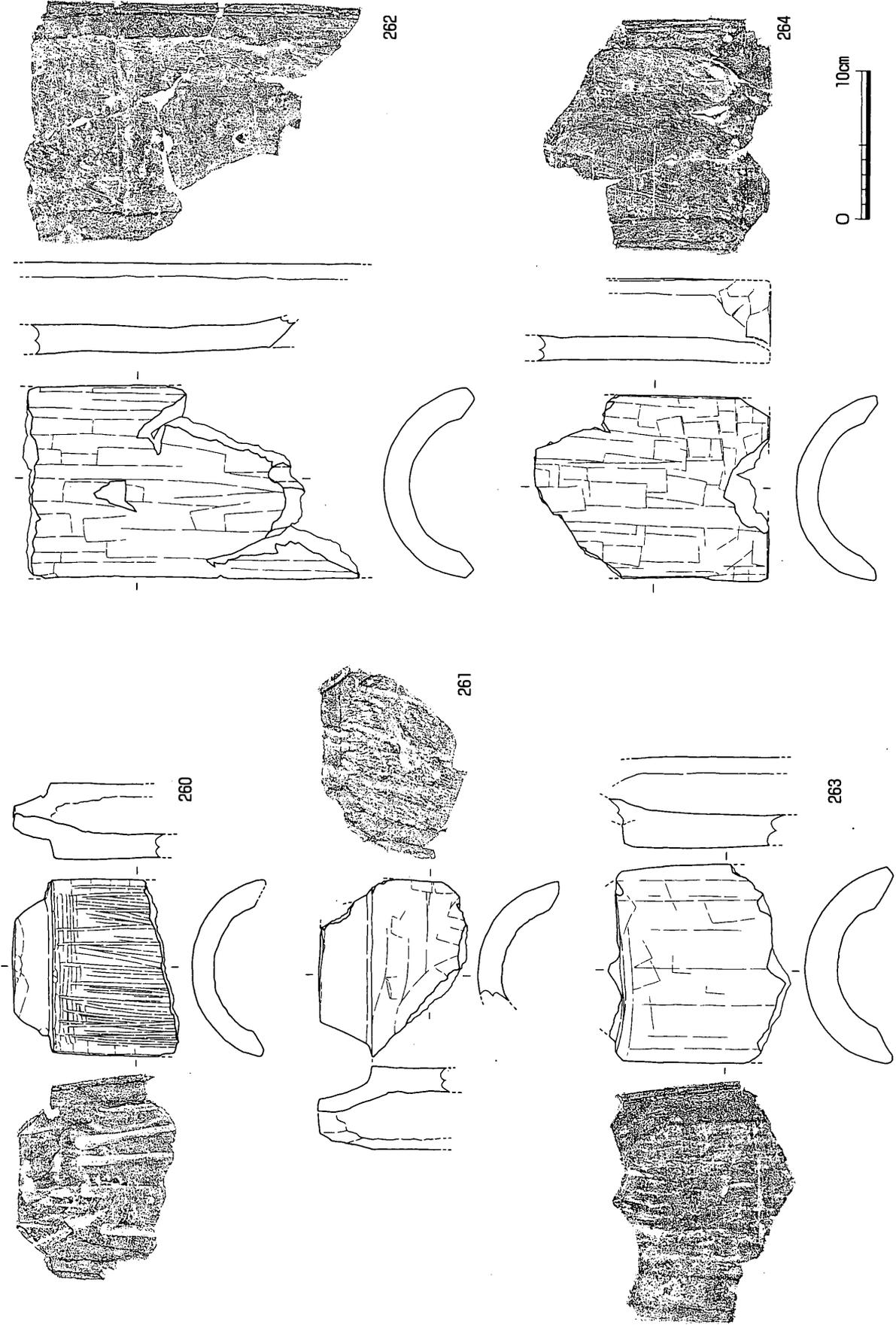
出土遺物は18世紀後半～19世紀初頭頃のものが多く、遺構の時期はこの頃と考えられる。



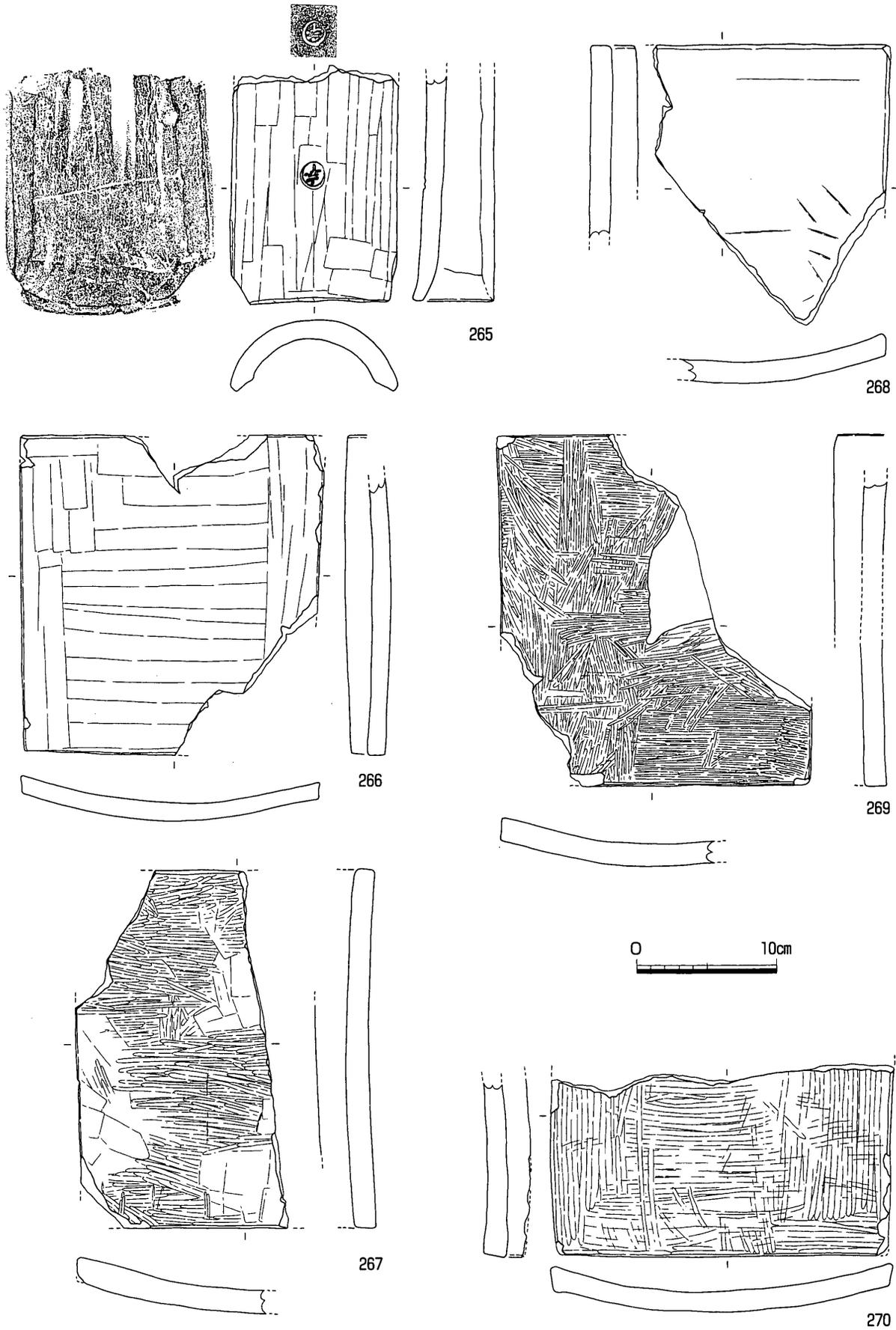
第80图 IV区SX10出土遺物 (5) (1/4)



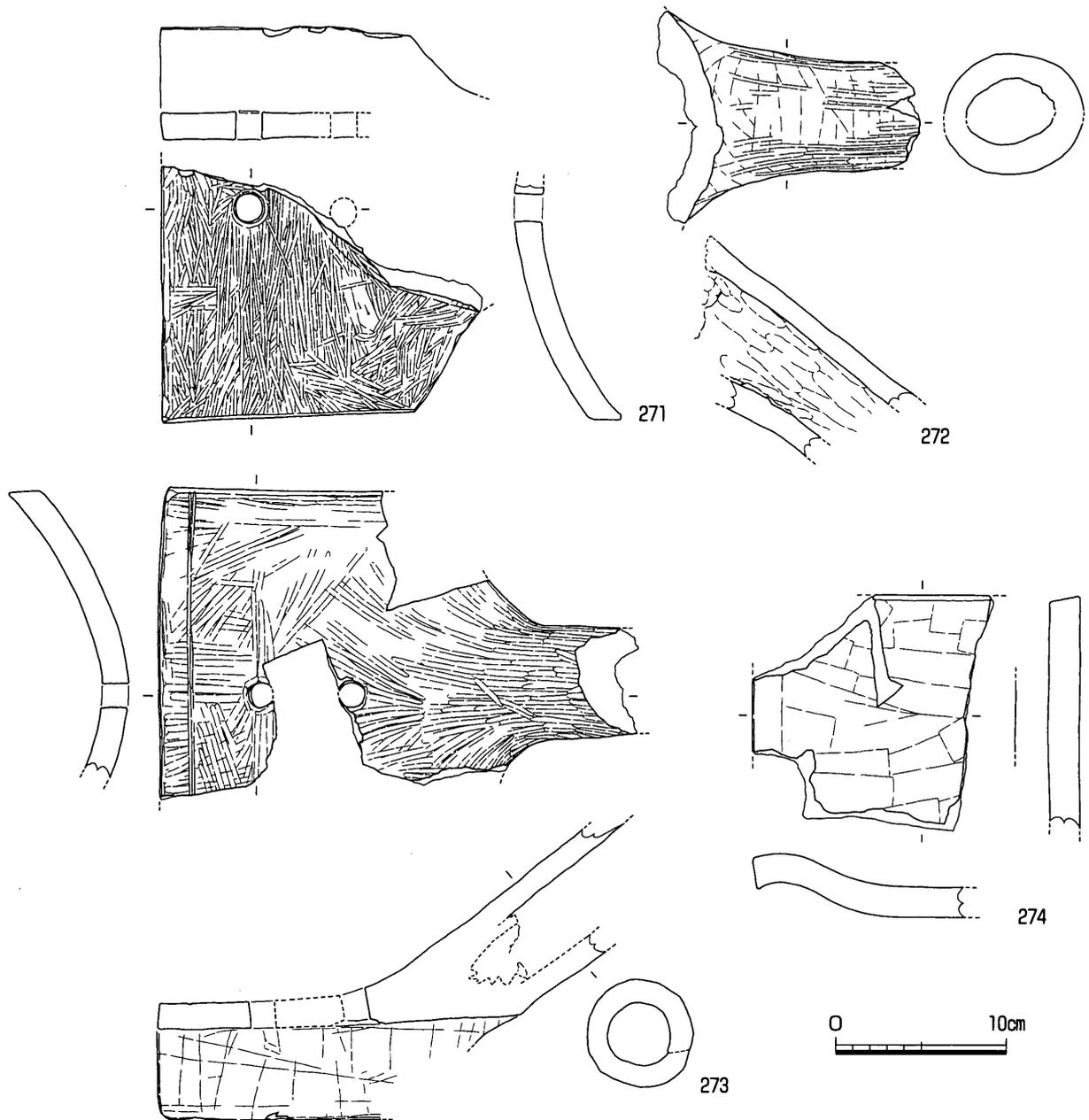
第81图 IV区SX10出土遺物 (6) (1/4)



第82图 IV区SX10出土遗物 (7) (1/4)



第83图 IV区SX10出土遺物 (8) (1/4)

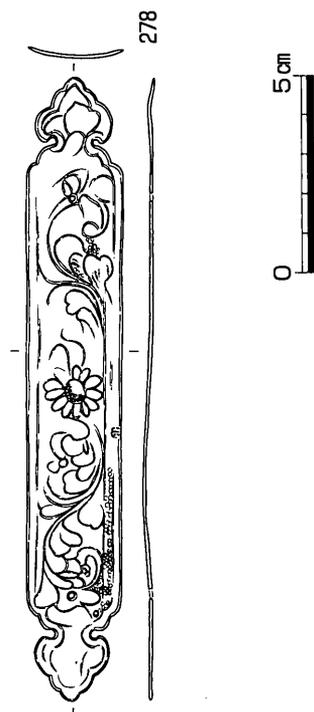
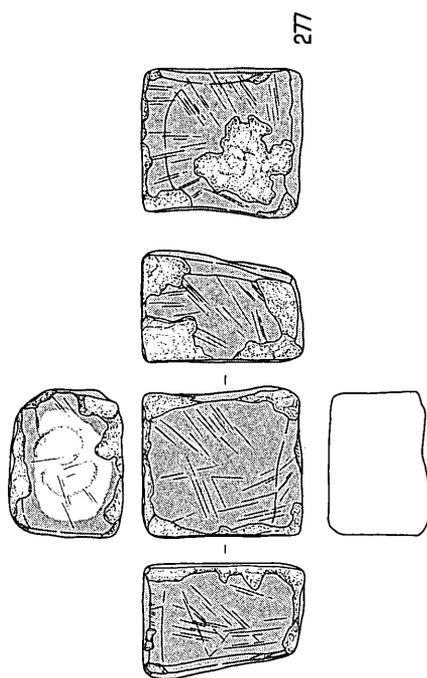
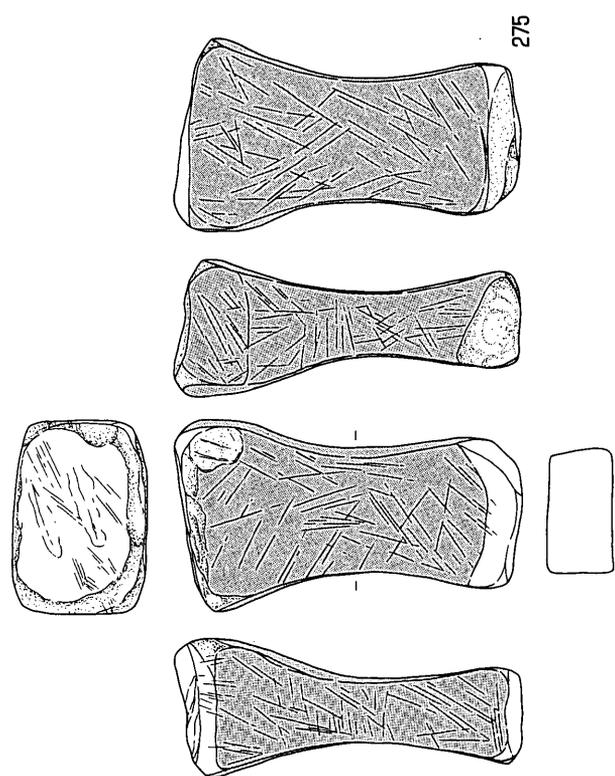
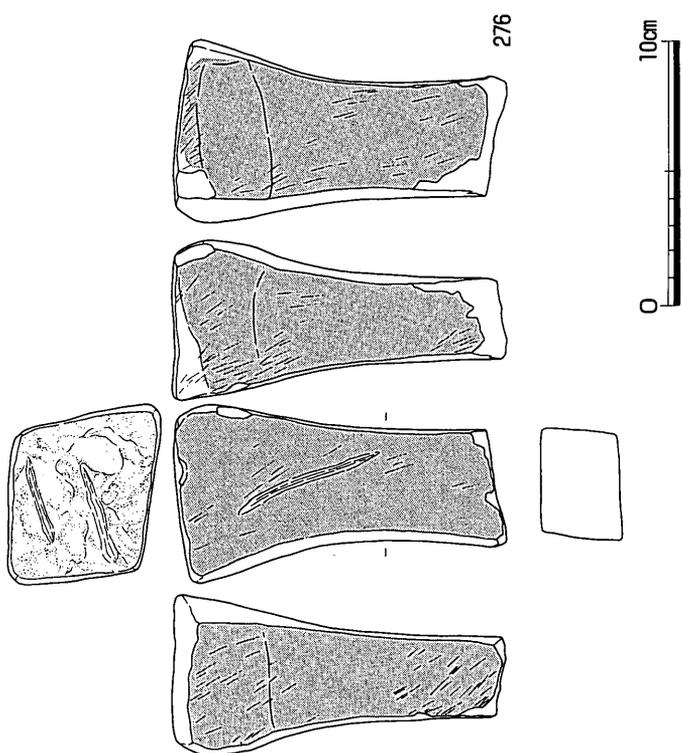


第84図 IV区SX10出土遺物 (9) (1/4)

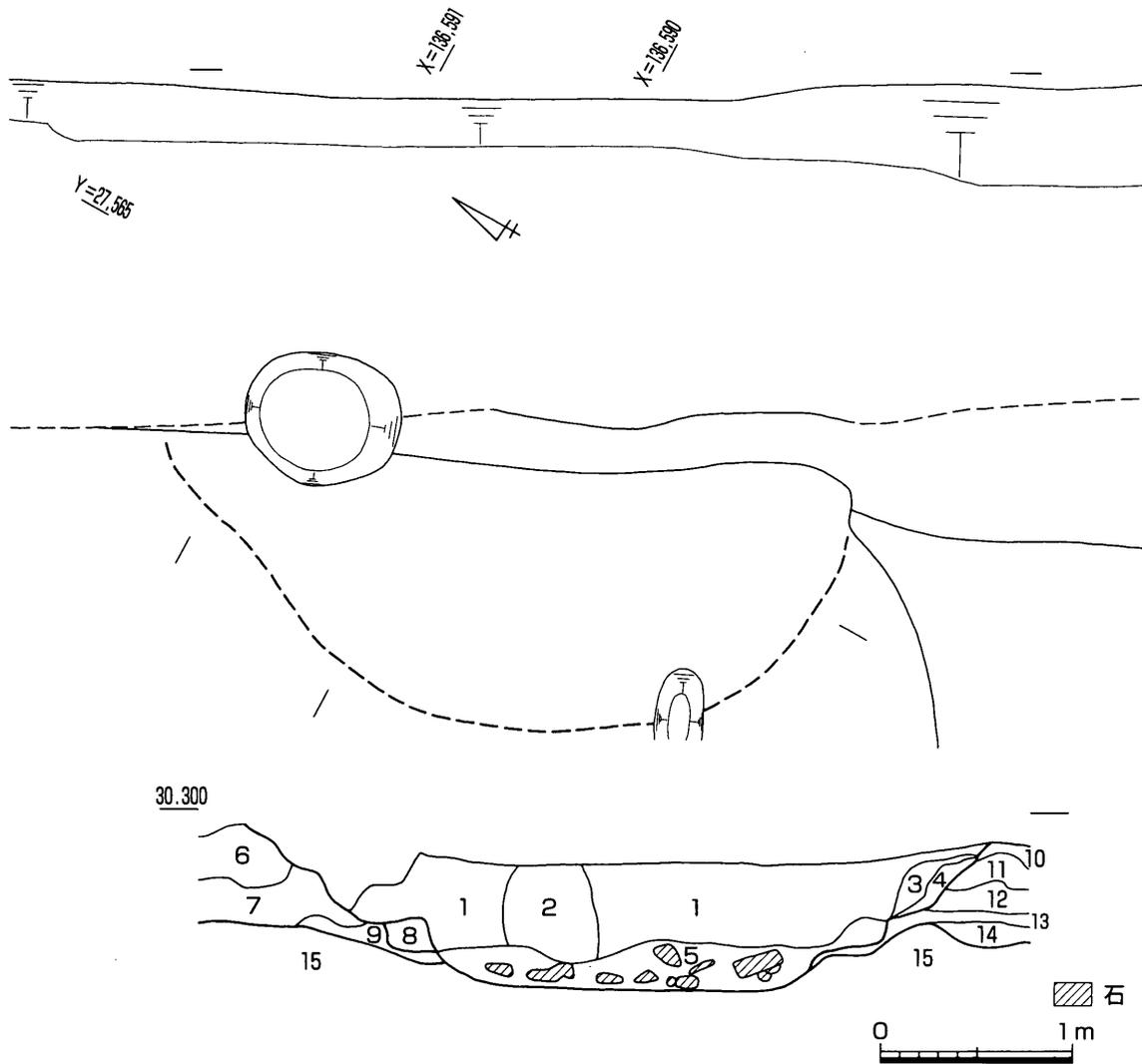
IV区SX11 (第86~89図)

IV b区中央東寄り付近で検出された遺構である。遺構の東側大部分はSD07・09等と重複し、全体の規模・形状は明らかではない。調査区東壁にはSX11の西部遺構の延長線上にSD07を切り込む遺構が観察できるが、これがSX11のものとするれば、長軸3.3m以上、短軸3.7mの楕円形状を呈し、深さは67cm、埋土はオリーブ褐色混細砂粘質土、灰色粘質土で、断面形状は浅い皿状を呈する、SD07より新しい遺構となる。ただ、この断面に現れた遺構はSD06と堆積状況や礫の検出状況が類似していることと、SD06がSX07付近で東へ屈曲することから、SD06の断面である可能性もある。この断面がSD06であれば、SX11の東半部はSD07等により壊された、浅い落ち込み状の遺構である。

279は土師質土器甕である。体部はやや丸みを持ち、体部には2条1単位の櫛描波状文を施



第85図 IV区SX10出土遺物 (10) (1/3・1/2)

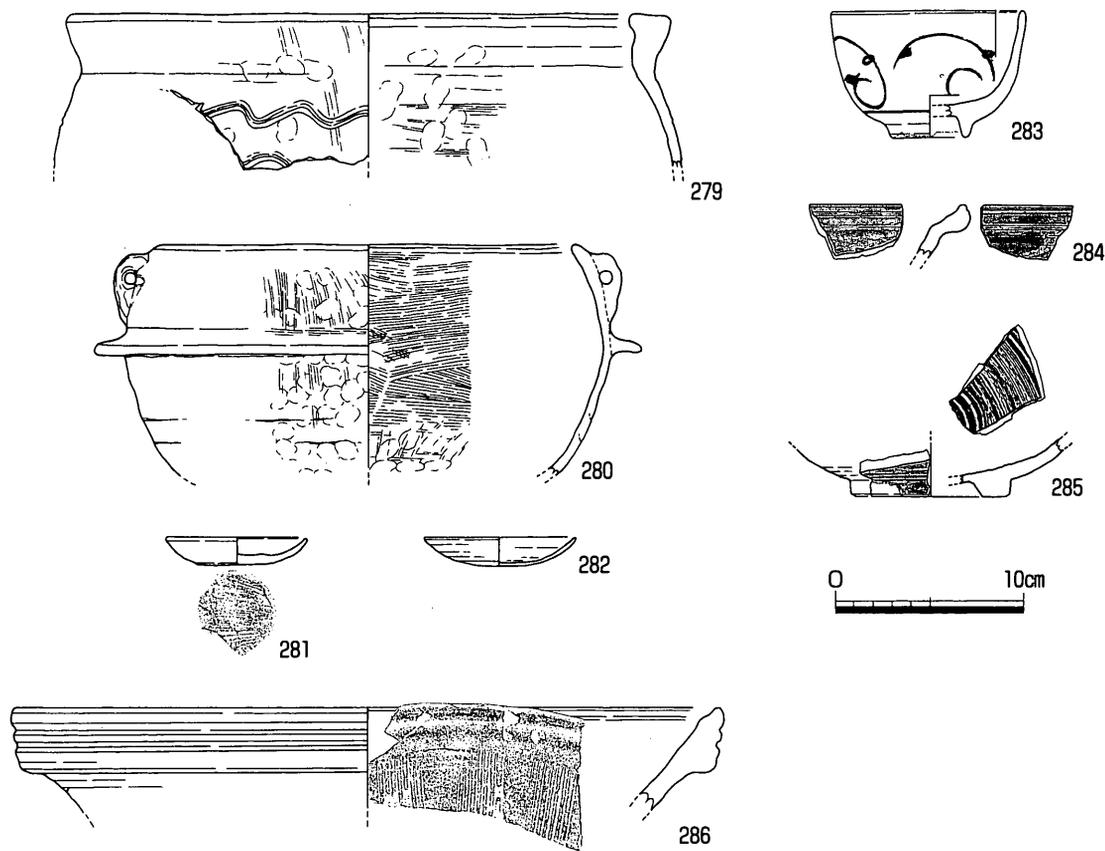


30.300

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 オリーブ褐色混細砂粘質土(2.5Y4/6)          | 9 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)          |
| 2 褐色粘質土(10YR4/6)+黄灰色粘質土(2.5Y4/1) | 10 暗オリーブ褐色混シルト粘質土(2.5Y3/3) |
| 3 暗灰黄色粗砂質土(2.5Y4/2)              | 11 暗灰黄色混細砂シルト(2.5Y4/2)     |
| 4 黄灰色混粗砂粘質土(2.5Y4/1)             | 12 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y4/1)     |
| 5 灰色粘質土(5Y4/1)                   | 13 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)        |
| 6 灰黄褐色混細砂シルト(10YR4/2)            | 14 褐色混細砂シルト(10YR4/6)       |
| 7 黄灰色混シルト粘質土(2.5Y4/1) S D07埋土    | 15 黄褐色粘質土(10YR5/8)         |
| 8 褐色混シルト粘質土(10YR4/6)             |                            |

第86図 IV区SX11平・断面図 (1/40)

す。18世紀後半頃のものである。280は瓦質土器羽釜である。外面鏝部下半には指押さえ痕が顕著に残り、肩部には2ヶ所に把手を付ける。281は土師質土器小皿で、底部は静止糸切りによる。282は備前焼小皿で、外面には回転ヘラ削り、内面には鉄泥を掛ける。18世紀後半頃のものである。283は18世紀後半の陶胎染付碗である。284は18世紀後半の刷毛目鉢である。285は刷毛目皿である。内面には蛇の目釉剥ぎが見られるが、その部分にも白泥による刷毛目が施される。286は18世紀前半頃の備前焼播鉢である。8条1単位の卸目を施し、口縁部外面には重ね焼きの際の溶着痕が残る。287は土師質土器風呂釜である。幅広の脚が対角線上に付く。内面は底部から5cm程度の位置で突帯が巡り、その上部には3ヶ所に突起が均等に付く。突帯上には2ヶ所に穿孔が見られるが、貫通はしていないようである。孔は4ヶ所にあったと考



第87図 IV区SX11出土遺物 (1) (1/4)

えられる。底部近くには水抜き用の孔がある。突帯部分の外側と突起部分の外側には押圧突帯を巡らせる。288・289は角礫凝灰岩製の石臼である。ともに上臼で、288には上面に穀物を入れる孔、下面に軸受けの孔、側面に回すための把手を装着する孔があり、289は下面に軸受けの孔、側面に孔がある。側面の孔は浅い。ともに劣化が進んでいる。

出土遺物は18世紀代に収まることから、18世紀後半を中心とした時期と考えられる。

#### (4) 時期不明遺構

##### ①土坑

##### I区SK01 (第90図)

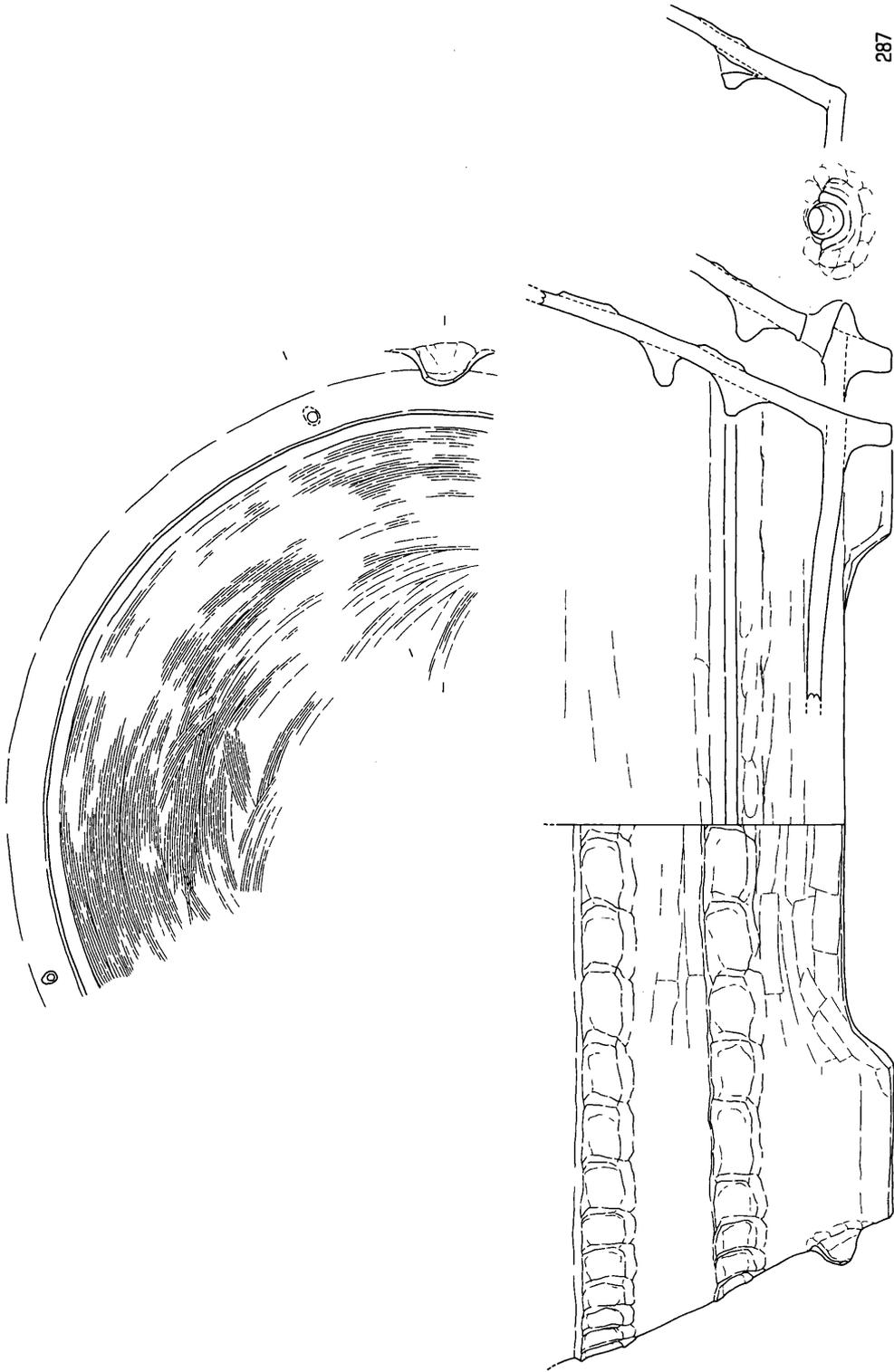
I a区南東隅で検出された土坑である。長楕円形を呈し、長軸2 m以上、短軸0.54m、深さ23cm、断面形状はV字形、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

##### I区SK02 (第90図)

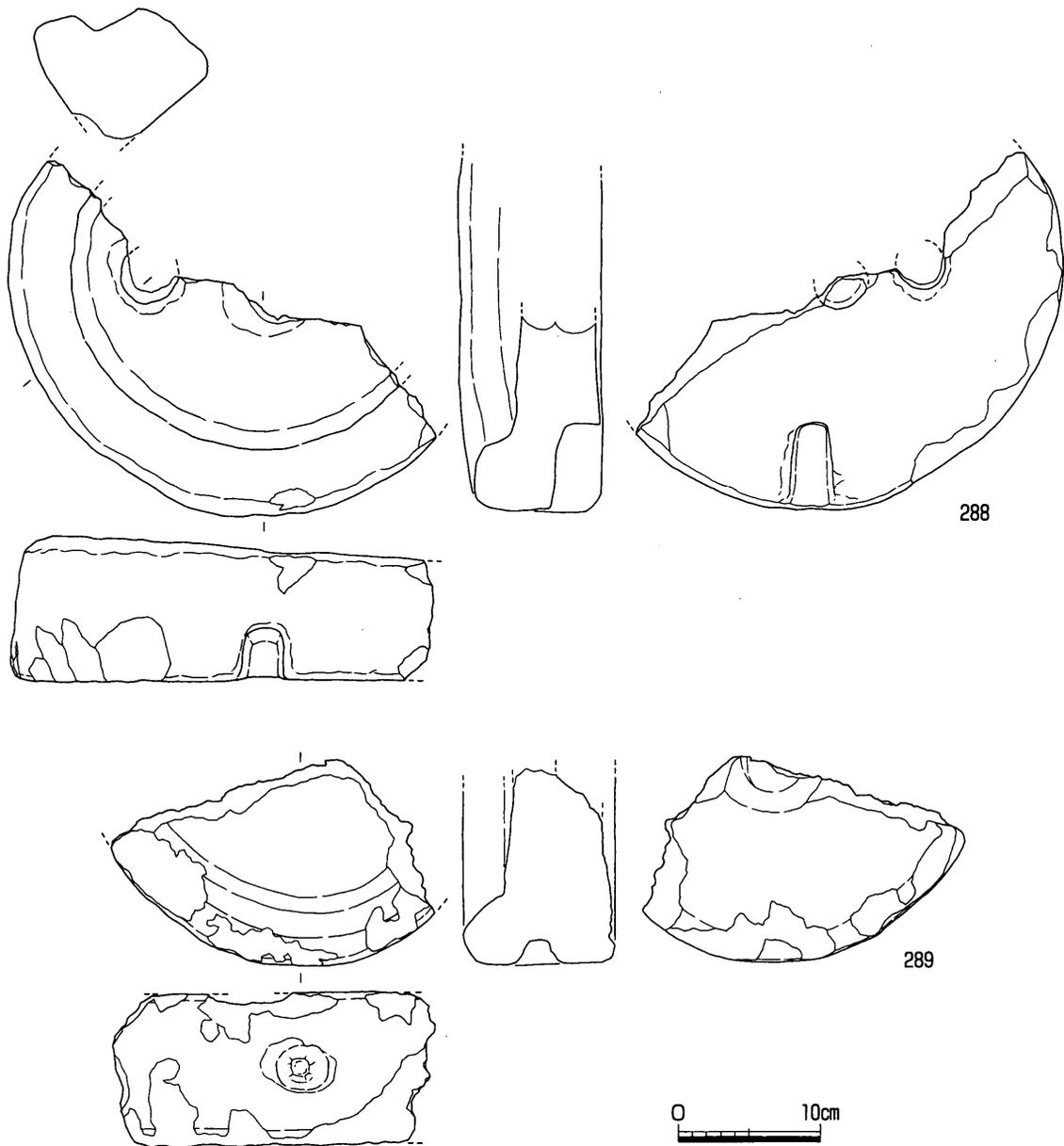
I a区西部中央付近で検出された土坑である。楕円形を呈し、長径1.24m、短径0.58m、深さ6cm、断面形状は浅い皿型で、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

##### I区SK03 (第90図)

I a区北西部で検出された土坑である。不整形を呈し、長軸0.85m、短軸0.72m、深さ14cm、



第88图 IV区SX11出土遺物(2) (1/4)



第89図 IV区SX11出土遺物 (3) (1/5)

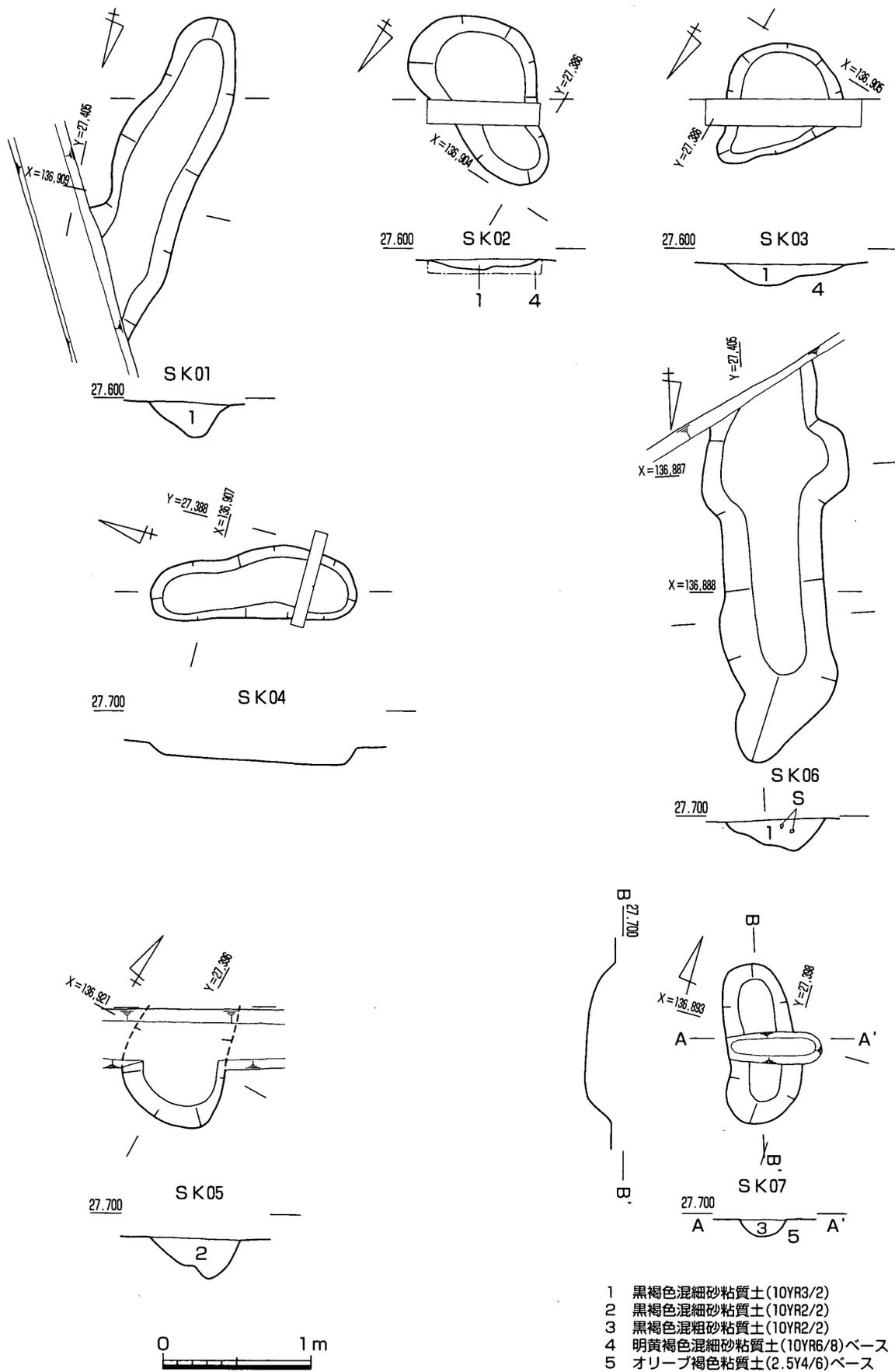
断面形状は浅いボウル型、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からの出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

I区SK04 (第90図)

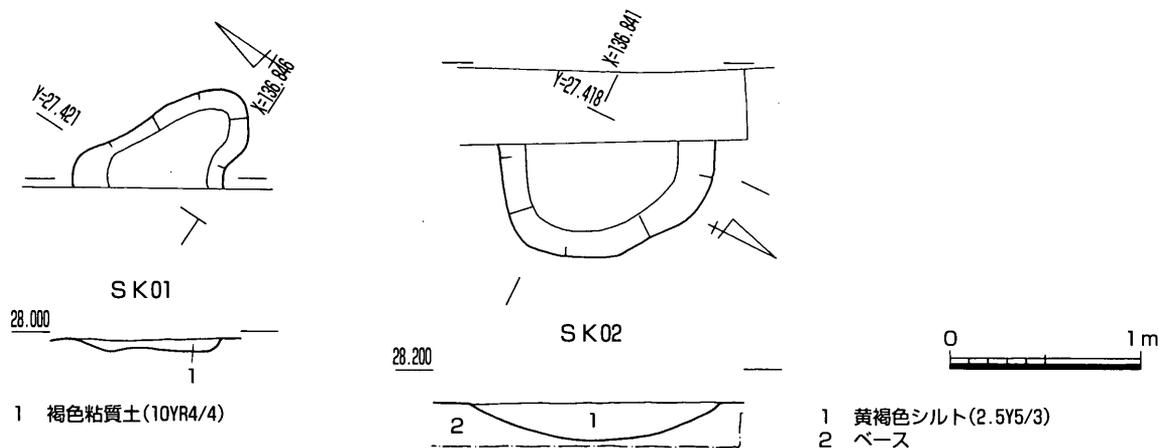
I a区北西部で検出された土坑である。長楕円形で、長径1.40m、短径0.48m、深さ10cm、断面形状は浅い皿状である。埋土中からの出土遺物はなく遺構の時期は不明である。

I区SK05 (第90図)

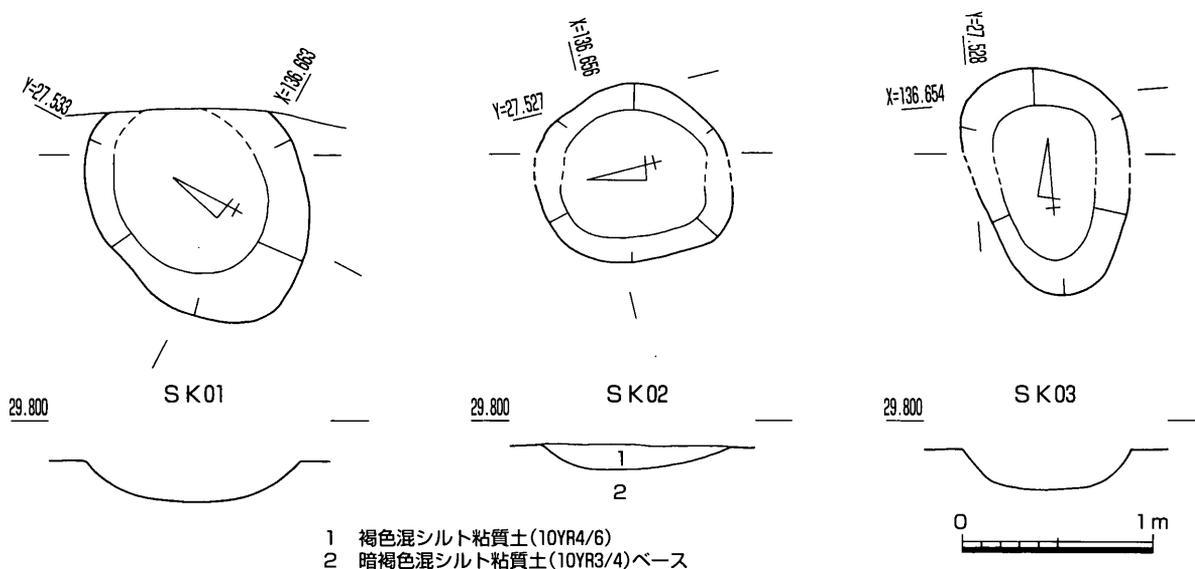
I a区北東隅で検出された土坑である。楕円形を呈すると思われるが、北側は調査区外へ延び、規模・形状は明らかではない。長径は0.80m以上、短径0.68m、深さ27cm、断面形状は西側で二段掘り状を呈し、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からの出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。



第90図 I区SK01~07平・断面図(1/40)



第91図 II区SK01・02平・断面図(1/40)



第92図 IV区SK01~03平・断面図(1/40)

I区SK06 (第90図)

I b区南端付近で検出された土坑である。楕円形を呈すると思われるが、南肩は調査区外へ延び、全体の規模・形状は明らかではない。長軸2.42m以上、短軸0.66m、深さ21cm、断面形状はV字形、埋土は黒褐色混細砂粘質土である。埋土中からはサヌカイト小片が出土しただけである。遺構の時期は不明である。

I区SK07 (第90図)

I b区中央付近で検出された土坑である。楕円形を呈し、長径1.09m、短径0.46m、深さ12cm、断面形状はボウル型、埋土は黒褐色混粗砂粘質土である。埋土中からの出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

II区SK01 (第91図)

II a区南部中央付近で検出された土坑である。西端部が途切れたような形状である。不整形

で、長軸0.79m以上、短軸0.76m、深さ6cm、断面形状は浅い皿状で、埋土は褐色粘質土である。埋土中からの出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。自然の落ち込みの可能性もある。

#### Ⅱ区SK02（第91図）

Ⅱa区南西隅付近で検出された土坑である。西側は調査区外へ延びる。円形または楕円形と考えられ、直径0.9m以上、幅1.11m、深さ18cm、断面形状は浅いボウル状、埋土は黄褐色シルトである。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期は不明であるが、坪界線上に類似する形状の近世の土坑があることから、近世のものである可能性が高い。

#### Ⅳ区SK01（第92図）

Ⅳa区北東部で検出された土坑である。SD11の下部で検出されているように見えるが、重複部分が少なく、前後関係は不明確である。楕円形を呈し、長径1.2m以上、短径1.11m、深さ21cm、断面形状は浅いボウル状である。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。

#### Ⅳ区SK02（第92図）

Ⅳa区中央部やや西寄りで検出された土坑である。ほぼ円形で、直径0.95～1.03m、深さ13cm、断面形状は浅いボウル状、埋土は褐色混シルト粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。

#### Ⅳ区SK03（第92図）

Ⅳa区中央部やや西寄りで検出された土坑である。楕円形で、長径1.22m、短径0.86m、深さ21cm、断面形状は逆台形である。埋土中からは出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。

### (5) 包含層などの出土遺物

#### ①ポイント表示出土遺物（第93・94図）

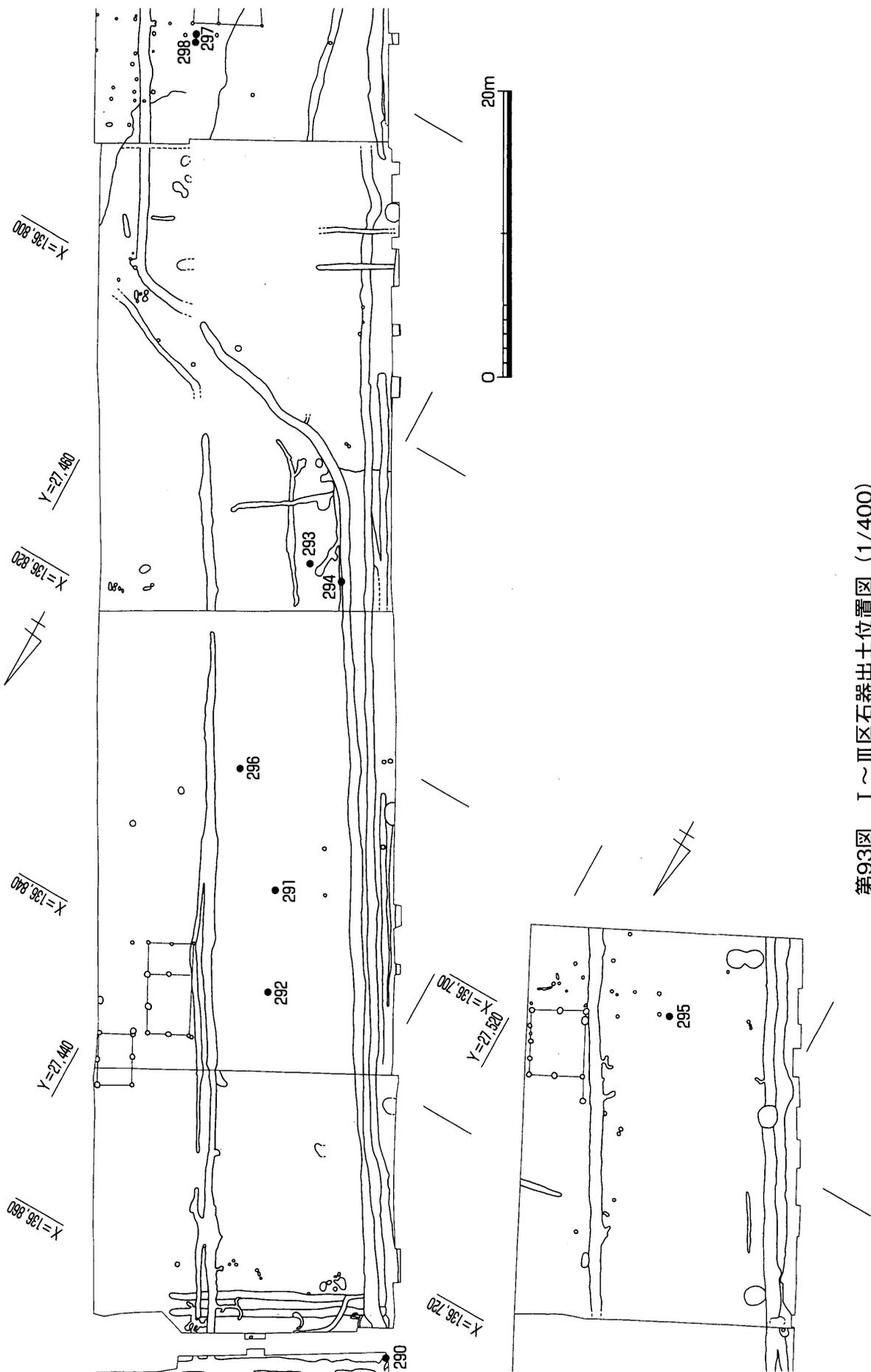
290～298はⅠc区～Ⅲd区にかけての上面精査中に出土したもので、出土地点の記録のある遺物である。

290はⅠc区から出土した凹基式のサヌカイト製石鏃である。291～294はⅡ区から出土したサヌカイト製石鏃で、291・292は凹基式、293は平基式、294は未製品と考えられる。295はⅢ区から出土した凹基式サヌカイト製石鏃である。296～298はⅡ区から出土したサヌカイト製石器である。296は石庖丁で、半分程度折損し、上・下部に敲打痕がある。297・298は楔形石器である。

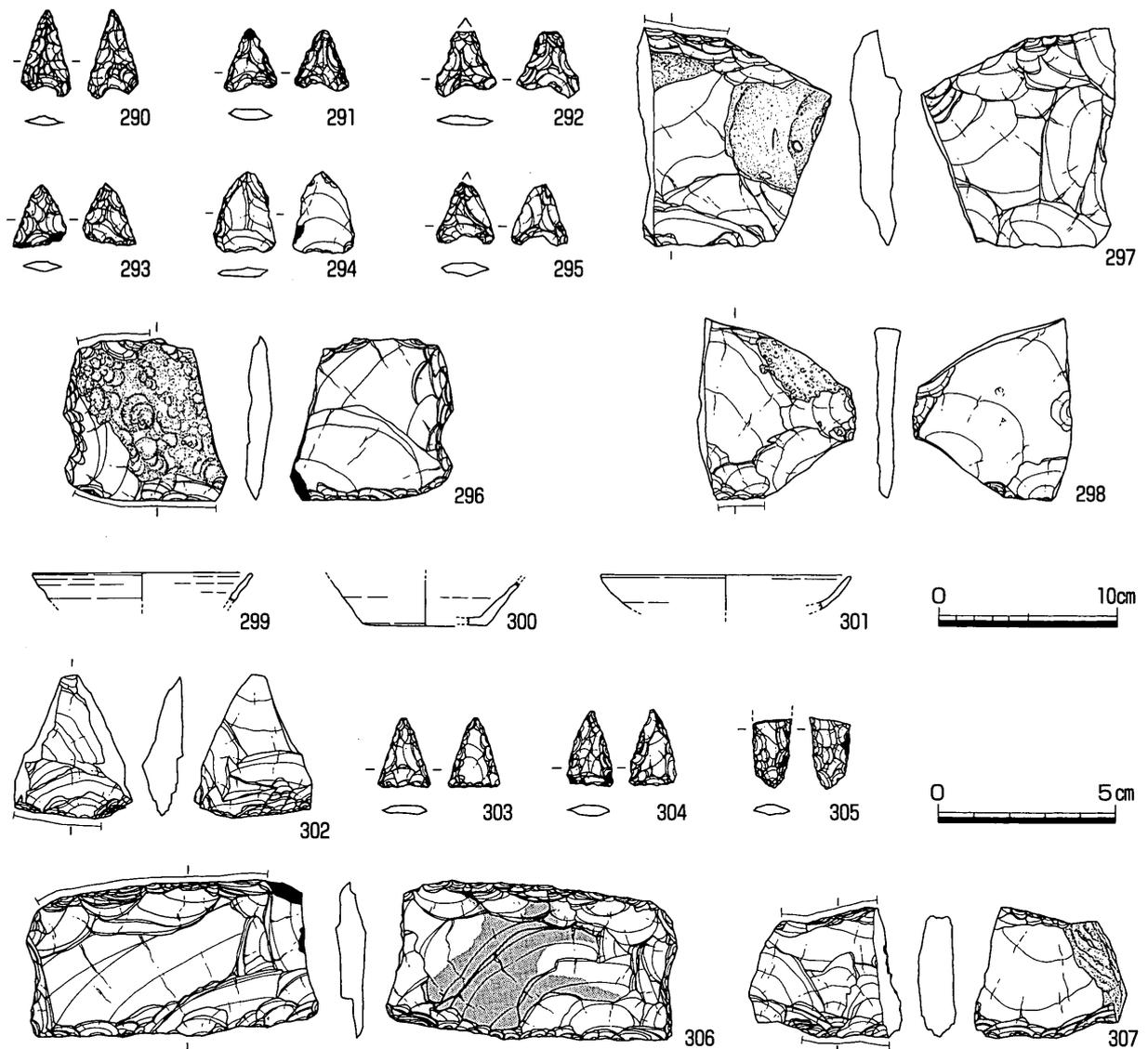
#### ②その他出土遺物（第94・95図）

299・300はⅡb区遺構面精査中に出土した。9世紀代の須恵器杯である。301はⅢd区遺構面精査中に出土した土師質土器皿である。

302はⅡc区出土遺物で、Ⅱ区SD05付近から出土したと考えられる楔形石器である。下部に敲打痕を残す。303はⅢc・d区から出土した平基式のサヌカイト製石鏃である。304はⅢd区の遺構面精査中に出土した平基式のサヌカイト製石鏃である。305はⅢc区遺構面精査中に出土した遺物である。石錐として図化したが、石鏃の可能性もある。306はⅢa・b区遺構面精査中に出土したサヌカイト製石庖丁である。上部に敲打痕、片側の側縁に抉りを入れる。307



第93図 I～III区石器出土位置図 (1/400)

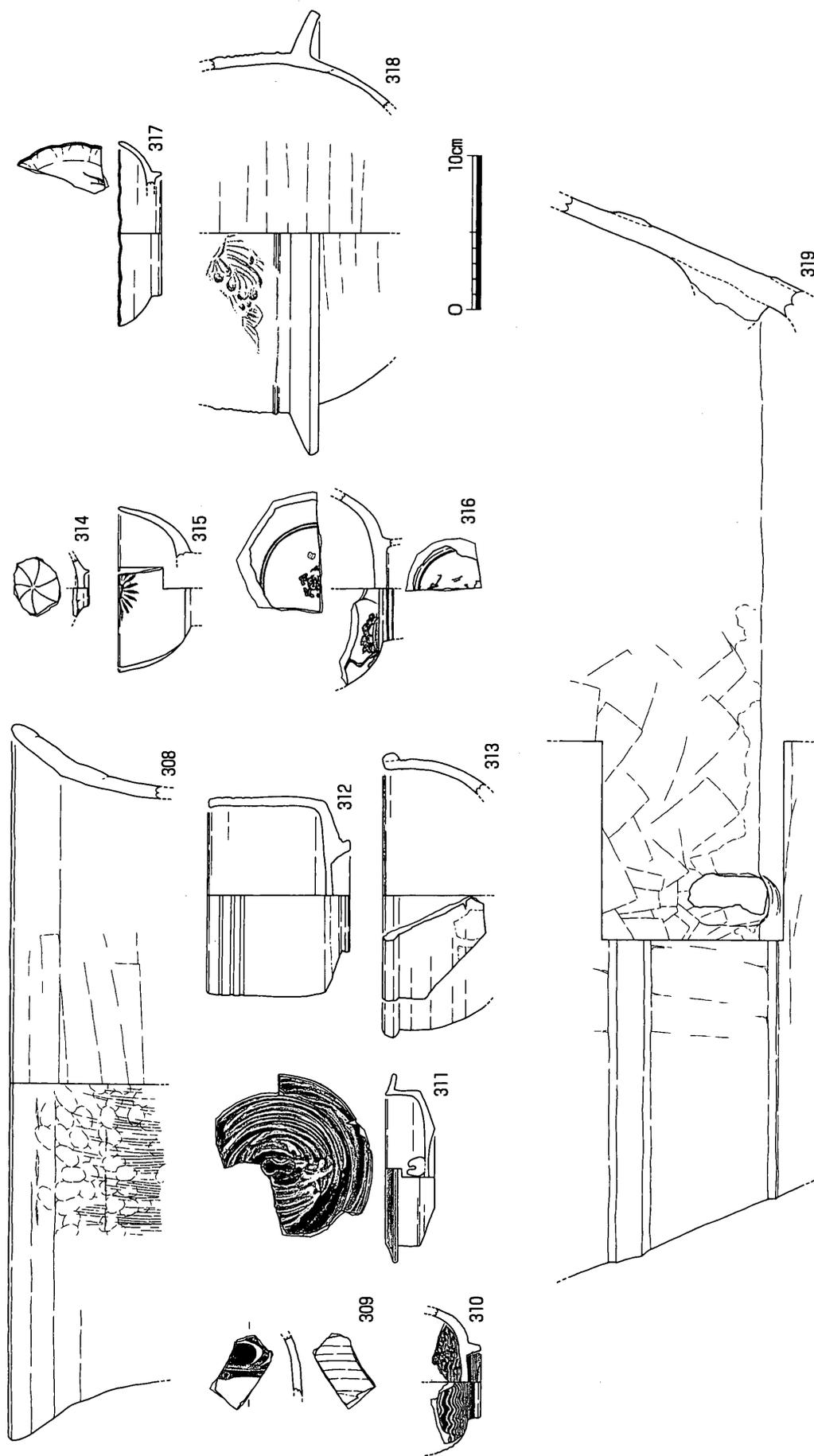


第94図 I～Ⅲ区その他出土遺物 (1/2・1/4)

はⅢ d 区遺構面精査中に出土したサヌカイト製楔形石器である。上・下部に敲打痕を残す。

308～316はⅣ b 区から出土した遺物である。308は土師質土器甕と考えられる。309～313は陶器である。309は皿片で、内面は茶色に発色する塗料で文様を描く。310は18世紀前半の刷毛目碗である。311は蓋である。外面は刷毛目模様で、つまみは両側から折り曲げて楕円形にする。312・313は鉢で、313が外面に鉄釉を流し掛けする。314～316は磁器である。314は小杯で、高台から上部を全体に丸く打ち欠いている。315・316は碗である。316は見込み部分にコンニャク印判を施し、底部外面には「大明(成化)年製」と思われる銘がある。

317～319は予備調査時のトレンチから出土した遺物である。317・318はⅡ区部分のトレンチ5から出土した遺物である。317は磁器皿で、口縁端部は波状にし、鉄釉を掛ける。318は瓦質土器羽釜で、鏝より上部に花模様を刻印する。319は土師質土器甕底部付近であるが、底部は出土しなかった。内面には3ヶ所に突起が付く。外面には薄い突帯を2条巡らせる。突起の下部付近には全体に糞尿の痕跡があった。肥溜めとして使用されたものである。



第95図 IV区予備調査トレンチ出土遺物 (1/4)

## 第4章 まとめ

### 第1節 遺構の変遷

#### 1. 条里型地割施工以前の遺構

I区からIV区にかけて条里型地割と方向の異なる溝状遺構が検出された。I区SD07・08、II区SD19(=III区SD05)・20・22・23、IV区SD15~17が相当する。このなかで、I区SD07、II区SD19(=III区SD15)、IV区SD15は規模が大きく、幹線水路の役割を果たしたと考えられる。これらの溝状遺構はいずれも条里型地割と同じ方向の溝状遺構により一部壊されることから、条里型地割施工以前の溝状遺構と考えられる。これらの溝状遺構のうち遺物が出土したのは、石鏃などのサヌカイトが出土したII区SD19と、弥生時代前期頃と考えられる土器底部が1点出土したIV区SD17のみであるが、IV区SD17で出土した弥生土器は摩滅が著しく、遺構の時期を反映していない可能性がある。遺構の時期は明らかではないが、この遺跡の条里型地割施工後の溝状遺構が9世紀前後と考えられることから、それ以前の溝状遺構であることは確かであろう。なかには、II区SD19(III区SD05)やII区SD20のように部分的に条里型地割と同じ方向を示すものもあり、条里型地割施工時期とはあまり隔たらない時期である可能性もある。

#### 2. 古代~中世(条里型地割施工以後)の遺構

当遺跡は旧那珂郡西端付近に位置し、五条十七里三十二坪(I区)、二十九坪(II区)、二十坪(III区)、十七坪(IV区)に比定される。現存する地割から、全調査区の西側とI・II区間、II・III区間、III・IV区間が坪界線に該当すると想定されていた。

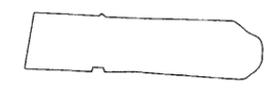
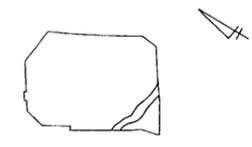
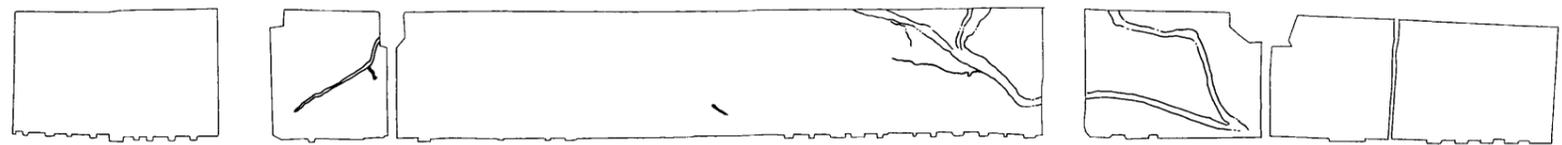
調査の結果、I~III区の西側(I区SD01=II区SD01、I区SD03=II区SD03、II区SD02・04・06=III区SD01、II区SD05、III区SD06・07)、I・II区間(I区SD04、II区SD07・08)、II・III区間(II区SD10)のそれぞれで坪界線の相当する溝状遺構が検出された。遺構の重複関係や検出状況から同時期に機能したと考えられる遺構は表のとおりである。

遺構の重複関係から、④→③→①の順に掘削されており、②は③または④のいずれかと同時

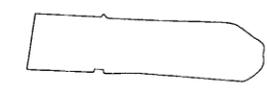
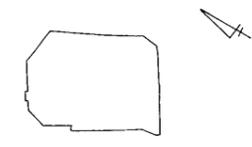
	南北方向(三十二・二十九・二十坪西側)の坪界線			三十二坪と二十九坪の坪界線	二十九坪と二十坪の坪界線
	I区	II区	III区	I区	II区
①	SD01 (SD02) SD03 SD05	=SD01 =SD03 =SD12 =SD05	=SD03	SD04	SD10
②					SD07 SD08 SD09
③		SD02 (SD04・ SD06)	=SD01		
④			SD06 SD07		

第3表 古代~中世の溝状遺構と坪界線の対照表

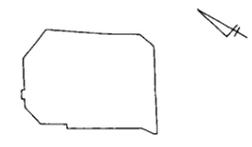
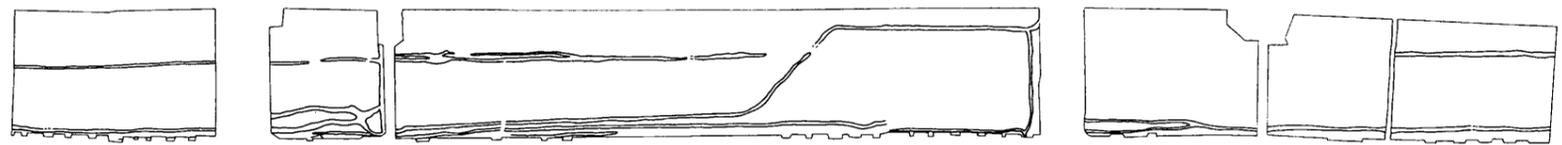
古代



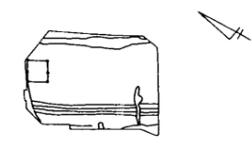
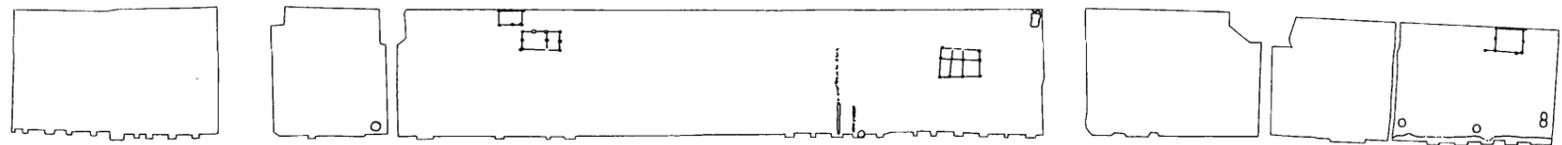
中世1



中世2



近世



第96図 遺構変遷図(1/1,200)

期であったと考えられる。ただ、出土遺物に乏しく、それぞれの詳細に時期は不明である。

I区(三十二坪)では幅60cmの間隔で、同時並存と考えられる溝状遺構が2条(I区SD01・03)が検出され、畦道として利用された状況が窺える。II区(二十九坪)ではI区の溝状遺構の延長部(II区SD01)のほかにも、さらに西側から同方向の溝状遺構(II区SD02・04・06)がわずかに重複しながら流れる。位置を少しずつ変えて掘りなおしながら水路を維持した様子が窺える。また、坪界線から6m程度東側では、I～III区を通して、断続的に延長155mにわたって条里型地割と同方向の溝状遺構を検出している(I区SD05=II区SD12=III区SD03)。条里型地割の坪界線とは位置がずれるものの、重要な幹線水路の役割を果たしたことが窺える。

溝状遺構の年代については、二十九坪と三十坪の坪界に相当するII区SD10から13世紀代の土師質土器杯が出土していることから、この溝状遺構と同時並存と考えられる遺構群はこの時期とするのが妥当であろう。ただ、全体の遺物出土量が非常に少ないものの、これらの溝状遺構のI・II区北半部分では7世紀代の遺物が出土し、中世に下る遺物は出土しなかった。当遺跡の約1km北側に位置する金蔵寺下所遺跡では、7世紀末～8世紀に条里型地割に伴う幹線水路が掘削され、9世紀まで機能していたことが確認されている。また、鎌倉時代には条里型地割の坪界線には相当しない位置で幹線水路に比定できる溝状遺構が検出されている。I区で出土した古代の遺物は混入とし、I～III区にかけて検出した溝状遺構の時期はII区SD10で出土した13世紀代の土師質土器の時期と考えることもできるが、中世の遺物が出土するのはおもにII区南半からIII区であることを考えれば、9世紀前後に北から溝の掘削が開始され、13世紀代にかけて南へ延伸していった可能性も考えられよう。

IV区ではこの時期に遡る条里型地割に伴う遺構は検出されなかった。

### 3. 近世以降の遺構

遺跡の中心はIII区南半～IV区へ移動する。条里型地割関係の溝状遺構は、III区d区～IV区にかけて検出された。西側の坪界線に相当する溝状遺構はIII区SD02、IV区SD01、IV区SD06にかけて延長70mが検出された。この溝状遺構は川原石により丁寧に護岸されており、幹線水路であったことを窺わせる。その北側にはやや小規模の近世の溝状遺構がIV区SD02・03、IV区SD07にわたって検出されており、遺構の重複関係からこれらは若干先行すると考えられる。現道、現水路はIV区付近では条里型地割よりは若干西側へ寄った状態でIV区の西側を通るが、調査の結果から18世紀代までは坪界線の位置に溝状遺構があったことがわかる。また、IV区北端付近では坪界線の溝状遺構SD05を検出した。IV区SD11はIII区SD03の延長上に位置し、同一の溝状遺構とも考えられるが、出土する遺物は近世以降のものであった。IV区b区では、その他石組みのある溝状遺構SD13や土坑などを検出している。いずれも同位置にある溝状遺構が埋没した後に掘削されたものであった。

# 觀 察 表

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
6		IV区	SD15	最下層	弥生土器	甕	-	-	7.4	やや粗/径4mm以下の石英・長石 極多量、径2mm以下の赤色粒普 通	にぶい橙 5YR6/4	灰白2.5Y 8/2	板ナデ、ナデ (マメツ)	板ナデ	やや軟	底部8/8	マメツ著しい
7		III区	SP23		土師質土 器	杯	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石微量、径1mm以下の赤色粒少 量	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	
8		III区	SP59		須恵器	高杯	-	-	12.0	やや粗/径1mm以下の石英・長石 普通、径0.5mm以下の黒色粒少 量	灰白N7/ 5Y7/1	灰白 5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	底部1/8	
9		I区	SD01		須恵器	杯	-	-	9.2	やや粗/径0.5mm以下の石英・長 石普通、径0.5mm以下の黒色粒 少量	灰白 2.5Y8/1	灰白 5Y8/1	回転ナデ、へ ラキリ後ナデ	回転ナデ	良	底部1/8	
10		I区	SD01		須恵器	杯蓋	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石少量、径0.5mm以下の黒色粒 微量	灰N6/ 5Y6/1	灰N6/ 5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	
11		I区	SD01		須恵器	杯蓋	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石少量、径0.5mm以下の黒色粒 少量	灰5Y6/1	灰N6/ 5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	
12		I区	SD02		須恵器	平瓶	8.8	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石 多量	黄灰 2.5Y6/1	灰白 5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	
13		I区	SD03		須恵器	蓋	12.4	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石少 量	灰5Y5/1	灰N6/ 5Y7/1	回転ナデ、回 転ヘラケナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	ゴマ状降灰
14		I区	SD01 .03		須恵器	蓋	13.9	-	-	やや密/径1.5mm以下の石英・長 石少量	灰N5/ 5Y7/1	灰白N7/ 5Y7/1	回転ナデ、回 転ヘラケナデ	回転ナデ	良	口縁部3/8	一部自然釉
15	14	I区	SD04		土師器	甕	-	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長 石普通、径1.5mm以下の赤色粒 少量	褐灰 7.5YR4/1	にぶい 黄橙 10YR7/2	粘土つなぎ目、 ハケメ、マメ ツ	指ナデ	やや軟	底部3/8	円盤充填
16		I区	SD05		須恵器	杯	12.5	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石 多量	灰白N8/ 5Y8/1	灰白N8/ 5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	口縁部2/8	
17		II区	SD01 .03		土師器	杯	13.2	3.7	7.0	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石普通、径0.5mm以下の赤色粒 普通	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	回転ナデ、回 転ヘラキリ後板状 圧痕	回転ナデ	やや軟	底部3/8	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位I	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
18		II区	SD01		土師器	杯	-	-	7.4	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒普通、径0.5mm以下の黒雲母少量	橙 7.5YR6/6	明黄褐 10YR6/6	回転ナデ、 ラキリ後ナデ	回転ナデ	やや軟	底部2/8	
19		II区	SD01		須恵器	杯	13.0	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の黒色粒少量	灰白N7/ 7.5Y7/1	灰白N7/ 7.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	外面：火ダテ
20		II区	SD01		須恵器	杯	14.6	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径0.5mm以下の黒色粒少量	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	軟	口縁部小片	内外面：重ね焼き痕
24		II区	SD03		須恵器	杯	12.8	3.1	8.3	やや粗/径2mm以下の石英・長石極多量、径0.5mm以下の赤色粒普通	灰白 2.5Y8/1 +灰 5Y4/1	灰白 2.5Y8/1 +灰 5Y4/1	回転ナデ、回 転ヘラキリ	回転ナデ	やや軟	口縁部8/8	ほぼ完形、重ね焼き痕、 端部黒く残る
25		II区	SD03		須恵器	杯	12.9	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の黒色粒微量	灰白 7.5Y8/1	灰白 5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	口縁部1/8	
26	14	II区	SD01 .03		須恵器	杯	13.0	3.5	7.0	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径1mm以下の赤色粒少量	灰白 7.5Y7/1	灰白N7/ 7.5Y7/1	回転ナデ、回 転ヘラキリ	回転ナデ	軟	底部6/8	
27	14	II区	SD03		須恵器	甕	-	-	-	やや密/径1.5mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の黒色粒普通	灰N5/ 7.5Y7/1	灰N5/ 7.5Y7/1	平行タタキ	青海波（当て 具痕）	良	体部小片	破片の割れ口は打ち欠 く？
28	14	II区	SD05		須恵器	壺	-	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の黒色粒多量	灰白N7/ 7.5Y7/1	灰白N7/ 7.5Y7/1	回転ナデ、回 転ヘラケズリ、 沈線1条	回転ナデ	良	体部3/8	
29		II区	SD10		土師質土 器	杯	12.4	3.1	8.1	やや密/径2mm以下の石英・長石多量	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	回転ナデ、 ラキリ後ナデ	回転ナデ	やや軟	口縁部2/8	
34		III区	SD01		土師質土 器	小皿	7.0	1.5	5.4	やや密/径0.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	黄灰 2.5Y5/1	灰黄褐 10YR6/2	回転ナデ、回 転糸キリ	回転ナデ	良	口縁部1/8	
35		III区	SD01		土師質土 器	杯	16.4	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量	灰5Y5/1	灰白 2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	口縁部小片	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位I	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
36		Ⅲ区	SD01		土師質土 器	杯	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒少量	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	口縁部小片	
38		Ⅲ区	SD03		須恵器	杯身	-	-	8.2	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石多量	灰白 2.5Y7/1	灰白N7/ 5B6/1	回転ナデ	回転ナデ	やや軟	底部1/8	
39		Ⅲ区	SD03		須恵器	杯蓋	10.3	-	-	やや粗/径3mm以下の石英・長石多量	青灰 5B5/1	青灰 5B6/1	回転ナデ、回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部2/8	
41		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	羽釜	鍰 33.4	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒普通	にぶい 黄橙 10YR6/3	にぶい 黄橙 10YR6/3	ヨコナデ、マ メツ	貼付面	やや軟	鍰小片	外面：炭化物付着
42		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	足釜	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	ナデ、 指オサエ	板ナデ後ナデ	やや軟	体部小片	
43		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	焙烙	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	にぶい 黄橙 10YR6/4	灰白 10YR8/2	ヨコナデ	ヨコナデ	良	口縁部小片	外面：炭化物付着
44		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	足釜 脚部	-	-	-	やや密/径3mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒普通	にぶい 黄橙 10YR6/3	灰白2.5Y 8/2	指ナデ	指オサエ	良	脚部小片	
45		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	足釜 脚部	-	-	-	やや密/径2mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒少量	にぶい 黄 2.5Y6/3	にぶい 黄 2.5Y6/3	指ナデ	-	良	脚部小片	
46		Ⅲ区	SD02		土師質土 器	足釜 脚部	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	にぶい 黄橙 10YR7/4	-	指ナデ	-	良	脚部小片	
47		Ⅲ区	SD02	裏込め	陶器	插鉢	-	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石多量	赤 10R5/6	赤 10R5/6	ヨコナデ、沈 線2条	ヨコナデ、 卸し目	良	口縁部小片	備前焼
48		Ⅲ区	SD02		陶器	插鉢	-	-	14.0	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の黒色粒少量	赤褐 10R5/3	灰赤 10R5/2	回転ナデ	回転ナデ後卸 し目(10条/単 位 右→左)	良	底部1/8	備前焼
49		Ⅲ区	SD02	裏込め	陶器	溝縁 皿	-	-	-	密/砂粒をほとんど含まない	灰白 5Y7/2	灰白 5Y7/1	回転ナデ、回 転ヘラケズリ	回転ナデ、回 転ヘラケズリ	良	口縁部小片	肥前系

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
50		Ⅲ区	SD02		陶器	碗	-	-	3.8	密/砂粒をほとんど含まない		灰白 7.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ	良	底部小片 (高台上端 部2/8)	京・信楽焼系
51		Ⅲ区	SD02	裏込め	陶器	碗	11.8	-	-	密/砂粒をほとんど含まない		灰白N8/ 5R5/1	赤灰 5R5/1	回転ナデ後化 粧土によるハ ケメ	回転ナデ後化 粧土によるハ ケメ	良	口縁部小片	刷毛目唐津
52		Ⅲ区	SD02		陶器	碗	-	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微 量		オリーブ 灰 2.5GY5/1	灰N5/ 5Y8/1	回転ナデ後染 付	回転ナデ	良	口縁部小片	陶胎染付
53		Ⅲ区	SD02		磁器	碗	-	-	4.2	密/砂粒を含まない		灰白 7.5Y8/1	灰白 5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	良	底部1/8	釉は緑色に発色
54		Ⅲ区	SD02	裏込め	磁器	碗	-	-	3.8	密/砂粒を含まない		明青灰 10BG7/1	灰白N8/ 10BG7/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台後染付	回転ナデ	良	底部2/8	
55		Ⅳ区	SD01		陶器	灯明 皿	8.8	1.8	3.4	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石微量		橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部2/8	内外面：煤付着
56	22	Ⅳ区	SD01		陶器	皿	8.3	-	-	密/砂粒を含まない		黄褐 2.5Y5/6	灰白 2.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	
57	22	Ⅳ区	SD01		陶器	灯明 皿	8.4	2.1	3.3	密/砂粒をほとんど含まない		灰白 5Y7/2	にぶい 黄橙 10YR7/2	回転ナデ、ハ ラケズリ	回転ナデ	良	口縁部4/8	内外面：貫入部に煤、 内面：ハ)支え痕1ヶ所
58	15	Ⅳ区	SD01		陶器	壺	3.0	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微 量		黒褐 5YR3/1	赤 10Y5/6	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部8/8	大谷焼 内外面：鉄釉
59		Ⅳ区	SD01		陶器	壺	-	-	5.8	密/砂粒をほとんど含まない		暗褐 10YR3/3	灰白5Y 7/2	回転ナデ、回 転ハラケズリ	回転ナデ	良	底部2/8	外面：底部一部墨
60		Ⅳ区	SD01		磁器	皿	-	-	4.4	密/砂粒を含まない		灰白 10Y8/1	灰白 2.5Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ後染 付	良	底部8/8	内面：蛇の目釉剥き
61	22	Ⅳ区	SD01		磁器	皿	11.0	2.0	6.0	密/砂粒を含まない		緑灰 7.5GY6/1	灰白N8/ 7.5GY6/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台 (端部露胎)	回転ナデ後銅 版転写(緑)	良	口縁部2/8	口縁端部：鉄釉
62		Ⅳ区	SD01		磁器	碗	11.1	5.7	3.9	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 7.5GY6/1	灰白N8/ 7.5GY6/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ後染 付	良	底部2/8	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
63		IV区	SD01		磁器	碗	9.8	-	-	密/砂粒を含まない	灰白N8/ 5G7/1	灰白N8/ 5G7/1	回転ナデ後染 付(型紙摺り)	回転ナデ後染 付(型紙摺り)	良	口縁部小片	
64		IV区	SD01		磁器	小杯	6.0	4.5	2.8	密/砂粒を含まない	明緑灰 5G7/1	灰白N8/ 5G7/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台 (端部露胎)	回転ナデ	良	口縁部3/8	内面より外面に厚く釉が かかる
67		IV区	SD06		弥生土器	甕	-	-	11.0	やや密/径1mm以下の石英・長石 多量、径0.5mm以下の赤色粒少 量、径0.5mm以下の黒雲母少量	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	指オサエ後 板ナデ、ナデ	板ナデ、指ナ デ	良	底部3/8	
68		IV区	SD06		土師質土 器	羽釜	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長 石普通、径1.5mm以下の赤色粒 少量	黄灰 2.5Y4/1	灰黄 2.5Y6/2	ナデ、カ <sup>ハ</sup> 貼り 付後ナデ、指 オサエ後板ナ デ	指オサエ後ハ ケメ	良	体部小片	外面：煤付着
69		IV区	SD06		土師質土 器	把手 付鍋	34.2	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長 石多量	橙 2.5YR6/6	赤橙10Y R6/6	ヨコナデ、板 ナデ	ヨコナデ、ハ ケメ	良	口縁部1/8	
70		IV区	SD06		土師質土 器	播鉢	33.0	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長 石多量、径0.5mm以下の赤色粒 少量	にぶい橙 7.5YR6/4	灰褐 7.5YR4/2	ヨコナデ、指 オサエ後ナデ	ヨコナデ、卸 し目(5条/単 位)	やや軟	口縁部小片	内面：煤付着
71		IV区	SD06		土師質土 器	把手 付鍋	24.4	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長 石多量 径1mm以下の赤色粒普 通径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	ヨコナデ、指 オサエ後板ナ デ、指オサエ	ヨコナデ、ナ デ	良	口縁部1/8	
72		IV区	SD06		土師質土 器	甕	39.0	-	-	やや密/径5mm以下の石英・長 石多量、径1mm以下の赤色粒少 量	浅黄 2.5Y7/3	灰白2.5Y 8/2	ヨコナデ、板 ナデ	ヨコナデ、ナ デ、板ナデ	良	口縁部小片	
73	15	IV区	SD06・ 07合流 部		土師質土 器	甕	39.0	-	-	やや密/径2.5mm以下の石英・長 石多量、径1mm以下の赤色粒多 量	にぶい 黄橙 10YR7/4	にぶい 黄橙 10YR7/4	ヨコナデ、板 ナデ後ハケメ (マメツ)	板ナデ	やや軟	口縁部小片	
74	15	IV区	SD06		土師質土 器	甕	31.0	-	-	やや密/径1.5mm以下の石英・長 石多量、径1.5mm以下の赤色粒 多量	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ、板 ナデ、波状文 (4条/単位×2)	ヨコナデ、板 ナデ	良	口縁部2/8	
75		IV区	SD06		陶器	灯明 皿	10.0	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石少 量	赤褐 10R5/4	にぶい 赤褐 2.5YR5/4	回転ナデ、回 転ヘラケズリ	回転ナデ	良	口縁部1/8	備前焼

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位I	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
76		IV区	SD06		陶器	碗	11.4	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	褐灰 5YR5/1	暗灰黄 2.5Y4/2	回転ナデ後化 粗土による 波状文	回転ナデ後化 粗土による文 様	良	口縁部1/8	刷毛目唐津
77	22	IV区	SD06	上層	陶器	碗	-	-	5.2	密/径0.5mm以下の石英・長石微量、 径0.5mm以下の黒雲母微量	灰オリーブ 7.5Y6/2	にぶい 赤褐 5YR5/3	回転ナデ後化 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ	良	底部5/8	陶胎染付
78		IV区	SD06		陶器	碗	-	-	3.0	密/砂粒を含まない	灰白 Y8/2	灰白 2.5Y8/2	回転ナデ、 ケズリ出し高台	回転ナデ	良	底部1/8	京焼風陶器
79		IV区	SD06		陶器	碗	-	-	4.2	やや密/径5mm以下の石英・長石 少量	灰白 5Y8/1	にぶい 黄橙 10YR7/3	回転ナデ、 ケズリ出し高台	回転ナデ	やや軟	底部2/8	釉の発色が荒い
80	22	IV区	SD06		陶器	土瓶	-	-	-	密/径0.5mm以下の黒色粒微量	にぶい 赤褐 5YR5/4	灰オリーブ 5Y6/2	回転ナデ、注 ぎ口貼り付け 後ナデ	回転ナデ	良	体部4/8	白釉による文様、穿孔 2ヶ所・京・信楽焼系
81	15	IV区	SD06		陶器	壺	11.0	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長 石普通、径1mm以下の赤色粒少 量	赤褐 10R5/4	にぶい 赤褐 2.5YR5/3	回転ナデ、ナ デ後格子目タ タキ	回転ナデ、板 ナデ	良	口縁部2/8	備前焼、外面：ゴマ釉
82		IV区	SD06	下層	陶器	壺	-	-	7.3	やや密/径1mm以下の石英・長 石微量	オリーブ黄 5Y6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	回転ナデ、沈 線9条、ケズリ 出し高台	回転ナデ	良	底部3/8	外面：鉄釉、掛け釉（黒） ハナレ砂付着
83		IV区	SD06		陶器	甕	-	-	20.4	やや粗/径1mm以下の石英・長 石普通、径0.5mm以下の黒色粒 少量	にぶい 赤褐 5YR4/4	褐 10YR4/4	回転ナデ、 ナデ	回転ナデ	良	底部小片	外面：鉄釉、掛け釉（黒）
84		IV区	SD06	上層	陶器	福鉢	-	-	-	密/径1mm以下の石英・長石普 通、径1mm以下の黒色粒少量	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	沈線4条、 ヨコナデ	ヨコナデ、卸 し目	良	口縁部小片	備前焼
85		IV区	SD06		陶器	福鉢	32.6	-	-	密/径1mm以下の石英・長石少 量、径1mm以下の黒色粒少量	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい 赤褐 2.5YR5/4	沈線2条、 回転ナデ	回転ナデ、卸 し目（8条/単 位）	良	口縁部小片	備前焼、 外面：重ね焼き痕
86	15	IV区	SD06		陶器	円盤 状土 製品	4.5	4.6	1.3	やや密/径5mm以下の石英・長 石多量、径4mm以下の赤色粒少 量	灰赤 2.5YR5/2	灰褐 7.5YR5/2	ハケメ	ハケメ	良	完形	備前焼、転用品
87		IV区	SD06	上層	磁器	皿	-	-	11.2	密/砂粒を含まない	灰白 7.5Y7/1	灰白N7/ 7.5Y7/1	マメツ、ケズリ 出し高台	マメツ	良	底部2/8	外面：ハナレ砂付着、 全体にマメツが著しい

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
88		IV区	SD06		磁器	紅皿	5.6	1.6	2.4	密/砂粒を含まない		明オリ ブ灰 2.5GY7/1	灰白N8/ 5Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ	良	底部6/8	口縁部は意図的に打ち欠 くか？
89		IV区	SD06		磁器	小杯	6.0	2.6	2.7	密/砂粒を含まない		灰白 10Y8/1	灰白 5Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出 し高台	回転ナデ後染 付	良	底部3/8	
90		IV区	SD06	下層	磁器	碗	-	-	4.0	密/砂粒を含まない		灰白 10Y8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ後染 付	良	底部3/8	内面：蛇の目釉剥ぎ
91		IV区	SD06	下層	磁器	碗	-	-	4.0	密/砂粒を含まない		明緑灰 7.5GY8/1	灰白N8/ 7.5GY8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台 (露胎)	回転ナデ	良	底部4/8	内外面：ハナレ砂付着、 内面：蛇の目釉剥ぎ
92		IV区	SD06		磁器	碗	-	-	4.2	密/砂粒を含まない		灰白 5GY8/1	灰白N8/ 5GY8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台後染付(端 部露胎)	回転ナデ	良	底部2/8	内面：蛇の目釉剥ぎ 外面：梅の模様
98		IV区	SD03		陶器	壺	-	-	6.6	密/径0.5mm以下の石英・長石 量		暗褐 7.5YR3/3	にぶい 赤褐 2.5YR5/4	回転ナデ、へ ラケズリ	回転ナデ	良	底部4/8	外面：鉄釉
99		IV区	SD03		陶器	壺	-	-	19.6	やや粗/径1mm以下の石英・長石 普通、8mm大の長石粒あり		にぶい 赤褐 5YR4/3	灰白 5Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ	やや軟	底部1/8	外面：鉄釉、 内面：胎土目積
100		II・IV 区	SX04 SD03		磁器	皿	11.0	2.4	6.3	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 5Y8/1	灰白N8/ 5Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ後染 付	良	口縁部3/8	
101		IV区	SD03		磁器	小碗	8.2	3.8	2.8	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 5Y8/1	灰白N8/ 5Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台後染付 (端部露胎)	回転ナデ後染 付	良	口縁部3/8	内外面：草花文
102		IV区	SD03		土師質土 器	風呂 釜	-	-	46.8	やや粗/径2mm以下の石英・長石 多量、径1.5mm以下の赤色粒多 量		にぶい 黄橙 10YR6/4	灰白 10YR8/2	ハケメ後ナデ、 板ナデ後ナデ、 ハケメ	板ナデ後ナデ、 ハケメ	良	底部小片	水抜き穴1ヶ所、内外面： 煤付着

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
104	16	IV区	SD07	7層	土師質土器	小皿	8.3	1.8	5.4	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒普通、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	回転ナデ、ヘラキリ後ナデ	回転ナデ	良	完形	
105		IV区	SD07	上層	土師質土器	足釜	17.2	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒微量	にぶい黄褐 10YR5/3	浅黄橙 10YR8/4	指オサエ、ナデ	ハケメ後指ナデ	良	口縁部小片	外面：煤付着
106		IV区	SD07		土師質土器	足釜	20.0	-	-	やや粗/径2.5mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒少量	浅黄橙 10YR8/3	浅黄 2.5Y8/3	マメツ	ハケメ後ナデ	良	口縁部1/8	
107		IV区	SD07		土師質土器	足釜	25.2	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒微量	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、板ナデ	良	口縁部小片	
108		IV区	SD07	上層	土師質土器	足釜	29.0	-	-	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒普通	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナデ、ナデ	ハケメ後ナデ	良	口縁部小片	
109		IV区	SD07	下層	土師質土器	把手付鍋	23.9	-	-	やや密/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒少量	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ナデ、指オサエ後ナデ	板ナデ後ナデ	やや軟	口縁部1/8	
110		IV区	SD07	上層	土師質土器	足釜脚部	-	-	-	やや密/径3mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	にぶい黄橙 5YR7/3	にぶい黄橙 5YR7/3	指ナデ		良	脚部小片	
111		IV区	SD07	上層	土師質土器	播鉢	-	-	11.9	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒微量	にぶい黄橙 10YR6/4	黒褐 10YR3/2	板ナデ後ナデ	押し目(5条/単位)	やや軟	底部1/8	
112		IV区	SD07		土師質土器	土鍋	40.0	-	-	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	灰黄褐 10YR6/2	明黄褐 10YR7/6	ヨコナデ、板ナデ、縦方向のハケメ	ヨコナデ、ハケメ	やや軟	口縁部1/8	外面：煤付着
113		IV区	SD07		土師質土器	土鍋	43.4	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒微量	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	板ナデ後ヨコナデ、ハケメ	板ナデ後ヨコナデ、板ナデ	やや軟	口縁部1/8	内面：煤付着
114		IV区	SD07		土師質土器	土鍋	-	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	指オサエ、指ナデ	板ナデ後ナデ	良	口縁部小片	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
115		IV区	SD07		土師質土器	焙烙	29.3	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径1mm以下の赤色粒普通	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄 2.5Y6/2	ナデ、指オサエ	ナデ、板ナデ	良	口縁部小片	外面：煤付着
116		IV区	SD07		土師質土器	焙烙	40.0	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒微量、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄 2.5Y6/2	指オサエ後軽くハケメ	ナデ、ハケメ後ナデ	やや軟	口縁部小片	外面：煤付着
117		IV区	SD07	上層	土師質土器	土鍋	54.0	-	-	やや粗/径3mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒少量、径0.5mm以下の黒雲母微量	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	ヨコナデ、指オサエ後ナデ、板ナデ	板ナデ後ナデ	良	口縁部小片	外面：煤付着、被熱著しく器面荒れている
118	16	IV区	SD07	下層	土師質土器	把手付鍋	24.8	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒普通	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ後板ナデ	やや軟	口縁部小片	外面：煤付着
119		IV区	SD07	上層	土師質土器	土鍋	-	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒少量	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい橙 5YR6/4	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	良	口縁部小片	外面：炭化物付着
120		IV区	SD07		土師質土器	土鍋	-	-	-	やや密/径2mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量、径0.5mm以下の黒雲母微量	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい橙 7.5YR7/4	ヨコナデ（一部ハケメ）、沈線1条、指オサエ後板ナデ、ハケメ（浅い）	ハラケズリ後板ナデ？	良	口縁部小片	外面：煤付着
121	16	IV区	SD07	上層・下層	土師質土器	把手付茶釜	14.3	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒普通、径0.5mm以下の黒雲母普通	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	ナデ、板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ、指オサエ後指ナデ、指オサエ後ハケメ	良	口縁部3/8	
122		IV区	SD07	上層	土師質土器	茶釜	15.2	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒少量	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒5YR 1.7/1	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	良	口縁部1/8	外面：炭化物付着
123		IV区	SD07		土師質土器	七匣	28.4	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒微量、径0.5mm以下の黒雲母普通	浅黄褐色 10YR8/4	灰黄褐色 10YR6/2	ヨコナデ、板ナデ	指ナデ、板ナデ	やや軟	口縁部1/8	内面：煤付着



報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
135		IV区	SD07	下層	陶器	碗	-	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	褐灰 10YR4/1	にぶい橙 5YR6/4	回転ナデ後化 粗土による波 状文	回転ナデ後化 粗土による文 様	良	口縁部小片	刷毛目唐津	
136	23	IV区	SD07		陶器	碗	-	-	4.2	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	灰黄褐 10YR4/2	赤橙 10R6/6	回転ナデ後化 粗土による波 状文・ハケメ、 ケズリ出し高台	回転ナデ後化 粗土による文 様	良	底部4/8	刷毛目唐津	
137	23	IV区	SD07		陶器	碗	-	-	4.4	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	外面 ：明黄褐 10YR6/6、 内面：黒褐 10YR2/2	灰白 2.5Y7/1	回転ナデ後 (調整保留)	回転ナデ	良	底部1/8	瀬戸・美濃 内面：鉄軸	
138		IV区	SD07		陶器	土瓶	11.0	-	-	密/砂粒をほとんど含まない	灰白7.5Y 7/2	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ 後染付	回転ナデ	良	口縁部1/8	把手痕あり	
139		IV区	SD07		陶器	壺	-	-	8.1	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	オリーブ 黄5Y6/3	灰白 5Y7/2	回転ナデ ヘラケズリ、 回転ナデ	回転ナデ	良	底部3/8		
140	16	IV区	SD07	上層カク ラン部分	陶器	壺	24.0	26.8	17.3	やや密/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の黒色粒多量	赤褐 10R5/3	にぶい 赤褐 2.5YR4/3	回転ナデ、櫛 描沈線15条、 ヘラケズリ後ナ デ	回転ナデ、ナ デ	良	口縁部5/8	備前焼、やや歪んでい る、外面：底部刻印	
141	23	IV区	SD07	下層	青磁	碗	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量	オリーブ 灰 10Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ	良	底部2/8	内面： 底部に馬の文様の陰刻	
142		IV区	SD07	上層カク ラン部分	磁器	皿	13.0	-	-	密/砂粒を含まない	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ後染 付	良	口縁部2/8		
143		IV区	SD07	上層カク ラン部分	磁器	碗	10.5	-	-	密/砂粒を含まない	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 2.5GY8/1	回転ナデ後染 付	回転ナデ後染 付	良	口縁部2/8	外面：二重網目文、内面： 一重網目文	
144		IV区	SD07		磁器	碗	10.0	5.0	3.8	密/砂粒を含まない	灰白N8/ 2.5GY8/1	灰白N8/ 2.5GY8/1	回転ナデ後 染付、ケズリ 出し高台 (端部露胎)	回転ナデ	良	口縁部4/8	外面：草木文	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位I	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
145		IV区	SD07		磁器	碗	10.6	-	-	やや密/断面に気泡が3ヶ所に 見える、砂粒はほとんど含ま ない	灰白 5GY8/1	灰白N8/ 5GY8/1	回転ナデ 後染付	回転ナデ	良	口縁部1/8	外面：草木文
146		IV区	SD07		磁器	碗	10.8	-	-	密/砂粒を含まない	明緑灰 7.5GY8/1	灰白N8/ 7.5GY8/1	回転ナデ 後染付	回転ナデ後染 付	良	口縁部2/8	外面：草木文
147		IV区	SD07		磁器	碗	-	-	4.6	密/砂粒を含まない	灰白 10Y8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ヘラケズ リ、ケズリ出し 高台	回転ナデ	良	底部4/8	内外面：ハナレ砂付着、 内面：蛇の目軸剥ぎ
148		IV区	SD07	上層カク ラン部分	磁器	碗	10.8	5.0	4.0	やや密/砂粒をほとんど含ま ない	灰白 10Y8/1	灰白N7/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台(端部露 胎)	回転ナデ	良	口縁部3/8	内面：蛇の目軸剥ぎ
149		IV区	SD07		青磁	碗	11.6	6.7	4.8	密/砂粒をほとんど含まない	明緑灰 5G7/1	灰白N8/ 5G7/1	回転ナデ、 ケズリ出し高台 後染付	回転ナデ後染 付	良	口縁部3/8	外面：底部「渦福」 内面：コンニャク印判
150		IV区	SD07		青磁	碗	13.6	-	-	密/砂粒を含まない	明オリー ブ灰 5GY7/1	灰白 5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ後染 付	良	口縁部1/8	
151		IV区	SD07		磁器	小杯	-	-	3.6	密/砂粒を含まない	灰白N8/ 5GY7/1	灰白N8/ 5GY7/1	回転ナデ 後染付	回転ナデ後染 付	良	底部2/8	内面：コンニャク印判
152		IV区	SD07	下層	磁器	盃	5.4	3.5	2.2	密/砂粒を含まない	灰白N8/ 5GY7/1	灰白N8/ より白い	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ後染 付	良	口縁部4/8	
153	16	IV区	SD07	上層	土師質土 器	円盤 状土 製品	(長さ) 5.1	(幅) 5.4	(厚さ) 0.6	やや密/径1.5mm以下の石英・長 石普通、径1mm以下の赤色粒少 量、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR4/2	板ナデ	指オサエ 後板ナデ	良	完形	転用品、内面：煤付着
154	17	IV区	SD07		陶器	円盤 状土 製品	(長さ) 4.1	(幅) 4.2	(厚さ) 1.5	やや粗/径0.5mm以下の石英・長 石少量	(上面) にぶい橙 5YR7/3	(下面) 灰白 10YR7/1	ナデ	ナデ	やや軟	完形	備前焼 転用品
155		IV区	SD07		-	ふいご の羽口	-	-	-	粗/径5mm以下の石英・長石多量	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	板ナデ後ナデ	-	やや軟	小片	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼	成	残存率	備	考
160		IV区	SD05		磁器	碗	-	-	6.8	密/砂粒を含まない		灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台後染付	回転ナデ後染 付(型紙刷り)	良		底部1/8		
161		IV区	SD05		磁器	碗	11.9	4.6	4.1	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 10Y7/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付(型紙摺り)、 ケズリ出し高台	回転ナデ後染 付(型紙刷り)	良		底部4/8		
162		I区	SE01		磁器	皿	12.8	-	-	密/砂粒を含まない		灰白 10Y7/1	灰白 10Y8/1	回転ナデ	回転ナデ後染 付	良		口縁部小片		
163		I区	SE01		磁器	碗	-	-	-	密/砂粒を含まない		灰白 5GY8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	良		底部小片	外面：二重網目文	
164		I区	SE01		磁器	碗	-	-	2.9	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 10Y8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ後染 付	良		高台上端部 3/8		
165	17	II区	SK04		土師質土 器	甕	117.4	-	-	やや密/径3mm以下の石英・長石 多量、径1mm以下の赤色粒少量		浅黄橙 10YR8/3	浅黄 2.5Y7/3	板ナデ	ハケメ、板ナ デ	良		底部7/8	漆喰により段を作る、把 手均等に4ヶ所	
166		II区	SK09		土師質土 器	焙烙	40.4	-	-	やや密/径2mm以下の石英・長石 少量、径0.5mm以下の赤色粒少 量、径0.5mm以下の黒雲母微量		灰黄褐 10YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/4	ハケメ後指オ サエ	板ナデ後ナデ、 ハケメ後ナデ	良		口縁部小片	外面：煤付着	
167		II区	SK09		陶器	播鉢	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石 多量、径0.5mm以下の赤色粒少 量		にぶい橙 2.5YR6/3	にぶい 赤褐 2.5YR5/3	回転ナデ	回転ナデ、卸 し目(7条/単 位)	良		口縁部小片		
168		II区	SK09		磁器	碗	9.0	5.9	4.0	密/砂粒をほとんど含まない		灰白 5GY8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付、削り出し 高台後染付	回転ナデ後染 付	良		口縁部小片	外面：草花文	
169		II・IV 区	SK09		磁器	碗	13.0	-	-	密/砂粒を含まない		灰白 5GY8/1	灰白N8/ 10Y8/1	回転ナデ後染 付	回転ナデ後染 付	良		口縁部1/8	外面：草花文	
171		II区	SK09		土師質土 器	甕	95.0	-	58.2	やや粗/径3mm以下の石英・長 石多量 径1mm以下の赤色粒少 量		浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/3	ナデ、貼付押 圧突帯、ハケ メ後ナデ	ハケメ後ナデ、 指オサエ	良		口縁部2/8	口縁部：沈線3条	
172		III区	SK02		陶器	碗	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長 石微量、径0.5mm以下の赤色粒 微量		淡黄 5Y8/3	灰白 2.5Y8/2	回転ナデ後染 付	回転ナデ	良		口縁部小片	一部貫入	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
173	17	Ⅲ区	SK03		土師質土 器	井戸 杵	-	-	89.0	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒普通	橙 7.5YR7/6	にぶい 黄橙 10YR6/3	板ナデ後ナデ、 板ナデ	板ナデ後ナデ	良	底部5/8	把手4ヶ所
174		Ⅲ区	SK06		土師質土 器	小皿	8.2	2.3	5.7	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径1.5mm以下の赤色粒多量、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	回転ナデ、 静止系ナデ	回転ナデ	良	ほぼ完形	外面：煤付着、歪み著しい
175	17	Ⅳ区	SK05		土師質土 器	風呂 釜	-	-	71.0	やや密/径1.5mm以下の石英・長石極多量、径1.5mm以下の赤色粒普通、径0.5mm以下の黒雲母少量	にぶい橙 5YR6/4	浅黄 2.5Y7/3	指オサ工後板 ナデ、貼付突 帯、板ナデ	指オサ工後板 ナデ、貼付突 帯、板ナデ	良	底部8/8	水抜き穴1ヶ所、内面： 突起3ヶ所
176	17	Ⅳ区	SK04		土師質土 器	風呂 釜	-	-	50.0	やや密/径2mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒普通	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	板ナデ、板ナ デ後ハケメ	板ナデ、板ナ デ後ハケメ	良	底部6/8	水抜き穴1ヶ所、底部： 炭化物付着
177	17	Ⅱ・Ⅳ 区	SK06		陶器	行平 鍋	17.8	8.1	7.0	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 2.5YR6/6	回転ナデ、回 転ナデ後仕上 げナデ	回転ナデ、回 転ナデ後仕上 げナデ	良	底部2/8	外面：煤付着
178	23	Ⅳ区	SK07		陶器	土瓶	8.2	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	灰オリー 7.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	回転ナデ、4ヶ 描き	回転ナデ	良	口縁部2/8	備前焼、口縁部： 炭化物付着
179	17	Ⅳ区	SK10・ 12		陶器	小皿	6.0	1.6	5.0	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	にぶい 赤褐 2.5YR4/3	灰褐 5YR4/2	回転ナデ、回 転ナデ後ハケ メ	回転ナデ	良	口縁部2/8	備前焼、口縁部： 炭化物付着
181	23	Ⅳ区	SK12		陶器	甕	-	-	28.0	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量	暗褐 7.5YR3/3	橙 2.5YR6/6	回転ナデ、ナ デ	回転ナデ	良	底部1/8	内面：一部溶融
182		Ⅳ区	SK17		土師質土 器	鉢	26.0	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒多量、径0.5mm以下の黒雲母普通	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	ヨコナデ、指 オサ工後ハケ メ	ヨコナデ、板 ナデ	やや軟	口縁部小片	
183		Ⅱ区	SX04		土師質土 器	五徳	-	-	29.0	やや密/径1mm以下の石英・長石少量、径1.5mm以下の赤色粒普通、径0.5mm以下の黒雲母微量	にぶい 黄橙 10YR7/3	にぶい 黄橙 10YR7/3	ヨコナデ	ヨコナデ	良	底部小片	穿孔1ヶ所、接合面： み目3条
184		Ⅱ区	SX04		陶器	碗	-	-	4.2	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量	にぶい 黄褐 10YR4/3	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台 (一部露胎)	回転ナデ	良	底部8/8	瀬戸美濃 腰錯碗 外面：鉄釉

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
186		IV区	SX05		土師質土 器	甕	72.6	-	-	やや粗/径3mm以下の石英・長石多量、径1.5mm以下の赤色粒普通、径1mm以下の黒雲母少量	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	板ナデ後ナデ、 貼り付凸帯の み刻み目	板ナデ後ナデ	良	口縁部小片	横方向の「ハの字」刻み目	
187		IV区	SX05		陶器	土瓶 または行 平	-	-	6.8	密/径0.5mm以下の黒色粒少量	灰オリーブ 7.5Y6/2	灰白 2.5Y7/1	回転ヘラケズリ	回転ナデ	良	底部3/8		
188		IV区	SX05		陶器	円盤 状土 製品	2.7	3.0	0.7	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒少量	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ、 ハケメ	良	完形		
189		IV区	SX05		陶器	挿鉢	-	-	17.0	やや密/径1.5mm以下の石英・長石多量、径1.5mm以下の赤色粒普通	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	ヘラケズリ、板 ナデ、マメツ	削し目 (7条 /単位)	やや軟	底部2/8	明石産、底部マメツ著しい	
190		IV区	SX05		磁器	碗	10.4	-	-	密/砂粒を含まない	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 2.5Y8/1	回転ナデ後染 付	回転ナデ	良	口縁部1/8	内面：草花文	
191		IV区	SX05		磁器	碗	12.6	3.7	4.2	密/砂粒を含まない	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 2.5Y8/1	回転ナデ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ後染 付	良	底部7/8	外面高台：ハナレ砂付着、 内面：蛇の目釉剥ぎ	
196		IV区	SX06		瓦質土器	浅鉢	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量	暗灰N3/ 5Y6/2	灰5Y4/1	ヘラミガキ	ハケメ、指ナ デ、ハケメ	良	底部小片		
197		IV区	SX06		陶器	小碗	-	-	3.8	密/径0.5mm以下の石英・長石微 量	灰オリーブ 5Y6/2	灰白N7/ 5Y5/4	回転ナデ、回 転ヘラケズリ、 ケズリ出し高台 (露胎)	回転ナデ後4つ 描き	良	底部3/8	京・信楽焼	
198		IV区	SX06		陶器	土瓶	8.7	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微 量	明赤褐 5YR5/6	にぶい 赤褐 5YR5/4	ヘラケズリ、回 転ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	穿孔3ヶ所、外面：煤付 着	
199	23	IV区	SX06		陶器	土瓶	10.4	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微 量	灰オリーブ 7.5Y5/2	灰N6/ 7.5Y5/2	回転ナデ、ハ 描沈線23条、 把手・注ぎ口貼 り付け後ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	穿孔3ヶ所	
200	23	IV区	SX06		陶器	壺 (体部) 20.6	-	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石微量、径0.5mm以下の赤色粒 微量	淡黄 5Y8/3	灰白 2.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ後縦 方向のヘラケ ズリ後ハケメ釉	良	体部1/8	外面：掛け流し釉 (緑、 白)、貫入	

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
201		IV区	SX06		陶器	播鉢	32.2	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 2.5YR5/4	回転ナデ	回転ナデ、卸し目(8条/単位)	良	口縁部小片	備前焼 外面：重ね焼き痕
202		IV区	SX06		磁器	皿	13.2	3.0	8.0	密/径0.2mm以下の黒色粒微量	明緑灰 7.5GY8/1	灰白N8/	回転ナデ後染付、ケズリ出し高台後染付(端部露胎)	回転ナデ後染付	良	底部2/8	外面：唐草文
203		IV区	SX06		磁器	皿	13.2	3.3	7.0	密/砂粒を含まない	灰白 5GY8/1	灰白N8/	回転ナデ後染付、ケズリ出し高台	回転ナデ後染付	良	底部3/8	外面：蛇の目軸剥ぎ 内面：刈支え痕2ヶ所、草花文
204	24	IV区	SX06		磁器	鉢	15.4	5.3	10.2	密/径0.2mm以下の黒色粒微量	灰白 5GY8/1	灰白N8/	回転ナデ後染付、回転ヘラケズリ、ケズリ出し高台	回転ナデ	良	口縁部3/8	外面：ハナレ砂付着?
205		IV区	SX06		磁器	鉢	20.1	-	-	密/砂粒を含まない	灰白N8/	灰白N8/	回転ナデ後染付	回転ナデ後染付	良	口縁部1/8	外面：風唐草文 内面：草花文
215	18	IV区	SX07		陶器	播鉢	-	-	13.4	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	ナデ、ヘラケズリ	卸し目(9条/単位)	良	底部2/8	堺産
217		IV区	SX10		土師質土器	把手付鍋	22.0	-	-	やや密/径3mm以下の石英・長石普通、径2mm以下の赤色粒普通	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナデ、ハケメ(板ナデ?)、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケメ(板ナデ?)	良	口縁部1/8	
218	18	IV区	SX10		瓦質土器	羽釜	20.4	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量	灰N4/	灰N4/	ヨコナデ、指オサエ後板ナデ後ヘラミガキ、ツバ貼り付け後ナデ後ヘラミガキ	ハケメ後ヘラミガキ	やや軟	口縁部2/8	
219		IV区	SX10		土師質土器	甕	27.4	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒多量	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR6/2	ナデ、波状文(4条/単位×1)	ナデ、指ナデ	良	口縁部小片	傾き、口径とも不確か?

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
220		IV区	SX10		瓦質土器	かまど	14.2	106	1.5	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	暗灰N3/	オリーブ黒5Y3/1	ヘラミガキ	板ナデ、ハケメ	良	小片	外面：煤付着
221		IV区	SX10		須恵器	捏鉢	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の黒色粒少量	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	東播系
222		IV区	SX10		陶器	皿	-	-	5.3	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	黄褐2.5Y5/4	灰黄2.5Y7/2	回転ナデ、ケズリ出し高台	回転ナデ後化粧土によるハケメ	良	底部2/8	刷毛目唐津、内面：蛇の目軸剥ぎ、重ね焼き痕
223		IV区	SX10		陶器	碗	9.1	-	-	密/砂粒をほとんど含まない	灰白7.5Y8/2	灰白7.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	
224		IV区	SX10		陶器	碗	-	-	接合部4.4	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径1mm以下の黒色粒微量	淡黄2.5Y8/3	灰白2.5Y8/2	回転ナデ、ケズリ出し高台	回転ナデ	良	底部8/8	肥前系呉器手腕、全体に貫入
225		IV区	SX10		陶器	蓋	8.5	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石少量	にぶい黄褐10YR4/3	橙7.5YR7/6	回転ナデ後ハケメ	回転ナデ	良	口縁部1/8	
226		IV区	SX10		陶器	播鉢	-	-	12.0	やや密/径1.5mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒少量	明赤褐2.5YR5/6	にぶい赤褐5YR5/4	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、卸し目(11条/単位 右→左)	良	底部2/8	備前焼
227		IV区	SX10		陶器	播鉢	-	-	13.2	密/径2mm以下の石英・長石多量	褐灰5YR5/1	灰褐5YR5/2	回転ナデ後板ナデ	回転ナデ、卸し目(8条/単位 右→左)	良	底部小片	備前焼
228		IV区	SX10		陶器	播鉢	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒普通	にぶい赤褐2.5YR5/4	赤褐10YR4/3	沈線2条、回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、卸し目(5条/単位)	良	口縁部小片	備前焼
229		IV区	SX10		陶器	播鉢	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒普通	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい赤褐5YR4/3	沈線2条、回転ナデ	回転ナデ、卸し目(10条/単位)	良	口縁部小片	備前焼、外面：重ね焼き痕
230		IV区	SX10		陶器	播鉢	-	-	-	密/径2mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒普通	灰7.5Y6/1	灰N6/	沈線2条、回転ナデ	回転ナデ、卸し目(9条/単位)	良	口縁部小片	備前焼
231		IV区	SX10		陶器	壺	-	-	6.6	密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒少量	浅黄2.5Y8/3	浅黄橙10YR8/3	回転ナデ、ケズリ出し高台	回転ナデ	良	底部3/8	体部：歪みあり

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
232	18	IV区	SX10		陶器	壺	-	-	8.8	密/径1mm以下の石英・長石微量	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	回転ナデ、 ラケズリ	回転ナデ	良	底部8/8	外面：胎土目積、重ね焼き痕
233		IV区	SX10		陶器	甕	18.8	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒微量	褐 7.5YR4/4	灰黄 2.5Y7/2	沈線1条、回転 ナデ	回転ナデ	良	口縁部1/8	内外面：鉄釉
234	18	IV区	SX10		陶器	甕	22.0	15.3	13.6	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	灰赤 2.5YR4/2	灰5Y6/1	回転ナデ、 飾 描文、沈線2 条、回転ナデ、 指オサエ、回 転糸キリ	回転ナデ	良	底部7/8	内外面：鉄釉
235	24	IV区	SX10		陶器	壺	13.1	27.5	12.5	やや粗/径3mm以下の石英・長石普通	にぶい 赤褐 2.5YR4/4	にぶい 赤褐 2.5YR4/3	回転ナデ、 肩部： 描き文 様、ヘラケズリ	回転ナデ、板 ナデ	良	底部8/8	備前焼、肩部：把手4ヶ所
236	24	IV区	SX10		白磁	小皿	8.0	2.3	3.8	密/砂粒をほとんど含まない	明緑灰 10GY8/1	灰白N8/ 高台	回転ナデ後施 釉、ケズリ出し 高台	回転ナデ後へ ラケズリ文様	良	口縁部5/8	
237		IV区	SX10		磁器	碗	-	-	5.5	密/砂粒を含まない	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 高台	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ後染 付	良	底部8/8	広東碗 高台：砂目積痕
238	24	IV区	SX10		磁器	碗	8.4	5.3	3.3	密/砂粒を含まない	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/ 高台	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ	良	底部2/8	外面：鶴・草の文様
239	24	IV区	SX10		磁器	小杯	7.7	5.4	3.7	密/砂粒を含まない	灰白N8/ 高台	灰白N8/ 高台	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台	回転ナデ	良	完形	やや歪みあり、外面底部：「大明年製」体部：草花文
240		IV区	SX10		磁器	碗	8.5	-	-	密/砂粒を含まない	灰白N8/ (色絵) 暗オリーブ 灰 5GY4/1、 暗オリーブ 7.5Y4/3、 橙 5YR6/6	灰白N8/ 高台	回転ナデ後染 付、色絵	回転ナデ後染 付	良	体部2/8	

報文 番号	区版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
241	24	IV区	SX10		磁器	蓋	10.2	2.7	つまみ4.4	密/径0.5mm以下の黒色粒微量	灰白 10Y8/1	灰白N8/ ケズリ出し	回転ナデ後染 付	回転ナデ後染 付	良	口縁部4/8	内外面：燕の絵
242	18	IV区	SX10		土師質土 器	甕	89.0	-	-	やや密/径2.5mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒少量、径1mm以下の黒雲母微量	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	ハケメ後板ナ デ、ナデ	ハケメ後指オ サエ後ナデ、 ハケメ後指ナ デ	良	口縁部1/8	
279	20	IV区	SX11		土師質土 器	甕	31.4	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石多量、径2mm以下の赤色粒普通	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	板ナデ後ナデ、 波状文(2条× 2)	板ナデ後ナデ	良	口縁部1/8	
280	20	IV区	SX11		瓦質土器	羽釜	22.0	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	黒褐 2.5Y3/1	黄灰 2.5Y4/1	ハケメ後指オ サエ、ナデ	ハケメ、ハケ メ後指オサエ、 指ナデ	良	口縁部3/8	外面：煤多量に付着
281	20	IV区	SX11		土師質土 器	小皿	7.4	1.5	4.1	やや密/径1mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒微量	にぶい 黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	回転ナデ、静 止糸キリ	回転ナデ	良	口縁部5/8	
282	20	IV区	SX11		陶器	小皿	8.0	1.5	2.8	密/径0.5mm以下の石英・長石少量	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい 黄褐 10YR5/3	回転ナデ、回 転ヘラケズリ	回転ナデ	良	口縁部2/8	備前焼、内面：鉄軸
283	24	IV区	SX11		陶器	碗	10.0	6.6	4.0	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の黒色粒少量	明オリー ブ灰5G Y7/1	明紫灰 5P7/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台(端部露 胎)	回転ナデ	良	口縁部4/8	陶胎染付
284		IV区	SX11		陶器	鉢	-	-	-	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径0.5mm以下の赤色粒微量	浅黄 2.5Y7/4	にぶい橙 5YR6/4	回転ナデ後化 粧土による文 様	回転ナデ後化 粧土による文 様	良	口縁部小片	刷毛目唐津
285		IV区	SD06		陶器	皿	-	-	8.4	やや密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径1mm以下の赤色粒微量	浅黄 5Y7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	ヘラケズリ、ケ ズリ出し高台	回転ナデ後化 粧土によるハ ケメ	良	底部1/8	刷毛目唐津、内面：蛇の 目軸剥ぎ
286		IV区	SX11		陶器	播鉢	37.4	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石多量、径0.5mm以下の赤色粒微量	にぶい 赤褐 5YR4/3	にぶい 赤褐 2.5YR5/4	ヨコナデ、沈 線2条、ナデ	ヨコナデ、卸 し目(8条/単 位)	良	口縁部1/8	備前焼、外面：重ね焼き 痕

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
287	20	Ⅳ区	SX11		土師質土 器	風呂 釜	-	-	44.8	やや密/径2mm以下の石英・長石普通、径2mm以下の赤色粒少量	にぶい 黄橙 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	板ナデ後ナデ、 指ナデ、ハケ メ後ナデ、突 起3ヶ所、穿孔 4ヶ所の貼付突 帯	板ナデ後ナデ、 指ナデ、ハケ メ後ナデ、突 起3ヶ所、穿孔 4ヶ所の貼付突 帯	良	底部8/8	水抜き穴1ヶ所、脚2ヶ所
299		Ⅱ区	遺構面 精査		須恵器	杯	12.3	-	-	密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径0.5mm以下の黒色粒少量	灰白N7/ 灰白N7/	灰N6/ 灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	内外面：火ダシ
300		Ⅱ区	5・7Br 遺構面 精査		須恵器	杯	-	-	7.1	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量	灰白2.5Y 8/2	灰白 5Y8/1	回転ナデ、ハ ラキリ後ナデ	回転ナデ	軟	底部2/8	
301		Ⅲ区	遺構面 精査		土師質土 器	皿	13.9	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	回転ナデ	ナデ	良	口縁部小片	
308		Ⅳ区	遺構面 精査		土師質土 器	甕	46.3	-	-	やや密/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒少量	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	板ナデ	板ナデ	良	口縁部1/8	
309		Ⅳ区	北壁切 り		陶器	皿	-	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の赤色粒微量	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	回転ナデ、回 転ヘラケズリ	回転ナデ後染 付（馬の目）	良	小片	
310		Ⅳ区	遺構面 精査		陶器	碗	-	-	4.4	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	黒褐 10YR3/2	褐灰 10YR5/1	回転ナデ後化 粧土による波 状文、ケズリ出 し高台	回転ナデ後化 粧土による文 様	良	底部8/8	刷毛目唐津、外面：重ね 焼き痕、ハナレ砂付着
311		Ⅳ区	機械掘 削		陶器	蓋	9.8	3.3	5.0	密/径0.5mm以下の石英・長石微量、径0.5mm以下の赤色粒微量	灰オリー ブ5Y5/3	灰白N7/ 灰白N7/	回転ナデ後化 粧土によるハ ケメ、回転ナ デ、回転ヘラ ケズリ	回転ナデ後化 粧土によるハ ケメ	良	口縁部2/8	
312		Ⅳ区	機械掘 削		陶器	鉢	12.4	7.3	9.4	密/径0.5mm以下の石英・長石微量	褐 7.5YR4/3	にぶい 赤褐 5YR5/3	回転ナデ、沈 線3条、ケズリ 出し高台	回転ナデ	良	底部5/8	内外面：貫入

報文 番号	図版	調査区	遺構名	層位1	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (外面)	色調 (内面)	外面調整	内面調整	焼成	残存率	備考
313		IV区	南半遺 構面精 査		陶器	鉢	17.6	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石少量	黒褐 10YR5/1	褐灰 10YR5/1	回転ナデ	回転ナデ	良	口縁部小片	外面：鉄釉	
314		IV区	南半遺 構面精 査		磁器	小杯	-	-	2.2	密/砂粒を含まない		灰白N8/ 7.5Y8/1	灰白N8/ 7.5Y8/1	ケズリ出し高台 後染付	回転ナデ後染 付	良	底部8/8	体部は故意に打ち欠いた か？
315		IV区	遺構面 精査		磁器	碗	10.3	-	-	密/砂粒を含まない		灰白 2.5GY8/1	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ後染 付	回転ナデ後染 付	良	口縁部2/8	
316		IV区	機械掘 削		磁器	碗	-	-	-	密/砂粒を含まない		灰白 2.5GY8/1	灰白 7.5Y8/1	回転ナデ後染 付、ケズリ出し 高台後染付	回転ナデ後染 付(コンニャク印判)	良	底部3/8	内外面：重ね焼き痕、外 面底部：「大明年製」？
317			トレン チ5東 暗渠	埋没層	磁器	皿	11.8	2.8	7.8	密/砂粒を含まない		灰白 5GY8/1	灰白N8/ 7.5Y6/1	回転ナデ後連 弁、染付、ケ ズリ出し高台	回転ナデ後染 付	良	口縁部1/8	口縁端部：鉄釉
318			トレン チ5東 暗渠	埋没層	瓦質土器	羽釜	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石少量		黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y6/1	板ナデ	回転ナデ	良	鈔部1/8	外面：鈔より上部に花模 様の刻印、煤付着
319			トレンチ16 南 SK01		土師質土器	甕	-	-	-	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径2mm以下の赤色粒普通		浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	板ナデ、貼付 突帯後板ナデ、 ナデ	板ナデ、突起 貼り付け後板 ナデ、板ナデ	良	体部6/8	内面：突起3ヶ所 外面：突帯2条
320	21	IV区	SK12		土師質土器	甕	-	-	63.8	やや密/径1mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量、径1mm以下の黒色粒少量		灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y6/1	板ナデ		良	底部6/8	内面：付着物多量

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴
1		II区	SD19		石鏃	1.7	1.5	0.2	31.02	サヌカイト	平基式、やや風化
2	14	II区	SD19		石鏃	3.4	1.4	0.4	1.31	サヌカイト	凹基式
3		II区	SD19		楔形石器	40	2.1	1.4	11.05	サヌカイト	
4		II区	SD19		スクレイパー	6.1	3.8	1.1	30.44	サヌカイト	
5	14	II区	SD19		スクレイパー	6.0	3.4	0.3	13.51	サヌカイト	
21		II区	SD01		石鏃	2.2	1.2	0.3	0.57	サヌカイト	凹基式、やや風化
22		II区	SD01		石鏃 未製品	1.8	1.5	0.3	0.77	サヌカイト	風化
23		II区	SD01		石匙 未製品	4.8	6.3	1.0	30.99	サヌカイト	凹基式
30		II区	SD10		スクレイパー	6.2	5.0	1.1	33.02	サヌカイト	凹基式、風化
31	14	II区	SD12a		石鏃	2.4	1.5	0.3	0.90	サヌカイト	凹基式
32	14	II区	SD12a		石鏃	2.7	1.8	0.4	1.64	サヌカイト	凹基式
33	15	II区	SD12		石鏃	3.1	1.4	0.3	0.67	サヌカイト	風化
37		III区	SD01b		石匙 未製品	4.5	5.5	1.0	26.66	サヌカイト	やや風化
40		III区	SD06		楔形石器	3.2	3.3	1.0	13.87	サヌカイト	
66		IV区	SD01		鉄釘	3.6	1.4	-	5.75	鉄	
97	16	IV区	SD06		石臼 上臼	20.1	17.4	13.2	3,770.0	凝灰岩	上面：穴1ヶ所、側面：穴1ヶ所、下面：軸受け穴1ヶ所
103		IV区	SD09		石鏃	1.8	1.6	0.3	0.63	サヌカイト	凹基式
159		IV区	SD07		石鏃	1.6	1.2	0.5	0.41	サヌカイト	
212		IV区	SX06.08		硯	16.0	6.0	2.4	352.42	礫の石材	
213		IV区	SX06		砥石	13.6	5.7	5.2	396.09	砂岩	
214		IV区	SX06		砥石	6.1	6.3	8.5	360.64	砂岩	
275	20	IV区	SX10		砥石	13.6	7.5	5.2	565.68	砂岩	擦痕
276		IV区	SX10		砥石	13.1	6.9	3.1	502.27	砂岩	マメツ
277		IV区	SX10		砥石	6.2	5.9	4.6	254.09	砂岩	擦痕、2ヶ所に緩い凹み
278	24	IV区	SX10		銅釜具	16.2	2.5	0.1	32.03	鉄	孔2ヶ所、唐草文
288	21	IV区	SX11		石臼 上臼	24.5	30.3	10.6	5,420.0	凝灰岩	上面：穴1ヶ所、側面：穴1ヶ所、下面：軸受け穴1ヶ所
289		IV区	SX11		石臼 上臼	22.8	14.4	10.7	3,060.0	凝灰岩	側面：穴1ヶ所、下面：軸受け穴1ヶ所
290		I区	包含層		石鏃	2.4	1.4	0.2	0.56	サヌカイト	凹基式
291	21	II区	包含層		石鏃	1.7	1.5	0.3	0.49	サヌカイト	凹基式
292	21	II区	包含層		石鏃	1.8	1.7	0.2	0.60	サヌカイト	凹基式、風化
293		II区	包含層		石鏃	1.7	1.5	0.3	0.49	サヌカイト	平基式
294		II区	包含層		石鏃 未製品	2.2	1.8	0.3	1.12	サヌカイト	
295	21	III区	包含層		石鏃	1.6	1.7	0.4	0.52	サヌカイト	凹基式
296	21	II区	包含層		打製石砲丁	4.6	4.5	0.6	17.35	サヌカイト	
297		II区	包含層		楔形石器	6.0	5.5	1.5	55.11	サヌカイト	
298		II区	包含層		楔形石器	5.0	4.5	0.7	16.63	サヌカイト	
302		II区	包含層		楔形石器	4.0	3.4	1.0	13.66	サヌカイト	
303	21	III区	包含層		石鏃	1.9	1.5	0.2	0.64	サヌカイト	平基式、風化
304	21	III区	包含層		石鏃	2.1	1.3	0.3	0.64	サヌカイト	平基式
305		III区	包含層		石鏃	1.9	1.1	0.3	0.82	サヌカイト	石鏃の可能性
306	21	III区	包含層		打製石砲丁	8.2	4.4	0.9	40.07	サヌカイト	
307		III区	包含層		楔形石器	3.6	4.3	1.0	20.50	サヌカイト	やや風化

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当径長 (cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面調整	凹面調整	凸面調整	備考
65		Ⅳ区	SD01		瓦	棟込瓦	5.6	60	1.4	-	-	-	やや粗/径0.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の黒色粒普通	良	灰N5/	灰N5/	板ナデ、ヘラケズリ	-	-	
93		Ⅳ区	SD06		瓦	軒丸瓦	6.0	136	1.7	4.1	-	2.1	やや密/径2mm以下の石英・長石普通、径1.5mm以下の赤色粒普通	やや軟	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1	板ナデ	指ナデ、板ナデ	板ナデ	巴文、珠文12個 瓦当：ハナレ砂使用
94	15	Ⅳ区	SD06		瓦	軒平瓦	3.8	160	1.4	2.6	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石少量、径0.5mm以下の黒色粒微量	やや軟	灰白7.5Y7/1	灰白10Y8/1	板ナデ	板ナデ	-	唐草文
95	16	Ⅳ区	SD06		瓦	平瓦	-	-	-	25.5	22.2	1.6	やや密/径0.5mm以下の石英・長石少量	良	灰N5/	灰白5Y7/2	-	板ナデ後 板ナデ	板ナデ後 板ナデ	重ね焼き痕
96		Ⅳ区	SD06		瓦	平瓦	-	-	-	31.8	21.8	2.2	やや密/径1.5mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒少量	やや軟	灰N4/	灰N4/	-	板ナデ	板ナデ	
156		Ⅳ区	SD07		瓦	軒丸瓦	7.1	100	1.5	2.8	-	-	やや密/径1mm以下の石英・長石普通	やや軟	灰N5/	灰N5/	板ナデ、指ナデ	指ナデ	板ナデ	巴文、珠文12個 瓦当：ハナレ砂使用
157		Ⅳ区	SD07		瓦	丸瓦	-	-	-	17.4	11.5	1.6	やや密/径1mm以下の石英・長石少量	やや軟	暗灰N3/	暗灰N3/	-	布目痕、ヘラケズリ	ヘラミガキ	
158		Ⅳ区	SD07		瓦	平瓦	-	-	-	22.9	19.6	1.5	やや密/径2mm以下の石英・長石多量	やや軟	黒褐2.5Y3/1	黒褐2.5Y3/1	-	ナデ、ヘラケズリ後ナデ	ナデ	
170		Ⅱ区	SK09		瓦	丸瓦	-	-	-	12.9	10.4	1.7	やや粗/径2mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の黒色粒普通	良	暗灰N3/	暗灰N3/	-	布目痕、コビキB痕、ヘラケズリ	ヘラミガキ	
180	17	Ⅳ区	SK10		瓦	軒平瓦	3.0	13.2	1.3	7.5	10.5	1.4	やや密/径1mm以下の石英・長石普通	良	暗灰N3/	暗灰N3/	ヨコナデ、ナデ	板ナデ後 板ナデ	板ナデ後 板ナデ	
185		Ⅱ区	SX04		瓦	平瓦	-	-	-	27.7	14.8	1.6	やや密/径2mm以下の石英・長石多量、径1.5mm以下の赤色粒多量	やや軟	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	-	板ナデ後 板ナデ、ヘラケズリ	板ナデ後 板ナデ	

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当径長 (cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面調整	凹面調整	凸面調整	備考
192		IV区	SX05		瓦	丸瓦	-	-	-	9.5	12.5	1.8	やや密/径1mm以下の石英・長石少量	やや軟	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y4/1	-	布目痕、棒状タコビキB痕、ヘラケズリ	板ナデ	
193		IV区	SX05		瓦	丸瓦	-	-	-	12.8	8.4	1.3	やや粗/径1mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒微量、雲母多量	やや軟	オリープ黒 7.5Y3/1	暗灰N3/	-	コビキB痕、布目痕、ヘラケズリ	板ナデ	
194	18	IV区	SX05		瓦	棟込瓦	7.5	8.8	1.6	-	-	-	やや粗/径1.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	良	灰N4/	灰N4/	ナデ、別瓦接合痕	-		
195		IV区	SX05		瓦	京釜瓦	-	-	-	20.3	22.4	1.9	やや密/径1.5mm以下の石英・長石普通、径1mm以下の赤色粒少量	やや軟	灰5Y4/1	灰N5/	-	板ナデ、ヨコナデ	板ナデ、ヨコナデ	穿孔1ヶ所
206		IV区	SX06		瓦	軒平瓦	3.3	4.2	1.3	-	-	-	やや粗/径1mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	やや軟	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	ヨコナデ	ヨコナデ	瓦当：ハナレ砂使用	
207	18	IV区	SX06		瓦	軒平瓦	4.3	11.5	1.1	8.3	11.8	1.5	やや粗/径3mm以下の石英・長石普通、径1.5mm以下の赤色粒普通	良	灰N4/	暗灰N3/	ヨコナデ	ヨコナデ、板ナデ後ナデ		唐草文
208		IV区	SX06		瓦	丸瓦	-	-	-	19.0	12.0	1.8	やや粗/径4mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の黒色粒普通	やや軟	灰N5/	灰N5/+ 灰N4/	-	布目痕、コビキB痕、ヘラケズリ	板ナデ	穿孔2ヶ所
209		IV区	SX06		瓦	丸瓦	-	-	-	12.5	7.8	1.7	やや粗/径1mm以下の石英・長石少量	良	灰N5/	灰N4/	-	ナデ、コビキB痕、布目痕、ヘラケズリ	ヨコナデ、板ナデ	
210		IV区	SX06		瓦	丸瓦	-	-	-	13.8	11.7	1.5	やや密/径0.5mm以下の石英・長石普通、径0.5mm以下の赤色粒少量	良	灰N5/	灰N5/	-	コビキB痕、布目痕、ヘラケズリ	板ナデ後	
211		IV区	SX06		瓦	平瓦	-	-	-	23.8	20.9	1.4	やや粗/径5mm以下の石英・長石多量、径1mm以下の赤色粒普通	良	灰 7.5Y4/1	灰N4/	-	板ナデ後、ヘラケズリ	板ナデ後	

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当 瓦当 長(cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面 調整	凹面調整	凸面調整	備考
216		IV区	SX08		瓦	丸瓦	-	-	-	11.2	9.1	1.8	やや密/径2mm以下の石英・ 長石少量、径1mm以下の赤色 粒普通	良	灰N4/	灰N4/	-	布目痕、 コビキB 痕、ヘラ ケズリ	ヨコナ デ、ヘラ ミガキ	
243	18	IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	13.2	13.0	1.8	4.7	-	1.8	やや密/径1mm以下の石英・ 長石少量、径1mm以下の赤色 粒少量	良	灰N4/	灰N5/	ナデ、ヨ コナデ	ヨコナ デ、コビ キB痕	板ナデ	
244	19	IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	12.9	12.5	1.0	2.5	-	1.9	やや粗/径1mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の赤 色粒微量	良	青灰 5B5/1	灰N5/	板ナデ、 ヨコナデ	コビキB 痕 ヨコナデ	板ナデ	范の跡みが 著しい
245		IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	7.4	13.4	1.3	2.4	-	2.0	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の赤 色粒少量	やや軟	暗灰N3/	暗灰N3/	ナデ	コビキB 痕	板ナデ	
246		IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	8.0	13.0	1.3	-	-	-	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の赤色 粒少量	やや軟	灰N4/	灰N4/	ナデ	コビキB 痕	板ナデ	
247	19	IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	7.3	11.5	1.4	20.0	12.9	2.4	やや粗/径2mm以下の石英・ 長石多量、径2mm以下の赤色 粒少量	やや軟	灰白 10Y7/1	灰白 10Y7/1	指ナデ	コビキB 痕、布目 痕	板ナデ	穿孔1ヶ所
248		IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	5.5	13.5	1.1	12.7	13.8	1.4	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の黒 色粒少量	良	灰N4/	灰N4/	ヨコナ デ、ナデ	コビキB 痕、布目 痕	板ナデ後 ヘラミガ キ	
249	19	IV区	SX10		瓦	軒丸瓦	14.0	14.7	1.8	32.2	14.3	2.0	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の黒 色粒少量	良	暗灰N3/	暗灰N3/	ヨコナ デ、凹弧 状のナデ	布目痕、 コビキB 痕、ヘラ ケズリ	板ナデ後 ナデ	穿孔2ヶ所
250	19	IV区	SX10		瓦	軒平瓦	3.8	17.0	1.5	5.5	15.7	1.3	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の赤色 粒少量	良	暗灰N3/	暗灰N3/	板ナデ、 ヨコナデ	板ナデ	板ナデ後 ヘラミガ キ	瓦当部：ハナレ 砂使用、七 葉文+唐草
251		IV区	SX10		瓦	軒平瓦	4.0	10.2	1.3	5.2	9.2	1.1	やや密/径2mm以下の石英・ 長石普通	良	暗灰N3/	暗灰N3/	板ナデ	板ナデ	板ナデ	瓦当部：ハナレ 砂使用、唐 草文
252		IV区	SX10		瓦	軒平瓦	4.0	8.8	1.4	1.5	-	-	やや密/径2mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の赤 色粒微量	やや軟	灰N4/	灰N4/	板ナデ	板ナデ	板ナデ	唐草文

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当径 瓦当 長 (cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面 調整	凹面調整	凸面調整	備考
253	19	IV区	SX10		瓦	軒平瓦	3.9	12.8	1.4	24.5	17.0	1.5	やや密/径2mm以下の石英・ 長石多量、径1mm以下の赤色 粒少量	やや軟	灰N4/	灰N4/	板ナデ	板ナデ	板ナデ	四葉文
254	19	IV区	SX10		瓦	軒平瓦	3.9	14.7	1.6	5.0	9.2	1.1	やや密/径3mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の黒 色粒微量	良	灰N4/	灰N4/	板ナデ	板ナデ	板ナデ	四葉文+唐草
255		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	21.4	10.3	1.7	やや密/径3mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の黒 色粒微量	良	暗灰N3/	灰N4/	-	-	板ナデ後 板ナデ	
256		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	23.3	8.7	1.7	やや密/径2mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の赤色 粒少量、径0.5mm以下の黒色 粒少量	良	暗灰N3/	灰N4/	-	-	板ナデ後 板ナデ ヘラミ ガキ	
257	19	IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	22.3	10.5	1.9	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の黒 色粒微量	良	灰N4/	灰N4/	-	-	ヨコナデ、 ヘラミ ガキ	
258	19	IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	22.7	13.0	1.6	やや密/径2mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の赤色 粒微量	やや軟	灰N4/	灰N4/	-	-	板ナデ後 板ナデ ヘラミ ガキ	
259		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	17.4	13.4	1.6	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の黒 色粒少量	良	灰N4/	暗灰N3/	-	-	板ナデ、 ヨコナ デ	穿孔2ヶ所
260		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	10.7	12.1	1.5	やや密/径2mm以下の石英・ 長石多量	良	灰N5/	灰N5/	-	-	板ナデ、 ヘラミ ガキ	

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当径 瓦当 長(cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面 調整	凹面調整	凸面調整	備考
261		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	9.4	11.5	1.7	やや粗/径2mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の黒 色粒微量	良	灰N4/	灰5Y6/1	-	布目痕、ス ヘラケズ リ	板ナデ後 ナデ	
262		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	23.5	13.4	2.1	やや粗/径1.5mm以下の石英・ 長石普通、径0.5mm以下の黒 色粒普通	良	暗灰N3/	灰N4/	-	コビキB 痕後布目 痕、ヘラ ケズリ	板ナデ	穿孔1ヶ所
263		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	12.8	13.7	2.4	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の黒色 粒微量	やや軟	灰N4/	灰N5/	-	コビキB 痕後布目 痕、ヘラ ケズリ	板ナデ、 マメツ	
264		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	16.4	12.7	1.5	やや密/径0.5mm以下の石英・ 長石少量	良	灰N6/	灰白 5Y7/1	-	コビキB 痕後布目 痕、ヘラ ケズリ	板ナデ	
265		IV区	SX10		瓦	丸瓦	-	-	-	15.6	12.0	1.5	やや密/径1mm以下の石英・ 長石多量	良	灰N5/	灰N5/	-	コビキB 痕後布目 痕、工具 によるタ タキ痕、 板ナデ	板ナデ	外面：刻印
266		IV区	SX10		瓦	平瓦	-	-	-	22.7	21.6	1.3	やや密/径5mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の黒色 粒少量	良	灰N4/	灰N4/	-	板ナデ、 ヘラケズ リ	板ナデ	
267		IV区	SX10		瓦	平瓦	-	-	-	25.3	15.0	1.6	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通	良	暗灰N3/	灰白 2.5Y7/1	-	板ナデ後 ヘラミガ キ、ヘラ ケズリ	板ナデ	
268		IV区	SX10		瓦	平瓦	-	-	-	19.4	16.9	1.3	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の黒色 粒少量	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y6/1	-	板ナデ、 マメツ、 ヘラケズ リ	板ナデ	
269	20	IV区	SX10		瓦	平瓦	-	-	-	24.9	22.3	1.5	やや密/径1mm以下の石英・ 長石少量、径0.5mm以下の黒 色粒微量	良	暗灰N3/	灰N4/	-	板ナデ後 ヘラミガ キ、ヘラ ケズリ	板ナデ後 ヘラミガ キ	

報文番号	図版	調査区	遺構名	層位	種類	器種	瓦当径 瓦当 長 (cm)	瓦当幅 (cm)	瓦当厚 (cm)	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	瓦厚 (cm)	胎土	焼成	色調(凹面)	色調(凸面)	瓦当裏面 調整	凹面調整	凸面調整	備考
270		IV区	SX10		瓦	平瓦	-	-	-	124	24.1	1.5	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1.5mm以下の黒 色粒少量	良	灰N5/	灰N4/	-	板ナデ、 ヘラミガ キ、ヘラ ケズリ	板ナデ後 ナデ	
271		IV区	SX10		瓦	鳥衾	-	-	-	190	14.4	1.5	やや密/径1.5mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の黒色 粒少量	良	灰N4/	暗灰N3/	-	板ナデ	ヘラミガ キ、ヘラ ケズリ	穿孔2ヶ所
272		IV区	SX10		瓦	鳥衾	-	-	-	137	6.8	1.1	やや密/径2mm以下の石英・ 長石多量、径0.5mm以下の黒 色粒少量	良	灰N4/	灰N4/	-	(内面) 指ナデ	板ナデ後 ヘラミガ キ	
273	20	IV区	SX10		瓦	鳥衾	-	-	-	284	18.0	1.4	やや密/径1mm以下の石英・ 長石普通、径1mm以下の黒色 粒普通	良	灰N4/	暗灰N3/	-	板ナデ後 ナデ、ヘ ラケズリ	ヘラミガ キ	穿孔2ヶ所
274		IV区	SX10		瓦	棧瓦	-	-	-	142	13.7	1.8	密/径1mm以下の石英・長石 普通、径0.5mm以下の赤色粒 少量	やや軟	灰N5/	暗灰N3/	-	板ナデ	板ナデ、 ヘラケズ リ	

# 西原遺跡・図 版



西原遺跡遠景（北東から象頭山を望む）



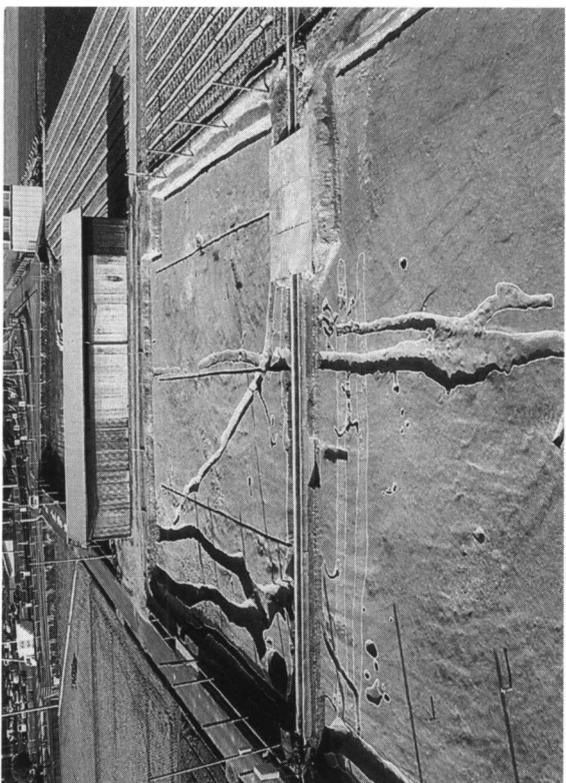
西原遺跡全景（南から）



IIa区 全景 南から



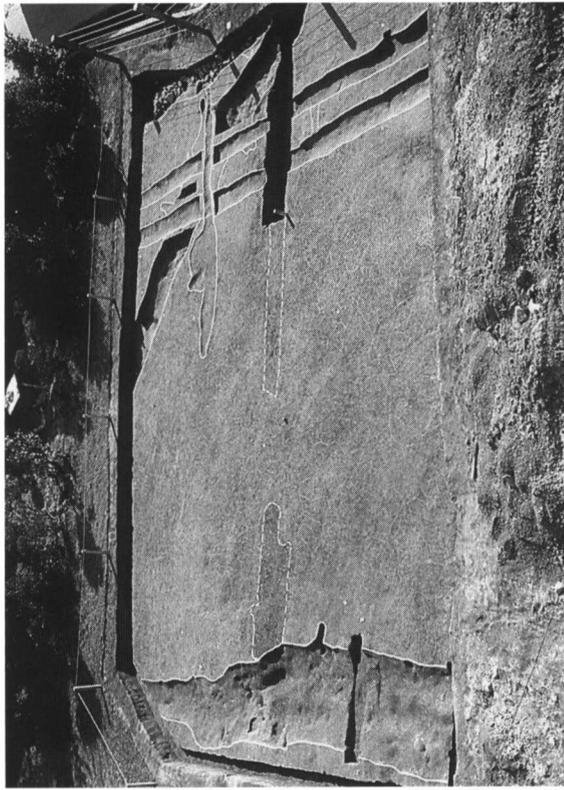
IIIa・b区 全景 北から



I c区 全景 南から



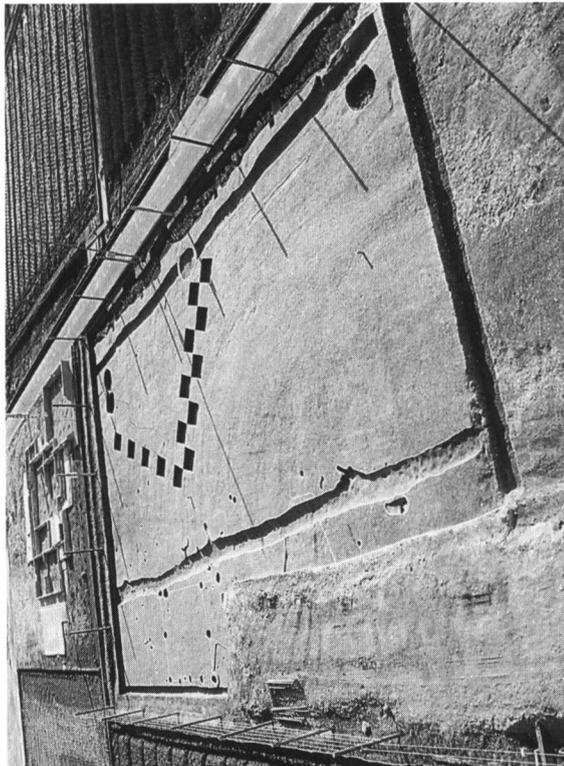
II d区 全景 右が南



IVa区 南半全景 北から



IVb区 南半全景 西から

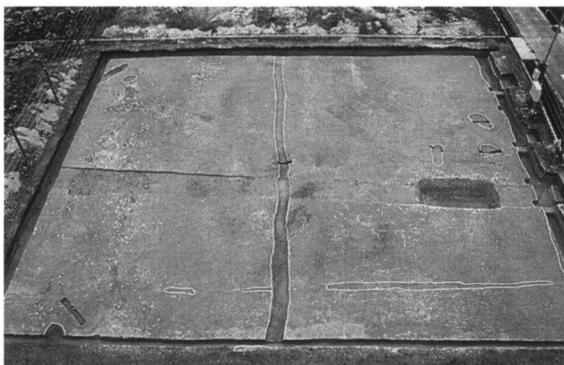


IIIId区 全景 北から



IVb区 北半全景 西から

図版4



I a区 全景 北から



I c区 南壁土層断面 北から



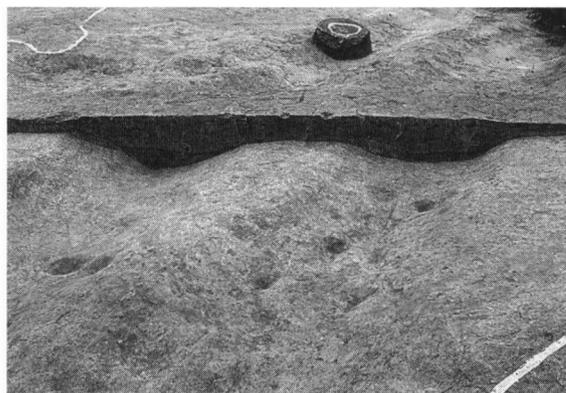
II b-c区 全景 右が南



IV a区 北半全景 北から



I 区 SD07 e-e'土層断面 西から



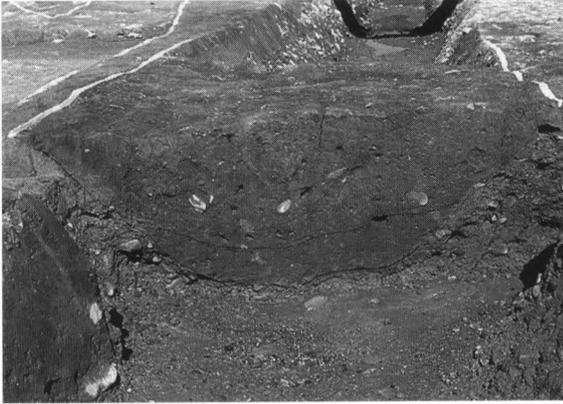
II 区 SD19 d-d'土層断面 南から



II 区 SD19 遺物出土状況 北から



II 区 SD20 c-c'土層断面 南から



Ⅲ区 SD05a e-e'土層断面 南から



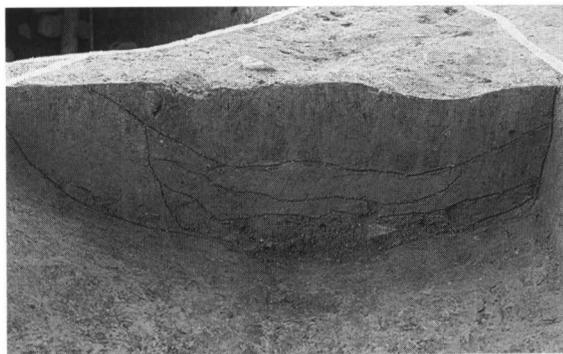
Ⅲ区 SD05a・05b f-f'土層断面 北から



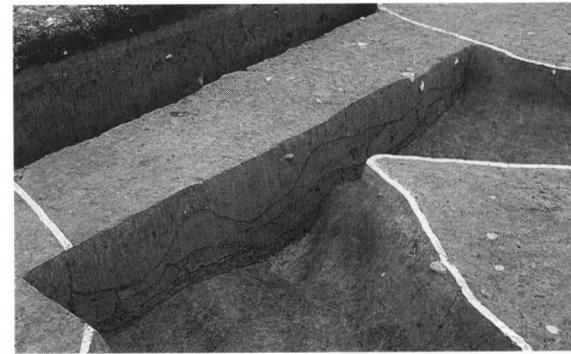
Ⅳ区 SD15 a-a'土層断面 南東から



Ⅰ区 SD01 c-c'土層断面 南から



Ⅰ区 SD01 o-o'土層断面 南から



Ⅰ区 SD02・01 n-n'土層断面 北から

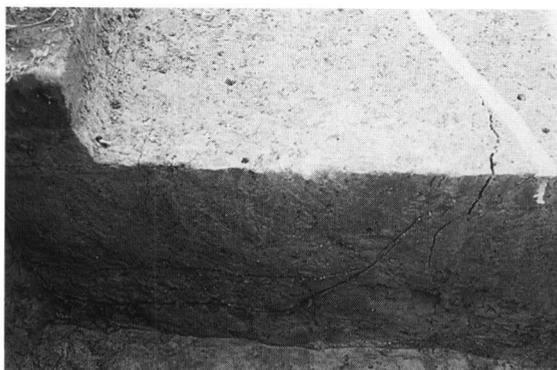


Ⅰ区 SD02 k-k'土層断面 南から



Ⅰ区 SD03 遺物出土状況(14) 南から

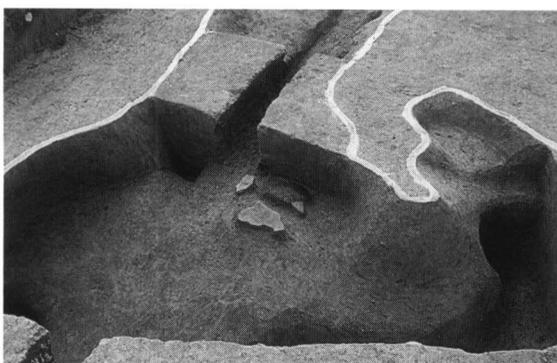
図版6



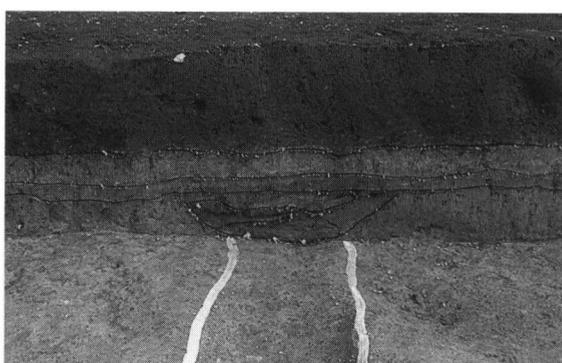
I区 SD03 h-h'土層断面 南から



I区 SD04 b-b'土層断面 西から



I区 SD04 遺物出土状況 東から



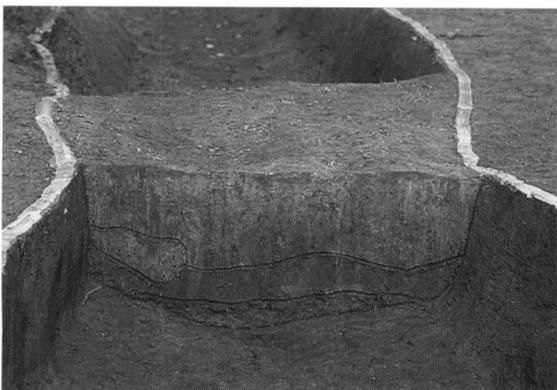
I区 SD05 南壁部分土層断面 北から



II区 SD01 a-a'土層断面 南から



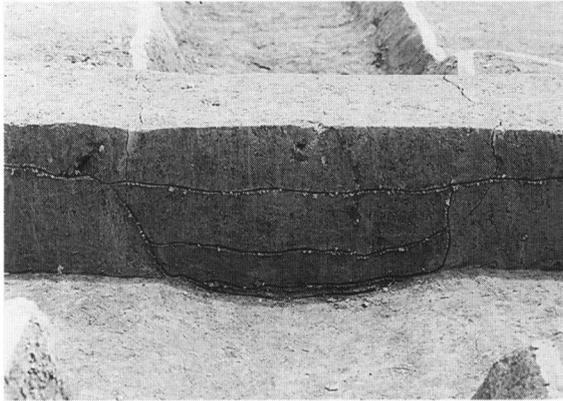
II区 SD01 p-p'土層断面 北から



II区 SD03 b-b'土層断面 南から



II区 SD03 遺物出土状況 北から



Ⅱ区 SD03 j-j'土層断面 北から



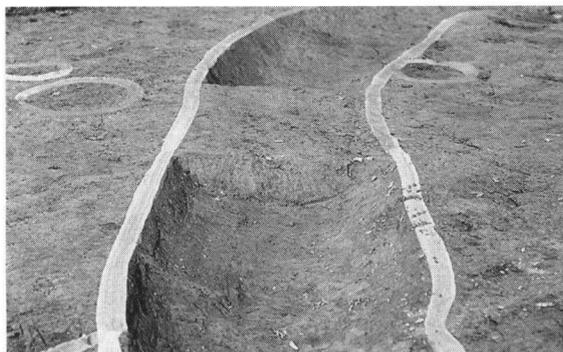
Ⅱ区 SD06 c-c'土層断面 南から



Ⅱ区 SD04 s-s'土層断面 北から



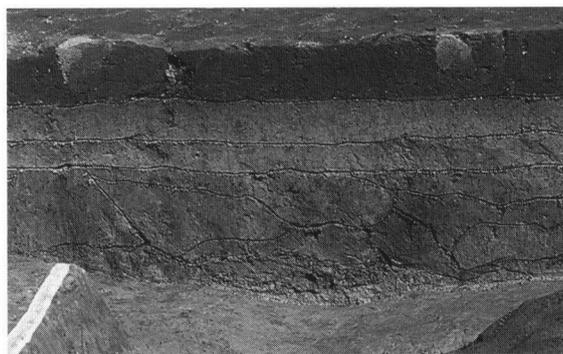
Ⅱ区 SD05 e-e'土層断面 南から



Ⅱ区 SD09 c-c'土層断面 西から



Ⅱ区 SD10 b-b'土層断面 東から

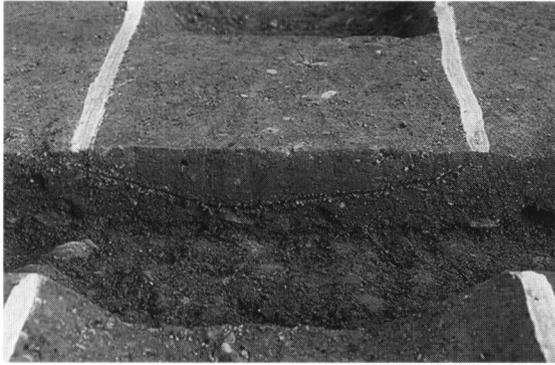


Ⅱ区 SD12a 北壁部分土層断面 南から



Ⅱ区 SD12b 北壁部分土層断面 南から

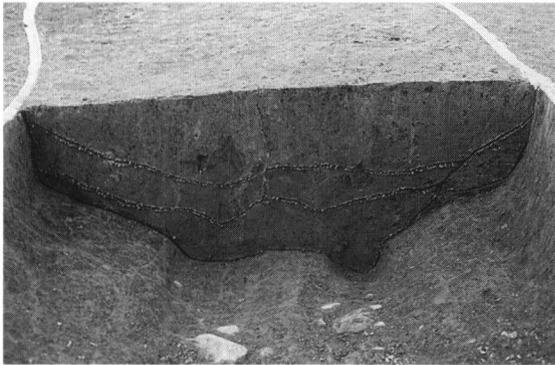
図版8



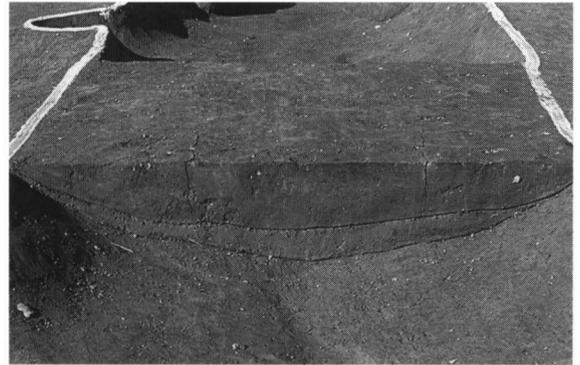
Ⅱ区 SD13b c-c'土層断面 西から



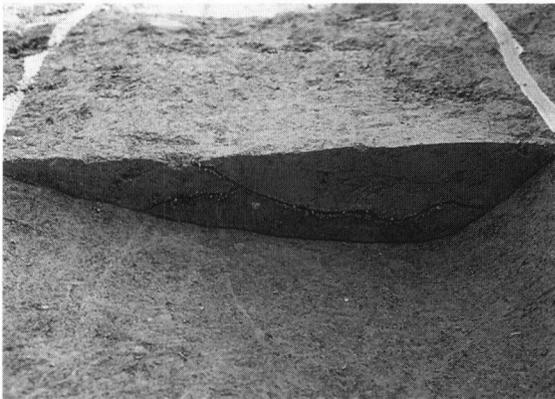
Ⅲ区 SD01a-01b a-a'土層断面 南から



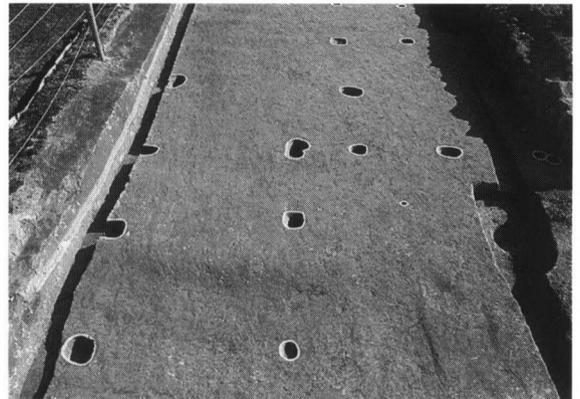
Ⅲ区 SD01 j-j'土層断面 南から



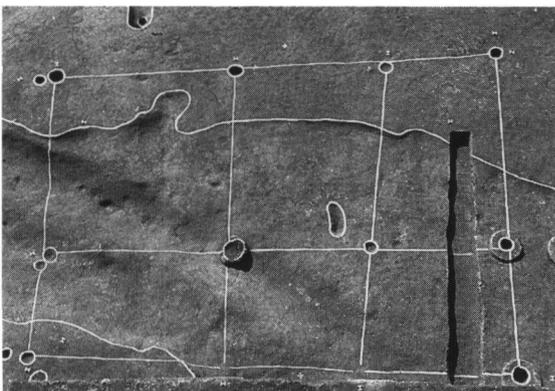
Ⅲ区 SD03 c-c'土層断面 南から



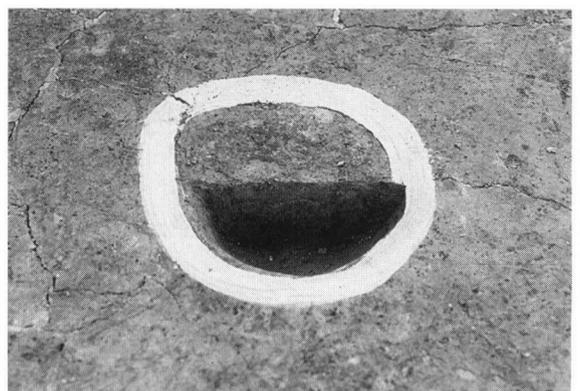
Ⅲ区 SD07 f-f'土層断面 北から



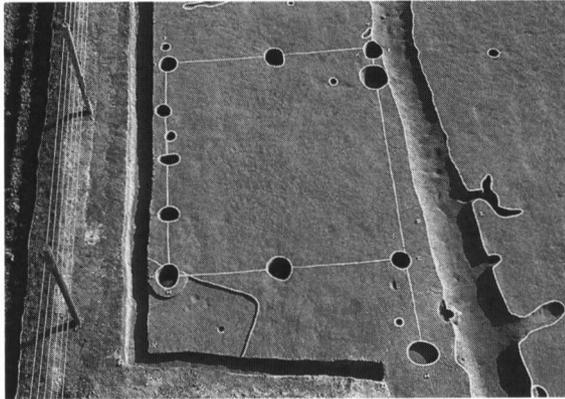
Ⅱ区 SB01-02 完掘状況 北から



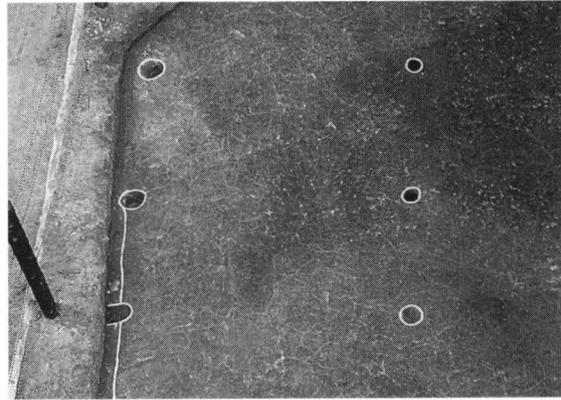
Ⅱ区 SB03 完掘状況 東から



Ⅱ区 SB03-SP12 土層断面 東から



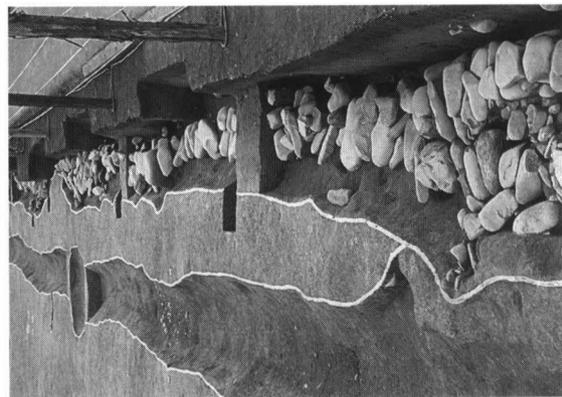
Ⅲd区 SB01 完掘状況全景 北から



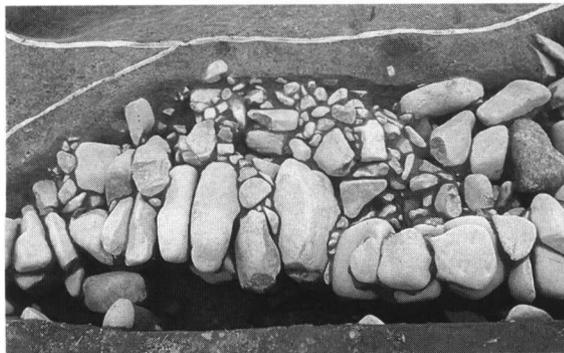
Ⅳ区 SB01 完掘状況 西から



Ⅲ区 SD02 D-D'土層断面 南から



Ⅲ区 SD02 石検出状況 (右が北)



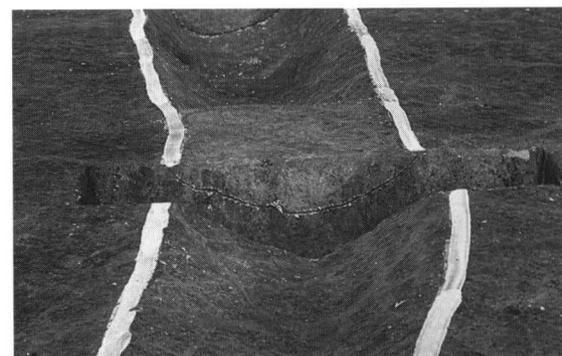
Ⅲ区 SD02 石検出状況 西から



Ⅳ区 SD01 C-C'土層断面 南から



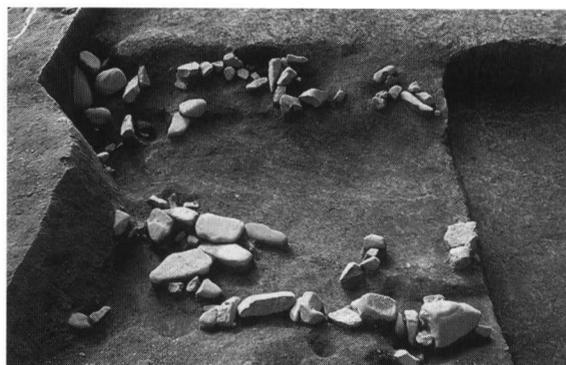
Ⅳ区 SD02・03 a-a'土層断面 南から



Ⅳ区 SD04 b-b'土層断面 南から



IV区 SD06 西から



IV区 SD06 北部石検出状況 東から



IV区 SD06 A-A'土層断面 南から



IV区 SD07・09 b-b'土層断面 南から



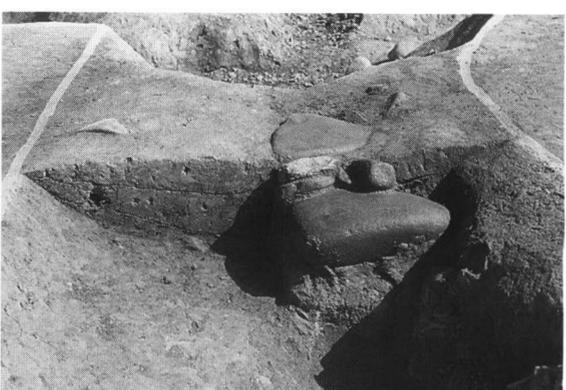
IV区 SD11 a-a'土層断面 南から



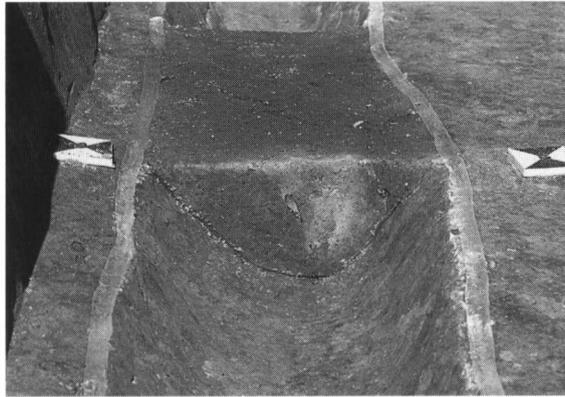
IV区 SD13 全景 南から



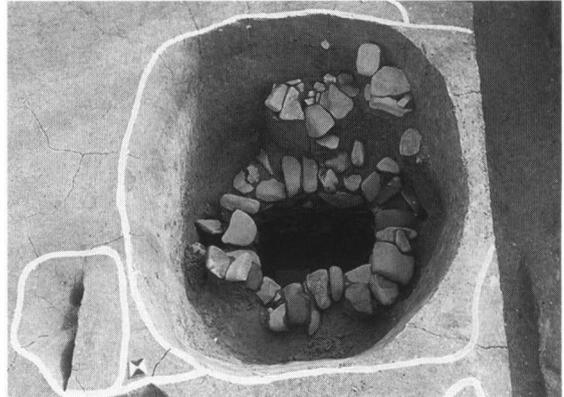
IV区 SD13 石検出状況 (右が東)



IV区 SD13 A-A'土層断面 西から



IV区 SD14 a-a'土層断面 南から



I区 SE01 検出状況



I区 SE01 土層断面 東から



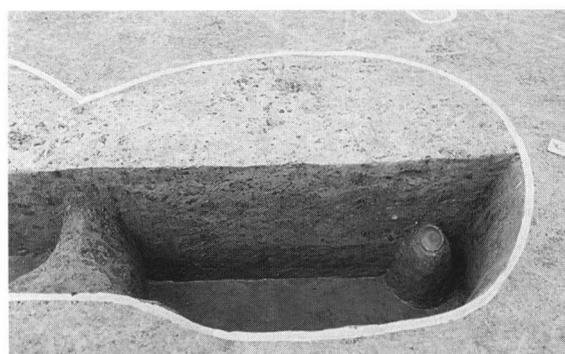
II区 SK04 西壁部分土層断面 東から



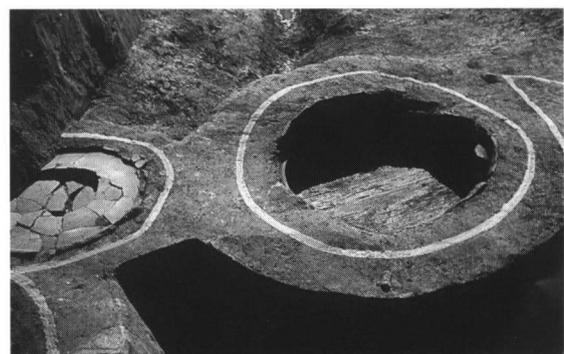
II区 SK09 遺物出土状況 南から



II区 SK09・10 東壁部分土層断面 西から



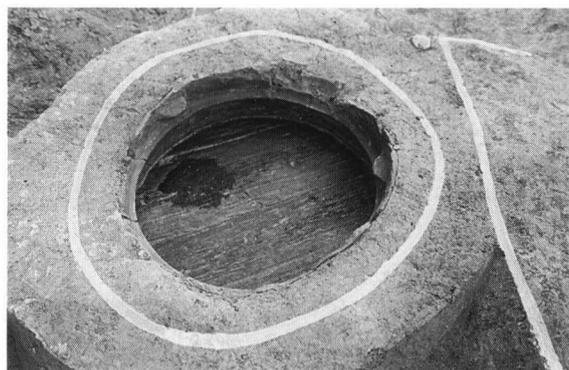
III区 SK06 遺物出土状況 南から



IV区 SK04・05 検出状況 北から



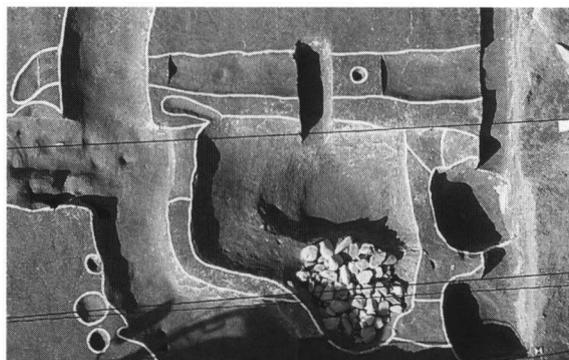
IV区 SK04 遺物出土状況 西から



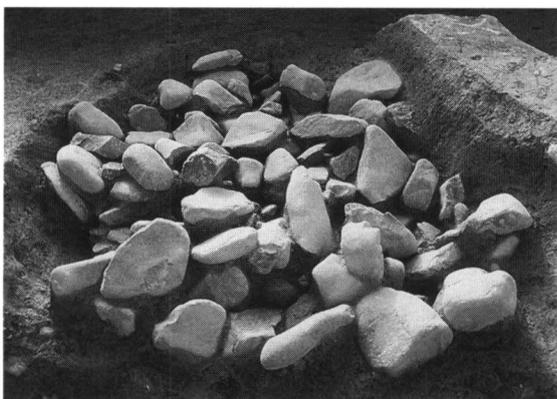
IV区 SK05 遺物出土状況 東から



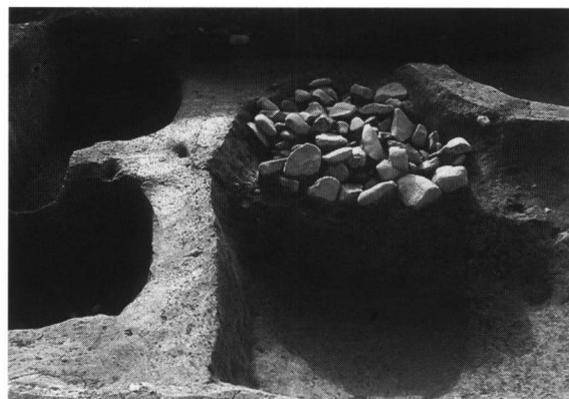
IV区 SK19 西壁部分土層断面 東から



II区 SX04 全景 南から



II区 SX04 石検出状況 北から



II区 SX04 石検出状況 北から



IV区 SX06 石検出状況 北から



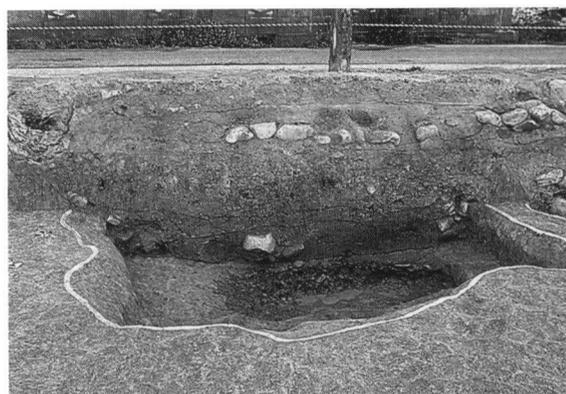
IV区 SX06 石検出状況 東から



IV区 SX06 完掘状況 東から



IV区 SX08 石検出状況 西から



IV区 SX08 西壁部分土層断面 東から



IV区 SX10 石・土器検出状況 東から



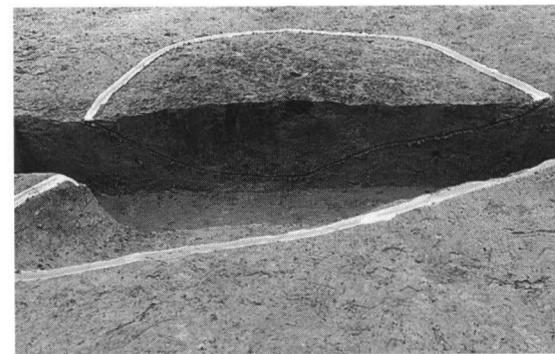
IV区 SX10 石検出状況 南から



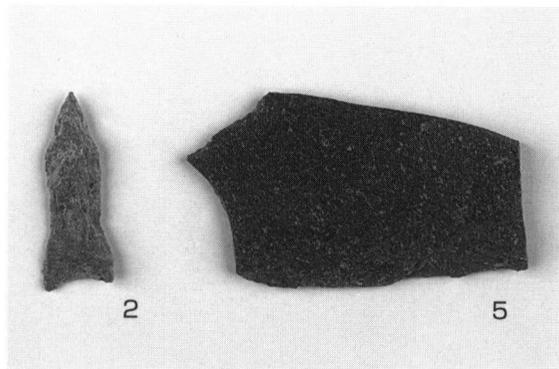
IV区 SX10 石検出状況 南から



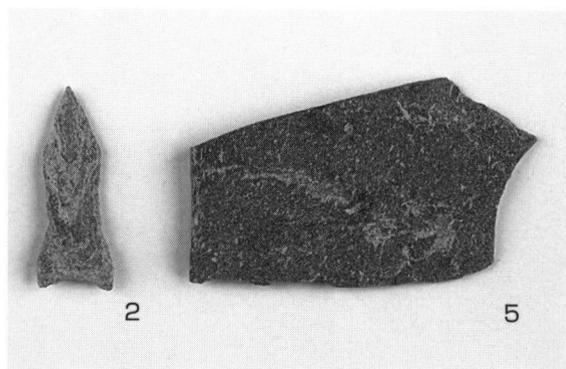
IV区 SX11 東壁部分土層断面 西から



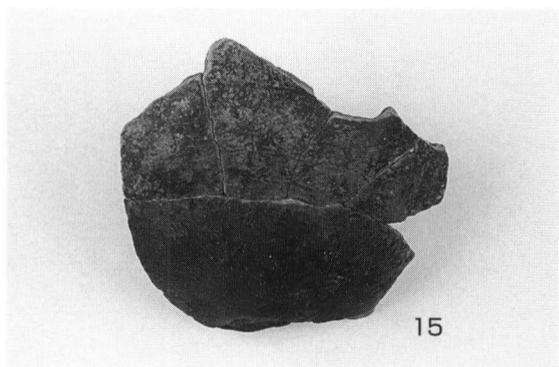
I区 SK03 土層断面 北から



II区 SD19 (表)



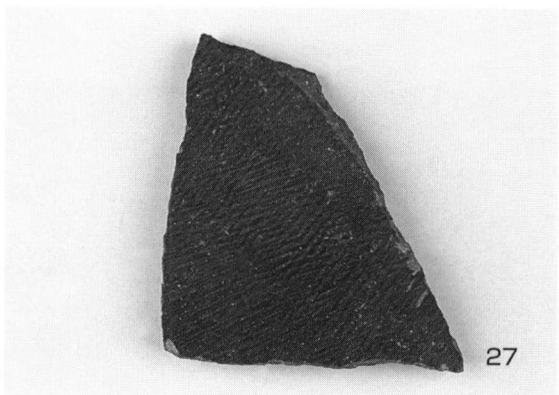
II区 SD19 (裏)



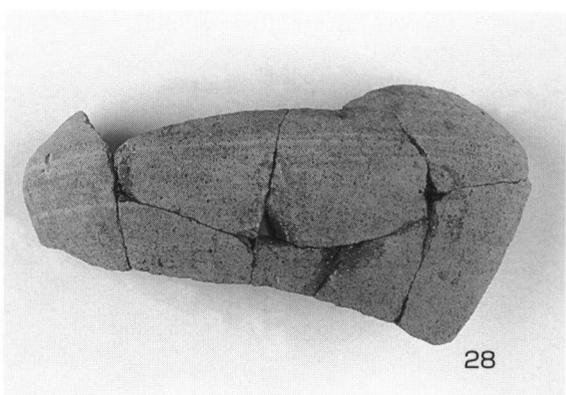
I区 SD04



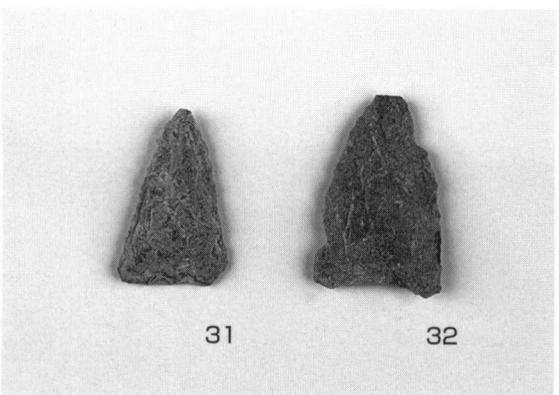
II区 SD01·03



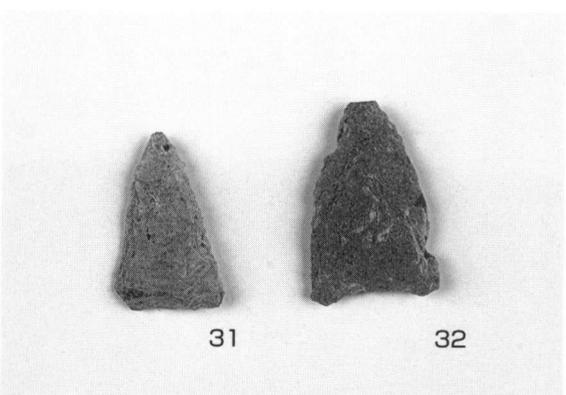
II区 SD03



II区 SD05



II区 SD12a (表)



II区 SD12a (裏)



33

Ⅱ区 SD12 (表)



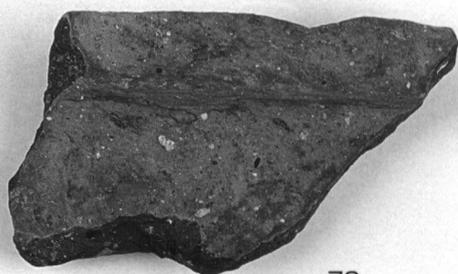
33

Ⅱ区 SD12 (裏)



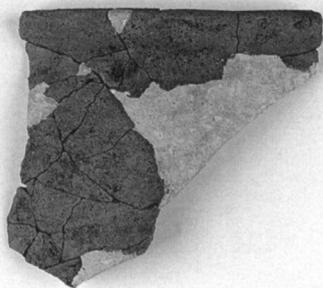
58

Ⅳ区 SD01



73

Ⅳ区 SD06·07合流部



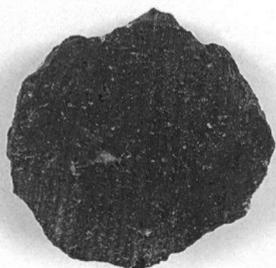
74

Ⅳ区 SD06



81

Ⅳ区 SD06



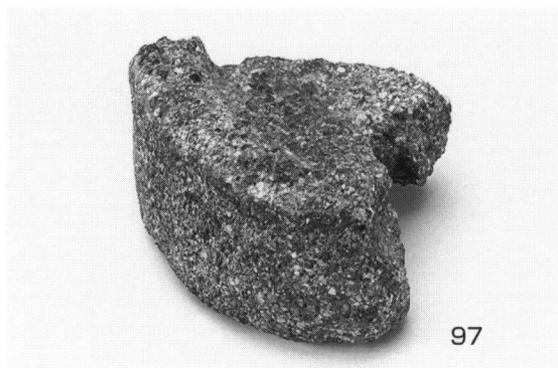
86

Ⅳ区SD06

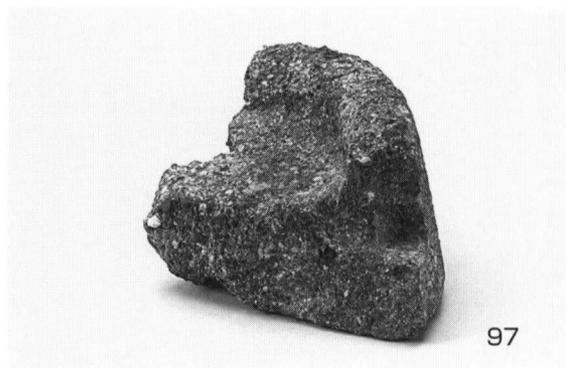


94

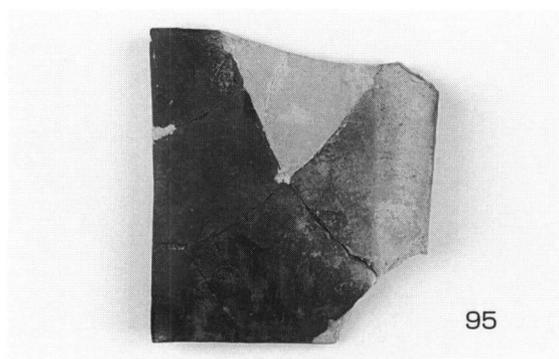
Ⅳ区 SD06



IV区 SD06①



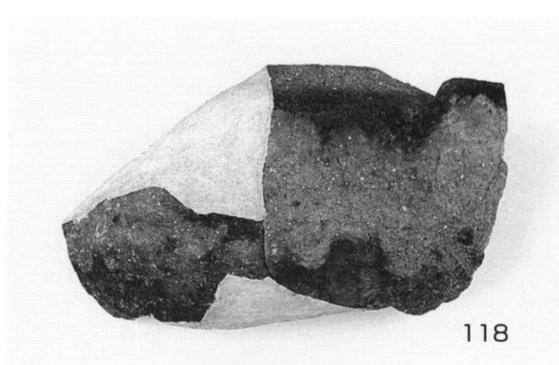
IV区 SD06②



IV区 SD06



IV区 SD07



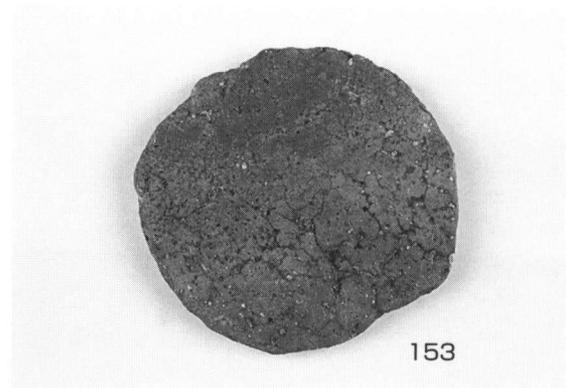
IV区 SD07



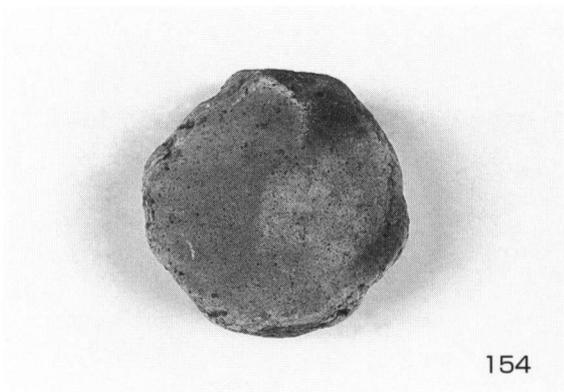
IV区 SD07



IV区 SD07

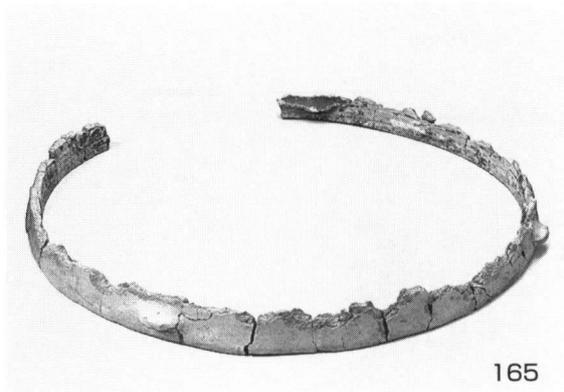


IV区 SD07



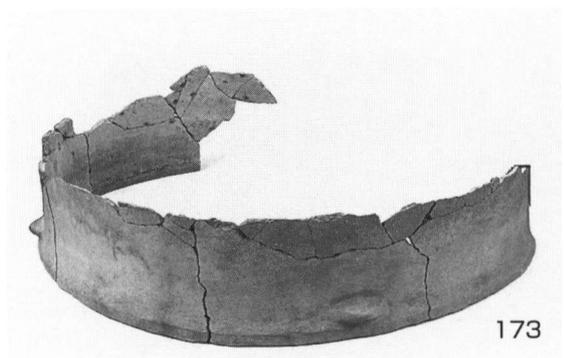
154

IV区 SD07



165

III区 SK04



173

III区 SK03



175

IV区 SK05



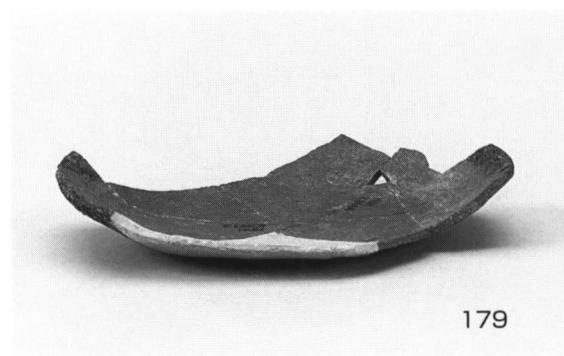
176

IV区 SK04



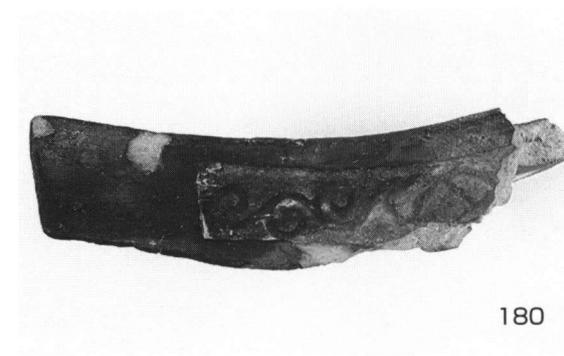
177

II区 SK06



179

IV区 SK10·12



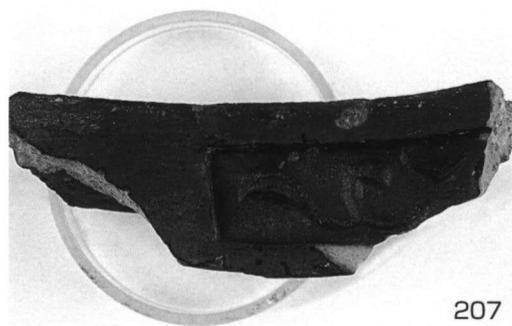
180

IV区 SK10



194

IV区 SX05



207

IV区 SX06



215

IV区 SX07



218

IV区 SX10



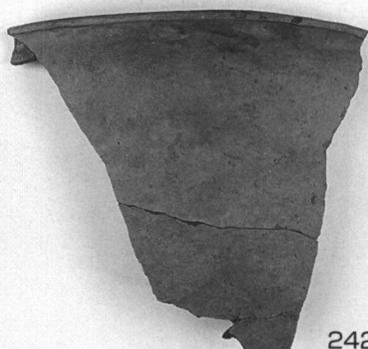
232

IV区 SX10



234

IV区 SX10



242

IV区 SX10



243

IV区 SX10



244

IV区 SX10



247

IV区 SX10



249

IV区 SX10



250

IV区 SX10



253

IV区 SX10



254

IV区 SX10



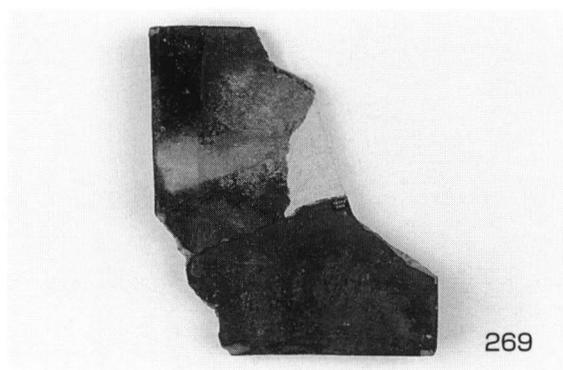
257

IV区 SX10



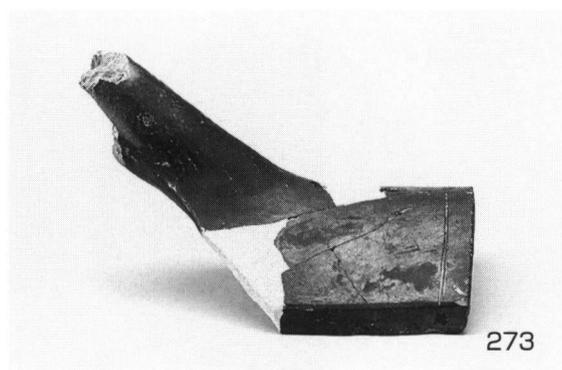
258

IV区 SX10



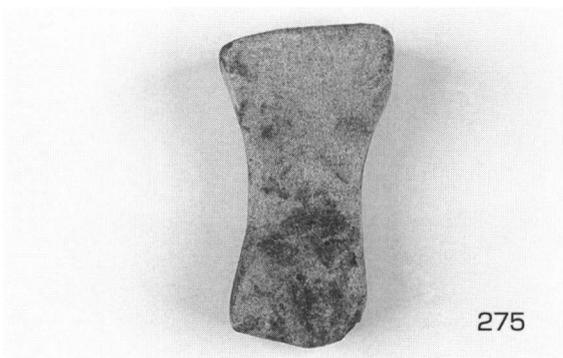
269

IV区 SX10



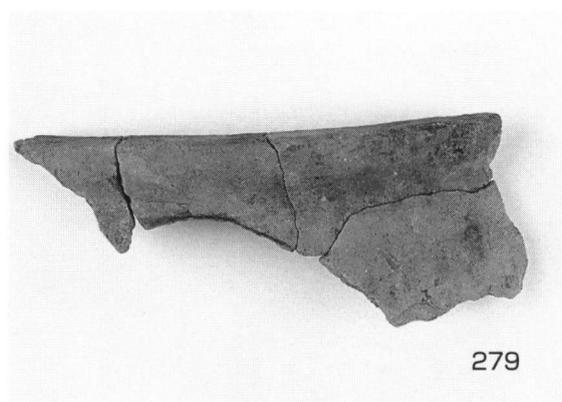
273

IV区 SX10



275

IV区 SX10



279

IV区 SX10



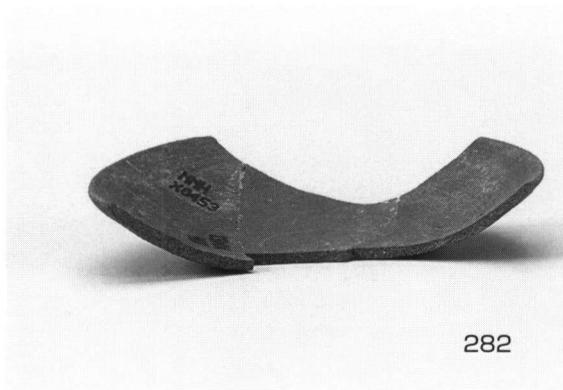
280

IV区 SX11



281

IV区 SX11



282

IV区 SX11

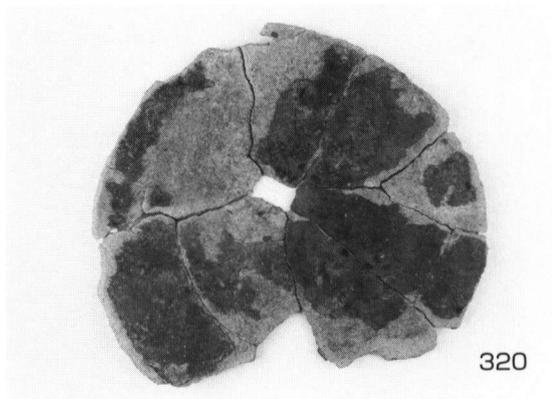


287

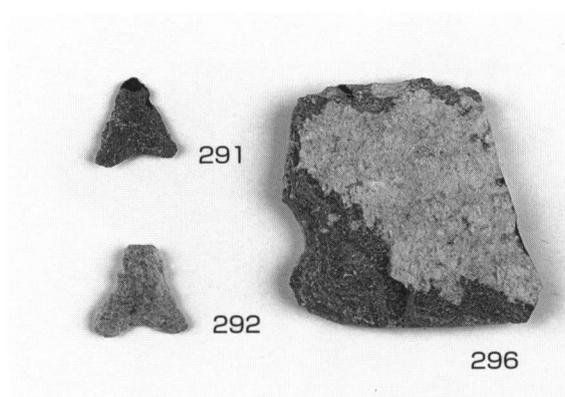
IV区 SX11



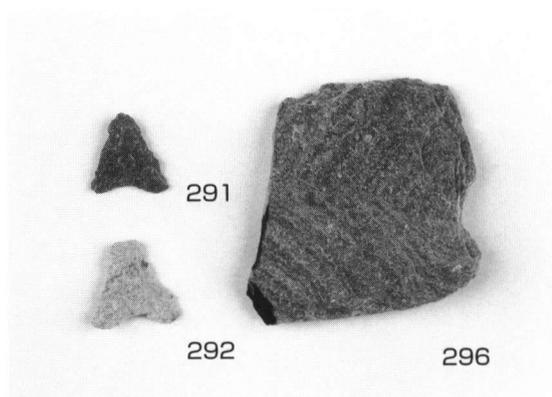
IV区 SX11



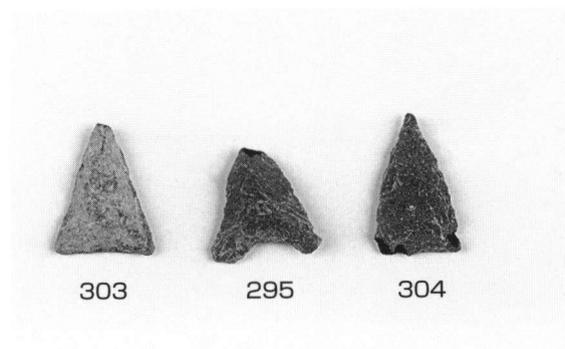
IV区 SK12



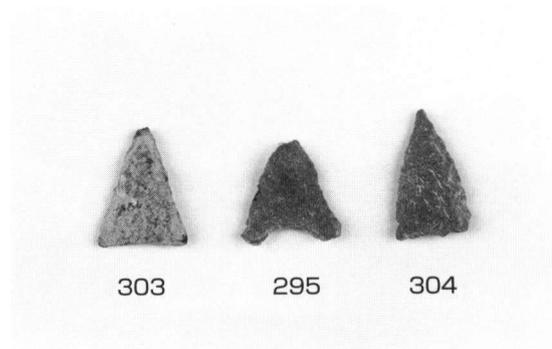
II区 包含層 (表)



II区 包含層 (裏)



III区 包含層 (表)



III区 包含層 (裏)



III区 包含層 (表)



III区 包含層 (裏)



56

IV区 SD01



57

IV区 SD01



61

IV区 SD01



77

IV区 SD06



80

IV区 SD06



126

IV区SD07



128

IV区 SD07



130

IV区 SD07



133

IV区 SD07



136

IV区 SD07



137

IV区 SD07



141

IV区 SD07



178

IV区 SK07



181

IV区 SK12



199

IV区 SX06



200

IV区 SX06

图版24



IV区 SX06



IV区 SX10



IV区 SX10



IV区 SX10



IV区 SX10



IV区 SX10



IV区 SX10



IV区 SX11

ふりがな	にしはらいせき							
書名	西原遺跡							
副書名	国道319号普通寺バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第2冊							
編著者名	山元素子							
編集機関	香川県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 電話 0877-48-2191							
発行機関	香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財調査センター							
発行年月日	2007（平成19）年3月30日							
総頁数	目次等	本文	表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図	
176	11	113	28	24	96	178	1	
ふりがな	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名		市町	遺跡番号	° ' "	° ' "			
にしはらいせき 西原遺跡	香川県 普通寺市 与北町 3023-1 外	37204		34° 14' 00"	133° 48' 00"	20010701 ～ 20020331	7,234	国道319 号普通寺 バイパス
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西原遺跡	集落	古代～中世	溝状遺構		土師器、須恵器、 土師質土器		坪界線の 溝	
		近世	溝状遺構、井戸、 土坑		陶磁器、瓦			

一般国道319号善通寺バイパス建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

第2冊

## 西原遺跡

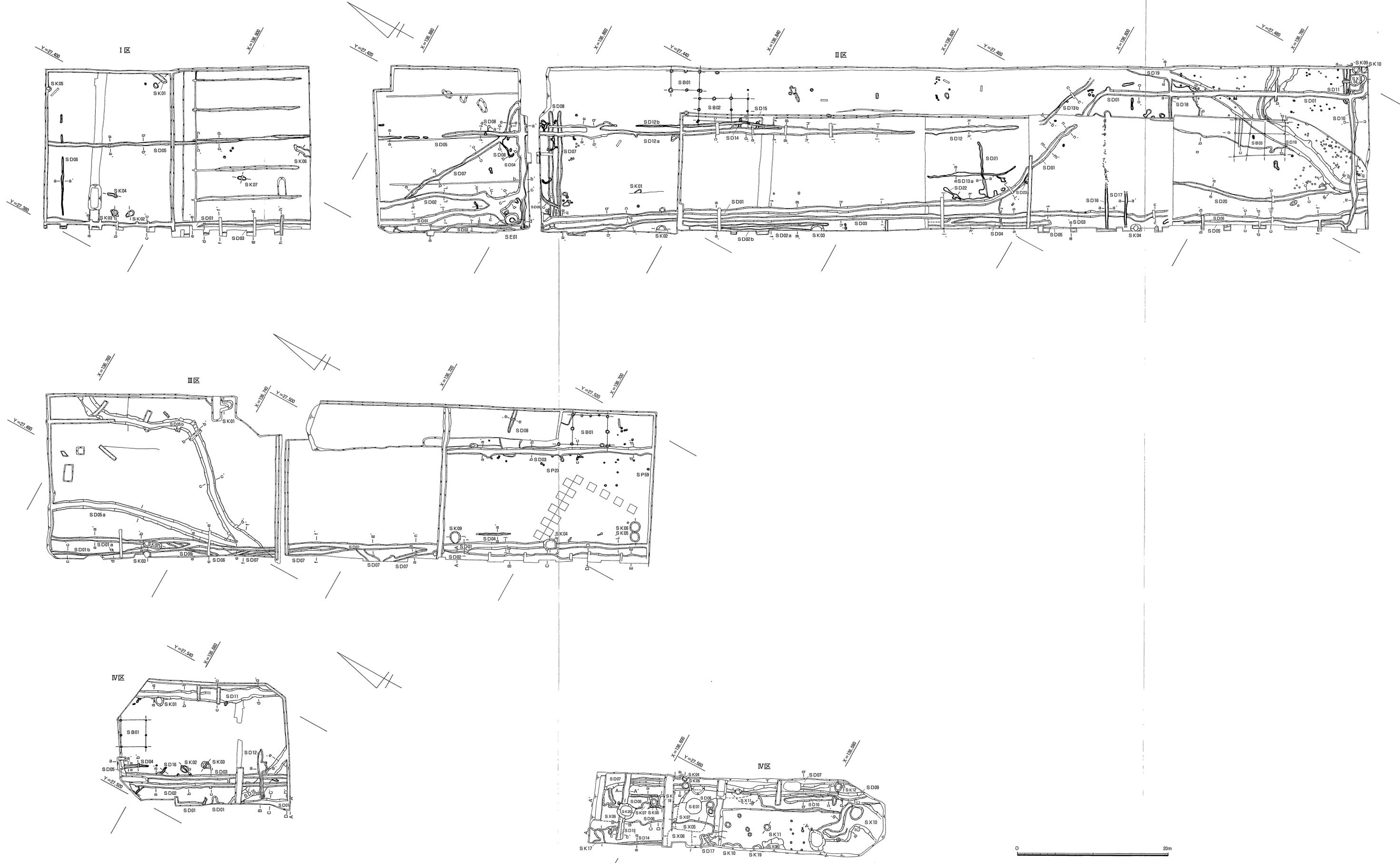
平成19年3月30日発行

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷5001-4  
電話 (0877)-48-2191

発行 香川県教育委員会  
国土交通省四国地方整備局

印刷 (株)美巧社



付圖 西原遺跡遺構圖 (1/200)